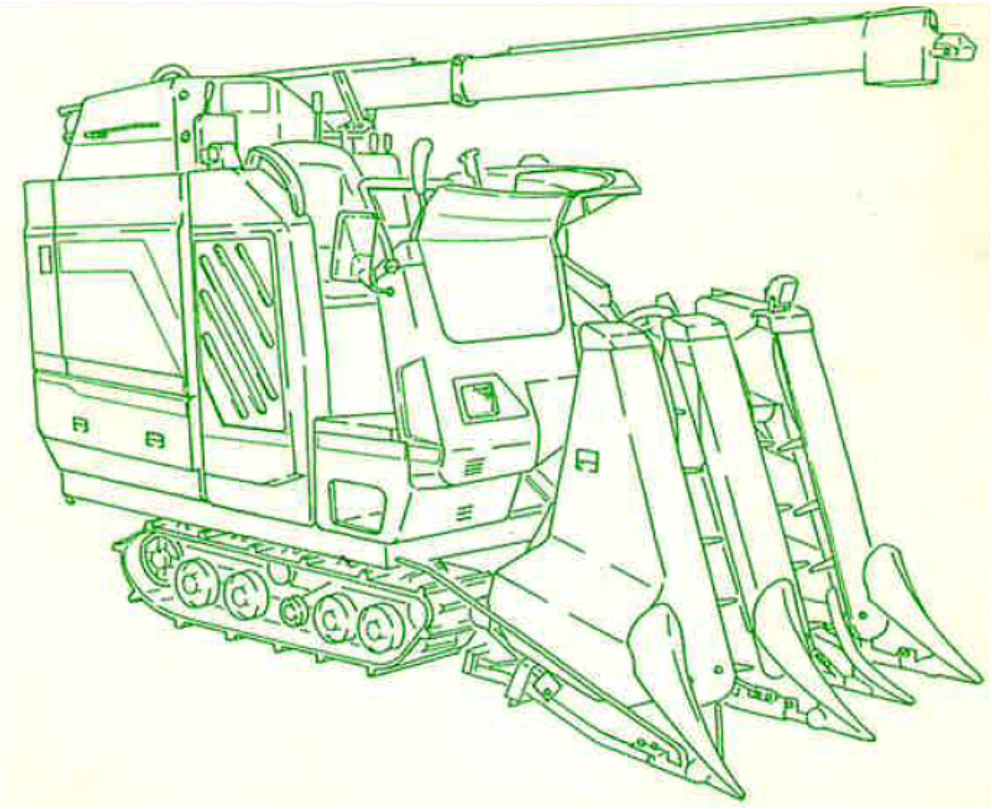
コンバイン

取扱説明書

MC210・240・270・320



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

⚠ 安全作業をするために

1．点検・エンジン始動

(1) 給油・注油・点検時は機械を平坦な場所に置き駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止して行なってください。

(2) 燃料補給時は火気を近づけないでください。こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

(3) エンジン回転中やエンジンが熱い時は，燃料を補給しないでください。

(4) 火災防止のため，エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズ等を取除いてください。

(5) ラジエータキャップの取外しはエンジンが冷えてから行なってください。

(6) 屋内での始動は窓や戸をあけて，換気を行い，排気ガス中毒にならないようにしてください。

(7) エンジンを始動する前に，各操作レバーを《N》(中立)，《切》にして駐車ブレーキが入っていることを確認してから行なってください。

(8) 発進するときは，周囲を確認し機械のそばに人を近づけないでください。

2．自動車への積込み，積降ろし

(1) 積込み，積降ろしは強度，幅，長さに余裕があるスベリ止め，フック付のアユミを使用してください。

(2) 積込みは前進，積降ろしは後進で，[キャビン仕様] 以外は機械から降りて低速で行なってください。

(3) アユミの上での進路変更，変速操作は，落下・転倒の恐れがありますので行わないでください。

(4) [水平制御仕様] は，機体を一番下まで下げてください。

3．路上走行（[キャビン仕様] は公道を走行できません。）

(1) ナンバープレートの交付を受けて，運転免許証を携帯し，交通法規を守って走行してください。

(2) デバイダの先に指定されたバンパをつけて，機械の上に人や物をのせないでください。

(3) ホッパ及びグレンタンク内のこく粒はすべて排出してください。

(4) 発進，旋回は，低速で行なってください。

(5) 軟弱な路肩や草の生い茂っている所は転落の恐れがありますので走行しないでください。

(6) 夜間走行する時は，作業灯を消灯してください。

4．ほ場での作業

(1) ほ場への出入り，あぜ越えは，低速であぜに対して直角に行なってください。

(2) 高いあぜや溝越えはアユミを使用してください。

(3) 刈取り作業中は，詰まりやワラ等の巻きつき部に手を出さないでください。異常が発生した場合はエンジンを停止してから掃除をしてください。

(4) エンジン回転中はカッタや回転部に手・足・衣服を近づけないでください。
また補助者が機械に近づく時は運転者に合図して確認をとってください。

(5) あぜぎわでの旋回は周囲を確認して行なってください。

(6) 刈取り作業中は機械からの飛降り，飛乗りは傷害事故につながりますから行わないでください。

(7) 安全カバー，保護カバーは全て取付けて作業してください。

(8) 手こぎ作業は，走行を止め，刈取クラッチを切り刈取部の作動停止を確認してから行なってください。

(9) 手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたりフィードチェンに触れたりしないでください。

5．そ の 他

(1) 次のような状態では運転しないでください。
・飲酒運転，過労運転
・いねむり運転，妊娠中

(2) 服装はキチンと身体に合ったものを着用してください。

(3) 掃除・点検・整備時はエンジンを停止して取扱説明書に従って行なってください。

(4) 駐車時は刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。

(5) マフラやエンジンには，冷えるまで触れないでください。

(6) 機械を他人に貸す時は，取扱い方法を説明し，「取扱説明書」「安全ポスター」をよく読んでもらい取扱い方法や安全のポイントを理解してから作業するように指導してください。機械と一緒に「取扱説明書」を貸してあげてください。

(7) 機械の整備点検は，定期的に行なってください。
定期点検整備は，お買いあげ先の整備工場で純正部品を使用して行なってください。

コンバイン作業で起こりやすい事故を未然に防止する安全作業をするための注意事項を記しました。詳細は本文の中で⚠印の安全注意マークを付しておりますので，よくお読みいただいて事故のないようにしてください。

⚠ラベルについて

安全な取扱いについて説明している「ラベル」を機械に貼付しています。

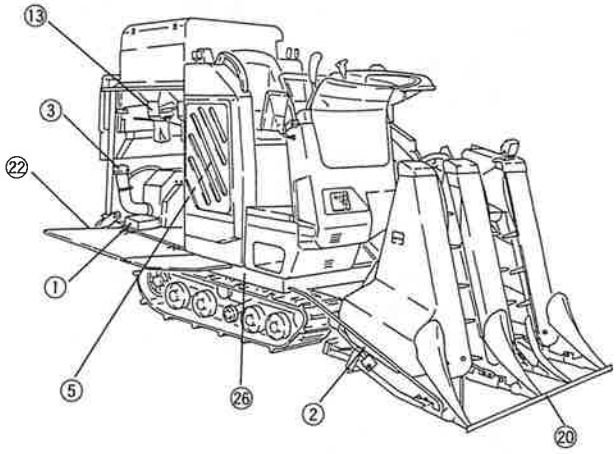
- ⚠印付きの下記マークは，つぎのように区分しております。

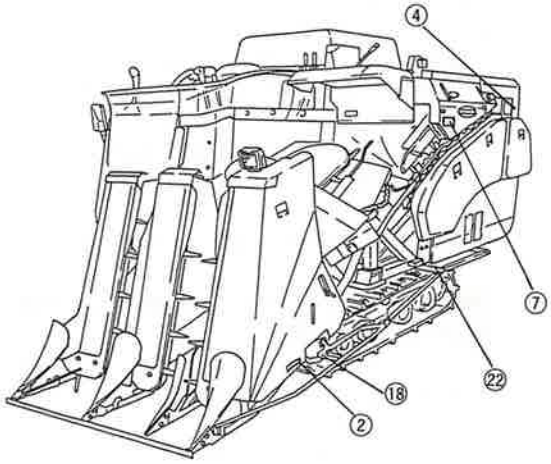
⚠ **危険**	その警告文に従わなかった場合，死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	その警告文に従わなかった場合，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	その警告文に従わなかった場合，ケガを負うおそれのあるものを示します。

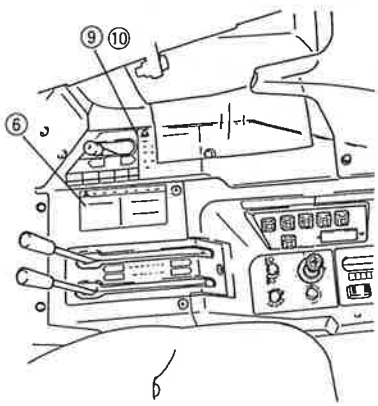
- ラベルをすべて読んでから使用してください。
- 機械に貼ってあるラベルが破損したり，なくなったり，塗料が付いたり，または読めなくなったら，新しいラベルに貼り替えてください。
- ラベルが付いている部品を交換するときは，新しいラベルも一緒に付けてください。
- ラベルは機械のお買いあげ先に注文してください。

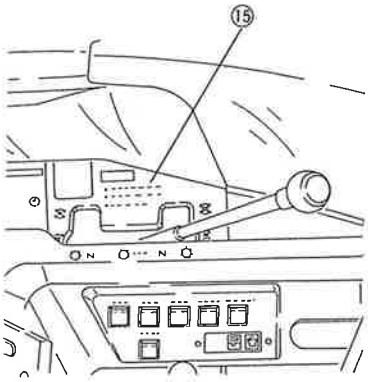
「ラベル位置と表示内容」

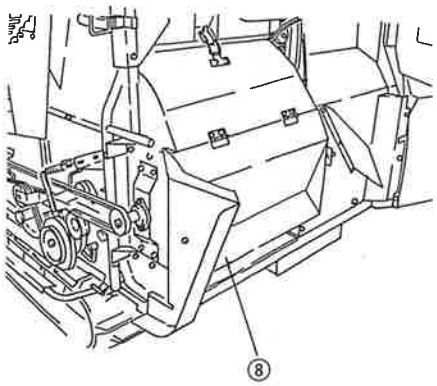
［ホッパ仕様］



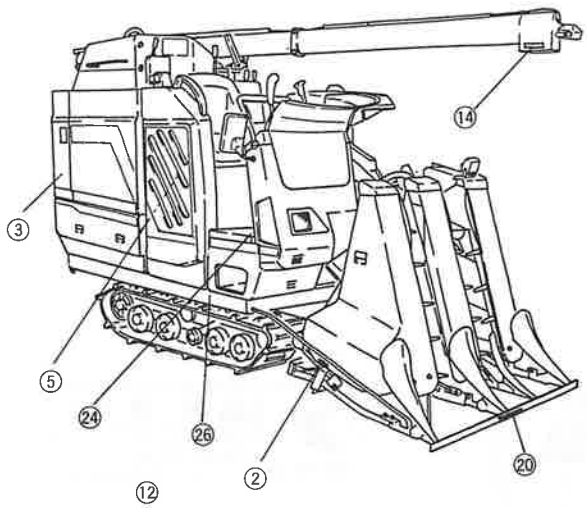


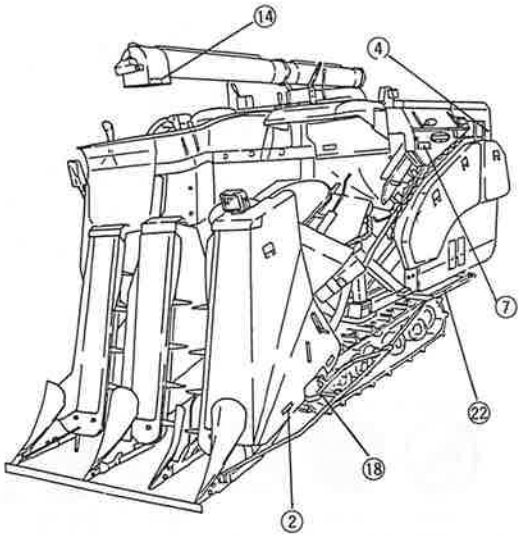


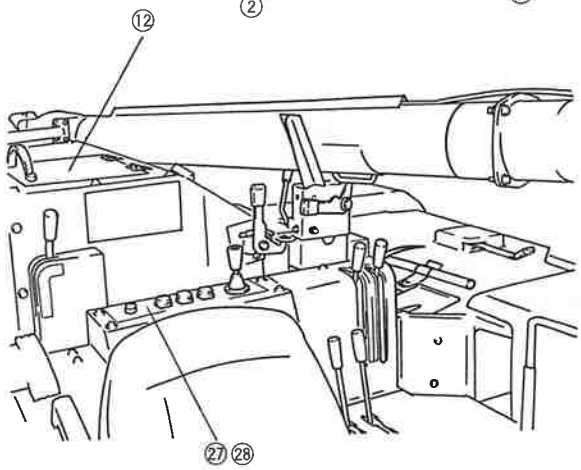


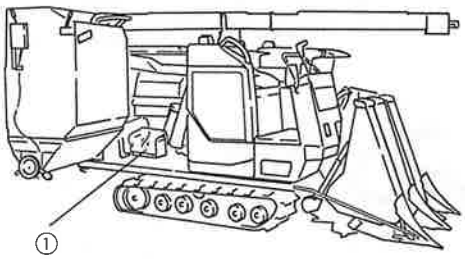


[グレンタンク仕様]

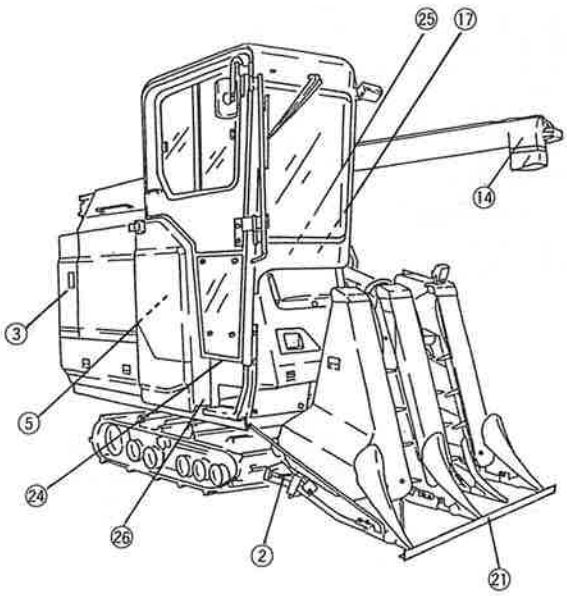


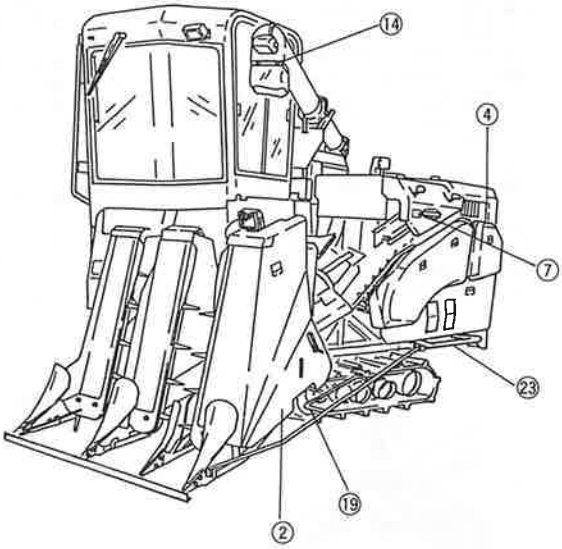


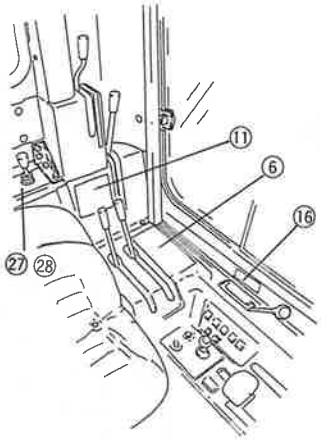




[キャビン仕様]






11
6
16
27
28

①


火気禁止
メガネ着用
こども禁止
破裂注意
説明書熟読
爆発注意
危険
バッテリは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。
●この12Vバッテリはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
●充電は風通しのよいところで行ない、ショートやスパークをさせないでください。
●ブースタケーブルの使用は車両またはバッテリの取扱説明書をお読みください。
バッテリ液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。
液面がLOWER LEVEL近くなったら補水し、UPPER LEVEL 以上入れないでください。
09603000017

②


危険 刈刃
●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。
09603000018

③


危険
■火気厳禁
■給油時エンジン停止
軽油
09603000015

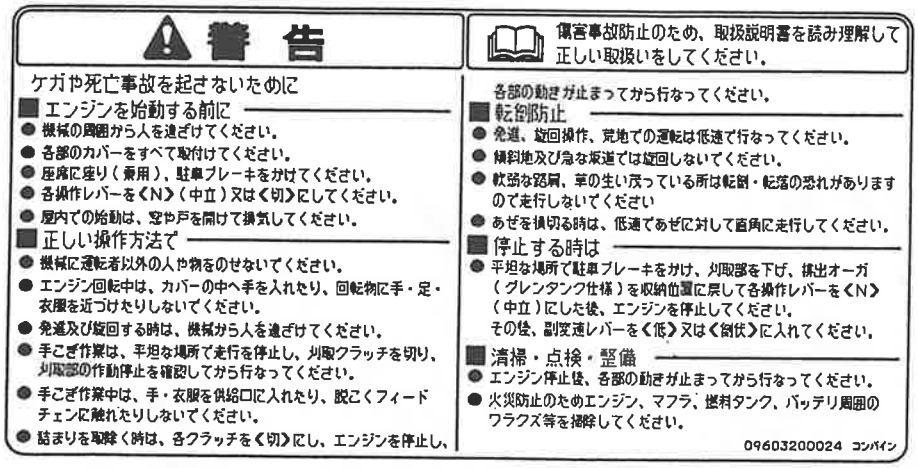
④


危険 カッター
●点検の際は，各クラッチを切り，エンジンを停止し，各部の作動が停止してから点検してください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。
36048608000

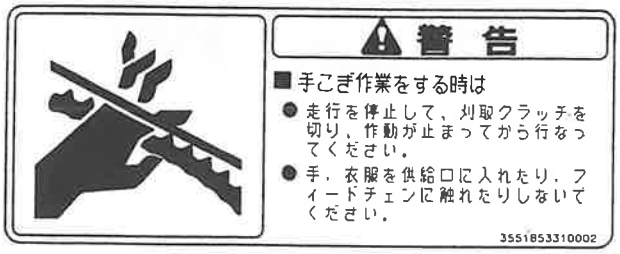
⑤


警告
●エンジンが熱い時は
キャップを開けないでください。
09603200013

⑥


警告
傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。
ケガや死亡事故を起さないために
■エンジンを始動する前に
● 機械の周囲から人を遠ざけてください。
● 各部のカバーをすべて取付けてください。
● 座席に座り（乗用），駐車ブレーキをかけてください。
● 各操作レバーを〈N〉（中立）又は〈切〉にしてください。
● 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。
■正しい操作方法で
● 機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
● エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
● 発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
● 手こぎ作業は、平坦な場所で走行を停止し、刈取クラッチを切り、刈取部の作動停止を確認してから行なってください。
● 手こぎ作業中は、手・衣服を供給口に入れたり、脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
● 詰まりを取除く時は、各クラッチを〈切〉にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
■転倒防止
● 発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
● 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。
● 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがありますので走行しないでください
● あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。
■停止する時は
● 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、刈取部を下げ、排出オーガ（グレンタンク仕様）を収納位置に戻して各操作レバーを〈N〉（中立）にした後、エンジンを停止してください。
その後、副変速レバーを〈低〉又は〈倒伏〉に入れてください。
■清掃・点検・整備
● エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
● 火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。
09603200024 コンバイン

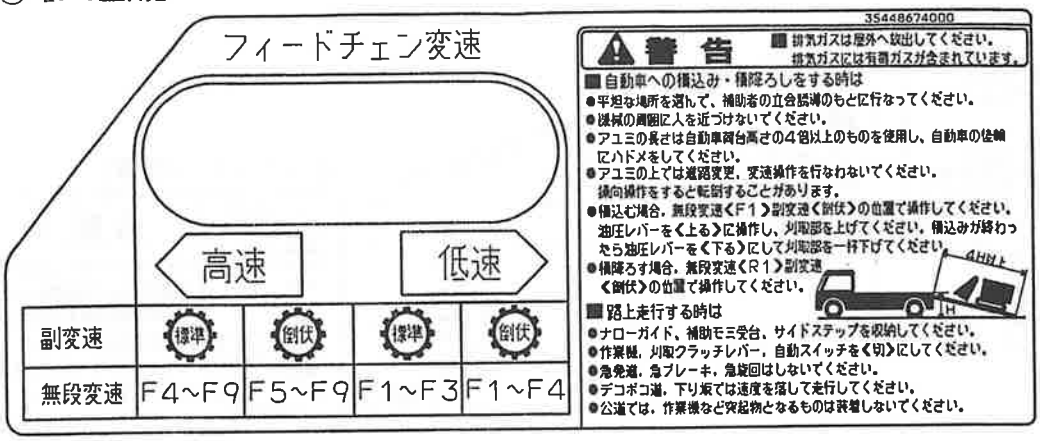
⑦


警告
■手こぎ作業をする時は
● 走行を停止して，刈取クラッチを切り，作動が止まってから行なってください。
● 手，衣服を供給口に入れたり，フィードチェンに触れたりしないでください。
3551853310002

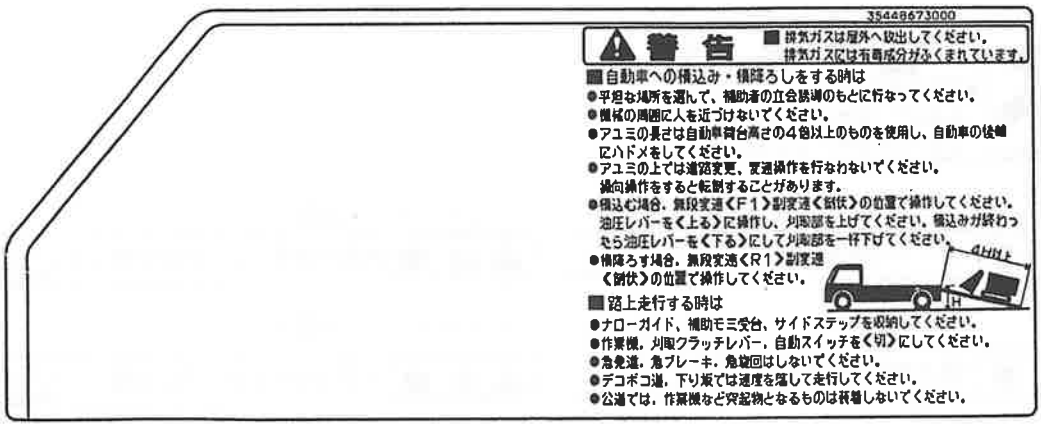
⑧


警告 ファン
●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。
09603200011

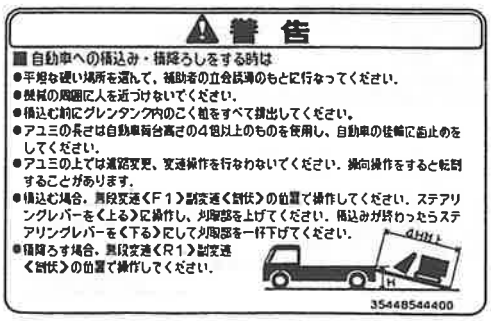
⑨［320型用］



⑩［210・240・270型用］



⑪［キャビン仕様］



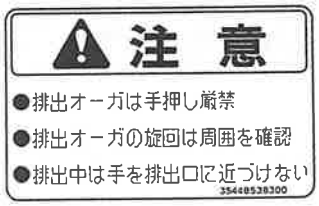
⑫



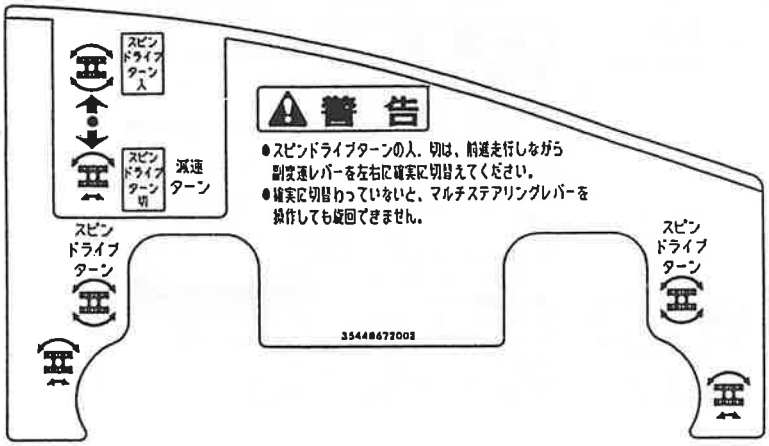
⑬



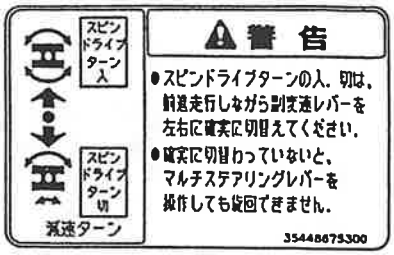
⑭



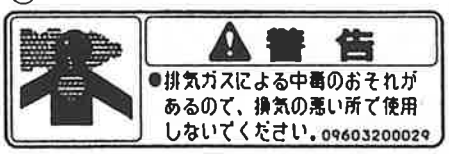
⑮［320型４モードターン仕様］



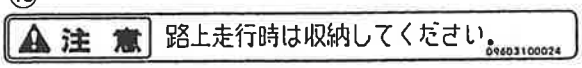
⑯［キャビン仕様］



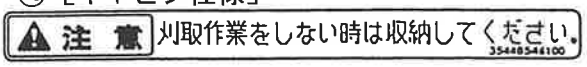
⑰



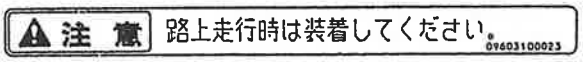
⑱



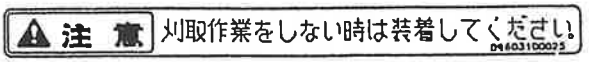
⑲［キャビン仕様］



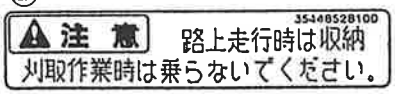
⑳



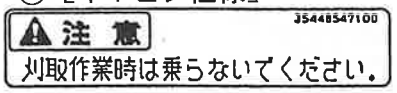
㉑［キャビン仕様］



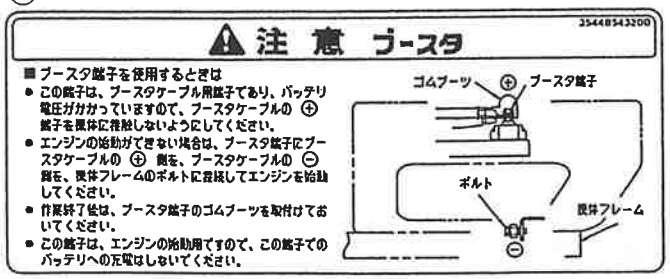
㉒



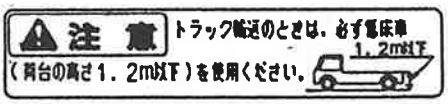
㉓［キャビン仕様］



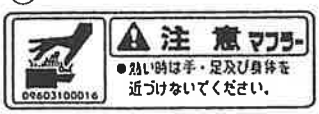
㉔



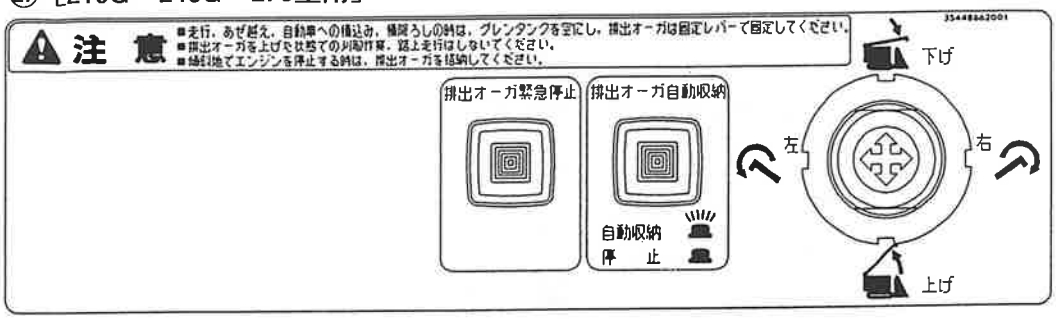
㉕



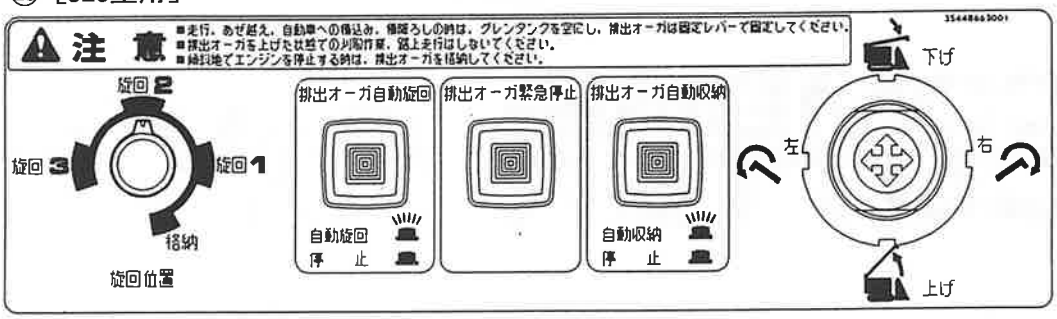
㉖

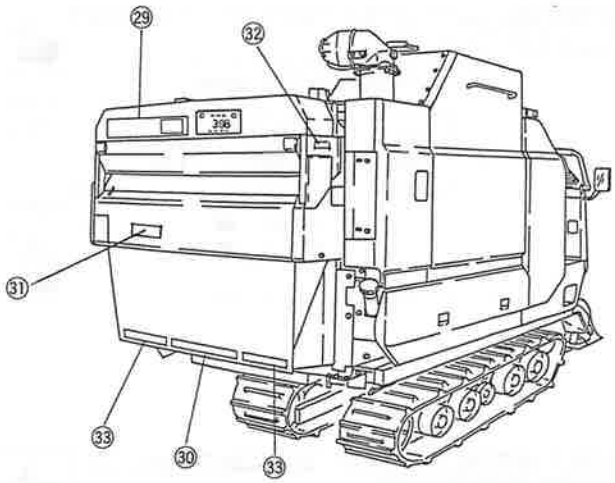


㉗［210G・240G・270型用］



㉘［320型用］





㉙

COMBINE
CUTTER

危険 カッター
- 点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから点検してください。
- 回転中は、カバーの中に手を入れないでください。

取扱のポイント カッターの刃は磨耗すると長切れになりますので、交換してください。
（刃の交換方法は、取扱説明書に明記されております。）

35448652000

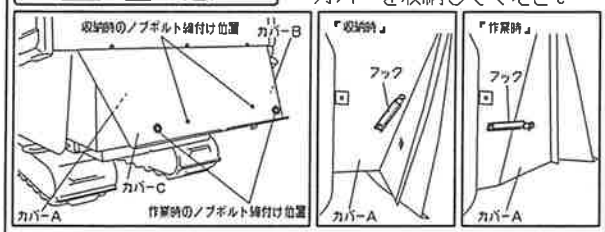
㉚

注意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

09603100020

㉛

注意
- 路上走行の時は カバーを収納してください



- 収納時には，1．カバーCのノブボルトを外します。
  2．カバーA・Bのフックを収納時の状態にします。
  3．カバーA・Bを内側に折り込み，収納時の位置でノブボルトで止めます。
- 作業時には，逆の手順でカバーを開いてください。

35448657000

㉜

注意 路上走行時および カッター作業時は閉じてください。

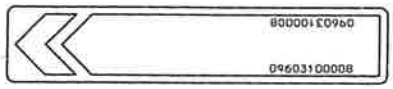
35448656000

㉜［キャビン仕様］

注意 カッター作業時は閉じてください。

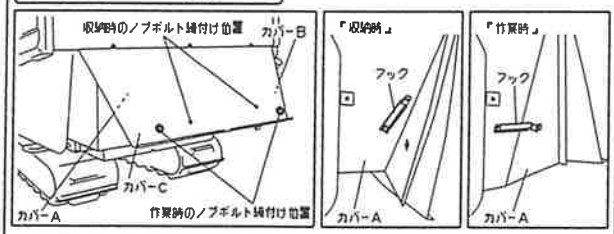
35448656500

㉝



㉛［キャビン仕様］

注意



収納時には，1．カバーCのノブボルトを外します。
2．カバーA・Bのフックを収納時の状態にします。
3．カバーA・Bを内側に折り込み，収納時の位置でノブボルトで止めます。
作業時には，逆の手順でカバーを開いてください。

35448657500

ご使用前にこの安全作業説明編を含めた取扱説明書を必ずお読みください

安全作業説明編

安全運転 のために



お客さまの安全をまもる

安全確認を習慣づけるようにしましょう。

この中で説明している守っていただきたい安全作業のポイントはコンバイン作業全般についてのものです。

安全作業説明編

もくじ

- 作業前にこれだけは守りましょう！…… 1
- コンバイン作業の安全注意ポイント…… 2
- 作業前の点検・掃除・整備をするときは… 4
- エンジンを始動するときは…… 7
- 自動車への積込み・積降ろしのときは…… 8
- 路上走行をするときは…… 9
- ほ場で作業をするときは…… 11
- １日の作業が終わったら…… 14
- 長期格納するときは…… 15

この「安全作業説明編」はイラスト，内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

⚠作業前にこれだけは守りましょう！

こんな人は，運転しないでください

●過労，病気，薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人



●酒気をおびた人



●若 年 者
●未熟練者

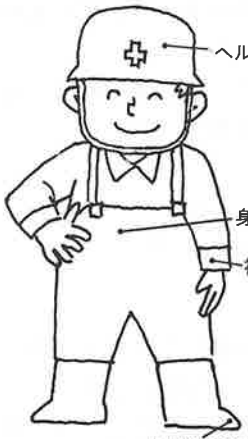
●妊娠している人





服装は作業に適していますか？

キチンと身体に合ったものを着用する



こんな服装は事故の原因になります



機械を他人に貸すときは…

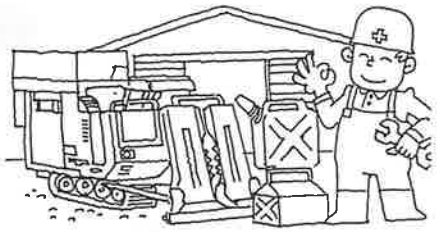
他人に機械を貸すときには，「取扱説明書」をよく読んでもらい取扱い方法や本書に書かれている安全作業のポイントをよく理解してから作業するように指導してください。

機械と一緒に「取扱説明書」を貸してあげてください。

親切心から機械を他人に貸して，借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりすると，せっかくの親切があだとなってしまいます。

安全運転のために







- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする

始業・点検 準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する
- 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない
- 給油，冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う
- 燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない
- 方向指示灯などの保安部品の作動を確認する
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く
- 油脂類の廃却は，廃却設備のある所で処理する

エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける
- 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》（中立）または《切》にする
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする
- 機械の周囲から人を遠ざける
- エンジンの始動はシートに座って行う（乗用型）歩行型は正しい姿勢で行う
- 始動のときは周囲の人に「合図」をする

走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける
- 補助モミ受台，ナローガイド，排出オーガを収納する
- 機械に人や物をのせない
- 走行する前にホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出する
- 発進時は周囲をたしかめる
- 走行時の旋回は低速で行う
- 後進時は後方を確認する
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない
- 作業機クラッチ，刈取クラッチを《切》にする
- 運転中は，人を機械に近づけない

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す
- 前後左右を確認し，低速車線を走る
- 夜間走行は前照灯をつける（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

- スピードを落として走行する
- 対向車を避ける時，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 急な下り坂でのギヤ変速操作はしない
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使用する
- 急傾斜地は走行しない
- 坂道での旋回は低速で行う

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 副変速を《低速》に入れておく（乗用型）歩行型は主変速を《１》に入れる
- 傾斜地では駐車しない（やむを得ず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れる時は始動キーを抜取る

安全注意ポイント

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械の周囲には人を近づけない
- 作業機，刈取クラッチは《切》にする
- 積込みは前進，積降ろしは後進で変速は低速で行う
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない
- キャビン仕様機以外は機械から降りて行う

ほ場作業　ほ場の出入り

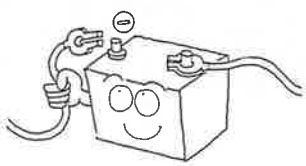
- ホッパやグレンタンク内のこく粒を排出して行う
- 変速は低速であぜに対して直角に行う
- 高あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用する
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う

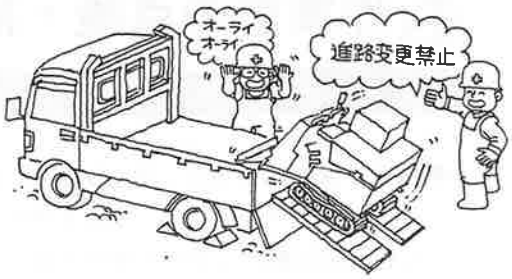
ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には周囲を確認する
- 刈取り作業は機械の周囲に人を近づけない
- 旋回時は周囲の状況を確認し，低速で行う
- ノッタの結束ひもを交換する時はエンジンを停止する（ノッタ仕様）
- 排出オーガの排出口やホッパのシャッタ内に手を入れない
- 運転走行中の乗り降りはしない
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる
- カッタのそばに手や身体を近づけない
- あぜぎわでの旋回時は周囲を確認する

手こぎ作業

- 刈取クラッチを《切》にして，走行を停止して行う
- 手袋は使用しない
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない
- カッタの切ワラがたまったら，手こぎを中断して移動する
- ワラクズの近くに機械を停止しない







作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 詰まり等の異常時にはエンジンを停止して行う
- 脱こくこぎ室カバーまたはこぎ胴部を開いたらストッパをかける
- カッタをオープンしたときはストッパをかける
- 取外したカバー類はすべて取付けて作業を始める

終業・格納　１日の作業が終わったら

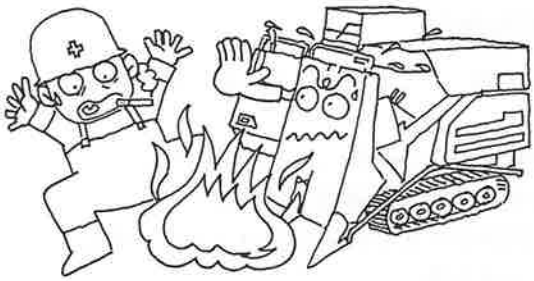
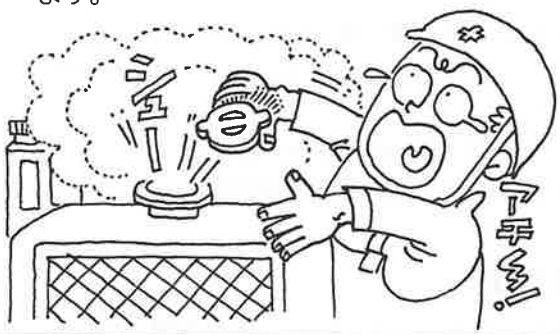
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする
- 始動キーを抜取っておく
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- マフラやラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

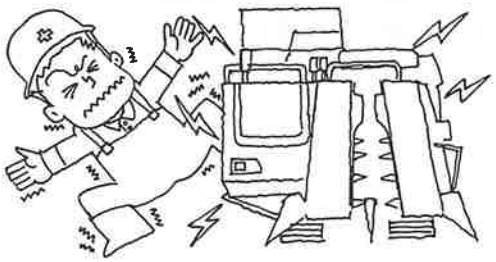
長期格納

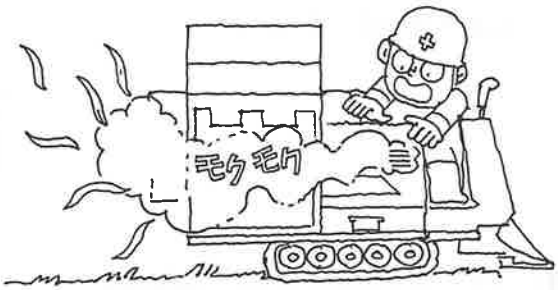
- １シーズンごとに定期点検をする
- 燃料コックを閉じる（ガソリン車は燃料を抜取る）
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする
  格納フックまたはプレートのあるものは走行クラッチペダルを固定し，クローラに歯止めをして駐車ブレーキを解除する
- 機械は改造しない
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

⚠作業前の点検・掃除・整備をするときは……

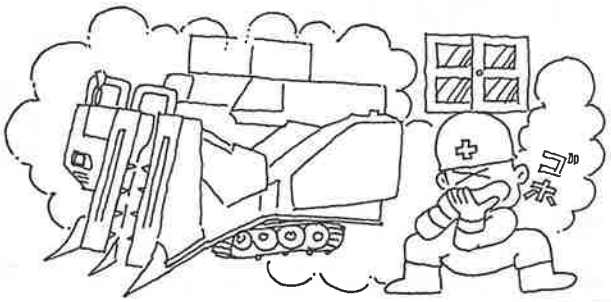
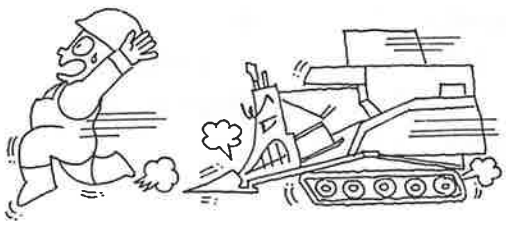
必ず守ってください ➡ **守らないとこんな事故が！**

◆点検・掃除・整備は，平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。 ●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こします。 
◆給油，注油，点検時はエンジンを停止しエンジン回転中や，エンジンが熱い時は給油，注油をしないでください。 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ◆エンジンオイル等の油脂類の廃却は，廃却設備のある所で処理する。 ●燃料を補給した後は，燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。 ●エンジン始動前に，給油，注油，各部の点検を行う。 ●集中注油作業時は，人を機械に近づけない。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 
◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリの液槽口から爆発性のあるガスが出ますので，爆発事故を引き起こすことがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。	服が破れたり，ヤケドします。 
◆バッテリ端子の取外しは，㊀側を取外した後㊉側を取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリの交換は指定されたバッテリを使用する。 ●取外し，取付け時に㊉端子を機体に接触させない。 ●㊉㊀を逆に接続しない。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 
◆電気配線が他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ◆燃料ホースに損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料もれがないか作業前に点検してください。	火災事故を引き起こすことがあります。 
◆マルチステアリングレバー（サイドクラッチレバー）のききが悪かったり，片ぎきなどがあると，事故になることがあります。点検調整してください。 ◆マルチステアリングレバー（サイドクラッチレバー）や，その他のレバー類に大きなガタや遊びがないか点検調整してください。 ◆機械は改造しないでください。 ●改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因になることがあります。	正常な走行ができず事故を引き起こす原因となります。 

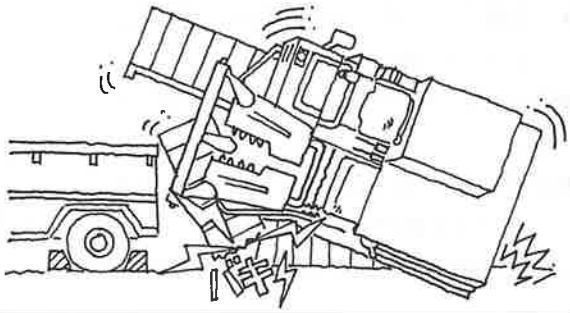
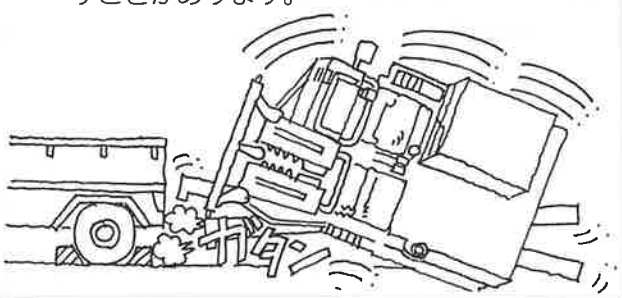
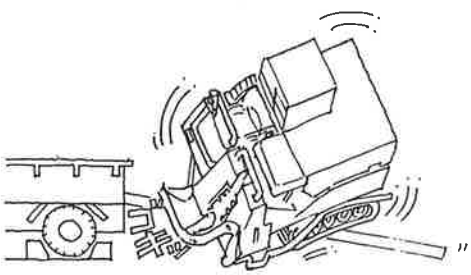
必ず守ってください	➡	守らないとこんな事故が！
◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。 ●ベルトカバー内のワラクズを取除く。		火災事故を引き起こすことがあります。 
◆点検・整備などで外した回転部のカバーなどは，全て取付けてください。		機械に巻きこまれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 
◆方向指示灯などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。		交通事故を引き起こす原因となります。 
◆グレンタンク仕様の排出オーガの作動確認は周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では電線に引っ掛けない。		屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引っ掛けて損害事故を起こすことがあります。 

⚠エンジンを始動するときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速を《N》（中立）にしてください。 ◆作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にしてください。 ◆取外したカバーなどは全て取付けてください。 ●変速レバーが《N》（中立）になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
◆屋内での始動は窓や戸をあけて換気してから始動してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳に障害が残ることがあります。 
◆始動は運転席のシートに座って（乗用型）で行なってください。 ◆歩行型は正しい姿勢で行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。
◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速（無段変速），副変速を《N》（中立），作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にして行なってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。 

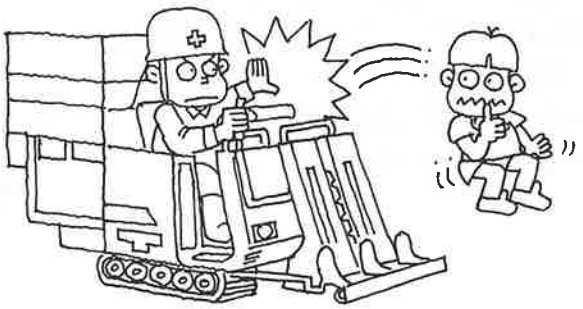
⚠自動車への積込み・積降ろしのときは……

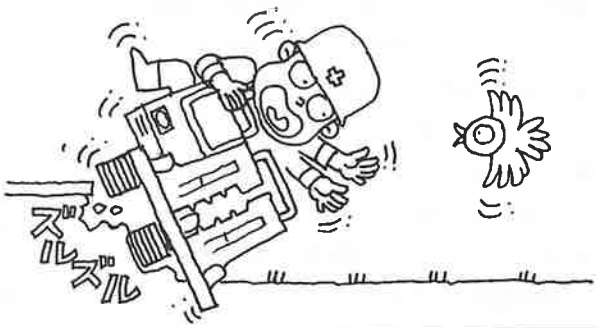
必ず守ってください ➡ **守らないとこんな事故が！**

◆自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車はエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ駐車ブレーキをかけ，歯止めをする。 ◆アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●幅はクローラ幅に合ったものを使う。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行にまっすぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，はずれないことを確認する。	アユミが外れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
◆ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆キャビン仕様機以外は機械から降りて行なってください。 ◆［機体水平制御仕様］は自動スイッチを《切》にして機体を一番下げた状態で行なってください。 ◆［方向自動制御仕様］は方向自動スイッチを《切》にして行なってください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で変速は低速で行なってください。 ●積込み・積降ろしのときは，機械の周囲に人を近づけない。	万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。 
◆アユミの上では進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対してまっすぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，途中で機械を止める必要がないようにする。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。 

⚠路上走行をするときは……

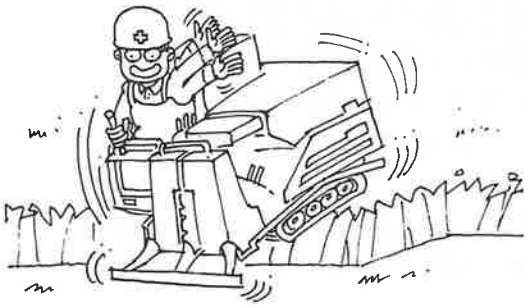
必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

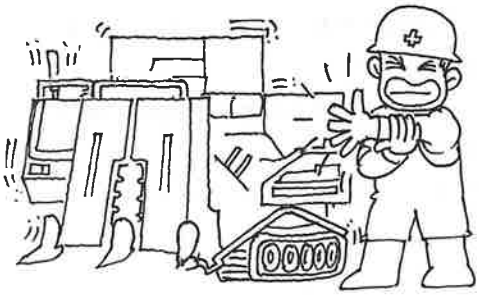
◆路上走行する時は刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は取外してください。 ◆合わせマークの位置まで刈取部を上げて油圧を固定してください。 ●合せマークのない機械は刈取部先端を30㎝程度上げます。	思わぬ事故を引き起こす原因となります。 
◆走行時は補助モミ受台，サイドステップ，ナローガイド，排出オーガ補助モミ受台を収納し，人や物をのせないでください。 ◆ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ●人や物を機械にのせない。 ●荷物はめんどうでも別の自動車（運搬車）などで運ぶ。	思わぬ事故を引き起こす原因となります。 
◆路上走行時は交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。 ●ナンバープレートを取付け，運転免許証を携帯する。 ●夜間の走行は前照灯をつける。作業灯は消す。	思わぬ傷害事故の原因となります。 
◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ◆作業機・刈取クラッチが《切》になっていることを確認してください。	傷害事故を引き起こす原因となります。 

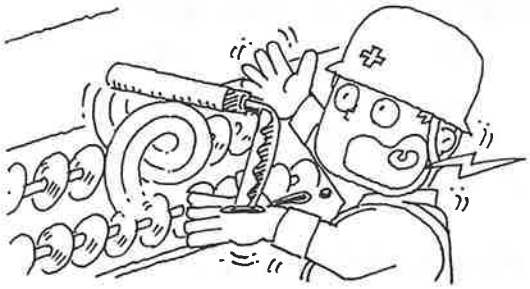
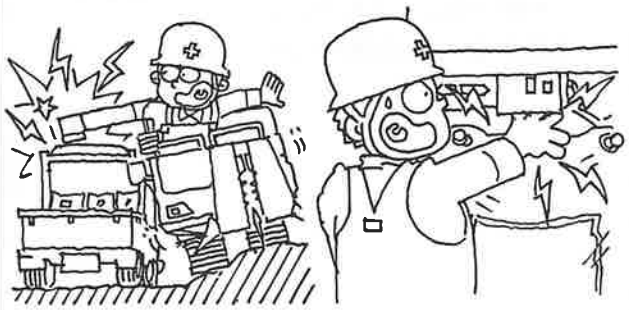
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂はスピードを落とし，慎重に走行する。	路肩がくずれ，横転事故を引き起こすことがあります。 
◆坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前でいったん停止して，変速を低速に入れ変えてから，登り降りする。 ●坂道での旋回は低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引き起こすことがあります。 
◆坂道では駐車しない。やむをえず坂道の途中で駐車する時は駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は下げておく。 ●機械から，離れるときは始動キーを抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

◆急傾斜，溝，高いあぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●ホッパおよびグレンタンク内のこく粒を排出して行う。 ●キャビン仕様機以外は，機械から降りて行う。 ●アユミ上では進路変更しない。	バランスをくずしたりして，転倒事故を引き起こすことがあります。 
◆あぜ越えは，変速を低速にしてあぜに直角に横切るようにしてください。 ●キャビン仕様機以外は，機械から降りて行う。 ●あぜがくずれないことを確認して行う。 ◆作業時の旋回は低速で行う。	転倒事故を引き起こすことがあります。 
◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，作業機・刈取クラッチを入れるときはホーンで合図する。 ●旋回するときは周囲を確認し，低速で行う。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。 
◆手こぎ作業のときは手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ●手袋は使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラがたまったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は走行を停止して刈取クラッチを《切》にして行う。	機械に巻きこまれたりして，傷害事故を起こします。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
◆詰まり等の除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）のときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。 ●脱こく部やカッタの詰まり，チェーンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ●エンジンを停止して各部の動きが止まってから行う。 ●脱こくこぎ室カバーまたはこぎ胴部を開いた時はストッパをかける。	傷害事故を引き起こすことがあります。 
◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は機械に近づくとき運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，作業機クラッチ操作をしてください。 ●カッタでの事故がいちばん多く発生していることを，作業者は認識しておく。 ●エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。 ●補助者に機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておく。 ●作業中は機械に人を近づけない。 ●モミ袋を交換する時は機械を止めて行う。 ●運転者は常に補助者の状態を確認しながら作業をする。 ●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には作業中は近づかない。 ●ワラなどの巻付き・詰まり等が発生しても，作動中は手を出さない。 ●運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業する。	傷害事故を引き起こすことがあります。   

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
◆作業中にカマなどを使って脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときはエンジンを停止する。 ●カッタをオープンしたときはストッパをかける。	カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに止める。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしない。	マフラの排気で火災になることがあります。 
◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズがたまった場合はエンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。 
◆排出オーガの排出口やホッパのシャッタ内には手を入れないでください。 ◆グレンタンク仕様の場合排出オーガの操作は周囲を確認してから行なってください。 ●走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認する。	ラセンに巻き込まれたり，シャッタに手をはさまれたりして負傷することがあります。 排出オーガが周囲の人にあたり，負傷したりすることがあります。 

⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	➡	守らないとこんな事故が！

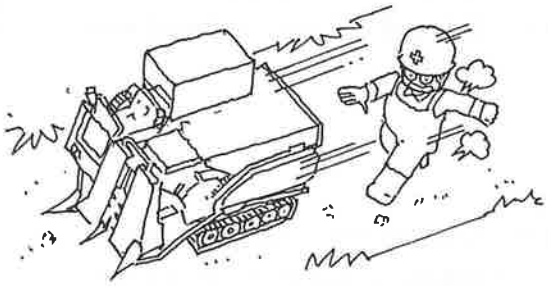
◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどをとり除いてください。
- エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。
- 掃除後注油個所に注油する。

火災の原因となることがあります。



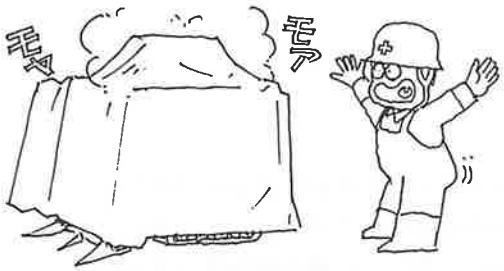
◆保管は平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。
- 副変速レバーを「低速」に入れ，駐車ブレーキをかける。
- 始動キーを抜取っておく。

機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。



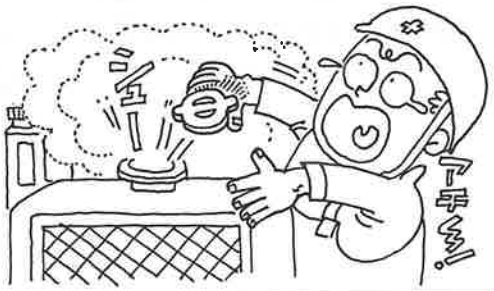
◆エンジンが熱い時は，シートカバーをかけないでください。

火災の原因となることがあります。



◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを開けないでください。
- 冷却水の点検は補助タンクで行う。

熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。

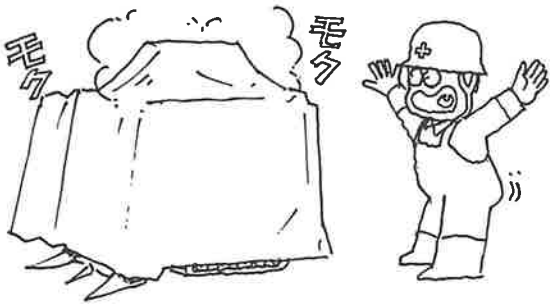


⚠長期格納するときは……

必ず守ってください	➡	守らないとこんな事故が！

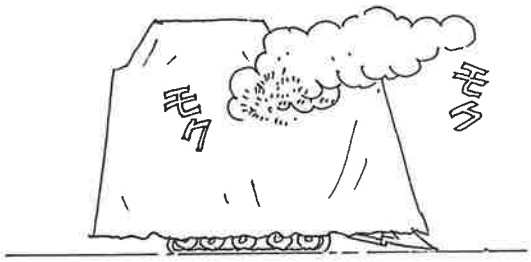
◆バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外してください。
- １ケ月に１回程度補充電をする。

思わぬ火災事故を起こす場合があります。



◆燃料コックを閉じてください。
- ガソリン車の場合は，燃料を抜取る。

火災の原因となることがあります。



◆平坦な場所に置き刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。
（走行クラッチペダルに格納用フックまたはプレートのあるものは，ペダルを固定し，駐車ブレーキを解除してください。……クラッチのこう着防止）
- 副変速を「低速」に入れ，クローラに歯止めをする。
- 始動キーを抜取っておく。

機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。



◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。
- １年ごとに定期点検・整備をお買いあげ先で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談して処理してください。



取扱説明書もくじ

ご使用まえに

1 「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」について…… 1
2 「用語」と「マーク」について…… 1
3 「仕様（装備）」について …… 2
4 小型特殊自動車について…… 4

主な名称

…… 5

各部の取扱いかた

1 運転装置の取扱い…… 8
[1] スイッチ・計器関係…… 8
[2] ペダル・レバー関係…… 15
2 電装関係の取扱い…… 23
[1] ヒューズ・ヒュージブルリンク… 23

上手な運転のしかた

1 運転まえの点検と準備…… 26
[1] 運転まえの点検…… 26
[2] 給油・給脂・給水個所…… 27
[3] 注油個所…… 34
[4] 集中注油の使いかた…… 35
2 エンジンの始動と停止…… 36
[1] 始動のしかた…… 36
[2] 停止のしかた…… 36
3 走行・停車のしかた…… 37
[1] 走行のしかた…… 37
[2] 停車のしかた…… 38
4 自動車への積込み・積降ろし…… 39
[1] 自動車・アユミの取扱い…… 40
[2] コンバインの取扱い…… 40

上手な作業のしかた

1 刈取り作物とほ場の条件…… 41
2 作業まえの準備…… 42
[1] ほ場の準備…… 42
[2] 機械の準備…… 42
3 刈取り作業のしかた…… 46
[1] 刈取り操作の手順…… 46
[2] 作業速度の選びかた…… 50
[3] ほ場の刈取り手順…… 50
[4] モミ袋の交換のしかた…… 53
[5] こく粒の排出操作方法…… 54
[6] タンク補助樋口の取扱い…… 56
[7] リフトシャットの取扱い…… 56
[8] 夜間作業…… 57
[9] トルクリミッタの取扱い…… 57
[10] エンジン自動停止の取扱い…… 59
[11] 手こぎ作業…… 59
[12] エンジン停止スイッチの取扱い… 61
[13] 刈取り作業終了後の取扱い…… 61
[14] 警報装置について…… 62
4 ワラ処理部の取扱い…… 63
[1] カッタ作業…… 63
[2] 排ワラ作業…… 64
5 麦刈り作業のしかた…… 65
[1] 選別ダイヤルの調節…… 65
[2] スーパーワイドセレクタの調節… 65
[3] こぎ胴回転数のセット…… 66
[4] 刈刃の高さ調節…… 66

もくじ

自動装置について

1 こぎ深さ自動制御…… 67
1 運転装置…… 67
2 こぎ深さセンサの調整…… 67
3 こぎ深さ自動制御が使えない条件… 68
2 方向自動制御[A仕様]…… 68
1 運転装置…… 68
2 作業のしかた…… 69
3 方向自動制御の使えない条件…… 69
3 刈高さポジションコントロール…… 70
1 運転装置…… 70
2 自動での作業のしかた…… 71
3 手動での作業のしかた…… 72
4 水平自動制御[水平制御仕様]…… 72
1 運転装置…… 72
2 作業のしかた…… 73
5 選別自動制御…… 74
1 運転装置…… 74
6 排出オーガ自動制御…… 75
1 運転装置…… 75
7 マイコン(マイクロコンピュータ)… 77
8 キャビンについて[キャビン仕様]… 78
1 ドア・リヤウインドウの開閉のしかた…… 78
2 スイッチ類の取扱い…… 78
3 格納のしかた…… 80

手入れのしかた

1 定期点検整備表…… 81
2 点検と処置…… 85
1 エンジンオイル・オイルフィルタの点検と交換…… 85
2 ラジエータ冷却水の点検と交換… 86
3 エアクリーナの掃除…… 88
4 燃料フィルタの掃除…… 88
5 燃料のエア抜きのしかた…… 89
6 ラジエータ吸気部の掃除…… 90
7 油圧作動油の交換…… 90
8 ホース類の点検…… 92
9 電気配線の点検と掃除…… 92
10 バッテリの点検と充電…… 93
11 グレンタンクの回動のしかた…… 96
12 こぎ胴部の開きかた…… 97
13 脱こくファンケースの開きかた… 98
14 脱こく内部の掃除…… 99
15 揺動流板の掃除…… 102
16 グレンタンク部の掃除…… 106
17 カッタのオープンのしかた…… 106
18 カッタ刃組品の取外しと分解…… 107
19 爪の交換のしかた…… 115
20 刈刃の上下調節，手入れ…… 115
21 ワラ切カマの手入れ…… 116
22 こぎ歯の点検・調整…… 117
3 調整のしかた…… 118
1 レバー・ペダルの点検・調整…… 118
2 ベルトの点検・調整…… 124
3 チェンの点検・調整…… 130
4 クローラの点検・調整…… 135
4 長期格納のしかた…… 136
1 機械の掃除と洗浄…… 136
2 錆止めと注油…… 136
3 エンジンの手入れ…… 136
4 点検・整備…… 137
5 格　納…… 137
6 再使用にあたって…… 137

不調の発見と処置

1 エンジン部…… 138
2 走行・運転操作部…… 139
3 電気・自動制御部…… 142
4 刈 取 部…… 143
5 脱こく部…… 145
6 ワラ処理部…… 148
7 グレンタンク部…… 149
8 キャビン部…… 150

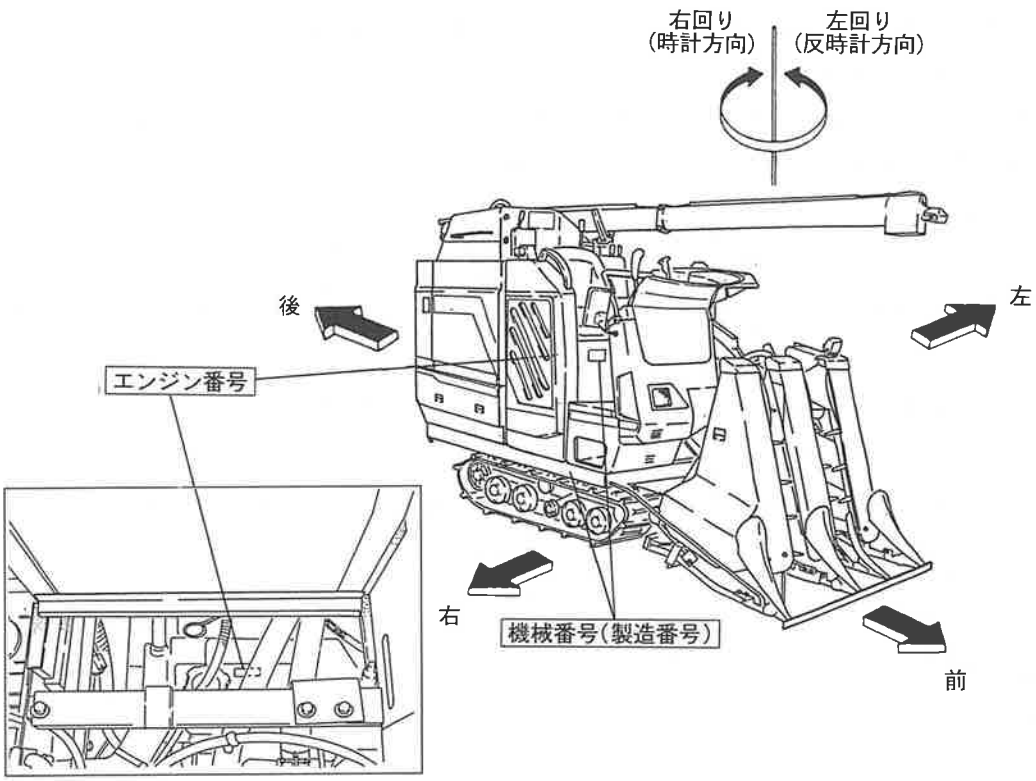
付　　表

1 主要諸元…… 151
2 電気配線図…… 153
3 ベルト一覧表…… 163
4 主な消耗部品…… 164
　1 爪関係…… 164
　2 刈刃・カマ関係…… 165
　3 カッタ関係…… 166
　4 ヒュージブルリンク・ヒューズ… 166
5 アタッチメント(別売り)…… 167
6 潤 滑 油…… 168
7 コンバイン関連商品…… 170

ご使用まえに

1 「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」について

このコンバインには「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」がそれぞれ図示のところに表示してあります。サービスについてのお問い合わせや部品などご用命のときには「お買いあげ先」に，「型式」・「機械番号（製造番号）」・「エンジン番号」をお知らせください。



2 「用語」と「マーク」について

この取扱説明書で使用している「前後・左右・左回り・右回り」などの「用語」は，図示のように決めております。またこの取扱説明書では，そのつど守っていただきたいところに下記「マーク」を使用して説明しております。

安全のポイント	取扱いのポイント
◆重要な安全事項について説明しています。守らないと人身事故の危険性がありますので，必ず読んでください。	●機械の性能を最大限に発揮するための説明をしています。守らないと本来の性能を発揮できません。また故障の原因になることがあります。

3 「仕様（装備）」について

安全のポイント

◆機械は改造しないでください。改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく人身事故の原因になることがあります。

◆機械を稲や麦の収穫作業以外には使用しないでください。

・この機械には下記の仕様があります。取扱説明書に説明している内容で仕様によっては該当しない項目もあります。お買いあげ製品の仕様（装備）をお確かめのうえ，おまちがいのないように活用ください。

・品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行うことがあります。その際には，本書の内容および写真・イラストなどの一部が，本製品と一致しない場合がありますので，ご了承ください。

装備 / 型式		エンジン				モミ処理				フルオートマチック(HST)	4モードターン	マルチステアリング		エンジン回転負荷モニタ	防じんカバー	リフトシャット	刈幅調節	集中注油	自動化					排出オーガ		フィードチェン変速	コンポアップ	増速ツインこぎ胴	クローラ(mm)			キャビン	カッタ		自動スライドノッタ
		21PS	24PS	27PS	33PS	ホッパ	グレン 650ℓ	グレン 730ℓ	グレン 800ℓ			ジャスト無	ジャスト付						刈高ポジコン	こぎ深自動	方向自動	選別自動	水平自動	自動収納	旋回自動				350	広幅420	湿田450		マルチ	スーパーマルチ	
210	M	○				○				○		○			○	○	○	○	○	○		○					○		○			○		
	AM	○				○				○			○		○	○	○	○	○	○	○	○					○		○			○		
	AMN	○				○				○			○		○	○	○	○	○	○	○	○					○		○			○		○
	GM	○					○			○		○			○	○	○	○	○	○		○		○			○			○		○		
	GAM	○					○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○		○		
	GAMB	○					○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○			○	
	GAMN	○					○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○		○		○
	GLAM	○					○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○		○		
	GLAMB	○					○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○			○	
	GLAMN	○					○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○		○		○
240	M		○			○				○		○			○	○	○	○	○	○		○					○		○			○		
	AM		○			○				○			○		○	○	○	○	○	○	○	○					○		○			○		
	AMN		○			○				○			○		○	○	○	○	○	○	○	○					○		○			○		○
	GM		○				○			○		○			○	○	○	○	○	○		○		○			○			○		○		
	GAM		○				○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○		○		
	GAMB		○				○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○			○	
	GAMN		○				○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○		○		○
	GLAM		○				○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○		○		
	GLAMB		○				○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○			○	
	GLAMN		○				○			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○		○		○

型式	装備	エンジン 21PS	エンジン 24PS	エンジン 27PS	エンジン 33PS	モミ処理 ホッパ	モミ処理 グレン 650ℓ	モミ処理 グレン 730ℓ	モミ処理 グレン 800ℓ	フルオートマチック(HST)	4モードターン	マルチステアリング ジャスト無	マルチステアリング ジャスト付	エンジン回転負荷モニタ	防じんカバー	リフトシャット	刈幅調節	集中注油	自動化 刈高ポジコン	自動化 こぎ深自動	自動化 方向自動	自動化 選別自動	自動化 水平自動	排出オーガ 自動収納	排出オーガ 旋回自動	フィードチェン変速	コンポアップ	増速ツインこぎ胴	クローラ(mm) 350	クローラ(mm) 広幅420	クローラ(mm) 湿田450	キャビン	カッタ マルチ	カッタ スーパーマルチ	自動スライドノッタ
270	GM			○				○		○		○			○	○	○	○	○	○		○		○			○			○			○		
	GAM			○				○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○			○		
	GAMB			○				○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○				○	
	GAMN			○				○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○			○		○
	GLAM			○				○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○			○		
	GLAMB			○				○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○				○	
	GLAMN			○				○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○			○		○
	GCAM			○				○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○		○			○			○		○	○		
	GCLAM			○				○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○		○	○		
	GCLJAM			○				○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○				○				○	○	○		
320	GM				○				○	○		○		○	○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○		○			○		
	GAM				○				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○			○		
	GAMB				○				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○				○	
	GAMN				○				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○			○		○
	GLAM				○				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		
	GLAMB				○				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○	
	GLAMN				○				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		○
	DGLM				○				○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		
	DGLMN				○				○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		○
	GCAM				○				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○	○		
	GCLAM				○				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		
	DGCLM				○				○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		
	GCLJAM				○				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○		
	DGCLJM				○				○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○		

型式記号の説明

A＝方向自動・ジャストディレクタ・オーガ旋回自動（320型）　　M＝マルチカッタ

N＝自動スライドノッタ　　G＝グレンタンク　　MB＝スーパーマルチカッタ

L＝水平自動制御　　D＝方向自動・4モードターン(※1)　　C：キャビン　　J(※2)：湿田クローラ

(※1) 4モードターンとはブレーキターン，スピンドライブターン，減速ターン，ジャストディレクタの4種の操舵方式をいいます。

(※2) 湿田クローラ仕様は各型式にあります。(記載省略)

取扱いのポイント

- これらの機械は工場から出荷のときは「稲作業セット」に調整してあります。
  麦作業のときは，65～66ページ「麦刈り作業のしかた」の項を参考に調整してご使用ください。

4 小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

但し，［**キャビン仕様**］は道路運送車両法に適合していませんので公道走行はできません。

1 小型特殊自動車の届出

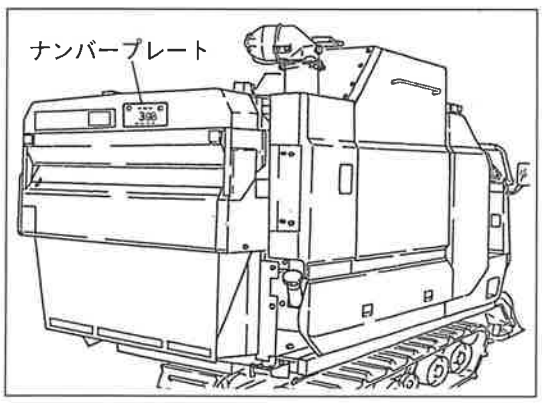
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

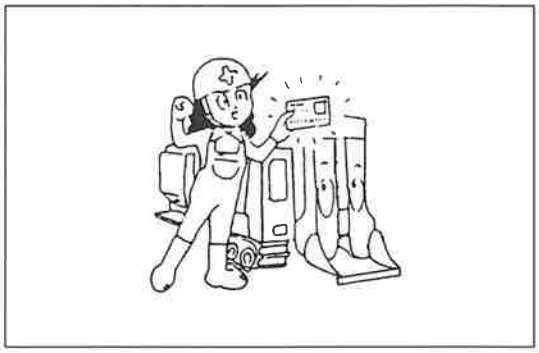
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2 公道走行するために

❶ 運転免許

公道を走行するときは，「**小型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷ 「**小型特殊自動車**」の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全長	4.70m以下
	全幅	1.70m以下
	全高	2.00m以下
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

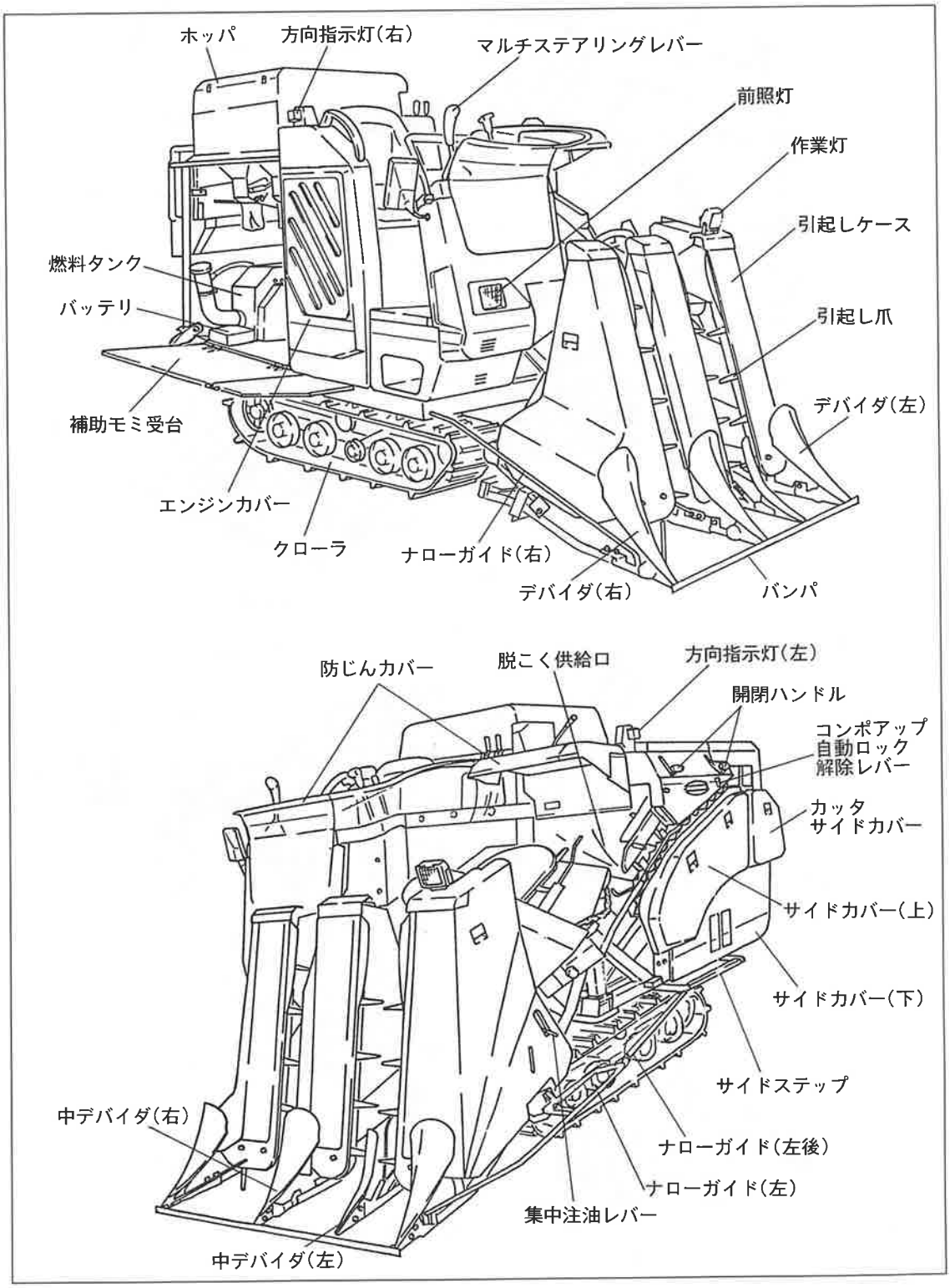
❸ 指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行は行えません。

❹ 任意保険のお勧め

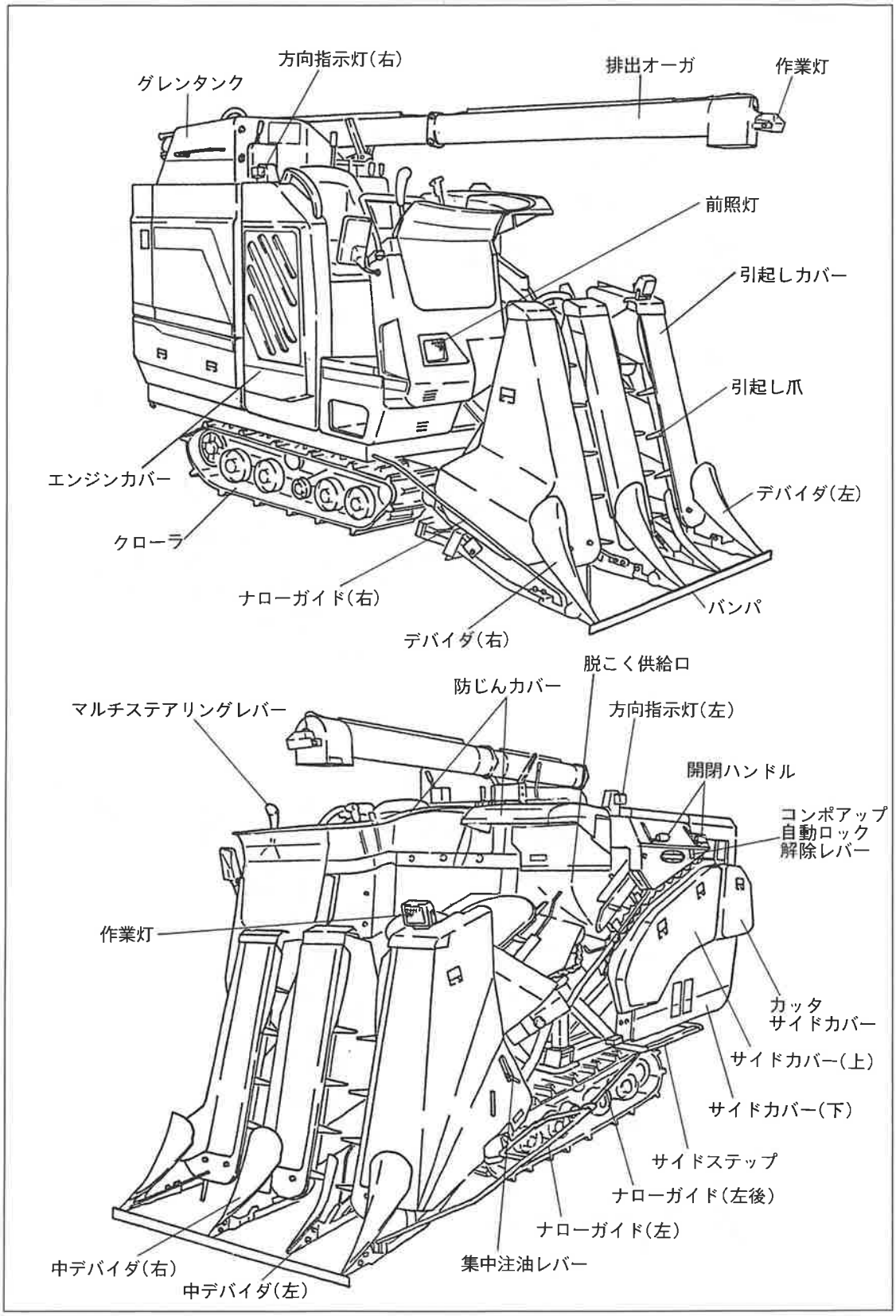
万一の交通事故にそなえ，任意保険に加入されるようお勧めします。

主な名称

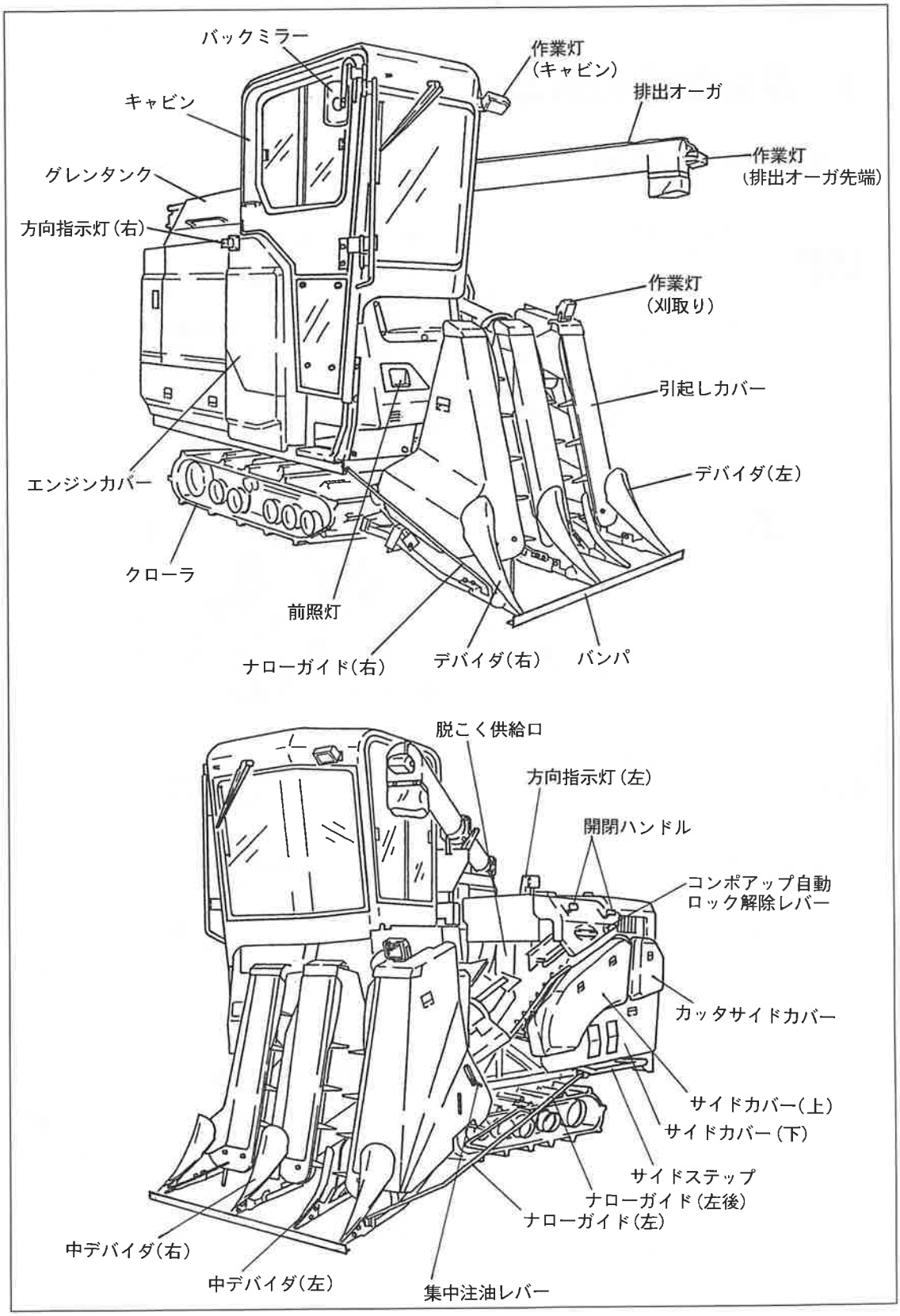
［ホッパ仕様］


ホッパ
方向指示灯(右)
マルチステアリングレバー
前照灯
作業灯
引起しケース
燃料タンク
バッテリ
引起し爪
デバイダ(左)
補助モミ受台
エンジンカバー
クローラ
ナローガイド(右)
デバイダ(右)
バンパ
防じんカバー
脱こく供給口
方向指示灯(左)
開閉ハンドル
コンポアップ
自動ロック
解除レバー
カッタ
サイドカバー
サイドカバー(上)
サイドカバー(下)
サイドステップ
中デバイダ(右)
ナローガイド(左後)
ナローガイド(左)
集中注油レバー
中デバイダ(左)

［グレンタンク仕様］


方向指示灯(右)
グレンタンク
排出オーガ
作業灯
前照灯
引起しカバー
引起し爪
エンジンカバー
デバイダ(左)
クローラ
ナローガイド(右)
バンパ
デバイダ(右)
脱こく供給口
防じんカバー
マルチステアリングレバー
方向指示灯(左)
開閉ハンドル
コンポアップ
自動ロック
解除レバー
作業灯
カッタ
サイドカバー
サイドカバー(上)
サイドカバー(下)
サイドステップ
ナローガイド(左後)
ナローガイド(左)
集中注油レバー
中デバイダ(右)
中デバイダ(左)

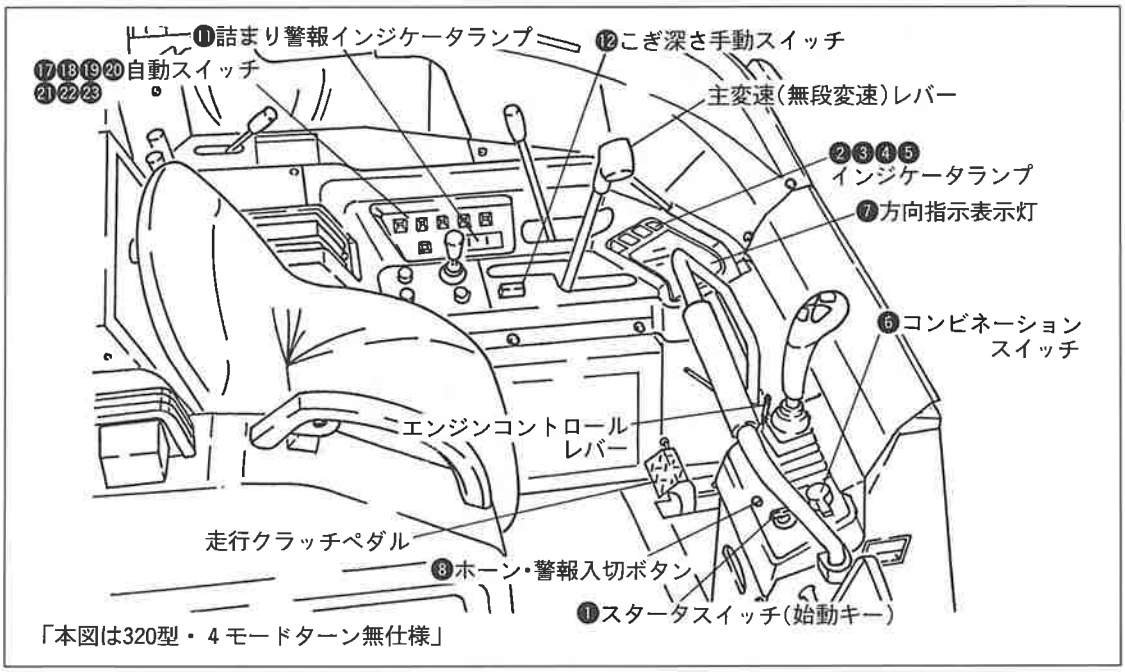
［キャビン仕様］


バックミラー
作業灯
(キャビン)
キャビン
排出オーガ
作業灯
(排出オーガ先端)
グレンタンク
方向指示灯(右)
作業灯
(刈取り)
引起しカバー
デバイダ(左)
エンジンカバー
クローラ
前照灯
ナローガイド(右)
デバイダ(右)
バンパ
脱こく供給口
方向指示灯(左)
開閉ハンドル
コンポアップ自動
ロック解除レバー
カッタサイドカバー
サイドカバー(上)
サイドカバー(下)
サイドステップ
ナローガイド(左後)
ナローガイド(左)
中デバイダ(右)
中デバイダ(左)
集中注油レバー

各部の取扱いかた

1 運転装置の取扱い

1 スイッチ・計器関係



「本図は320型・4モードターン無仕様」

❶ スタータスイッチ（始動キー）

《 切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを《 切》にするとエンジンが停止します。

《 入》（運転・予熱）……電源入（運転中）

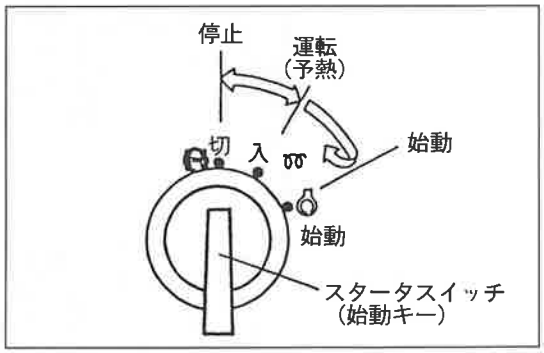
スタータスイッチを《 入》にするとメータ内の予熱インジケータランプが点灯し，エンジンを予熱します。

約3秒後に消灯して予熱が完了します。

《 始動》……エンジン始動

スタータスイッチを《 始動》位置に回すとエンジンが始動します。

手を放せば自動的に《 入 》位置に戻ります。



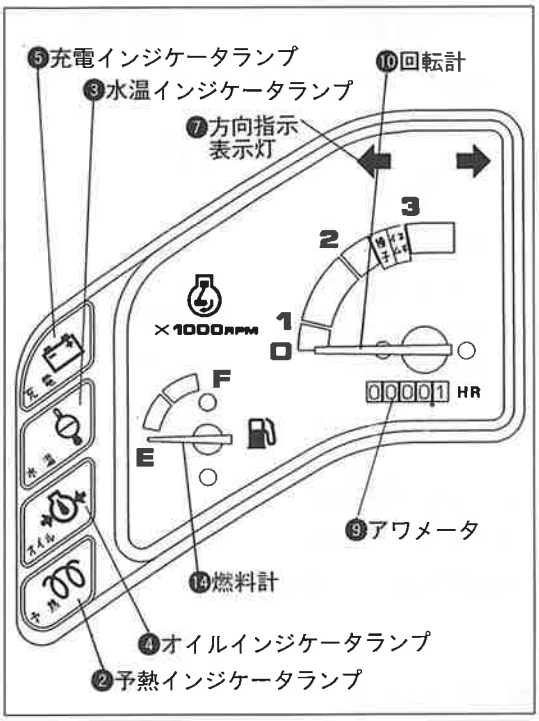
取扱いのポイント

- **主変速（無段変速）レバーを《N始動》（前進側N位置）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**

❷ 予熱インジケータランプ



スタータスイッチを《ꕥ 入》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約３秒後に消灯し予熱が完了します。



❸ 水温インジケータランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）すると，「点灯」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- 運転中にランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。
- 冷却水温度が下がり，ランプが消灯したら，エンジンを停止し，防じんフィルタ（90ページ参照）・エンジンファンベルトの張り（124ページ参照），および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。補助タンクの水量が給水レベル内にあるか確認してください。
- 各部の点検はエンジンが冷えてから行います。

❹ オイルインジケータランプ



エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「点灯」します。

正常なときはスタータスイッチを《ꕥ 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- 運転中に点灯したときは，直ちに停止しエンジンオイル量を点検してください。（29ページ参照）
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

❺ 充電インジケータランプ



エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《ꕥ 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。（124ページ参照）
- エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

❻ コンビネーションスイッチ

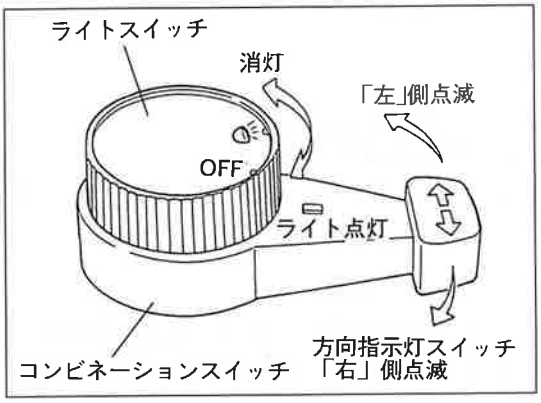
(1) ライトスイッチ

《ＯＦＦ》……消灯

《》……メータ類ランプの点灯及び，前照灯が点灯します。

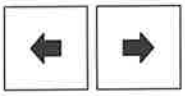
(2) 方向指示灯スイッチ

スイッチを前後へ操作すると左側又は右側の方向指示灯及び方向指示表示灯が点滅します。



取扱いのポイント

●作業灯の点灯は，ライトスイッチの位置に関係ありません。作業灯のスイッチで，点灯，消灯をしてください。



❼ 方向指示表示灯

方向指示灯スイッチに合わせ，方向指示表示灯が点滅します。



❽ ホーン・警報入切ボタン

・スタータスイッチを《 入 》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・モミ処理インジケータランプの点灯（タンク充満），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴りやみます。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。下記の方法で警報を解除してください。

警報機能	解除方法
・水温インジケータランプ点灯（オーバーヒート）	スタータスイッチ《STOP 切》
・ワラ処理インジケータランプ点灯（脱こく搬送詰まり，排ワラ詰まり，カッタ詰まり，ノッタひも切れ）	作業機クラッチレバー《切》
エンジン回転負荷モニタランプ点滅 [320型](13ページ参照)	走行速度を下げる

❾ アワメータ

エンジンの積算時間を示します。

積算時間により定期点検整備を行います。

❿ 回転計

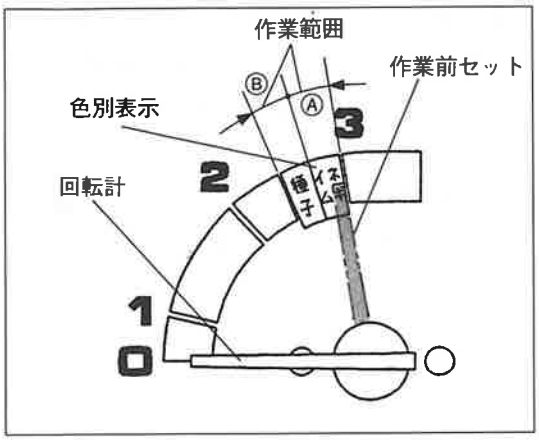
1分間のエンジン回転数を示します。

こぎ胴の回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦），種子等，刈取る作物によって変えます。

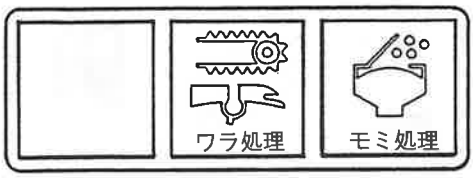
・こぎ胴回転数の調整はエンジンを始動し，作業機クラッチレバーを入れ，回転計を見ながら「色別表示」の上限まで徐々にエンジンコントロールレバーで調整します。

・刈取り作業中は回転計の針が常時「色別表示」の範囲内に位置するように主変速（無段変速）レバーで作業速度を調整して使用します。

・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……Ⓐの範囲
・種子の場合……Ⓑの範囲



⓫ 詰まり警報インジケータランプ



(1) モミ処理インジケータランプ

刈取り作業中，ホッパまたはグレンタンク内にこく粒が充満した状態を警報するランプで，満杯時に点灯し警報ブザーの断続音で知らせます。

そのまま作業を続けホッパまたはグレンタンク上側からオーバーフローすると，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **最初の警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，ホッパまたはグレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **最初の警報ブザーはパネルの警報入切ボタンを押すと鳴りやみます。**
- **エンジンが停止したら，作業機クラッチレバーを切り，エンジンを始動します。**

(2) ワラ処理インジケータランプ

・排ワラチェン終端部または脱こくフィードチェン終端部に詰まりが発生すると，インジケータランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。
・手扱ぎ作業などで，カッタ下部カバー内に切ワラがたまるとランプが点滅し，同時に警報ブザーが鳴りますので，ただちに作業を止めて作業クラッチレバーを《切》にし，コンバインを前進させ，エンジンを停止してから点検します。
・［ノッタ仕様機］でノッタ作業中，ひもが切れたときや，ひもがなくなったときにランプが**点滅**し，同時に警報ブザーが鳴ります。ただちに作業機クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから点検をします。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **作業機クラッチレバーを切ればエンジンの再始動ができます。**
- **ノッタのひも切れ警報については「ノッタ」の取扱説明書を参照してください。**

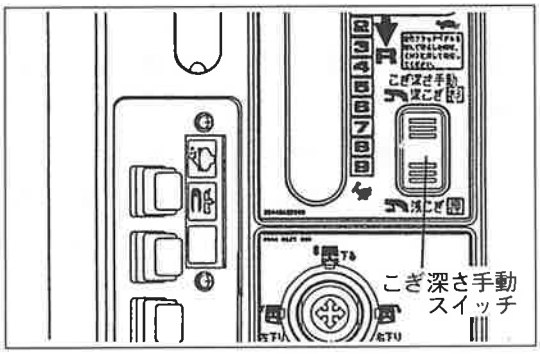
⑫ こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さにあわせて脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。

脱こく入口の「穂先マーク」位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。

《深こぎ》……《深こぎ》側を押すと作物の穂先が深い位置に移動します。

《浅こぎ》……《浅こぎ》側を押すと作物の穂先が浅い位置に移動します。

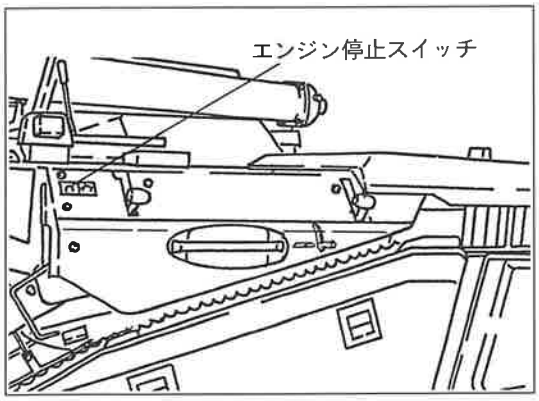


取扱いのポイント

- 脱こく能率を上げるためにはこぎ残りが発生しない範囲内で，できるだけ《浅こぎ》を心掛けてください。
- こぎ深さ自動制御は（67～68ページ）を参考にして操作・取扱いをしてください。

⑬ エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時等のトラブル時にこのスイッチを押すと，エンジンが停止します。

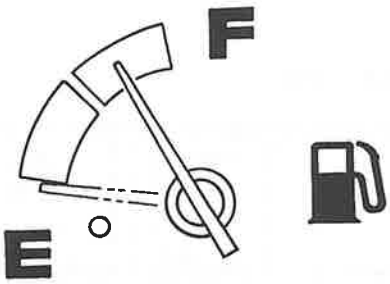


取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《STOP 切》位置にしてください。そのまま放置するとバッテリ上がりの原因になります。

⑭ 燃料計

スタータスイッチが《ON 入》位置のとき作動し，タンク内の燃料の量を示します。《F》は満量（約30ℓ），《E》（ラベル下限）は約５～６ℓを示します。



取扱いのポイント

- 燃料計が《E》近くになったら早めに燃料を補給してください。

⑮ エンジン回転負荷モニタ［320型］



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がるとモニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅したら，主変速（無段変速）レバーで走行速度を下げます。



取扱いのポイント

- エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。走行速度を下げてエンジンの負荷を軽くするとブザーは鳴りやみます。

⑯ 減速ターンスイッチ［320型・４モードターン仕様］

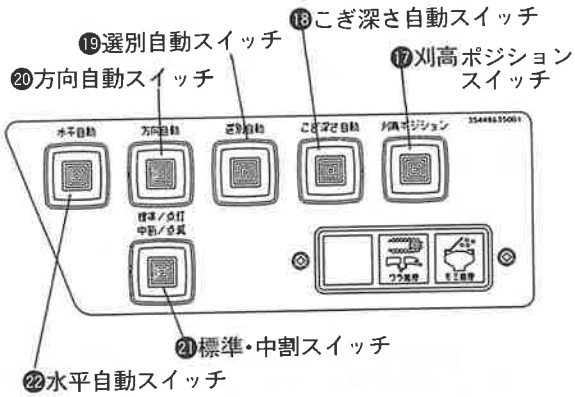
安全のポイント

- ◆減速ターンは通常の旋回より旋回半径が大きくなります。狭い所では減速ターンは使用しないでください。
- ◆減速ターンで１分半以上連続して旋回を続けると自動的に通常ターン（ブレーキターン）となり，急旋回しますので，１分半以上連続して使用しないでください。

減速ターンスイッチを《入》にするとランプが点灯し，マルチステアリングレバーを左または右にいっぱいに倒した状態で使用すると減速ターンが作動します。（17ページ参照）

⑰ 刈高ポジションスイッチ

スタータスイッチを《 入》位置にするとランプが点灯し，刈高ポジション自動が「入」になります。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し自動は働きません。



⑱ こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《 入》位置にするとランプが点灯し，こぎ深さ自動が「入」になります。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

⑲ 選別自動スイッチ

スタータスイッチを《 入》位置にするとランプが点灯し，選別自動が「ＯＮ」になります。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

⑳ 方向自動スイッチ［Ａ仕様］

方向自動を使用する時は，スイッチを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

㉑ 標準・中割スイッチ［A仕様］

方向自動スイッチ「ON」（ランプ点灯）で使用します。

- 《標準》（条刈り，横刈り作業）の時は，ランプ点灯で使用します。
- 《中割》（中割作業）の時は，ランプ点滅で使用します。

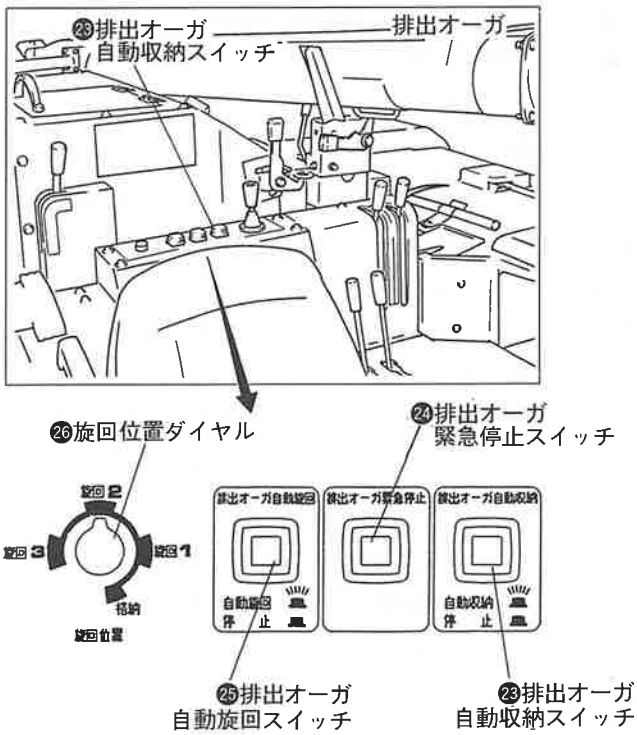
㉒ 水平自動スイッチ［水平制御仕様］

水平自動を使用する時は，スイッチを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

水平自動スイッチを「OFF」（ランプ消灯）にしたら，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

㉓ 排出オーガ自動収納スイッチ［グレンタンク仕様］

スイッチを「入」にすると排出位置から排出オーガを自動的に収納します。



㉔ 排出オーガ緊急停止スイッチ［グレンタンク仕様］

排出オーガ自動収納途中および自動旋回途中での排出オーガの停止に使用します。

㉕ 排出オーガ自動旋回スイッチ［320型A，D仕様］

スイッチを《入》にするとランプが点灯し，旋回位置ダイヤルのセット位置に排出オーガが自動的に旋回します。

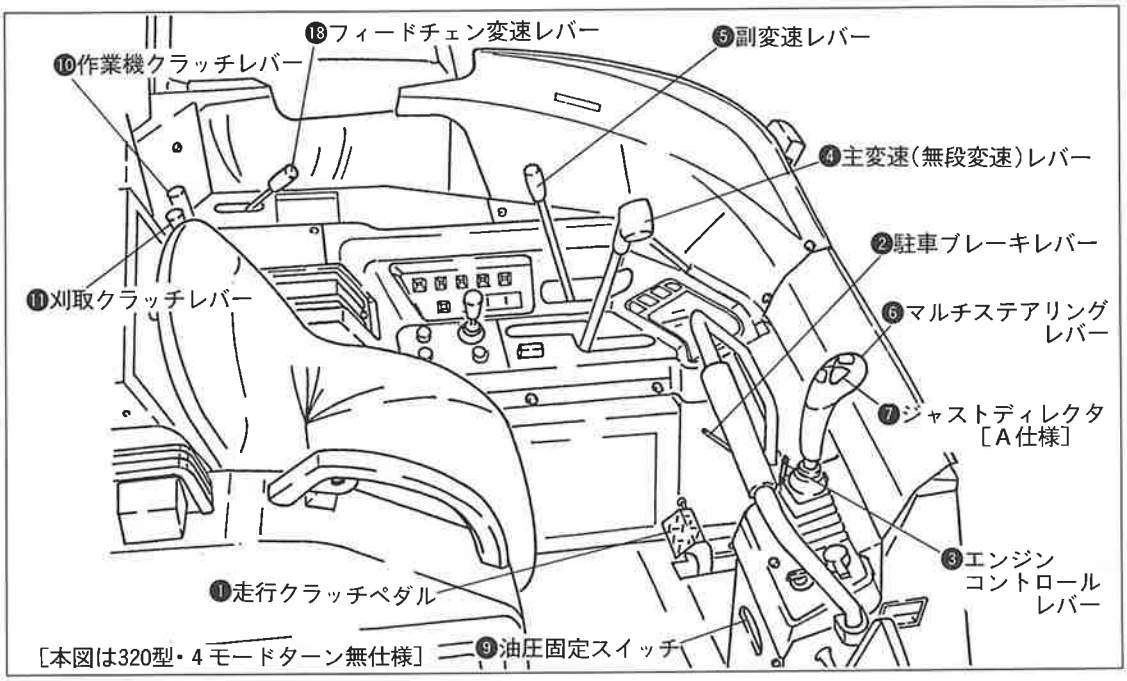
㉖ 旋回位置ダイヤル［320型A，D仕様］

排出オーガ自動旋回でセットされる排出オーガの位置を調整するダイヤルです。

取扱いのポイント

- ⑰～㉖の詳細は自動装置についての項（67～77ページ）を参照してください。

2 ペダル・レバー関係



❶ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

安全のポイント

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろし等アユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆走行クラッチペダルを踏んで停止した時は，主変速（無段変速）レバーを《N》に戻してください。戻さないで発進すると急発進することがあります。

走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）をいっぱい踏込むと，トランスミッションへの動力が切られ，ブレーキがかかる構造になっています。

つぎの操作を行うときには，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで行います。

・エンジンを始動するとき。

（主変速（無段変速）レバーを《N始動》（前進側N位置）にし，ペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。）

・副変速レバーを操作するとき。

取扱いのポイント

●主変速（無段変速）レバーは走行クラッチペダルを踏まなくても操作できますので，前・後進の際に，走行クラッチペダルを踏む必要はありません。

●走行クラッチペダルを半クラッチ状態で使用すると走行ベルトが焼損する恐れがあります。

❷ 駐車ブレーキレバー

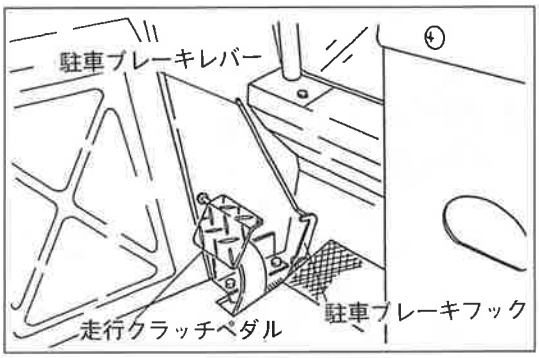
安全のポイント

◆坂道など傾斜のある所では駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をします。

◆駐車ブレーキは，自動車への積込み，積降ろし等アユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，ペダルに駐車ブレーキフックをかけます。

解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的に駐車ブレーキフックがはずれます。



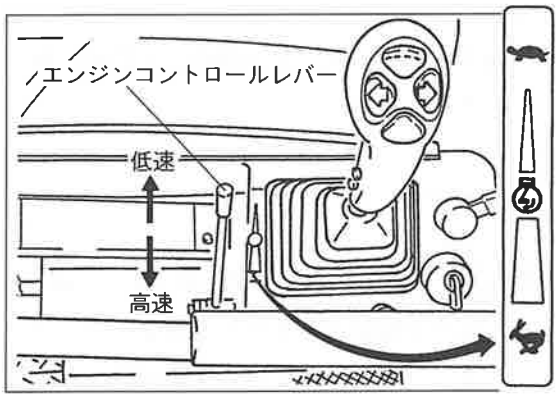
❸ エンジンコントロールレバー

エンジンを加速・減速するレバーです。

・「始動」のときは……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《🐇》（高速）の位置にしてエンジンを始動します。

・「作業」のときは……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。

・「停止」のときは……《🐢》（低速）の位置にしてエンジンを停止します。



❹ 主変速（無段変速）レバー

安全のポイント

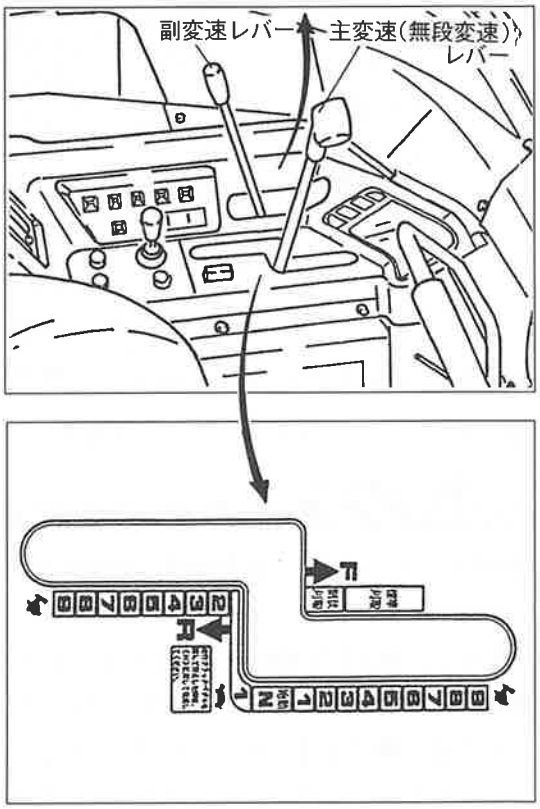
◆高速走行時には，急激な前後進のレバー操作はしないでください。

◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進（F）・後進（R）いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

ラベルの数字が大きくなると速度が速くなります。





作業内容	副変速	主変速（無段変速）
標準刈取り	標準	210型 240型 F 3～6
		270型 320型 F 3～7
高速刈取り		320型 F 8～9
路上走行	標準，走行	F 1～9 R 1～9
倒伏材刈取り	倒伏	F 1～3
自動車への積み・降ろし，あぜ越え		F 1 R 1

❺ 副変速レバー

［4モードターン無仕様］

作業目的や刈取り条件により《倒伏》（低速），《標準》（中速），《走行》（高速）の3段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速（無段変速）レバーを《N》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。
・倒伏材の刈取り作業や自動車への積み・降ろし，ほ場への出入りは《倒伏》（低速）位置で行います。
・刈取り作業は《倒伏》（低速）または《標準》（中速）位置で行います。
「走行」位置での刈取り作業はできません。
・見通しが良く平坦な道路では《走行》（高速）位置で走行します。せまい道路や凹凸のある道路は《倒伏，標準》で走行します。

（作業内容に適した副変速レバーの使い方は50ページ参照）

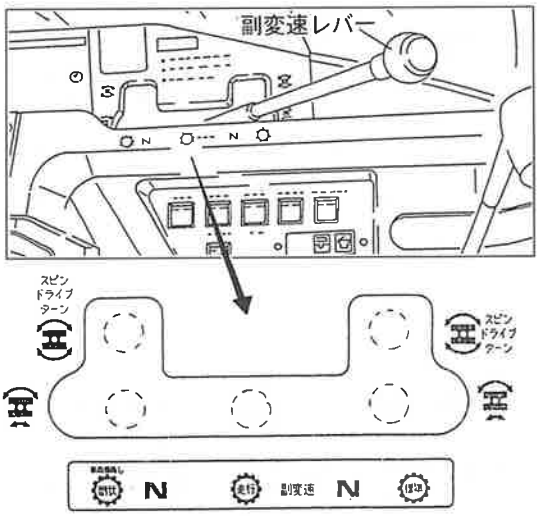
［4モードターン仕様］

安全のポイント

◆スピンドライブターンの「入，切」は，ゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。確実に切替わっていないと，マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。

作業目的や刈取り条件により《倒伏》（低速），《標準》（中速），《走行》（高速）の3段に変速ができます。

・通常の副変速としての使い方は［4モードターン無仕様］と同じ要領で行います。
・「スピンドライブターン」とは，左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。
《スピンドライブターン》の「入，切」は，《倒伏》（低速）位置または《標準》（中速）位置で，走行クラッチペダルを踏まずにゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えます。《走行》（高速）位置では入りません。
スピンドライブターンはマルチステアリングレバーを左又は右にいっぱいに倒して旋回します。
・「減速ターン」とは，片側のクローラが減速しながら左右のクローラが同方向に回転し旋回します。湿田やほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。
《減速ターン》は，減速ターンスイッチを《入》にして使用します。（13ページ参照）減速ターンはマルチステアリングレバーを左または右にいっぱいに倒して旋回します。



取扱いのポイント

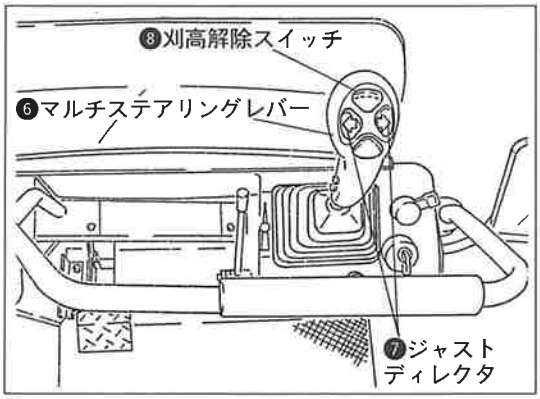
●ほ場条件により「スピンドライブターン」で旋回できない場合は，副変速を《倒伏》位置で使用してください。
●スピンドライブターンを使用するときは，減速ターンスイッチを《切》にして行なってください。
●副変速を《走行》で，主変速（無段変速）を低速にすると旋回しにくい場合があります。そのときは副変速を《標準》にしてください。

❻ マルチステアリングレバー

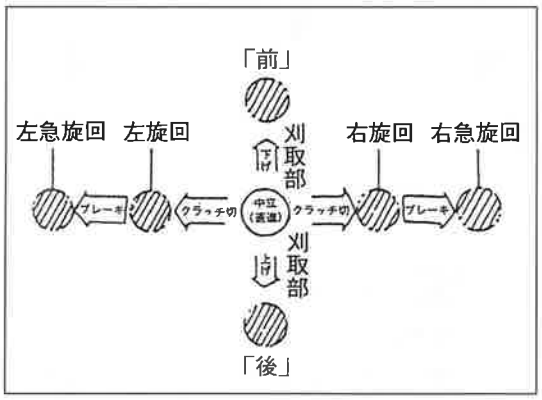
安全のポイント

◆高速走行中の旋回はしないでください。旋回する時は主変速(無段変速)レバーで速度を落として行なってください。

◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換したりして転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「旋回」，前後操作で刈取部の「上げ」「下げ」ができます。



［４モードターン無仕様］

・左右に軽く倒すと機械は徐々に旋回し，強く倒すと急旋回します。

［４モードターン仕様］

・《スピンドライブターン》及び《減速ターン》に切替えて旋回する時は，マルチステアリングレバーを左または右にいっぱい倒して行います。

取扱いのポイント

●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❼ ジャストディレクタ

［A仕様］

・マルチステアリングレバーに内装されています。

・ジャストディレクタスイッチの《左》を押すと左方向に，《右》を押すと右方向に機械の進行方向を修正します。

・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

取扱いのポイント

●ジャストディレクタとマルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。

●ジャストディレクタは旋回力が小さいので旋回には使用しないでください。

❽ 刈高解除スイッチ

刈高解除スイッチを押しながら，マルチステアリングレバーを《下げ》にすると刈取部は刈高さポジションコントロール位置に関係なく通常のマルチステアリングレバー操作の「下げ」となります。

取扱いのポイント

●レバーの刈高解除スイッチの操作については，「刈高さポジションコントロール」(70～72ページ)を参考に取扱いをしてください。

❾ 油圧固定スイッチ

安全のポイント

◆刈取部を上げて，その下で整備等するときは，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚等をおいて作業してください。

◆油圧固定スイッチを《下る》の位置にすると，マルチステアリングレバーの操作に関係なく，刈取部は下がります。通常はスイッチを《下る》の位置にしないでください。

◆油圧固定スイッチを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

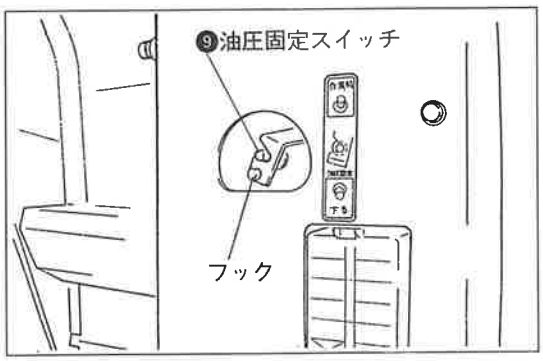
刈取部の「上げ」・「下げ」を固定します。

・《油圧固定》位置にするとマルチステアリングレバーを操作しても作動しません。油圧固定位置では，フックをかけて使用します。

路上を走行するときは，《油圧固定》位置で行います。

・作業時には，油圧固定スイッチを《作業時》の位置で使用します。

・刈取部全体を取外すときには油圧固定スイッチを《下る》の位置で使用します。



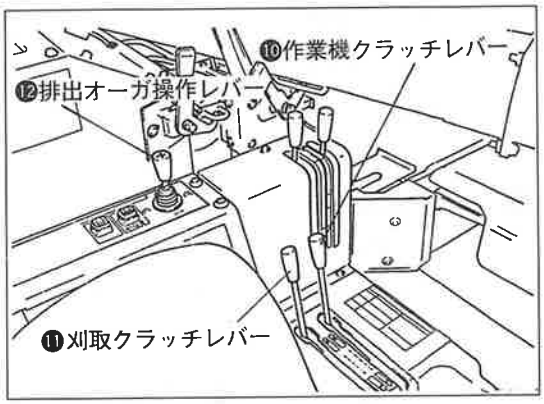
❿ 作業機クラッチレバー

安全のポイント

◆作業機クラッチレバーを《入》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

◆作業機クラッチレバー《入》の状態ではエンジンを始動しないでください。

脱こく部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。



取扱いのポイント

● 刈取り作業を行う時は，作業機クラッチレバーは，回転計のそれぞれの「色別表示」以下では《入》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。

⓫ 刈取クラッチレバー

刈取部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。

刈取クラッチレバーを《入》にすると，作業機クラッチレバーも連動して《入》となります。また，作業機クラッチレバーを《切》ると，刈取クラッチレバーも連動して《切》となります。

⓬ 排出オーガ操作レバー

［グレンタンク仕様］

安全のポイント

◆排出オーガを上げたままでの移動および刈取り作業はしないでください。上げたままで走行すると，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

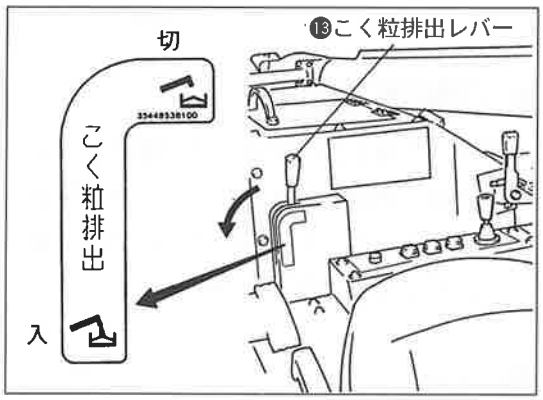
排出オーガを《上げ》,《下げ》および《左》旋回,《右》旋回させるレバーです。

・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを《上げ》てから行います。

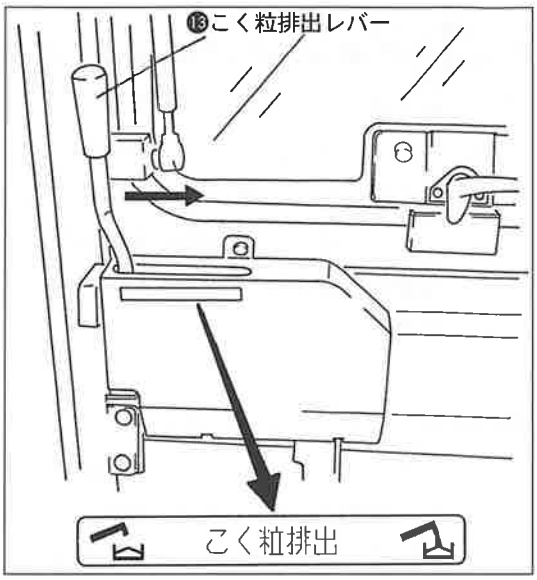
⓭ こく粒排出レバー

［グレンタンク・キャビン仕様］

グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。



［キャビン仕様］



取扱いのポイント

●こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。回転が低いと詰まりの原因となります。

⓮ モミ排出シャッタレバー

［ホッパ仕様］

安全のポイント

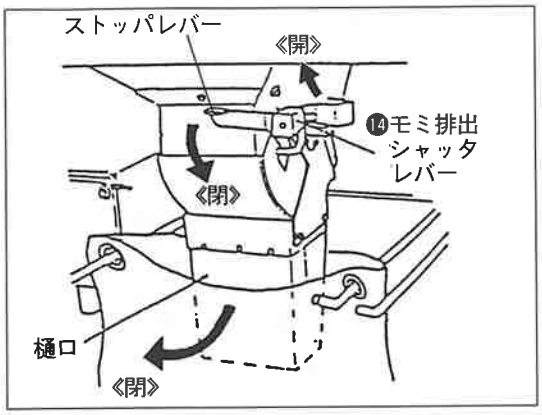
◆シャッタが《開》のときは，樋口の中に手を入れないでください。

◆ストッパレバーを操作するときはシャッタレバーで手をたたかれないようにしてください。

ホッパ内のこく粒を排出するレバーです。

・こく粒をモミ袋に排出する時は，樋口を下げ，モミ排出シャッタレバーを引きあげます。

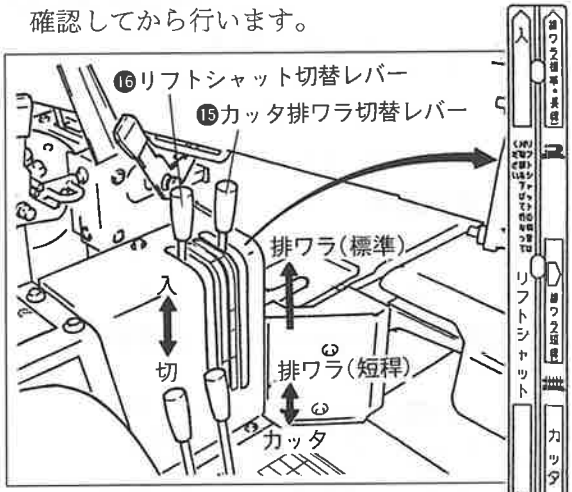
・《閉》にするときはストッパレバーを下げるか，または樋口を手前に引きあげます。



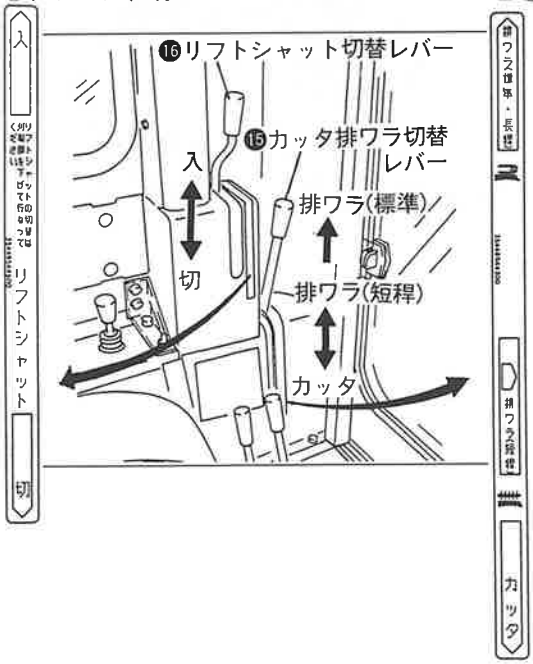
⑮ カッタ排ワラ切替レバー

カッタ作業又は排ワラ作業の切替えをするレバーです。

・切替え操作は作物が搬送途中にないことを確認してから行います。



［キャビン仕様］



《カッタ》……

ワラをカッタで切断します。

《排ワラ（短稈）》……ワラが短いとき，ノッタで穂先側を結束したいとき，ドロッパ作業で排ワラがドロッパ装置の穂先側に片よりバランスがとれないときに使用します。

《排ワラ（標準・長稈）》……ドロッパ作業，ノッタ作業，ワラをそのまま排出する作業。通常はこの位置で使用します。

⑯ リフトシャット切替レバー

刈取部を上げると刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。切替レバーを上下方向に操作し，リフトシャットの《入》《切》の切替えを行います。

取扱いのポイント

- **リフトシャットの切替え操作は刈取部をいっぱい下げて行なってください。上げた状態で切替えると故障の原因になります。**
- **あぜぎわや枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。**
- **刈取り作業をする前にリフトシャットの作動を確認してから作業を始めてください。**

⑰ 傾斜手動レバー［水平制御仕様］

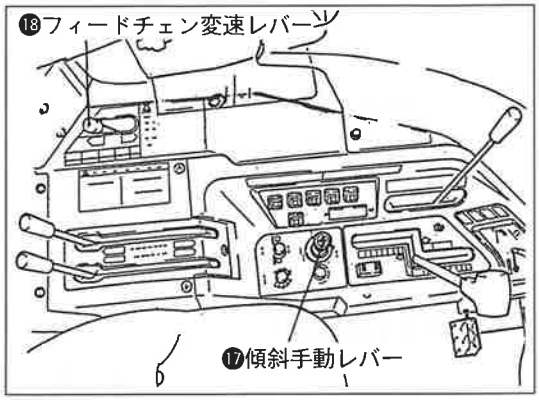
機体の「上げ」「下げ」「右下げ」「左下げ」をします。

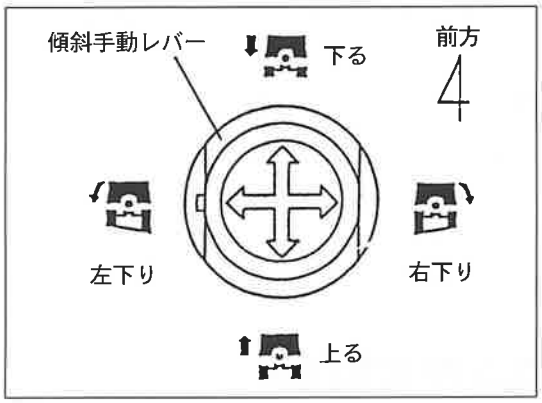
・レバーを《上る》の方向に倒すと，機体が上がります。

・レバーを《下る》の方向に倒すと，機体が下がります。

・レバーを《右下り》の方向に倒すと，まず右側が下がり，次に左側が上がります。

・レバーを《左下り》の方向に倒すと，まず左側が下がり，次に右側が上がります。





取扱いのポイント

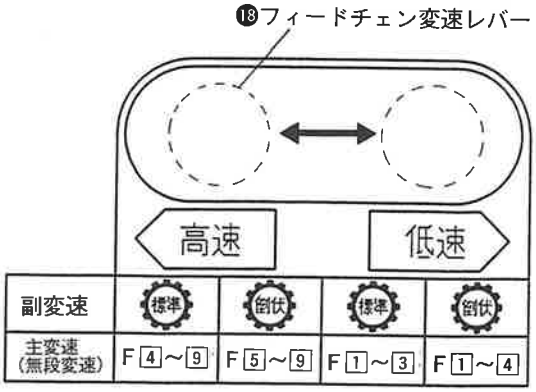
●刈取り作業時以外では傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げて使用してください。

⑱ 脱こくフィードチェン変速レバー

［320型］

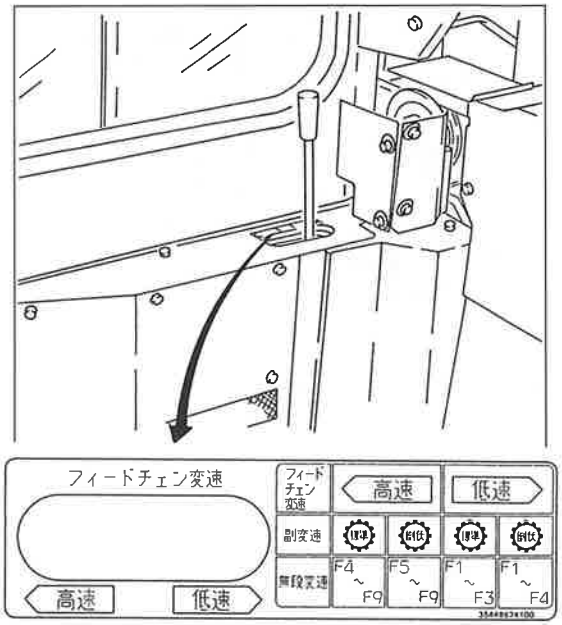
作物条件や刈取りスピードにより脱こくフィードチェンの速度を切替えます。

・切替えは，作業機クラッチレバーを《切》って行います。



［キャビン仕様］

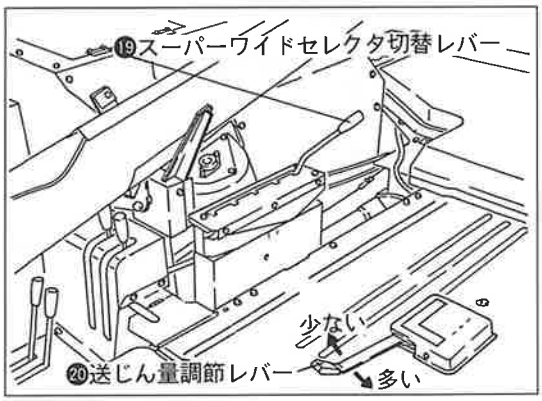
・キャビンの外側（左）にあります。



⑲ スーパーワイドセレクタ切替レバー（選別調節）

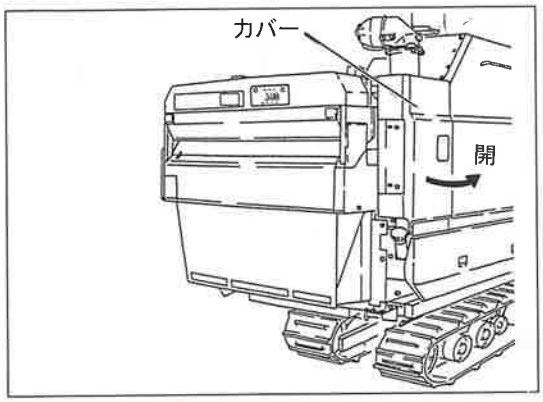
作物の種類や刈取り条件により揺動流板のセット位置を切替えるレバーです。

（調節のしかたは48～49ページ参照）

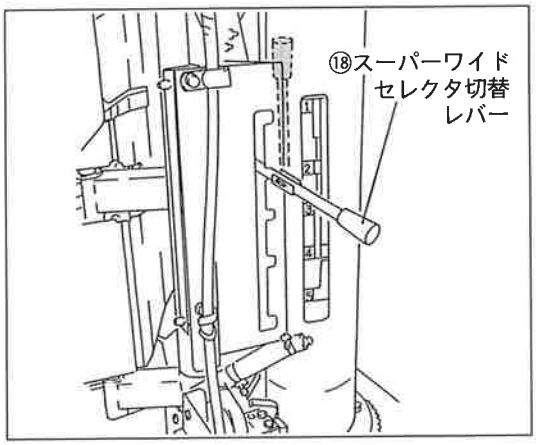


［キャビン仕様］

右側後方のカバーを開けるとスーパーワイドセレクタ切替レバーがあります。



レバーは折タタミ格納式です。

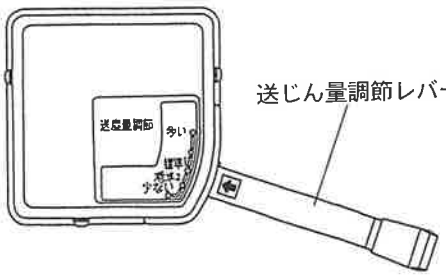


⑳ 送じん量調節レバー

こぎ室内の送じん量を調節します。

標準の位置で作業を始め，作業の状態に合わせて調節します。

- こぎ室内でゴトゴト音がして送じんがスムーズでないときは，レバーを《多い》側で使用します。（倒伏時等）
- モミに枝梗付着が多いときは，《少ない》側で使用します。



2 電装関係の取扱い

1 ヒューズ・ヒュージブルリンク

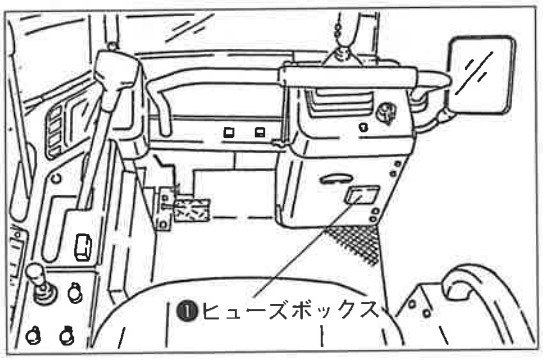
安全のポイント

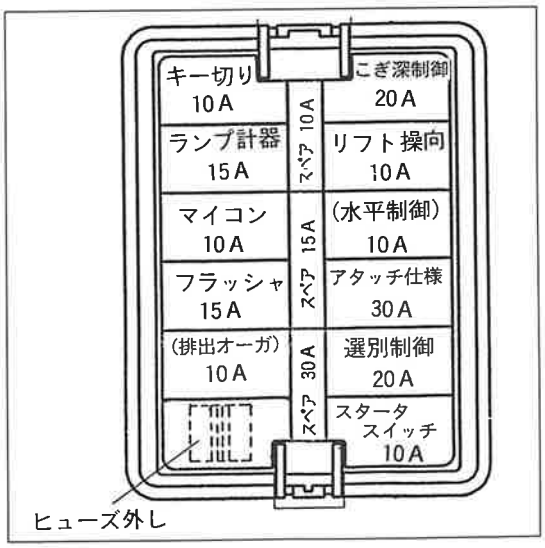
◆取付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると配線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズ及びヒュージブルリンクが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズ及びヒュージブルリンクの状態をチェックします。

❶ ヒューズボックス



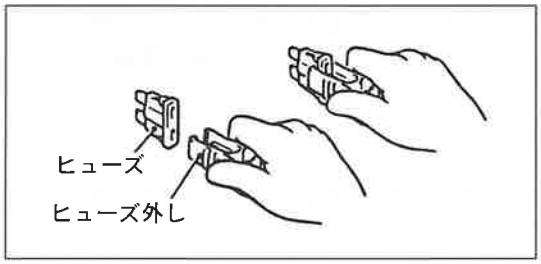


・ヒューズの交換

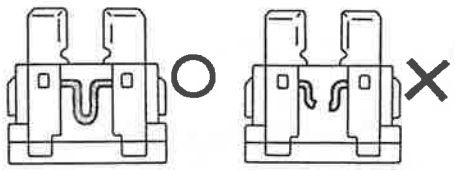
各ヒューズが受け持っている装置が作動しないときは次のように処置してください。

(1) スタータスイッチを《STOP 切》にします。

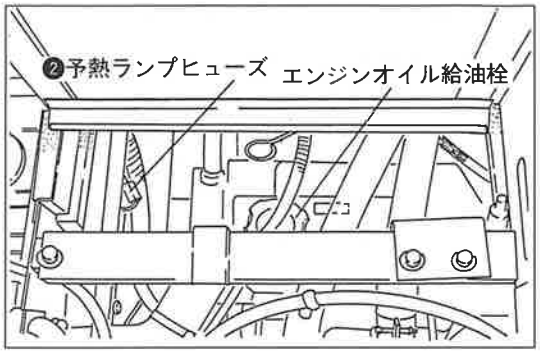
(2) ヒューズ外しを使ってヒューズを引き抜きます。(ヒューズ外しはヒューズボックスの中に入っています。)



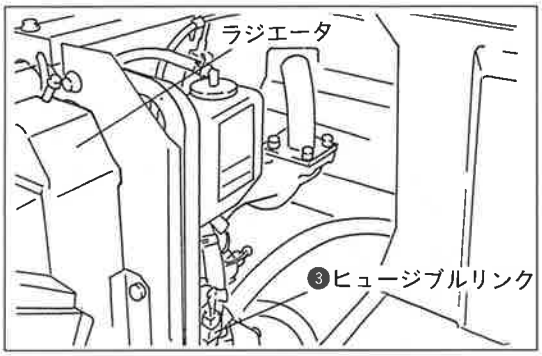
(3) ヒューズが下図の右側(×印)のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換してください。



❷ 予熱ランプヒューズ(10A)



❸ ヒュージブルリンク

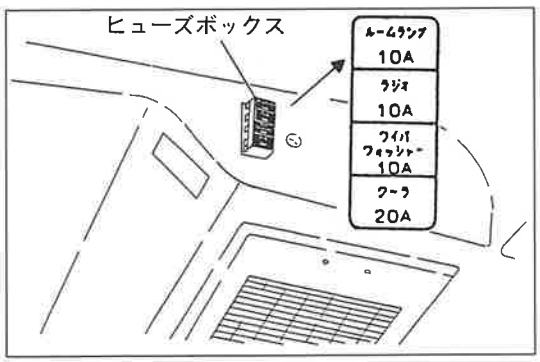


・ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

ヒューズの種類 ＼ 影響の出る機能	エンジン始動	計器類のモニタランプ	前照灯・作業灯	ホーン	バックブザー	燃料の供給	マルチステアリングレバー	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	選別自動制御	水平自動制御(OP)	こぎ深さ自動制御	方向自動制御(OP)	刈高ポジションコントロール	方向指示灯	こぎ深さ手動操作	傾斜手動操作(OP)	結束位置自動モータ(OP)	エンジン自動停止	エンジン停止スイッチ	ジャストディレクタ(OP)	エンジン回転負荷モニタ(OP)	減速ターン(OP)
キー切り	×																						
ランプ・計器		×	×	×	×	×																×	
マイコン				×	×		×	×	×	×	×	×	×	×			×		×	×	×	×	×
フラッシャ															×								
（排出オーガ）									×														
こぎ深さ制御												×				×							
リフト・操向							×		×		×		×	×			×				×		×
（水平制御）											×						×						
アタッチ仕様																		×					
選別制御										×													
スタータスイッチ	×																						
予熱ランプ		×																					
ヒュージブルリンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

（OP……オプション）

［キャビン仕様］



取扱いのポイント

●取りかえてもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

上手な運転のしかた

1 運転まえの点検と準備

安全のポイント

◆点検や給油・給水・注油するときには，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。

◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は燃料補給をしないでください。

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。

◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

1 運転まえの点検

・点検は「**定期点検整備表**」（81～84ページ）を参考に作業前に欠かさず行なってください。

・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けてください。

点検個所			処置
運転まえに	エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・レベルゲージの上下限線の間に油量があれば良い。	・油面がレベルゲージの上下限線間になるまで補給する。（29，85ページ参照）
	冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量あるか。（給水レベルの上限と下限の間にあること）	・不足していれば清水を補助タンクに適量補給する。（29，86～87ページ参照）
	後部反射器	・汚れはないか。 ・確実に取付けてあるか。	・掃除する。 ・締付けなどの処置をする。
	エンジンカバー及び金網ラジエータフィンオイルクーラフィン	・網の目詰まりはないか。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはないか。	・ブラシなどで，掃除してください。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，圧縮空気で掃除してください。（90～91ページ参照）
	チェーン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はないか。	・正常に調整する。
	サイドカバー(上)(下)マフラ回り	・ワラくずがたまっていないか。	・掃除する。
スタータスイッチをONにして	燃料計	・作業に必要な燃料があるか。	・ディーゼル軽油を補給する。（29ページ参照）
	ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ処置する。（23～25ページ参照）
	方向指示灯等の保安部品	・正常に作動するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。（23～25ページ参照）
	バックブザー	・主変速（無段変速）レバーを「後進(R)」位置にした時，バックブザーが鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。（23～25ページ参照）

点検個所			処置
エンジンを始動して	インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯するか。	・エンジンオイルを補給する。・充電する。 ・異常個所を調べ，処置する。 （9，29，93～96ページ参照）
	回転計	・正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。 （10，11ページ参照）
	マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回，刈取部が上下するか。	・異常個所を調べ，処置する。 （18，118ページ参照）
	走行クラッチペダル	・ゆっくり走行してペダル操作した時に正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。 （15，119ページ参照）

2 給油・給脂・給水個所

・工場から出荷のときは，各給油・給脂個所ともオイル・グリスは入っていますが，使用する前に点検をします。

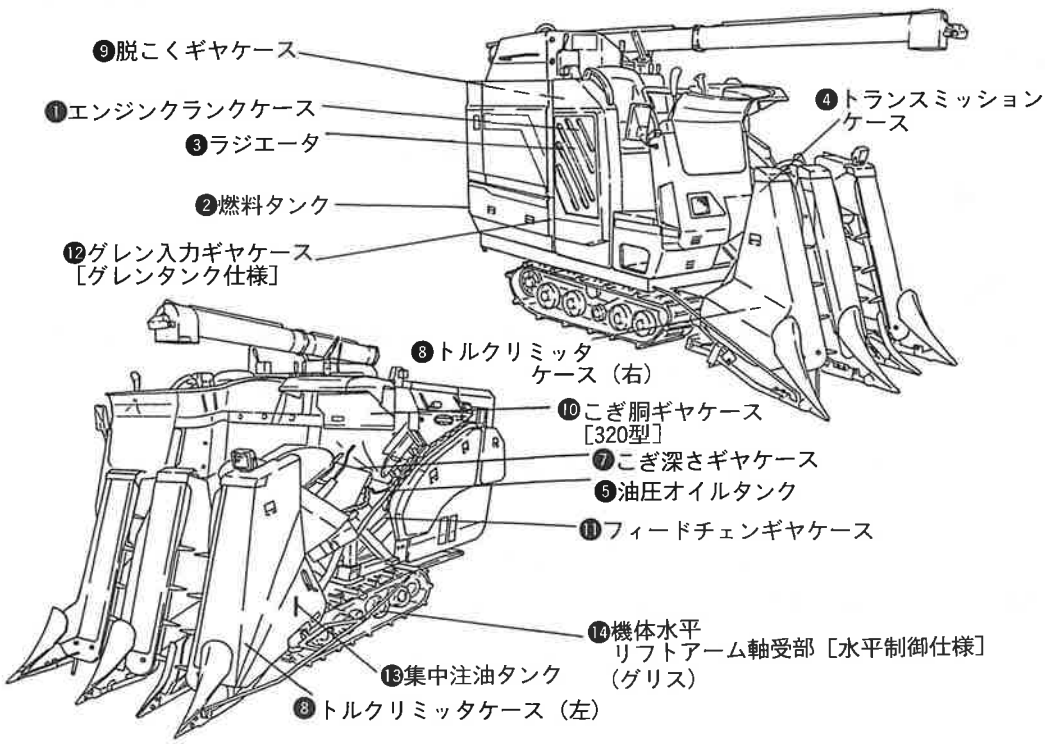
安全のポイント

◆エンジン停止直後のエンジンオイル交換はエンジンやオイルが熱くヤケドする恐れがありますので冷えてから行なってください。

◆エンジンオイル等の油脂類及び不凍液を交換して廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。

取扱いのポイント

●各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。



「給油・給脂・給水表」

No.	個所	種類	分類 APIサービス分類	分類 SAE粘度番号	容量(ℓ)	備考
❶	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CD級以上	10W−30	3.7	
❷	燃料タンク	ディーゼル軽油	−	−	30	JIS2号（−7.5℃まで） JIS3号（−20℃まで）
❸	ラジエータ（補助タンク0.5ℓ含む）	冷却水（不凍液40〜45%含む）	−	−	6.3	[210・240型]
					7.1	[270型]
					7.4	[320型]
❹	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL−5	90	6.7	[4モードターン仕様] 以外
					14.2	[4モードターン仕様]
❺	油圧オイルタンク	油圧作動油			18.8	
❻	ウォッシャタンク	ウインドウォッシャ液			1.0	・ウォッシャ液0.35ℓ，水0.65ℓ[キャビン仕様]
❼	こぎ深さギヤケース	ギヤオイル	GL−4	140	1.1	
❽	トルクリミッタケース右,左（刈取部）	ギヤオイル	GL−4	140	3.3	右1.6ℓ，左1.7ℓ
❾	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL−5	90	0.55	
❿	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL−5	90	0.65	[320型]
⓫	フィードチェンギヤケース	ギヤオイル	GL−5	90	0.8	
⓬	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL−4	140	0.5	[グレンタンク仕様]
⓭	集中注油タンク	エンジンオイル			1.5	
⓮	機体水平リフトアーム軸受部	リチウムグリス				[水平制御仕様]

指定オイル

・ディーゼルエンジンオイル…… 純正油 または，ディーゼルエンジン用オイルAPI・CD級以上，SAE・10W−30

・油圧作動油…… マルチSTOUオイル

取扱いのポイント

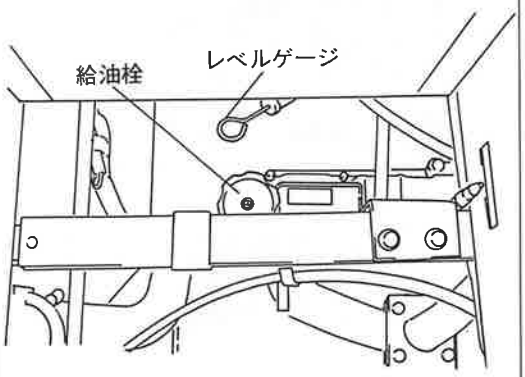
●容量は燃料タンク・集中注油タンクを除き，そのほかの個所は工場出荷時の容量です。
交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により容量を確認してください。
但し，レベルゲージまたは検油栓のない個所は全量交換してください。排油栓のない個所は補充してください。

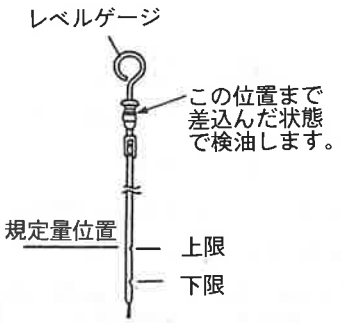
●トランスミッションケースには，ギヤオイルAPI・GL−5，SAE・90を使用してください。

●使用オイルの詳細は潤滑油の項（168〜169ページ）を参照してください。

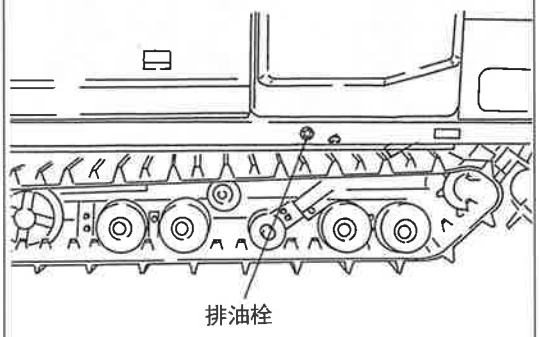
❶ エンジンクランクケース

- ディーゼルエンジン用オイル
  API・CD級以上，SAE・10W－30
- オイル量……3.7ℓ
  レベルゲージの上側の刻み線まで給油します。



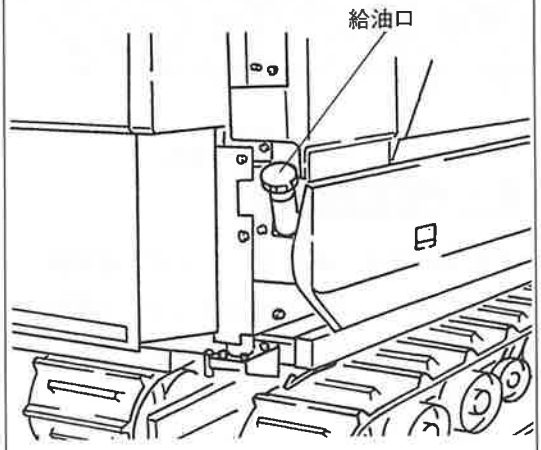


「機体右側」



❷ 燃料タンク

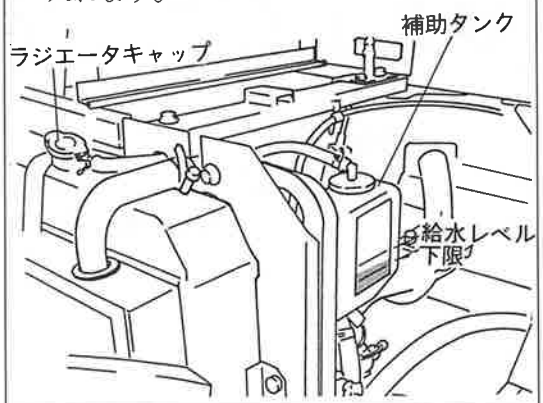
- 燃料…ディーゼル軽油
  JIS 2 号（－7.5℃まで）
  JIS 3 号（－20℃まで）
- タンク容量…30ℓ

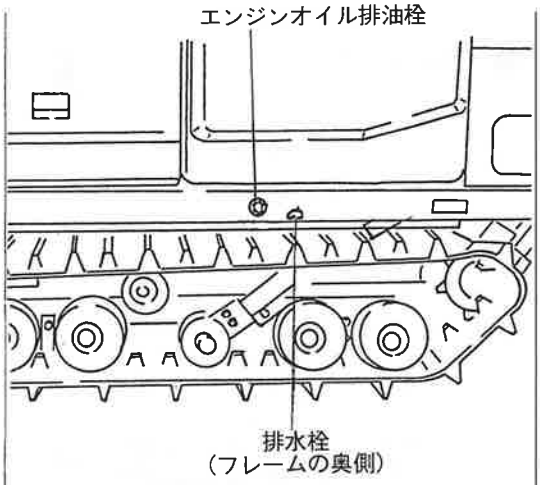


- 燃料の供給は，給油口のフィルタを通し，ゴミや水が混入しないようにします。

❸ ラジエータ（補助タンク含む）

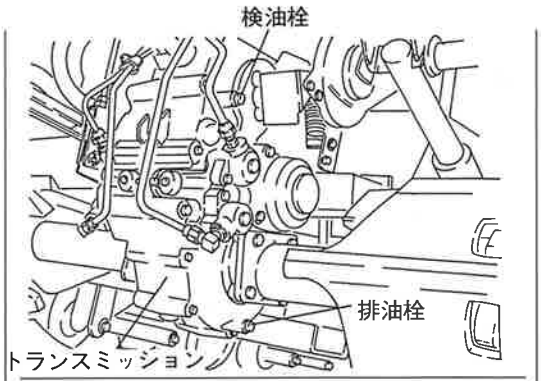
- ラジエータキャップを外し，冷却水を口元まで注入します。
  水量……6.3ℓ［210・240型］
  7.1ℓ［270型］
  7.4ℓ［320型］
  （補助タンク0.5ℓ含む）
- 補助タンクへの給水……ラベルの**「給水レベルの上限と下限の間」**にあるように入れます。



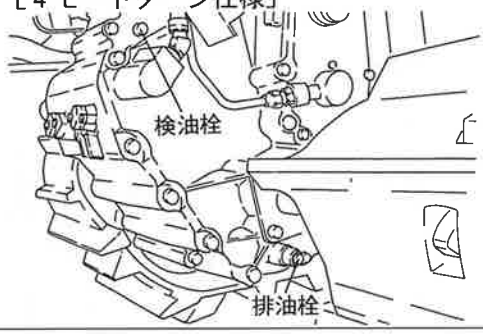


取扱いのポイント

- 日常点検は，補助タンクで行い運転前に《下限》以上あれば正常です。（運転中や停止直後には「給水レベル」以上になります。）

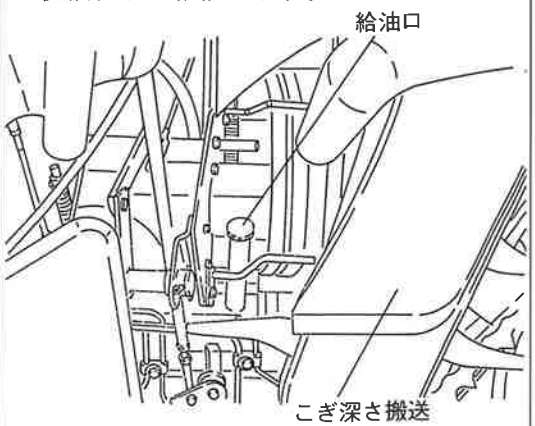


［4モードターン仕様］



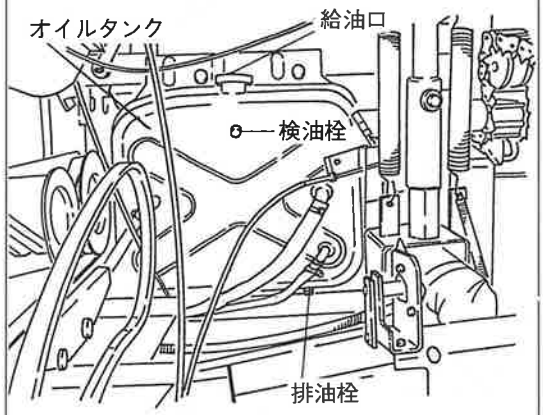
❹ トランスミッションケース

- ギヤオイル……API・GL−5級
  SAE・90
  （マルチSTOUオイル使用不可）
- オイル量……6.7ℓ［4モードターン仕様］
  以外
  14.2ℓ［4モードターン仕様］
- 検油栓まで給油します。



❺ 油圧オイルタンク

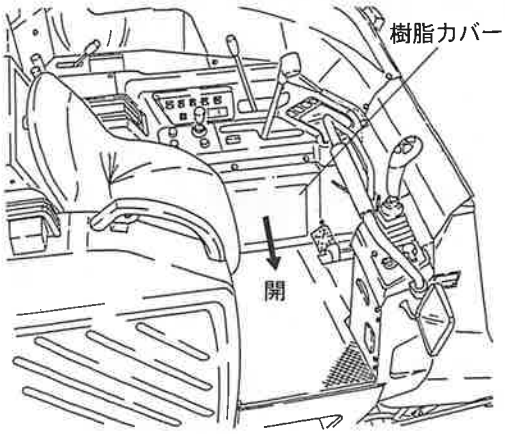
- 油圧作動油…（純正油）
  または指定オイル
- オイル量……18.8ℓ
- 10分エンジン運転後，補充分含む
- 検油栓まで給油します

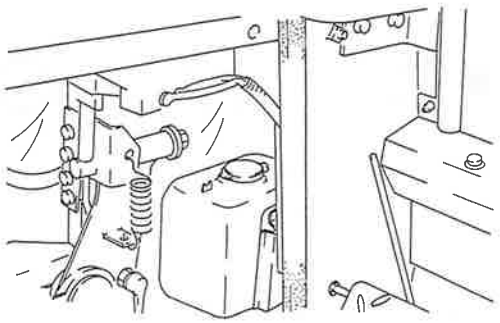


「脱こく供給口の下側」

❻ ウォッシャタンク［キャビン仕様］

・運転席下の左側の樹脂カバー（ノブ２ケ）を開けるとタンクがあります。
・ウォッシャ液がなくなったら補充します。
・液量……1.0ℓ（ウォッシャ液 0.35ℓ／水 0.65ℓ）



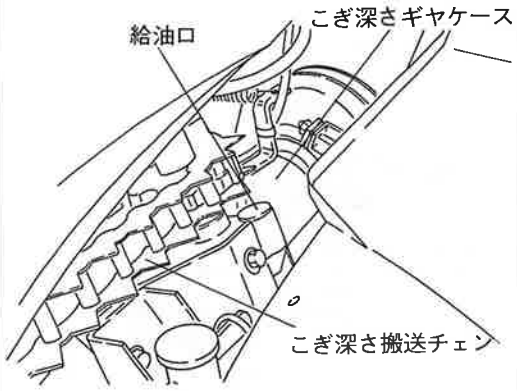


取扱いのポイント

●シーズン終了時は，タンク内の液を空にし，パイプ内の液もぬいて格納してください。
●ウォッシャ液は市販のウォッシャ液を使用してください。

❼ こぎ深さギヤケース

・ギヤオイル…API・GL－４級，SAE・140
・オイル量……1.1ℓ

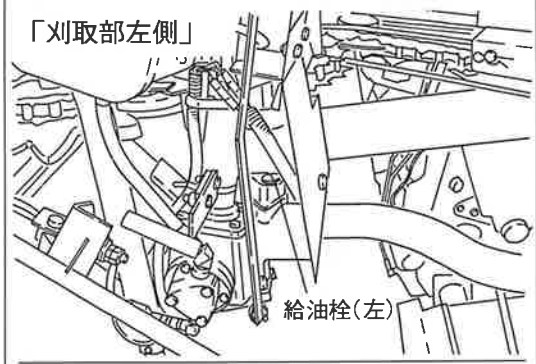


「脱こく供給口」

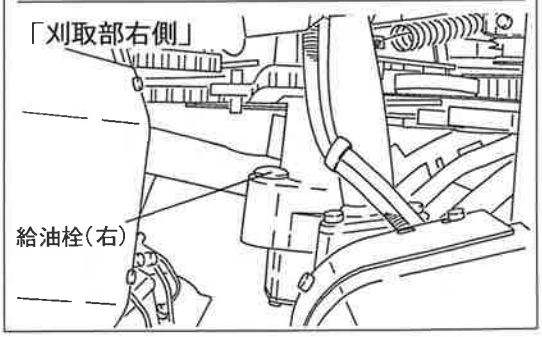
❽ トルクリミッタケース右・左（刈取部）

・ギヤオイル…API・GL－４級，SAE・140
・オイル量……右1.6ℓ・左1.7ℓ

「刈取部左側」

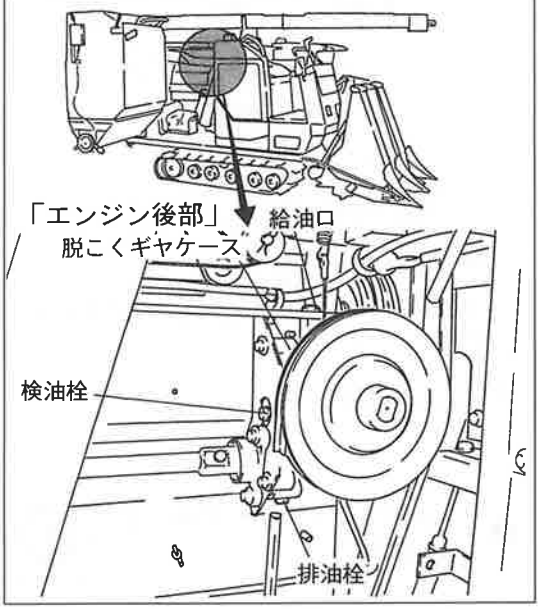


「刈取部右側」



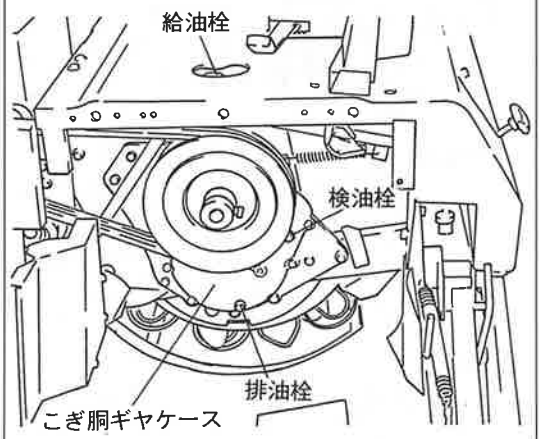
❾ 脱こくギヤケース

- ギヤオイル…API・GL－5級,
  SAE・90
- オイル量……0.55ℓ
- 検油栓まで給油します



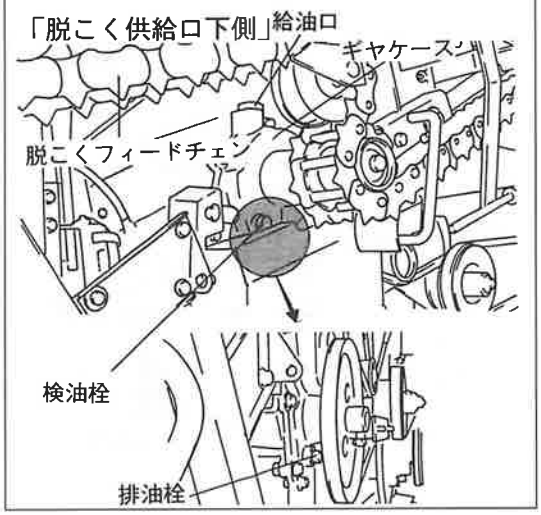
❿ こぎ胴ギヤケース［320型］

- ギヤオイル…API・GL－5級,
  SAE・90
- オイル量……0.65ℓ
- 検油栓まで給油します



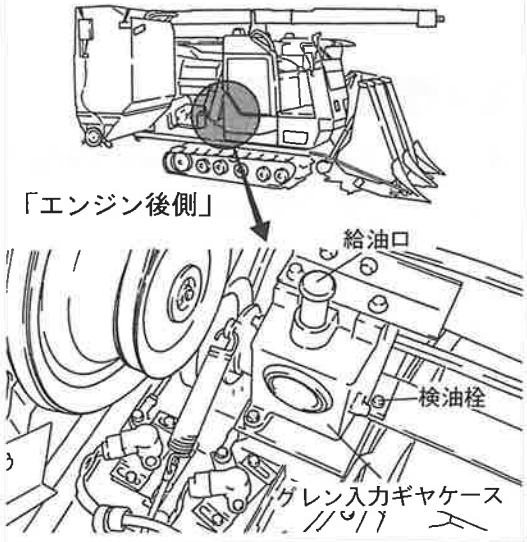
⓫ フィードチェンギヤケース

- ギヤオイル…API・GL－5級,
  SAE・90
- オイル量……0.8ℓ
- 検油栓まで給油します



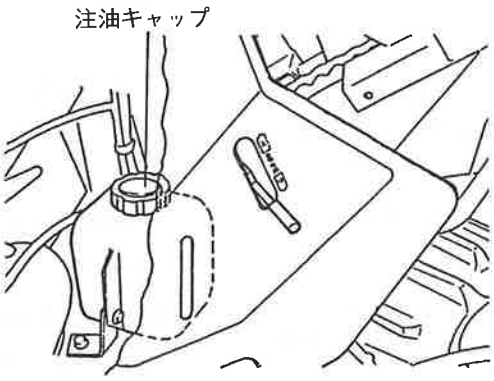
⓬ グレン入力ギヤケース［グレンタンク仕様］

- ギヤオイル…API・GL－4級,
  SAE・140
- オイル量……0.5ℓ
- 検油栓まで給油します



⓭ 集中注油タンク

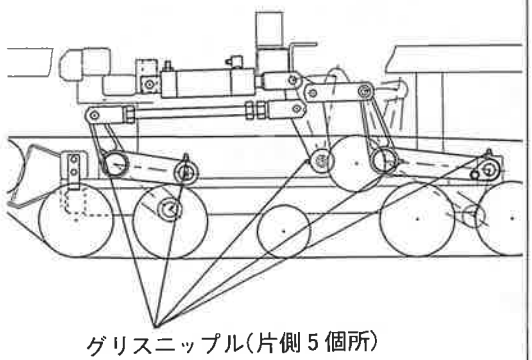
- オイル……エンジンオイル
- オイル量……1.5ℓ



刈取部サイドカバー（左）を外し給油します。

⓮ 機体水平リフトアーム軸受部［水平制御仕様］

- 種類……リチウムグリス
- 給脂……グリスアップ…10個所



3 注油個所

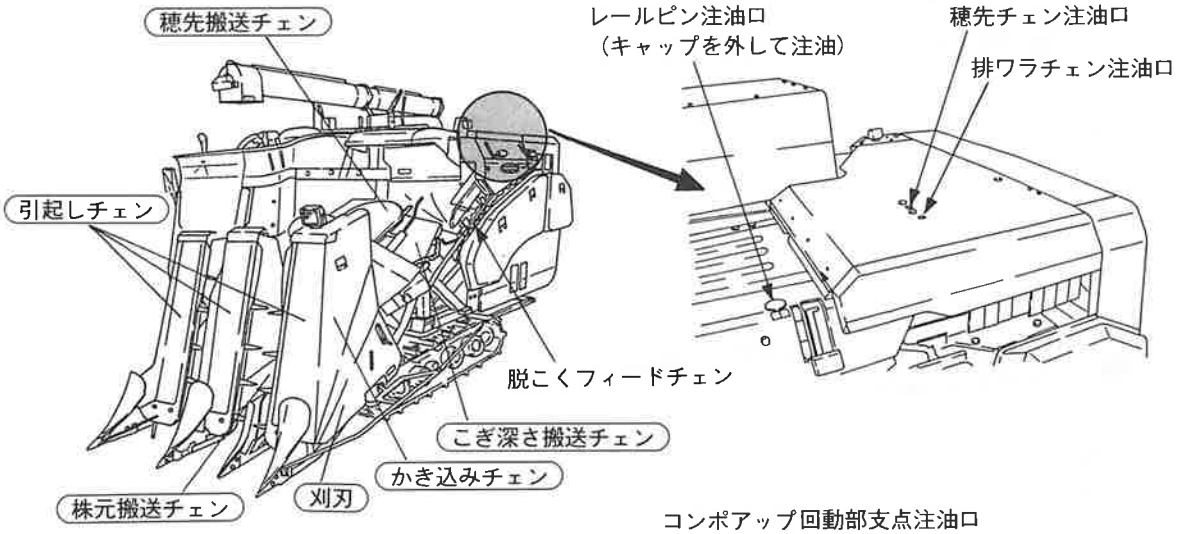
安全のポイント

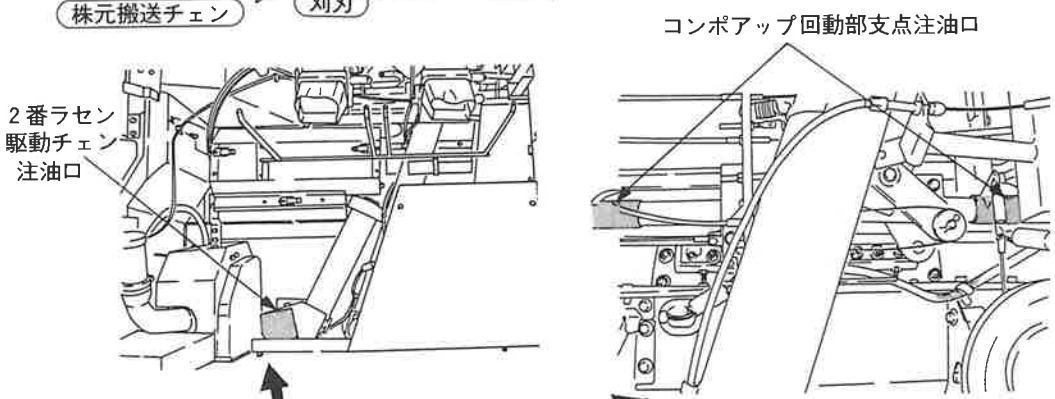
◆刈刃・チェン・回転部に「油差し」で注油するときは，エンジンを停止してから行なってください。

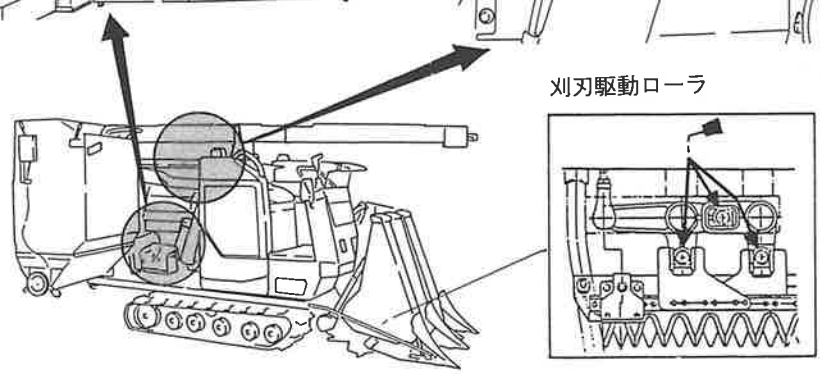
各部への注油は，始業まえに１日１回行います。刈取部関係の注油（　　個所）は集中注油装置で注油できます。そのほかの注油は「油差し」で注油します。

❶ レールピンへの注油

レールピンへの注油は，注油口より油差し1/5程度（約40cc）のオイルを「一気に」注油します。（ゆっくり注油すると一番前のレールピンまでオイルが行き渡らないことがあります。）







4 集中注油の使いかた

安全のポイント

◆集中注油装置で注油する時は平坦な場所で，副変速レバーを《N》（中立）位置にしてください。

集中注油は注油レバーを操作するだけで，刈取部の刈刃，かき込みチェン，引起しチェン，こぎ深さ搬送チェン，穂先搬送チェン部の計15個所の注油ノズルからオイルが吐出し，注油ができます。

「注油要領」

❶ エンジンを始動し，刈取部をいっぱい下げます。

❷ 回転計を見ながら《イネ・ムギ》色別表示までエンジンコントロールレバーでエンジン回転を上げます。

❸ 副変速レバーを《N》（中立）にします。

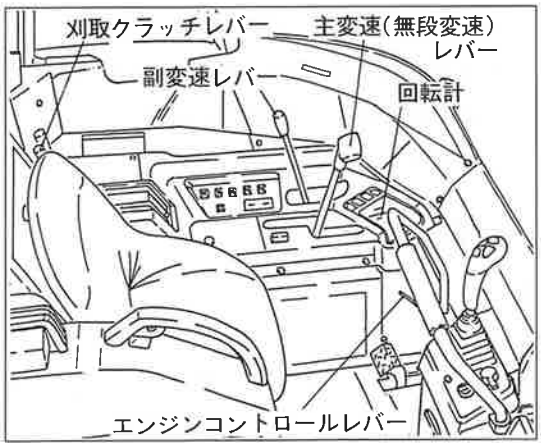
❹ 刈取クラッチレバーを《入》れ，刈取部を運転します。

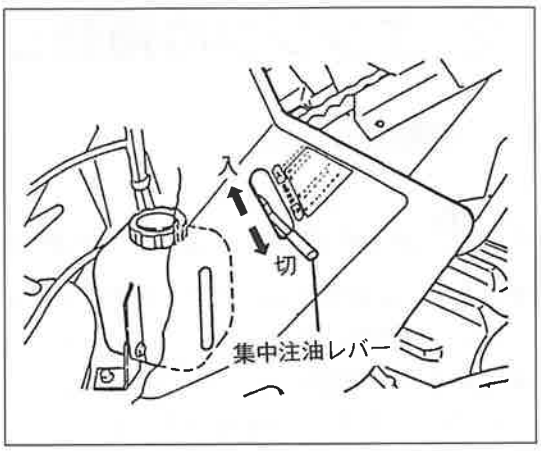
❺ 主変速（無段変速）レバーを《F 9》にセットします。

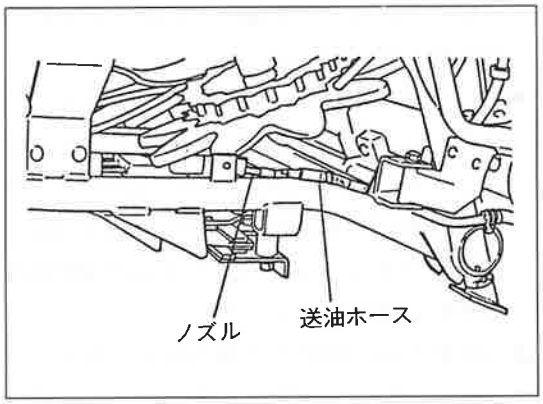
❻ 集中注油レバーを《入》方向に「約15～20秒」保持し，注油します。

❼ 注油レバーを放すとレバーは《切》位置に戻り，注油は自動的に止まります。

❽ 注油後，さらに刈取部を３分程度運転し，注油が行きとどいたことを確認します。







取扱いのポイント

- 注油中にオイルが流れて落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルはふき取ってください。
- ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので点検・掃除をしてください。（刈刃用ノズル）
- 湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・送油ホースをカマ等で損傷しないようにしてください。
- 送油ホースの継ぎ部等からオイルもれがないか，点検確認してください。

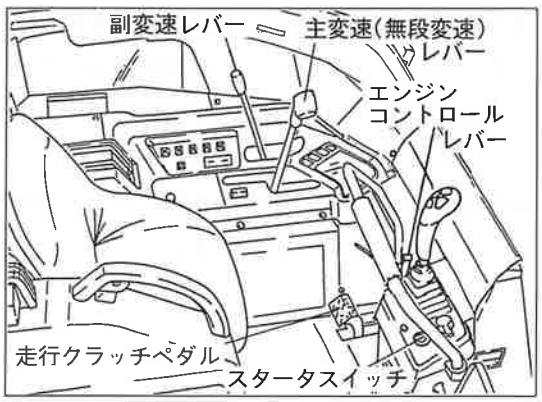
2 エンジンの始動と停止

1 始動のしかた

安全のポイント

◆エンジンを始動するときは，周囲の人に合図をし，機械から人を遠ざけてください。
◆主変速（無段変速）レバー及び副変速レバーが《N》（中立），作業機クラッチレバーが《切》であることを確かめてからエンジンを始動してください。
◆暖機運転は主変速（無段変速）レバー，副変速レバーを《N》（中立）にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバー《切》で駐車ブレーキをかけて行なってください。運転者はエンジンをかけた状態では機械の周囲から離れないでください。
◆各部のカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてケガをすることがあります。
◆空運転するときにはこぎ胴部およびカッタを閉じてください。
◆エンジンの始動はシートに座って行なってください。

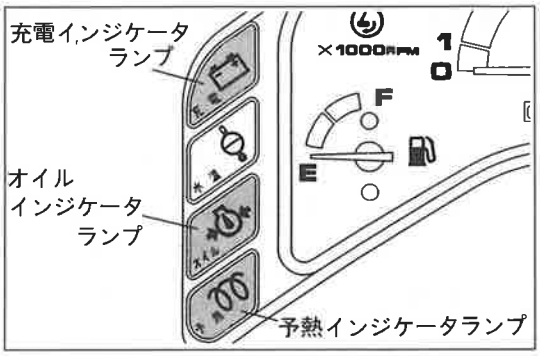
❶ 主変速（無段変速）レバーを《N始動》（前進側N位置），副変速レバーを《N》（中立）にします。



❷ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーが《切》位置にあることを確認します。

❸ エンジンコントロールレバーを《🐇》（高速）位置にセットします。

❹ スタータスイッチを《OO 入》位置にし，「オイル」「充電」「予熱」のインジケータランプが点灯するのを確認します。



❺ 「予熱インジケータランプ」が消えるまで待ちます。（約３秒）

❻ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込みスタータスイッチを《 始動》位置に回し，エンジンを始動します。

❼ 始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を「2000回転」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- 主変速（無段変速）レバーを《N始動》（前進側N位置）にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。
- エンジン始動後，「オイル」「充電」のインジケータランプが消灯したのを確認してください。
- スタータスイッチは５秒以上の連続使用はしないでください。
  セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので５秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となります。

2 停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーを《🐢》（低速）にします。

❷ スタータスイッチを《STOP 切》位置にするとエンジンが停止します。

3 走行・停車のしかた

安全のポイント

◆公道走行はナンバープレートの交付を受け，必要な運転免許証を携帯して交通法規を守って運転してください。

◆［キャビン仕様］は公道の走行はできません。自動車に積載して移動してください。

◆排出オーガ受を「下セット」(［キャビン仕様］を除く）にしてください。

◆走行する前にホッパ及びグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

◆カッタの下部カバーを収納してください。

◆カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じてください。

◆作業中および移動時はヘルメットをかぶってください。

◆発進，停止および旋回する時は周囲を確認し速度を落として行なってください。

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には，水平自動スイッチを「ＯＦＦ」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げて行なってください。
水平自動スイッチが「ＯＮ」で機体が上がった状態では，機体の重心バランスがくずれ転倒しやすくなります。［水平制御仕様］［方向制御仕様］は方向自動スイッチを「ＯＦＦ」にしてください。

◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。

◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行してください。
軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

◆運転者の他に人や物を機械にのせないでください。

◆走行中に走行クラッチペダルを踏んで停止するときは，主変速（無段変速）レバーを《N》に戻し，発進するときは低速から徐々に速度を上げてください。

◆コンバインから離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し始動キーは抜いておいてください。
［キャビン仕様］はドアキーをかけてください。

◆走行時に排出オーガ先端部を障害物等にあてないようにしてください。［グレンタンク仕様］

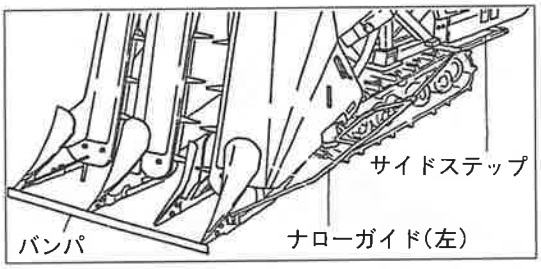
1 走行のしかた

公道を走行するときは，道路交通法に従って，つぎのことを守り，運転をします。

❶ デバイダ先端に「バンパ」を取付けます。

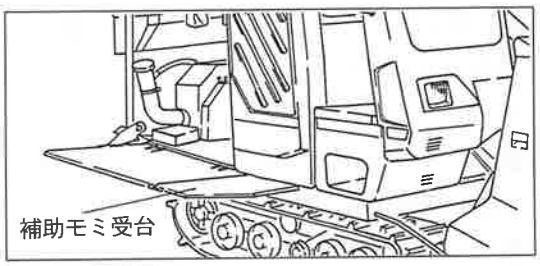
❷ 「ナローガイド(左)」を内側に収納します。

❸ 「サイドステップ」を収納します。(点検，整備時以外ではサイドステップを収納します。)



❹ 「補助モミ受台」を折りたたみます。

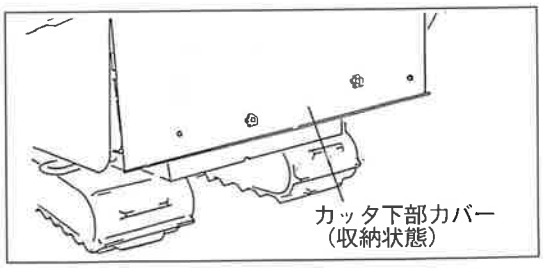
［ホッパ仕様］



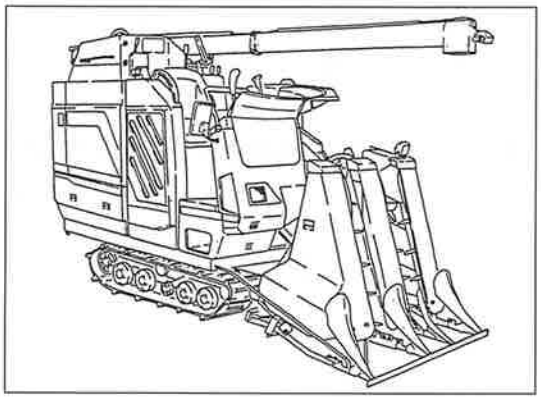
❺ ・公道を走行するときは，アタッチメント（ノッタ等）を取外します。

・カッタは下部カバーを収納状態にします。（63ページ参照）

・カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じます。

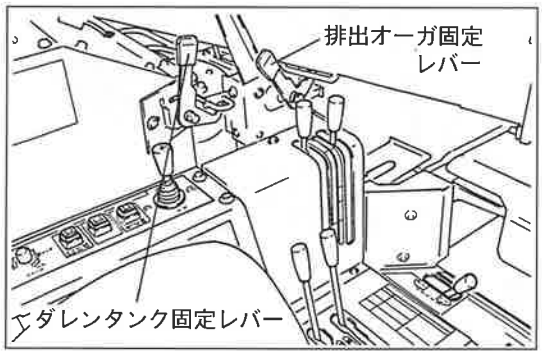


❻ ホッパ及びグレンタンク内のこく粒をすべて排出し，サブタンク(270・320型)を収納します。



❼ 排出オーガ受を「**下セット**」にし，排出オーガ，グレンタンクの「**固定レバー**」がかかっていることを確認します。

［グレンタンク仕様］

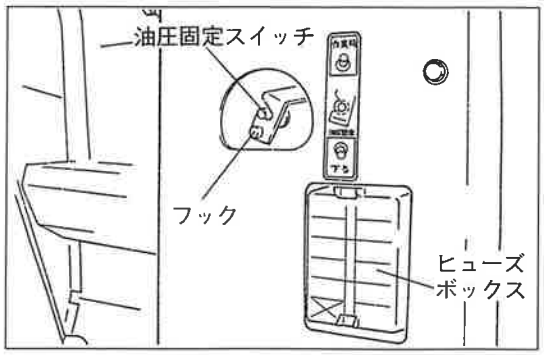


❽ 作業機，刈取クラッチレバーを《**切**》り，自動スイッチをすべて「**ＯＦＦ**」(切) にします。

❾ エンジンを始動してエンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

❿ マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**30㎝**」程度上げます。

⓫ 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけます。



⓬ ［**水平制御仕様**］は水平自動スイッチを「**ＯＦＦ**」(切) にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

⓭ 副変速レバーを走行する条件に合わせ，「**倒伏**」「**標準**」「**走行**」のいずれかにセットします。

⓮ 主変速（無段変速）レバーを操作し，走行する条件に合わせ，適正な走行速度に徐々に上げます。

⓯ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示灯を点灯し合図をします。

⓰ 走行するときや作業開始の合図は，ホーンボタンで行います。

⓱ 路上走行時は，作業灯は消灯します。

2 停車のしかた

安全のポイント

◆**燃えやすいものの近くには止めないでください。**

◆**機械から離れる時はエンジンを停止して始動キーを抜き取っておいてください。**

◆**エンジンが熱いときはシートカバーをかけないでください。「火災」の原因になります。**

◆**坂道など傾斜のあるところは駐車をしないでください。やむをえず駐車するときは，駐車ブレーキをかけ，コンバインの重量に耐える大きさの木片などでクローラに「歯止め」をしてください。**

❶ 主変速（無段変速）レバー，副変速レバーを《**Ｎ**》(**中立**)にします。

❷ 駐車ブレーキをかけます。

❸ エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，５分間程度空運転を行います。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)にします。

❺ 副変速レバーを《倒伏》に入れて，エンジンを停止します。

取扱いのポイント

- ●作業終了後エンジンを停止するときは，作業機，刈取クラッチレバーを《切》り，主変速（無段変速）レバーを《N》（中立）にしてエンジン回転を2000回転程度で５分間程度空運転を行い，エンジン温度を下げてから停止してください。
- ●駐車ブレーキを解除する時は，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。
- ●走行クラッチペダルは半クラッチでは使用しないでください。機械がずり落ちたり，走行ベルトが焼損する恐れがあります。

4 自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して行います。

安全のポイント

◆アユミが傾いたりしない平坦で硬い場所を選び，自動車は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

◆アユミは機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用してください。



◆積込むまえにホッパ及びグレンタンク内のこく粒はすべて排出してください。

◆［水平制御仕様］は水平自動スイッチを「ＯＦＦ」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてください。

◆［方向制御仕様］は方向自動スイッチを「ＯＦＦ」にしてください。

◆アユミのフックは段差のないように，またはずれないように荷台に平行にかけてください。

◆アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないでください。

◆[キャビン仕様]以外は自動車への積込み･積降ろし中は機械に乗らないでください。また，機械の直前･直後には立たないでください。

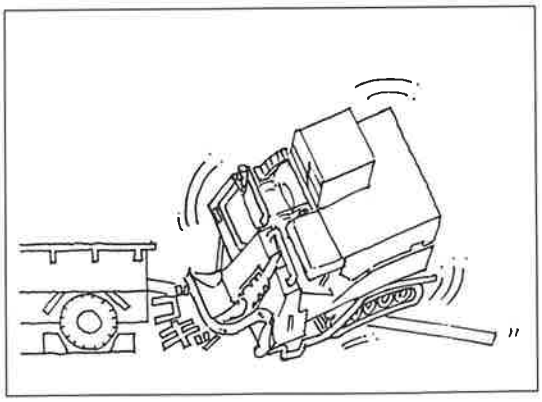


◆積込みは前進，積降ろしは後進で，低速で行なってください。

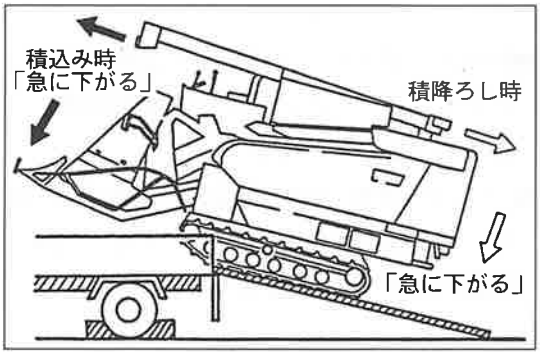
◆自動車への積込み，積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

- ・主変速（無段変速）レバー
- ・副変速レバー
- ・マルチステアリングレバー
- ・走行クラッチペダル
- ・駐車ブレーキレバー
- ・ジャストディレクタ

} はアユミの上では操作しないこと。



◆コンバインが自動車に乗る直前や降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づいてください。

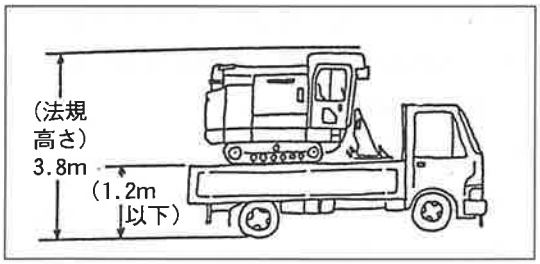


◆積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープ又はワイヤをかけてください。このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1 自動車・アユミの取扱い

❶ 積載重量2500kg以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。

・［キャビン仕様］の場合は，荷台高さが1.2m以下の自動車を使用します。



❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに歯止めをします。

❸ アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。

❹ アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に段差のないようにかけ，横ずれしたり，はずれたりしないようにセットします。

2 コンバインの取扱い

❶ ナローガイド，補助モミ受台（ホッパ仕様），サブタンク（270・320型），サイドステップを収納します。(39～40ページ参照)

❷ エンジンを始動して，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「2000回転」程度にします。

❸ 刈取部をいっぱい上げます。

❹ 積込みは，主変速（無段変速）レバー「F 1」，副変速《倒伏》（低速）で行います。

❺ 積降ろすときは，主変速（無段変速）レバー「R 1」，副変速《倒伏》（低速）で行います。

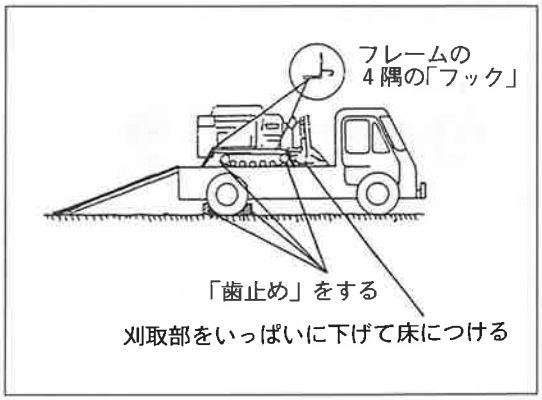
❻ ［キャビン仕様］以外の積込み・積降ろしは，機械にのらないで行います。

❼ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。

❽ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❾ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「歯止め」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープ又はワイヤをかけて固定します。

❿ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，いっぱいに下げ（深こぎ側）ておきます。



⓫ ［キャビン仕様］の輸送時はドアと窓を閉めて，ロックしておきます。

上手な作業のしかた

1 刈取り作物とほ場の条件

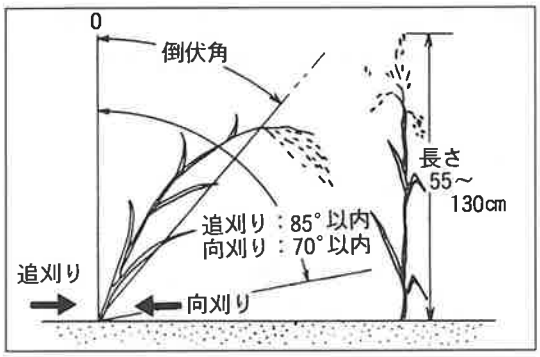
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…55～130cmまで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り:85°以内まで刈取りできます。

向刈り:70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物のぬれ

・ぬれた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは以下のようなことがありますので，十分乾燥（手でしごいてぬれない程度）するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫におかされた作物

病害虫におかされた作物の刈取りは以下のようなことがありますので，刈取り作業の速度をおそくするか，またはできるだけその部分は「手刈り」をしておきます。

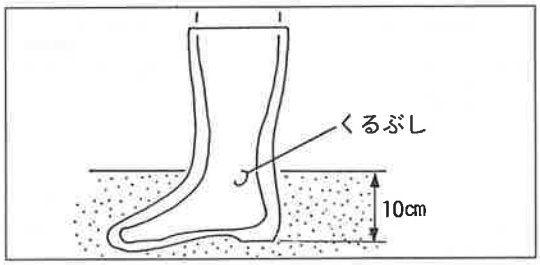
・こく稈が折れやすい

・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

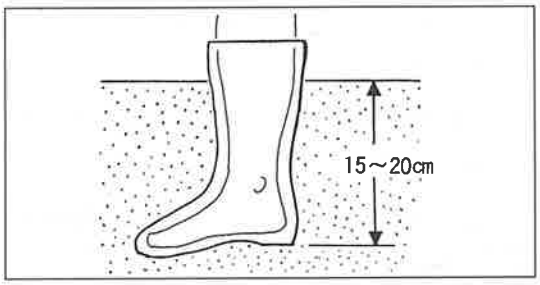
❹ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「くるぶし」（10cm）までは作業ができます。



［超湿田仕様（W仕様：オプション）］

・沈下量が「15～20cm」までは作業ができます。

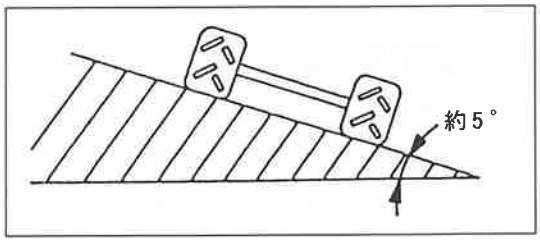


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❺ 機械の傾斜

機械の傾斜角度5°以上では作業できません。



取扱いのポイント

●適応範囲をこえての作業はできません。行わないでください。

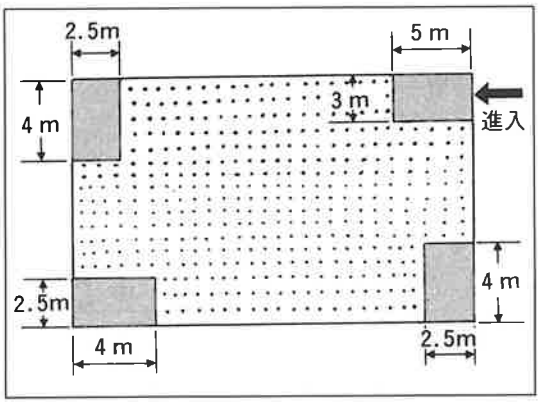
●ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

2 作業まえの準備

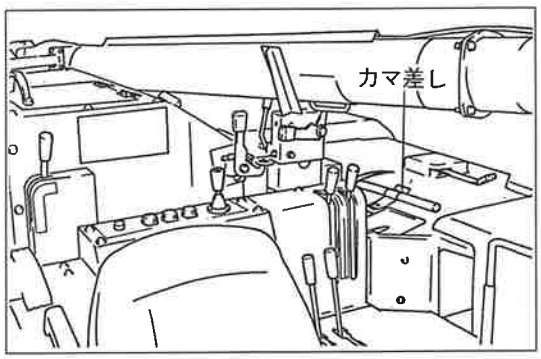
1 ほ場の準備

❶ 手刈り

・機械をほ場に入れるまえに，あらかじめ四隅を「旋回できる程度」手刈りします。



・カマ差しは，脱こくこぎ室カバーの上部にあります。
カマは図のようにセットし，刃部に手が触れないようにします。



取扱いのポイント

●ほ場の周囲がコンクリートあぜ，又は高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，あぜぎわの一条を手刈りしてください。

❷ あぜ越え（ほ場への出入り）

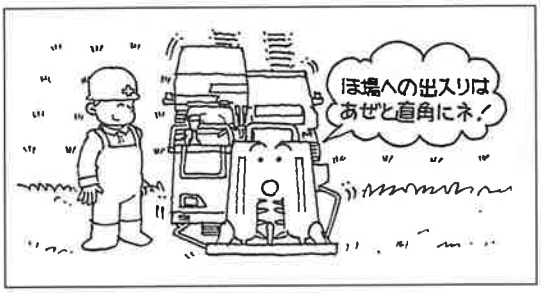
安全のポイント

◆［水平制御仕様］機は，あぜ越え（ほ場への出入り）は水平自動スイッチを「ＯＦＦ」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてください。
［方向制御仕様］は方向自動スイッチを「ＯＦＦ」にしてください。

◆あぜ越え（ほ場への出入り）をする前にはホッパ及びグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

機械であぜ越え（ほ場への出入り）するときは，刈取部を上げ，エンジン回転を「2000回転」程度にセットし，副変速を《倒伏》，主変速（無段変速）を「Ｆ1またはＲ1」にしてあぜに直角に走行します。

・高低差の大きいほ場への出入りは，「アユミ」を使用します。



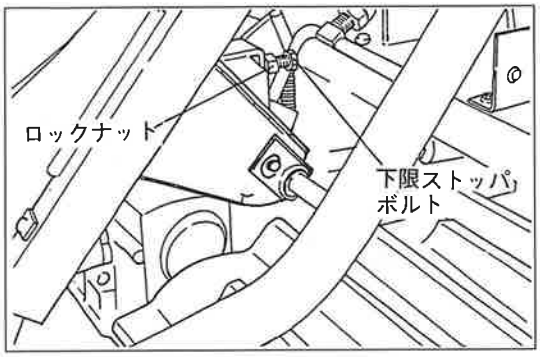
2 機械の準備

❶ 刈取部下限ストッパの調整

刈取部の下部に「下限ストッパボルト」が装備してあります。工場出荷時には刈高さが少し高くなるようにセットしてあります。

(1) 刈取部をいっぱい上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にしてフックをかけ，刈取部の下に「固定脚」を入れます。

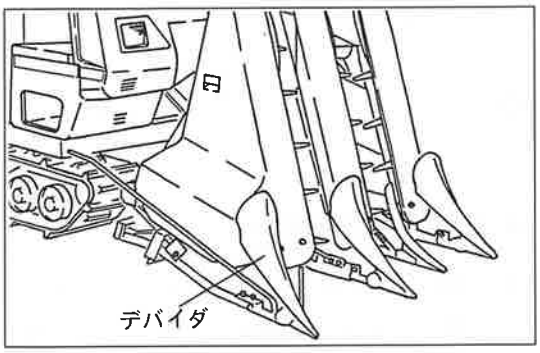
(2) ロックナットをゆるめ「**下限ストッパボルト**」をいっぱいねじ込み，ロックナットを締め付け固定します。



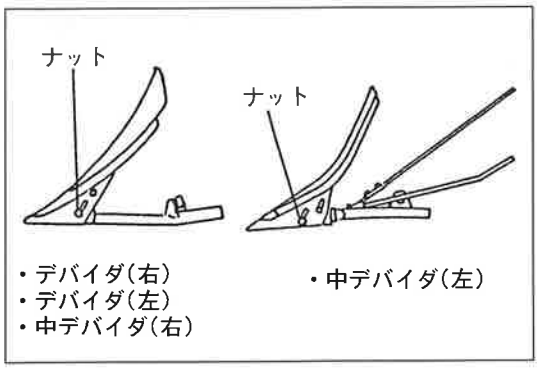
❷ デバイダの上下調整

つぎのような場合は，デバイダを「**下側**」にセットします。

- 刈取部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。
- 刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。



デバイダ前方のナットを緩めてデバイダが適正な高さとなるように調整し，締付けて固定します。

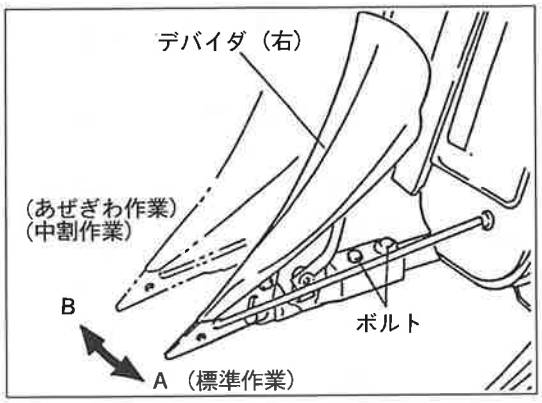


取扱いのポイント

●デバイダは右・左とも同じ高さになるようにセットしてください。

❸ デバイダ（右）の調整

- デバイダ（右）は「**A位置が標準**」です。
- 中割作業やあぜぎわ作業をするときは，ボルトを緩めてBの位置にいっぱい広げ締付けて固定します。



❹ 排出オーガ受のセット

[グレンタンク仕様]（[キャビン仕様]除く）

安全のポイント

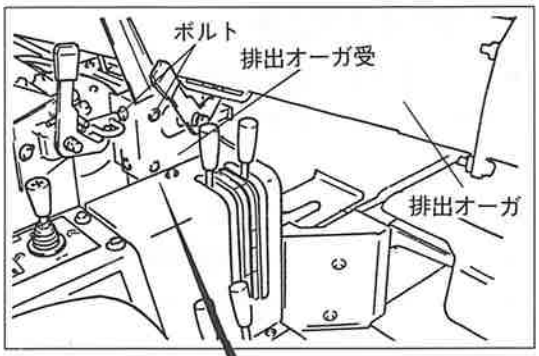
◆刈取り作業時には，排出オーガを固定レバーで固定してください。

◆路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にしてください。

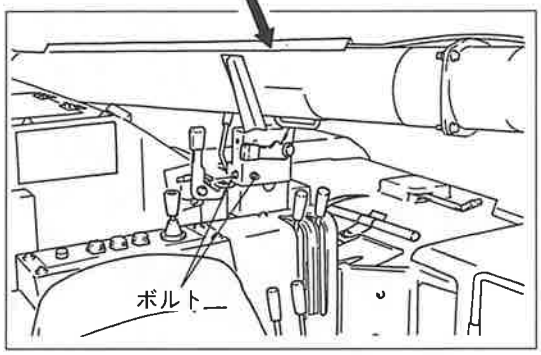
工場出荷時に排出オーガ受は「**下セット**」で出荷されています。

排出オーガ受のボルト（３本）を外し，「**上**」位置にセットします。

「出荷状態(下セット)」



「上位置セット」

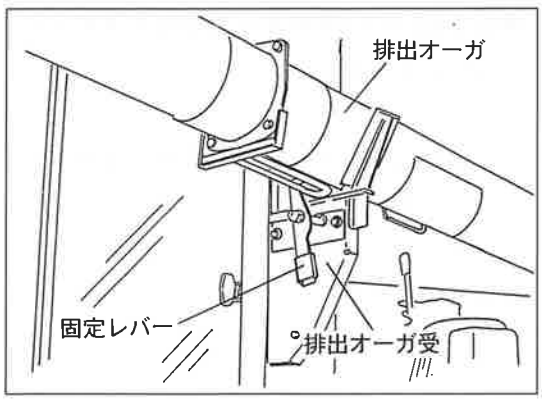


［キャビン仕様］

安全のポイント

◆刈取り作業時には，排出オーガを固定レバーで固定してください。

・排出オーガ受は固定式です。



❺ サブタンクを張り出します。

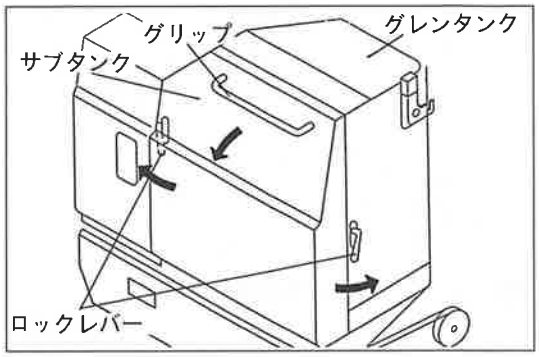
［270・320型グレンタンク仕様］

(1) グレンタンクの左右にあるロックレバーを矢印の方向に回します。

(2) グリップを持ってサブタンクを外側に引き出します。

(3) グリップを押し引きしながら，片方のロックレバーを元に戻し，サブタンクを引き出した位置で固定します。もう一方のロックレバーも同じようにして固定します。

(4) 収納は逆の手順で行います。



取扱いのポイント

●サブタンクの収納や張り出しは，グレンタンク内のこく粒を排出してから行なってください。排出しないで行うと変形やモミもれの原因となります。

❻ ナローガイド（左）を作業位置にセットします。

取扱いのポイント

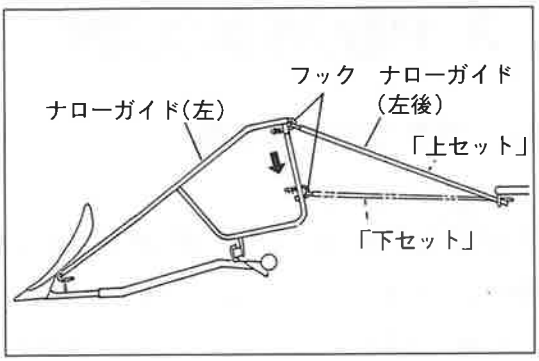
●短稈材で未刈稈がナローガイド（左後）の裏側に入り込み，穂先がクローラに接触する場合は，ナローガイド（左後）を「下セット」にして作業します。

「ナローガイド（左後）の上下セット組替えのしかた」

・工場出荷時，ナローガイド（左後）は「上セット」になっています。

(1) フックの先端がナローガイド（左）の取付パイプから外れるまでフックを引出し，ナローガイド（左後）と共に下方の取付パイプまで移動させます。

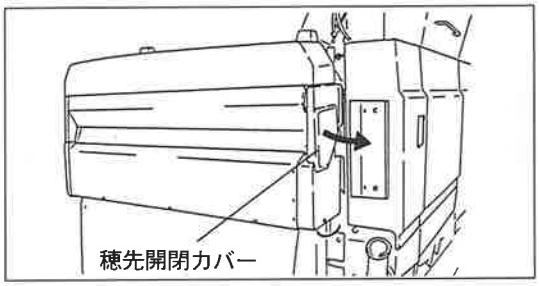
(2) フックにナローガイド（左後）をセットして取付パイプに確実にはめ込みます。



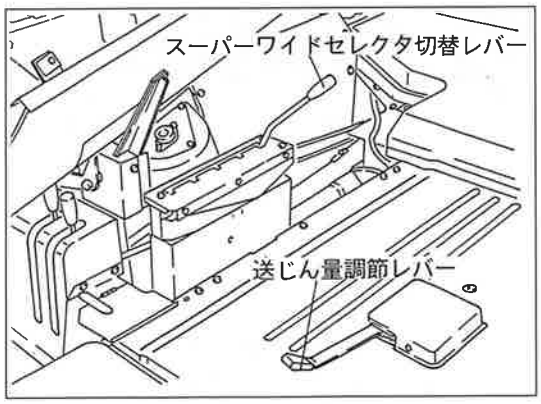
❼ カッタ下部カバーを作業状態にします。(62ページ参照)

❽ カッタ排ワラ切替レバーを作業に合わせてセットします。(カッタの切ワラ長さのセットは63～64ページ参照)

(1) 排ワラ作業の場合は，穂先開閉カバーを開きます。



❾ 送じん量調節レバーを《標準》位置にセットします。



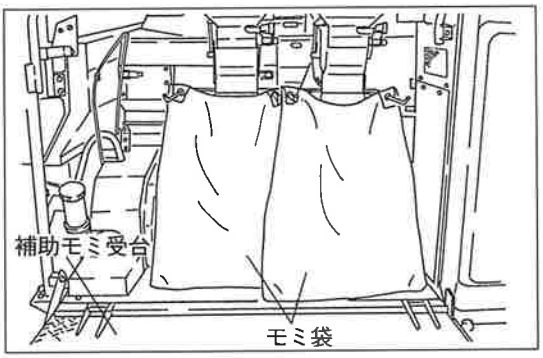
❿ モミ袋の取付け［ホッパ仕様］

安全のポイント

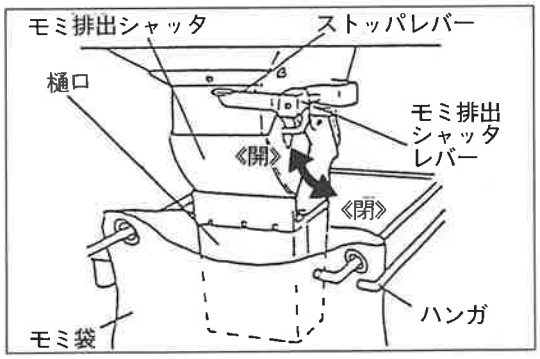
◆ストッパレバーを操作する時は，シャッタレバーで手をたたかれないようにしてください。

(1) 補助モミ受台を作業位置にセットします。

(2) モミ袋のファスナを開き，１つのハンガに10枚程度のモミ袋をかけます。



(3) 一番外側のモミ袋は樋口を差込み，モミ排出シャッタレバーを「カチン」と音がするまで引き上げて《開》(モミ排出状態)にセットします。



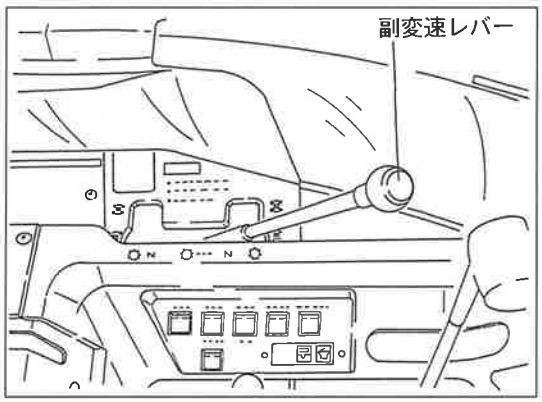
❶❶ 旋回方式の選択［320型］

作業条件に応じて旋回方式を選択します。

《スピンドライブターン》……左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。

《減速ターン》……左右のクローラが同方向に回転し，片側のクローラが減速しながら旋回します。湿田やほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。

（操作方法は17ページ参照）

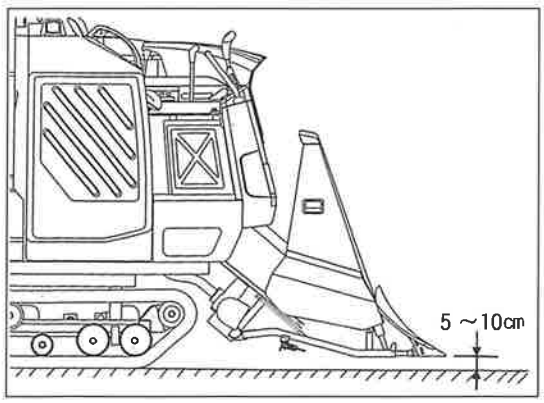


❶❷ 刈取り高さの調節

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「5～10cm」になるように刈高さコントロールダイヤルで調節します。

・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

（70～72ページ参照）



3 刈取り作業のしかた

1 刈取り操作の手順

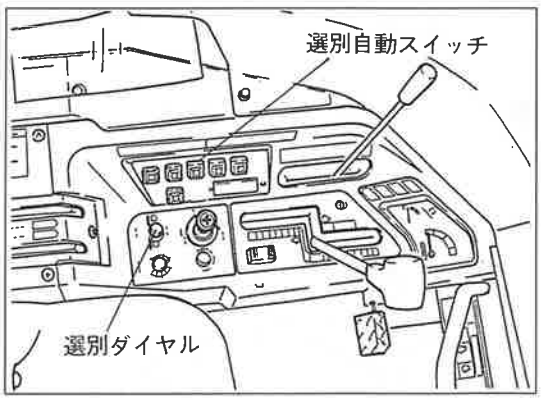
安全のポイント

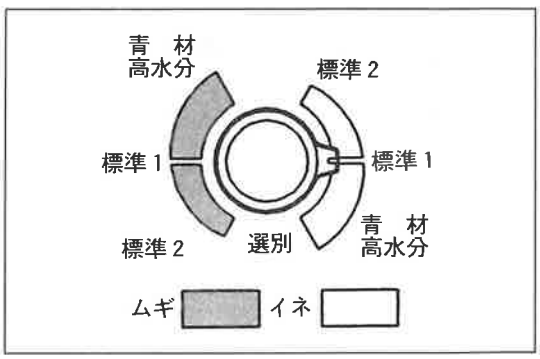
◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。回転物に巻込まれたり，旋回時の接触事故などを引起こすことがあります。

◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速（無段変速）レバーを《N》に戻してください。発進するときは低速から徐々に速度を上げてください。戻さないでそのまま発進すると急発進することがあります。

❶ エンジンを始動します。

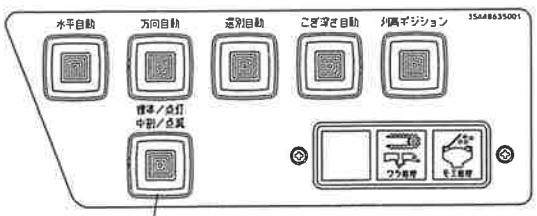
❷ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。





・選別ダイヤルのセット方法は，「選別自動制御の取扱い」の項74～75ページを参照。

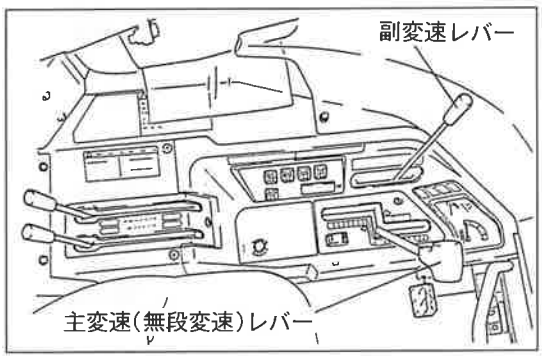
❸ 標準・中割スイッチをセットします。
（方向自動使用時）



- 「条刈り，横刈り」のときはランプ「点灯」で使用します。
- 「中割作業」のときは，スイッチを押してランプ「点灯」から「点滅」に切替えて使用します。

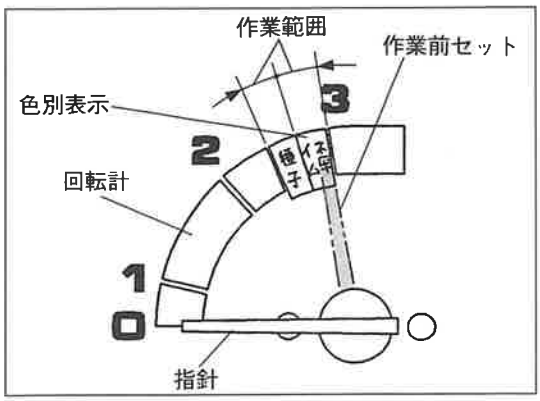
❹ リフトシャット切替レバーを《入》位置にします。（取扱い方法は56～57ページ参照）

❺ 刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。（50ページ参照）



❻ エンジン回転を調整します。

作業機クラッチレバーを入れ，回転計の指針が「色別表示の上限」になるようにエンジンコントロールレバーで調整します。



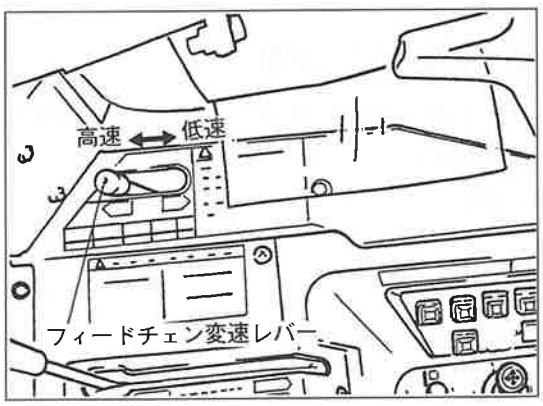
取扱いのポイント

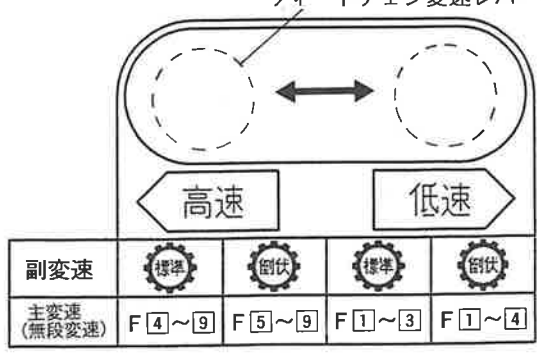
- 刈取り作業中は「色別表示」の範囲内に常時指針があるように主変速（無段変速）レバーで作業速度を調整してください。
- 規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。
  また，回転が高すぎると，脱ぷやロスが多くなることがあります。

❼ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《入》位置にします。

❽ 最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速（無段変速）レバーで適正な速度を選びます。
（作業速度の選びかた50ページ参照）

❾ ［320型］は作物条件，刈取スピードに合わせて脱こくフィードチェン変速レバーをセットします。





⑩ 方向修正は，マルチステアリングレバーをこきざみに操作して行います。

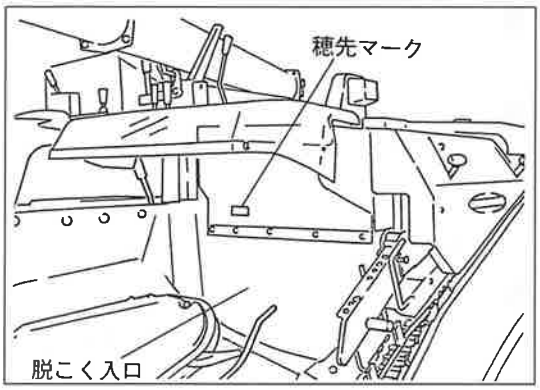
［A仕様］

・方向自動制御を使用する場合は，「方向自動制御の取扱い」の項68～70ページを参照。

・ジャストディレクタで方向修正を行うとスムースに修正できます。

⑪ 適正こぎ深さの調整

作物が脱こく入口に搬送され始めたら作物の穂先が「穂先マーク」の位置になるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。



取扱いのポイント

●こぎ深さ自動制御は，「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項67～68ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。

⑫ 作業中は，回転計の指針が，「色別表示の範囲内」に位置するように，主変速（無段変速）レバーで適正な速度に調整します。

［320型］

刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がると，エンジン回転負荷モニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速（無段変速）レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。

取扱いのポイント

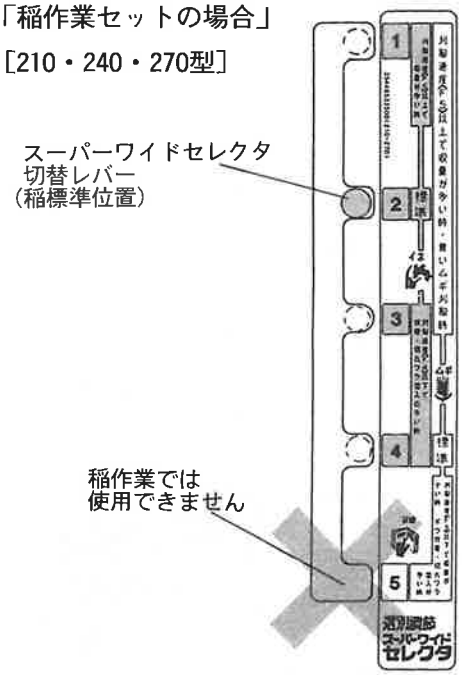
●エンジン回転負荷の警報ブザーは警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。
走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くするとブザーは鳴りやみます。

⑬ スーパーワイドセレクタの調節

・切替レバーを材料条件と刈取り速度に合わせて，いずれかの位置にセットします。

「稲作業セットの場合」

［210・240・270型］



・1位置……刈取り速度がF5以上で収量が多いとき。

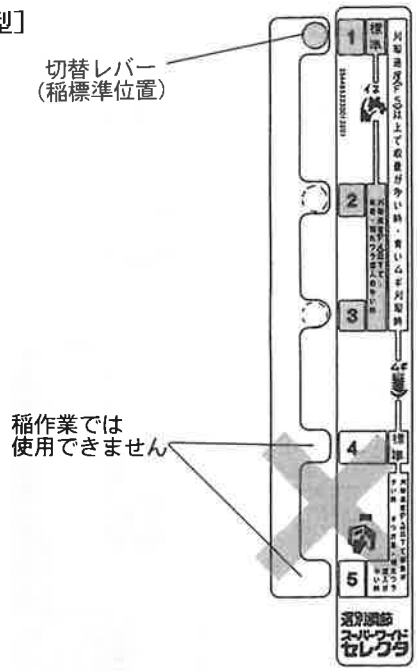
・2位置……稲刈り作業の標準位置。

・3位置……刈取り速度がF4以下で枝梗（しこう）付着および切ワラ混入が多いとき。

・4位置……3の位置でもまだ枝梗（しこう）付着，切ワラ混入が多いとき。

・5位置……稲作業では使用できません。

［320型］



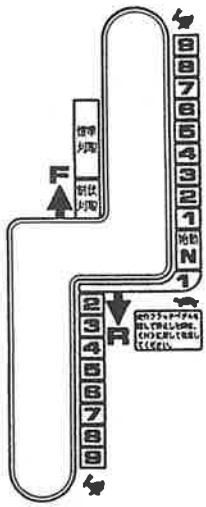
- 1位置……稲刈り作業の標準位置。
- 2位置……刈取り速度がF4以下で枝梗(しこう)付着および切ワラ混入が多いとき。
- 3位置……2の位置でもまだ枝梗(しこう)付着および切ワラ混入が多いとき。
- 4 5位置……稲作業では使用できません。

取扱いのポイント

- スーパーワイドセレクタ切替レバーの操作は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，揺動流板上のワラクズなどが排出された後に行なってください。
- シーズン途中や格納前に切替レバーがスムーズに動くように時々レバーを操作してください。

2 作業速度の選びかた

作物の状態など，作業内容に合わせて，主変速（無段変速）レバー，副変速レバーで速度を選び，最適な状態で作業をします。

作業内容	変速レバー位置		
	副変速	主変速（無段変速）	
積込み，あぜ越え	倒伏	F 1	
倒伏刈取り		F 1～3	
標準刈取り	標準	210・240型 F 3～6	
		270・320型 F 3～7	
高速刈取り		320型 F 8～9	
集中注油	N	F 9	
路上，ほ場走行	標準，走行	F（R）1～9	
積降ろし，あぜ越え	倒伏	R 1	
刈取りのときの後進	倒伏，標準	R 1～9	

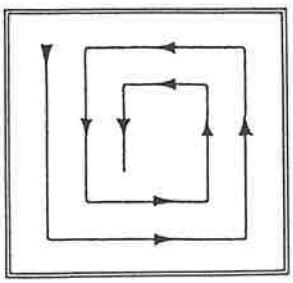
3 ほ場の刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは，「左回り刈り」が基本です。

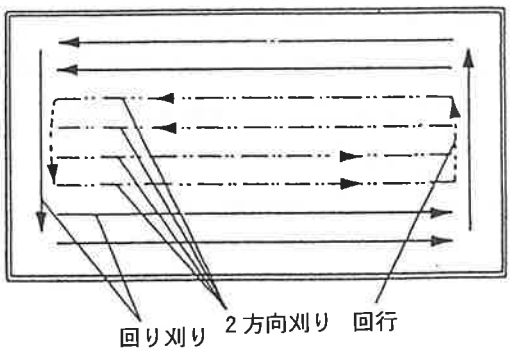
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

(1) 正方形に近いほ場



(2) 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

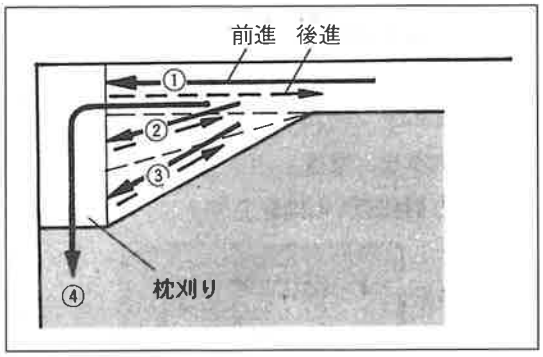


(3) あぜぎわ刈り

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

(4) コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは下図のようにします。

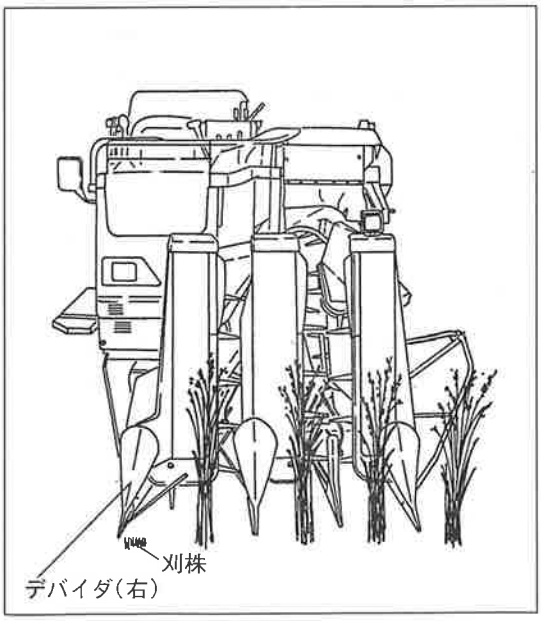


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになり扱ぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**

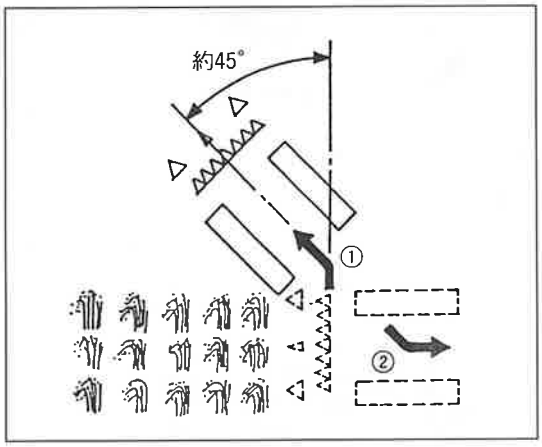
(5) 条合わせ刈り

- デバイダ（右）を基準に刈株の外側に合わせ，「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。



(6) 旋回のしかた（左回り刈り）

- 刈り終わったら刈取部を約40㎝以上上げます。（リフトシャットが作用する高さ）**作業機クラッチレバーを《切》**らないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回します。（湿田では大きく回ります）
- 左に「**約45°**」向きを変えて停止します。
- 後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械がまっすぐになるように「**条合わせ**」をします。

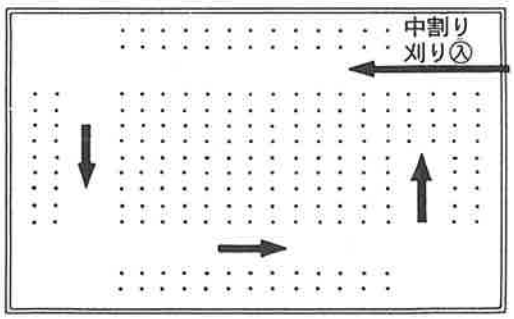


取扱いのポイント

- **旋回のときには，エンジン回転を下げたり作業機クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

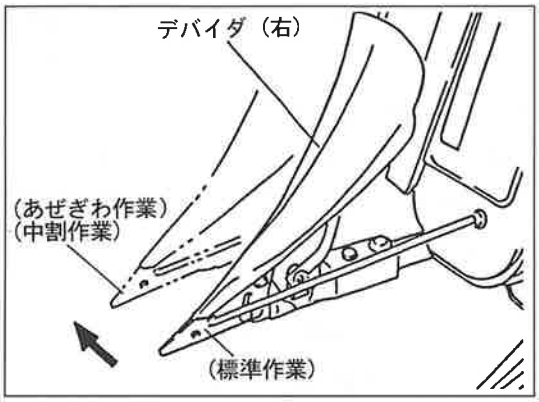
❷ 中割り刈り

- あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。
- 中割り刈りは，「**低速**」で行います。



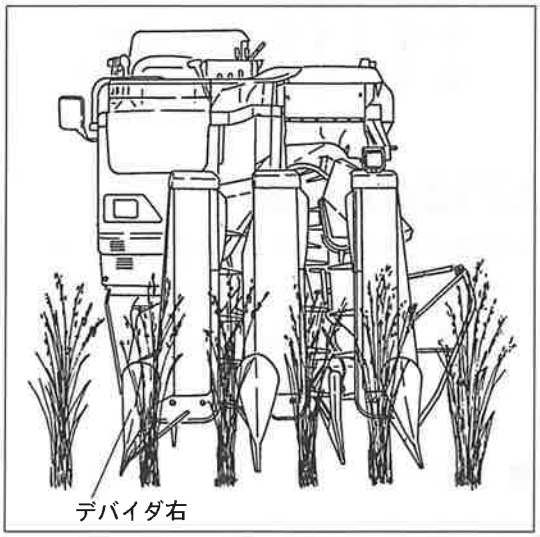
(1) 標準・中割スイッチを押してランプが点滅した状態にします。

(2) デバイダ（右）を，中割作業位置にセットします。



(3) ［ホッパ仕様］機は補助モミ受台を折りたたみます。

(4) デバイダ（右）を刈取りする株元の右側に合わせて刈取ります。



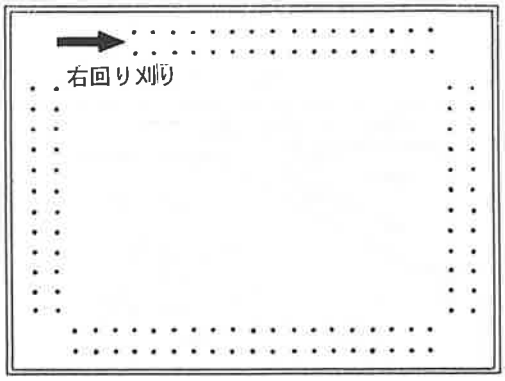
❸ 右回り刈り

(1) まわりのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ３条を残し**「中割り・左回り」**で刈取りをします。

(2) 残した３条を最後に**「右回り」**で刈取ります。

(3) あぜぎわを**「右回り刈り」**するときは，**「ナローガイド(左)」**を収納し，**「ナローガイド（左後）」**を**「下セット」**にします。（44～45ページ参照）

「デバイダ（左）」をあぜに突っ込まないようにします。

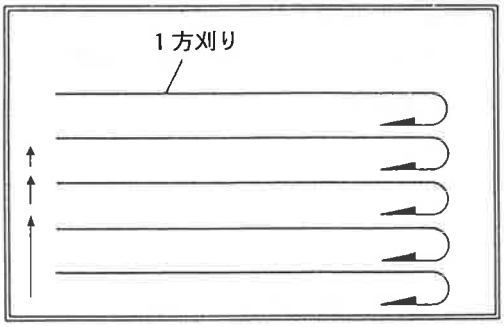


取扱いのポイント

●ほ場の状態によっては，最初にあぜぎわを「右回り」で刈取り，つぎから正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。

❹ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて**「一方刈り」**を行います。



(1) **刈取り方向**

・倒伏した作物の刈取りは次ページの図表を参考にして行います。

1．**「刈取り速度」**は，副変速《倒伏》，主変速（無段変速）《F 1～3》で刈取ります。

2．②右倒伏刈りが困難なときは，**「④左倒伏刈り・③追刈り」**となるように**「１方刈り」**をします。

「方向自動を使用しないとき」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
④ ① ③ ②	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○機械刈取り可能　△走行速度を落として刈取り可能
×機械刈取り不可能

「方向自動で刈取りするとき」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
④ ① ③ ②	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○機械刈取り可能　×機械刈取り不可能

(2) スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき，（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき）倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- 倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最もさがった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。
- デバイダ先端が土に突っ込まないようにしてください。
  土に突っ込むと株の引きぬきが発生し，詰まりの原因となります。
- 倒伏した作物の，中割り刈りはさけてください。
- クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まり等の原因になることがあります。

4 モミ袋の交換のしかた

［ホッパ仕様］

安全のポイント

◆モミ出口が《開》のときは，樋口の中に手を入れないでください。

◆ストッパレバーを操作する時は，シャッタレバーで手をたたかれないようにしてください。

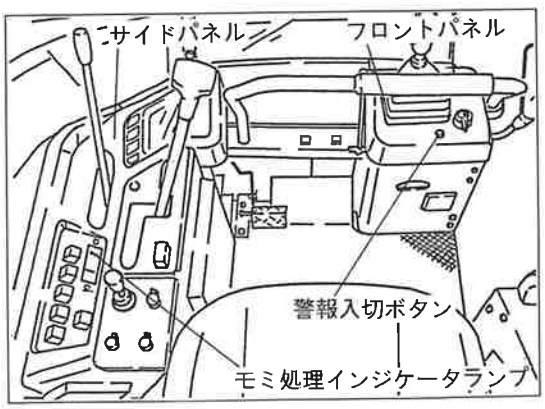
◆モミ袋の交換は機械を止めて行なってください。

◆刈取り作業時は補助モミ受台に乗らないでください。

❶ モミ袋の交換

(1) モミ袋が一杯になり，さらにホッパ内にこく粒がたまると，サイドパネルのモミ処理インジケータランプが点灯し，警報ブザーの断続音で警報します。

(2) 警報ブザーが鳴ったら，モミ排出シャッタを《閉》にしてモミ袋を交換します。警報ブザーはフロントパネルの警報入切ボタンを押すと鳴りやみます。



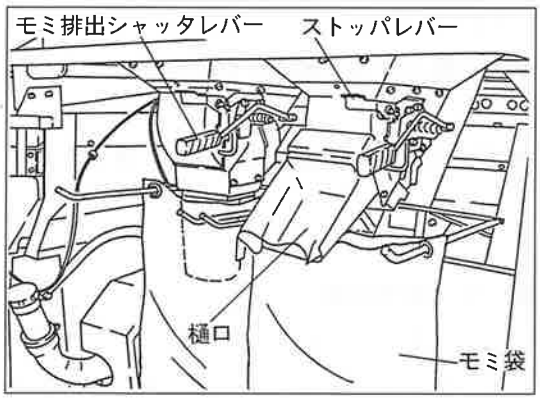
取扱いのポイント

●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま刈取り作業を続けるとホッパ上部よりオーバーフローし，自動的にエンジンが停止します。再始動する場合は，作業機クラッチレバーを《切》にしないとエンジンは始動できません。

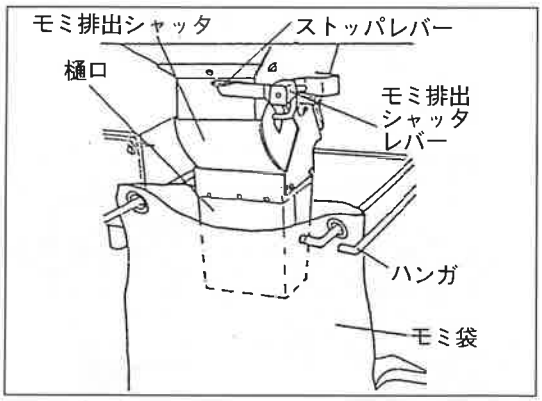
❷ モミ排出シャッタ操作

(1) モミ排出シャッタを《閉》にするには，ストッパレバーを下げるか，又は樋口を手前に引き上げます。

(2) モミ袋の交換は樋口を手前に引き上げて行います。



(3) モミ袋を交換したら樋口を戻し，モミ排出シャッタレバーを上げてモミ排出シャッタを《開》にします。



5 こく粒の排出操作方法

［グレンタンク仕様］

安全のポイント

◆こく粒がグレンタンクに入った状態での路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，急旋回はしないでください。
また傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。

◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。

◆排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを《切》にしエンジンを停止してください。

◆排出オーガ自動収納（又は自動旋回）中に緊急停止する場合は，排出オーガ緊急停止スイッチを押して止めてください。
旋回範囲近くに障害物がある場合は自動収納（又は自動旋回）を使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを収納操作してください。

◆［キャビン仕様］は，キャビンの窓から顔や手を出して排出オーガの収納作業をしないでください。

◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定レバーで固定してから行なってください。

◆［水平制御仕様機］は，水平自動スイッチを「ＯＦＦ」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてから排出作業をしてください。（自動装置についての項71～72ページ参照）

❶ グレンタンクのモミ警報

・グレンタンクにこく粒が充満すると，満杯時にモミ処理インジケータランプの「赤点灯」と警報ブザーの「断続音」で知らせます。刈取り作業を中止し，こく粒の排出を

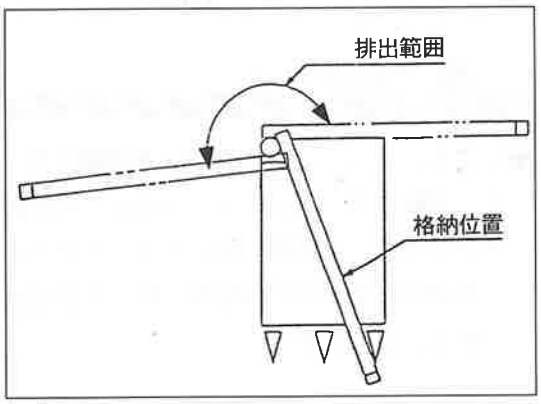
行います。

・警報ブザーは警報入切ボタンを押すと止まります。

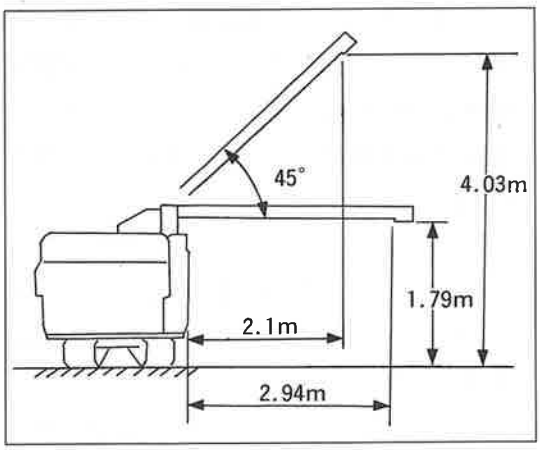
取扱いのポイント

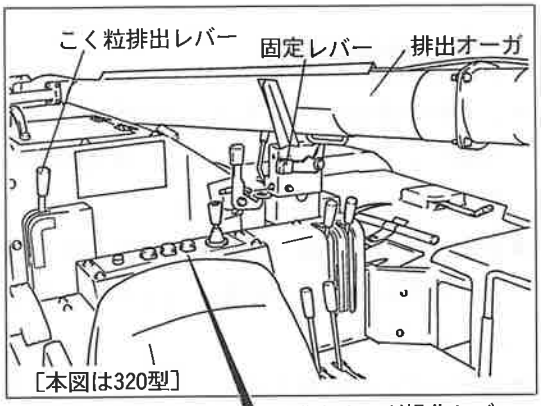
●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま刈取り作業を続けるとグレンタンク上部よりオーバーフローし，自動的にエンジンが停止します。作業機クラッチレバーを《切》にしないとエンジンの再始動ができません。

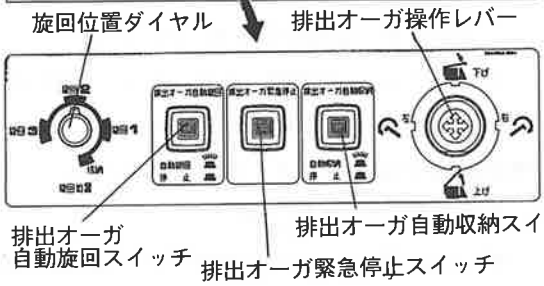
❷ こく粒受け位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速（無段変速）レバーを《N》（中立）にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。



「樋口高さと距離」







❸ こく粒排出操作手順

① 排出オーガの固定レバーを「解除」

⇩

② 排出オーガ操作…上げ➡左旋回
（排出の位置，高さにセット）

⇩

③ エンジンコントロールレバーを
「高速」セット

⇩

④ こく粒排出レバー「入」
…… こく粒排出

⇩

⑤ こく粒排出終了
……こく粒排出レバー「切」

⇩

⑥ 排出オーガ格納……右旋回➡格納

⇩

⑦ 排出オーガを「固定」する

取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒でふさがないようにして，排出位置を変えながら行なってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。
- 機械が傾いた状態ではオーガの旋回がおそくなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）しますので，旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 傾斜地ではオーガを上げた状態でエンジンを停止しないでください。
  オーガ旋回ブレーキが解除されて自然回動し，衝突する場合があります。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。

6 タンク補助樋口の取扱い

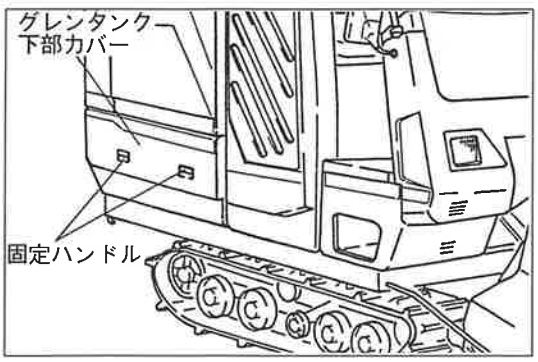
［グレンタンク仕様］

安全のポイント

◆補助樋口からこく粒を取出す時はエンジンを停止してから行なってください。

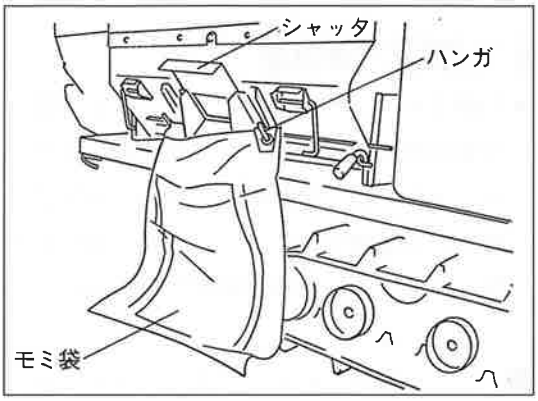
故障等によりグレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すとその内側にあります。

❶ グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いてカバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引き上げタンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを締め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

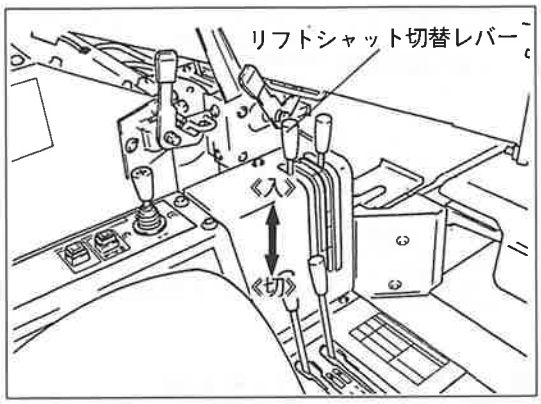
7 リフトシャットの取扱い

安全のポイント

◆リフトシャット《入》位置で，作業機クラッチ，刈取クラッチが入っていると，刈取部を下げた時，刈取部，脱こくフィードチェンが回転しますので刈取部，脱こく部に近づかないでください。

リフトシャットとは，リフトシャット切替レバーを《入》にして刈取部を上げると，作業機クラッチ・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

- リフトシャット切替レバーを《切》にするとリフトシャットは作用しませんが前処理位置の上下に関係なく刈取部，脱こく部は回転します。
- リフトシャット切替レバーの操作は，刈取部をいっぱい下げて行います。



次の場合は，リフトシャット《切》位置で使用します。

- 手刈りのしてないほ場の回り刈り作業
- あぜ越え直後からの刈取り作業
- あぜぎわ等を高刈りする場合
- 湿田等で刈取部を上げた状態で作業する場合

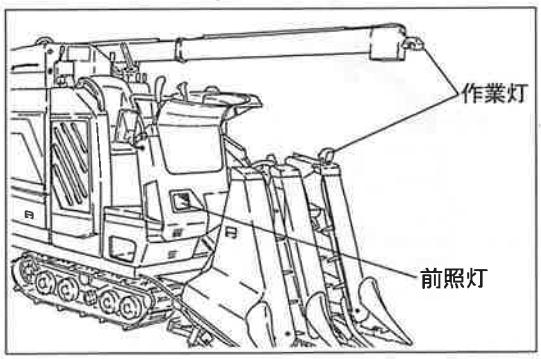
8 夜間作業

安全のポイント

◆路上走行するときは作業灯は消灯してください。

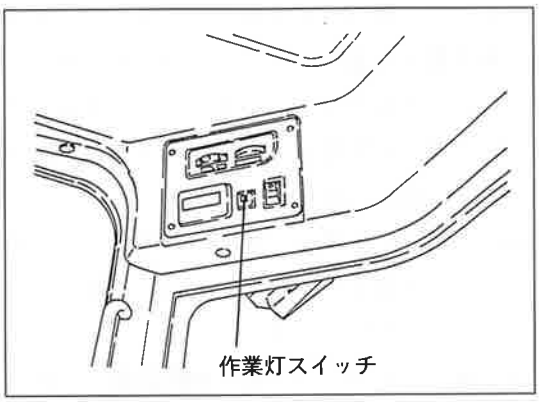
❶ 前照灯を点灯します。

❷ 刈取部上部および排出オーガの先端に取付けられている作業灯のスイッチを《ON》にし点灯します。



［キャビン仕様］

- キャビン内上方の作業灯スイッチを《ON》（押す）にすると，キャビン上部の作業灯が点灯し，排出オーガ先端と刈取部上部の作業灯が点灯可能となりますので各々のスイッチを《ON》にして点灯します。



9 トルクリミッタの取扱い

安全のポイント

◆詰まり等の異常が発生したときに詰まったワラクズ等を取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に「固定脚」等をかませて作業してください。

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐためつぎの個所に「トルクリミッタ」が設けてあります。

使用個所	トルクリミッタが作動するとき
刈取搬送部 ・株元搬送駆動ギヤケース（2個所） ・こぎ深さ搬送駆動スプロケット	株元搬送・こぎ深さ搬送・穂先搬送の個所で搬送詰まりおよび異常負荷が発生したとき

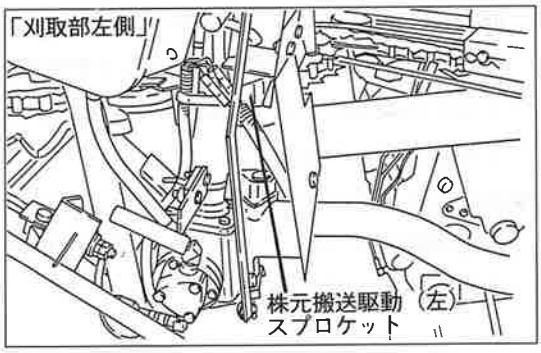
❶ 刈取搬送部・トルクリミッタ

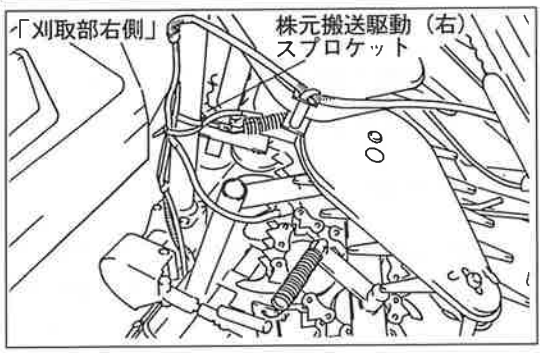
(1) 作業中，刈取部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まり等）が発生し「**カタカタ音**」を発しているときは，株元搬送およびこぎ深さ搬送のいずれかの「**トルクリミッタ**」が作動して駆動スプロケットが空転して搬送が停止します。

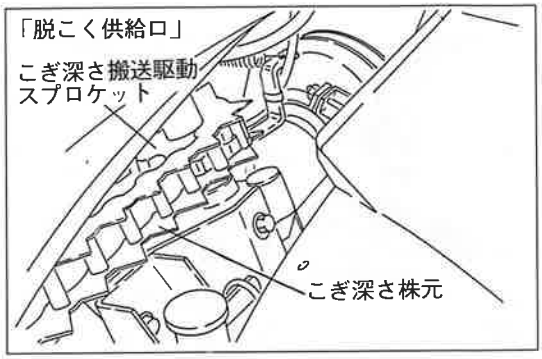
(2) ただちに作業を中止し，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《**切**》にし，エンジンを停止します。

(3) 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に「**固定脚**」をかませ，詰まり個所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

(4) 副変速レバーを《**N**》にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）にし，作業機，刈取クラッチレバーを《**入**》にし，主変速（無段変速）レバーを《**F 3**》程度で搬送が正常に回転することを確認してから作業を開始します。







❷ こぎ深さ搬送ガイドの着脱

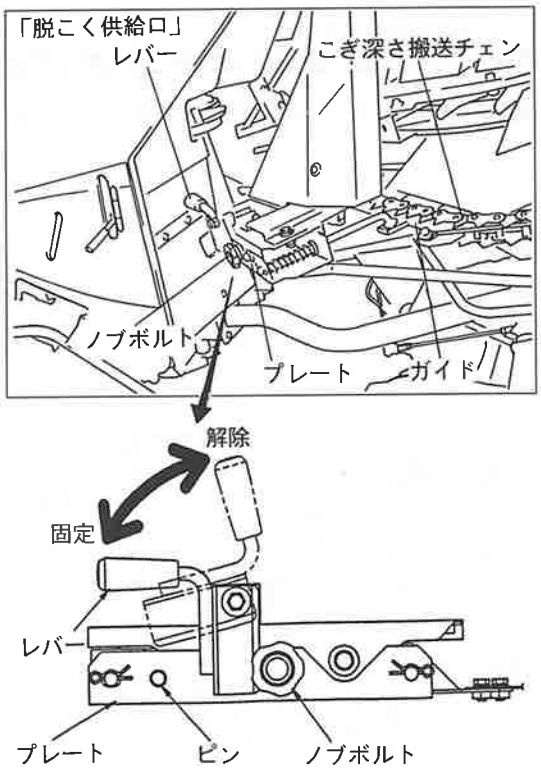
刈取り作業中にこぎ深さ搬送の個所で搬送詰まりが発生したときは，ガイドを外すことにより詰まりを容易に取除くことができます。

「取外し手順」

(1) 刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを切りエンジンを停止します。

(2) ノブボルトを緩め，取外します。

(3) レバーを持ち上げ解除にするとプレートが外れ，ガイドが外れます。



「装着手順」

(1) プレートのピンを穴に合わせノブボルトを締付けます。

(2) レバーをノブボルトに当たるまで倒すと，ガイドが固定されます。

10 エンジン自動停止の取扱い

安全のポイント

◆詰まり等の異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《STOP 切》位置にして作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを切ってから，平坦な場所で詰まりを取除いてください。

◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業はこぎ胴部を持ち上げ，「カチッ」という音を確認し（こぎ胴部自動ロック）ゆっくり手をはなしてから行なってください。

（97～98ページ参照）

◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業はカッタをオープンしてストッパをかけてから行なってください。

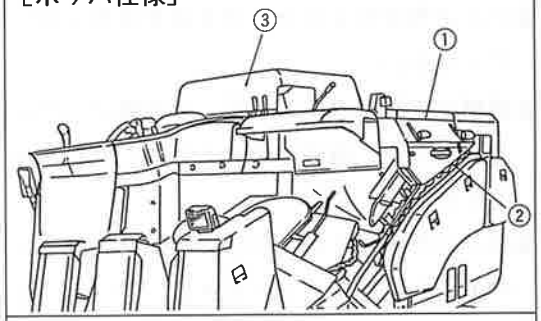
（106～107ページ参照）

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前にこぎ胴部を閉めて機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

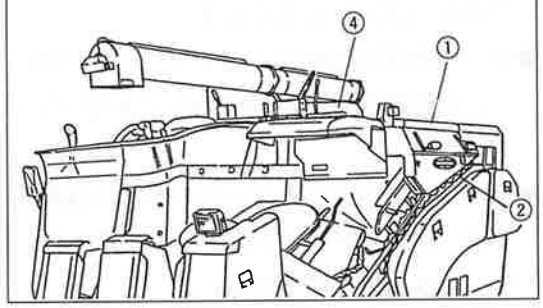
刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生したとき，機械の破損や変形を未然に防ぐためつぎの個所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理インジケータランプまたはモミ処理インジケータランプが点灯してエンジンが自動停止します。

① 排ワラチェン
② 脱こくフィードチェン終端
③ ホッパ（オーバーフロー）
④ グレンタンク（オーバーフロー）

［ホッパ仕様］



［グレンタンク仕様］



❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《STOP 切》位置にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを切ってから，詰まりやオーバーフローを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，副変速レバーを《N》（中立）にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》（低速）にし，作業機クラッチレバーを《入》にして，正常に回ることを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

●こぎ胴部を閉じるときは，脱こくフィードチェン，排ワラチェン部のワラを取除いてから閉じてください。

11 手こぎ作業

安全のポイント

◆手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしな

いでください。

◆手こぎ作業をするときは手袋を使用しないでください。

◆機械を走行しながらの手こぎ作業はしないでください。機械の走行を停止して行なってください。

◆手こぎ作業をするときは，機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災予防）

◆作業機クラッチレバーは周囲の人に合図してから《入》にしてください。

◆手こぎ作業は刈取クラッチレバーを《切》にし刈取部の作動停止を確認してから行なってください。

◆カッタの切ワラがたまったら機械を移動するか，作業機クラッチレバーを《切》にし，切ワラを取除いてください。

◆カッタの切ワラがカッタ下部力バー内にたまりますと，ワラ処理インジケータランプが点滅し連続音が鳴ります。
ただちに手こぎ作業をやめ，作業機クラッチレバーを《切》にし，コンバインを前進させ，エンジンを停止し点検してください。

❶ ［水平制御仕様］機は，水平自動スイッチを「ＯＦＦ」にし傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

❷ 主変速（無段変速）レバーを《Ｎ》（中立）にし，走行を停止します。

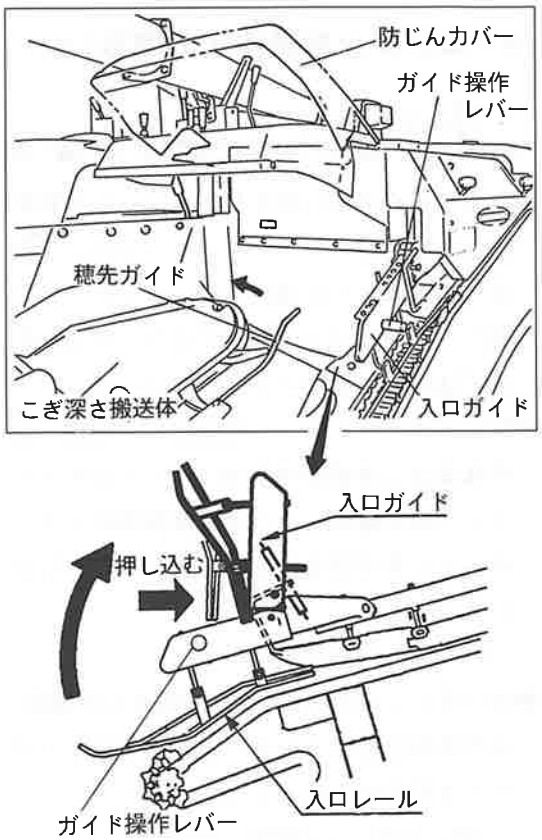
❸ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》にします。

❹ 刈取部をいっぱいに「下げ」て，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチ操作で「最深こぎ」位置にします。

❺ 防じんカバーを上方に開きます。

❻ 穂先搬送の穂先ガイドを矢印方向に寄せます。

❼ ガイド操作レバーを握り入口ガイドを持ち上げ，入口レールの下側を押し込みます。



❽ 作業機クラッチレバーを《入》れ，エンジン回転を「色別表示の上限」にセットします。

❾ 手こぎ作業をします。

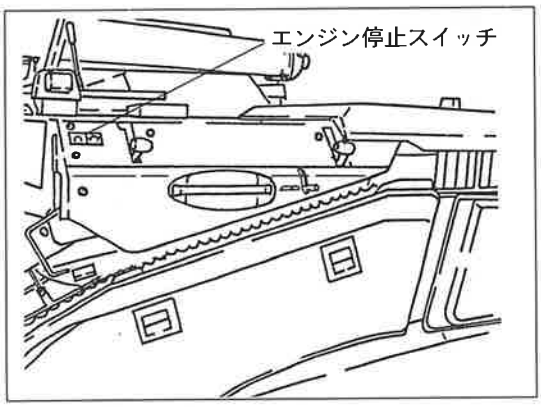
❿ 手こぎ作業が終わったら，作業機クラッチレバーを《切》にして入口ガイド，穂先ガイド，防じんカバーを元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体を手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

- バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。
- 防じんカバーを開いたままでこぎ胴部を開けると防じんカバーが破損する恐れがありますので，元の位置に戻してください。

12 エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中等に万一トラブルが発生したときにこのエンジン停止スイッチを使用してエンジンを停止します。



取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《STOP 切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。

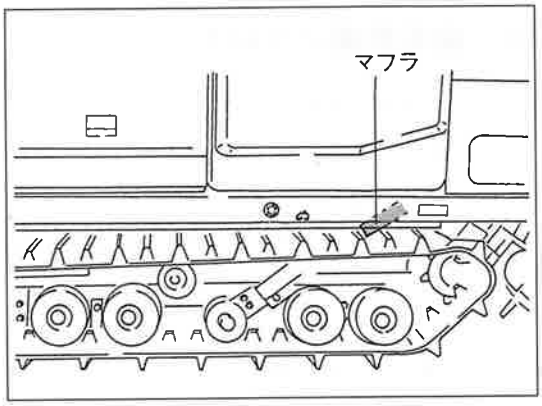
13 刈取り作業終了後の取扱い

安全のポイント

◆機械をワラクズのたまった近くや枯草の上に止めないでください。マフラ排気口に触れ火災の原因になることがあります。

◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。エンジンが熱いと火災の原因になることがあります。

◆火災防止のためエンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲やベルトカバー内のワラクズ等を掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速（無段変速）レバーを《N》（中立）の位置にします。

❷ 刈取クラッチレバーおよび作業機クラッチレバーを《切》の位置にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》（低速）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから停止します。

❺ 作業後の手入れ

・コンバインをきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

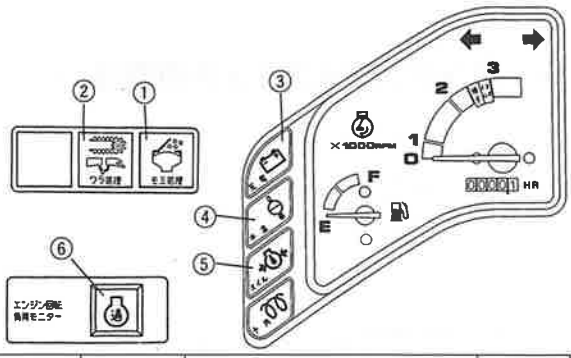
取扱いのポイント

- 作業機クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。
- 水洗いするときは，エンジンまわりの電気配線部および，運転席前側のマイコンユニット装着部，運転パネルには水をかけないでください。故障の原因となります。

14 警報装置について

つぎの個所に異常が発生した場合は，インジケータランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常個所を確認して，つぎの処置を行います。



No	名称	現象	警告の方法 インジケータランプ	警告の方法 ブザー	警告の方法 エンジン	解除方法	点検と処置	参照ページ
①	モミ処理	満杯	点灯	断続	—	警報入切ボタン「押す」または作業機クラッチレバー《切》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	11
		モミオーバーフロー		断続	停止		ホッパまたはグレンタンク内のこく粒を排出します。	
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	作業機クラッチレバー《切》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	11
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
		カッタ下部カバー詰まり	点滅		—		カッタ下部カバー内に切ワラが詰まっていますので取除きます。	
		ノッタひも切れ					ひもが切れているか，ひもがなくなっていますので点検します。	
③	充電	充電不足	点灯	—	—	スタータスイッチ《STOP 切》	・スタータスイッチ《OO 入》で点灯し，エンジンを始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルトを張ります。	9
④	水温	オーバーヒート	点灯	連続	—	スタータスイッチ《STOP 切》	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。 ・エンジンを停止し，防じんフィルタ，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	9
⑤	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	—	—	スタータスイッチ《STOP 切》	・スタータスイッチ《OO 入》で点灯し，エンジン始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	9
⑥	エンジン回転負荷モニタ［320型］	エンジン回転が下がる	点滅	断続	—	走行速度を下げる	・走行速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。	13

4 ワラ処理部の取扱い

安全のポイント

◆回転部にワラ等の巻付きが発生したとき，または異物が混入したときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，ワラ等を取除いてください。

◆巻付き等を取除くときは，カマ等を使用し，手ではカッタ刃にふれないでください。

◆同じ場所で手こぎをするときは，カッタの切ワラがたまったら機械を移動するか，作業機クラッチレバーを《切》にし，切ワラを取除いてください。

◆カッタの切ワラがカッタ下部カバー内にたまりますと，ワラ処理インジケータランプが点滅し警報ブザーの連続音が鳴ります。ただちに手こぎ作業をやめて作業機クラッチレバーを《切》にし，コンバインを前進させてエンジンを停止し点検してください。

◆路上走行時はカッタ下部カバーを収納してください。

◆路上走行時およびカッタ作業時は穂先開閉カバーを閉じてください。

取扱いのポイント

- カッタ排ワラ切替レバー操作は搬送通路のワラを完全に排出してから行います。
- 脱こく作業中の切替え操作はしないでください。詰まりの原因となります。
- こぎ胴部を開いた状態でカッタ排ワラ切替レバーの切替えは行わないでください。

1 カッタ作業

・工場出荷時は下部カバーは作業状態にセットしてあります。

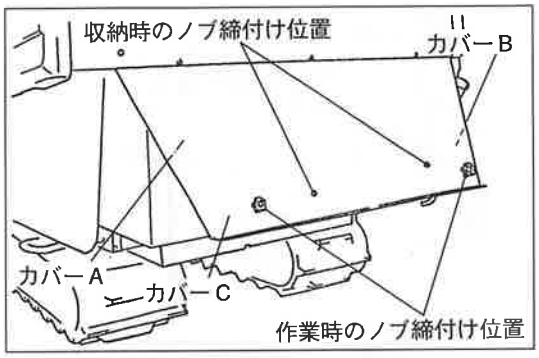
❶ 下部カバーが収納状態の場合は作業状態にします。

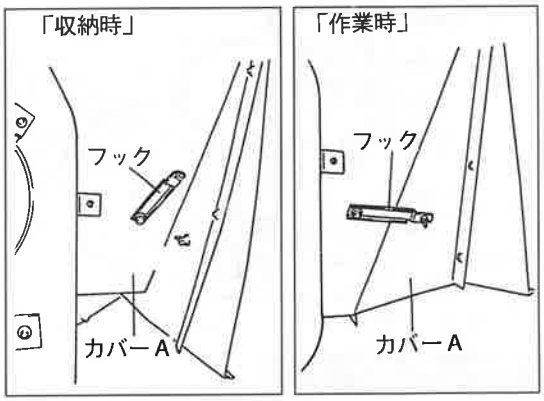
(1) ノブボルトを外し，作業位置にします。

(2) 左側のカバーAのフックを締付けます。

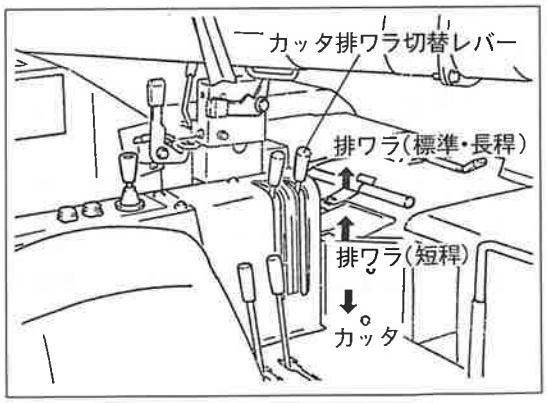
(3) 右側のカバーBのフックも左側と同様に締付けます。

(4) 収納は，逆の手順で下部カバーを閉じます。





❷ カッタ排ワラ切替レバーを《カッタ》位置にします。



❸ 出荷時は切ワラ切断長のセット位置は《短切り》にセットしてあります。

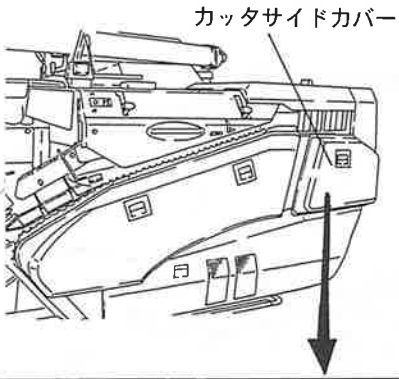
・《長切り》に切替える場合はカッタサイドカバー（左）を外し，切ワラ切断長切替レバーを《長切り》にセットします。

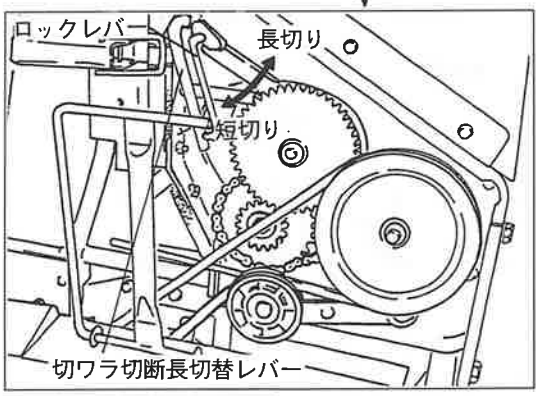
・切断長切替レバーはロックレバーを手前に引いた後，回動します。

《短切り》……切断長約60（40）㎜

《長切り》……切断長約180（160）㎜

（（ ）寸法は［スーパーマルチカッタ仕様］の切断長を示します）





取扱いのポイント

- 下部カバーを収納状態ではカッタ作業をしないでください。切ワラが下部カバー部で詰まります。
- 刃の切れ味が低下すると巻付きが発生しやすくなりますので，刃の保守管理を行なってください。
- 倒伏した稲の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形する恐れがありますので，50a（アール）作業ごとにカッタ内を点検し，巻付いている場合はエンジンを停止してからカッタ内を掃除してください。

2 排ワラ作業

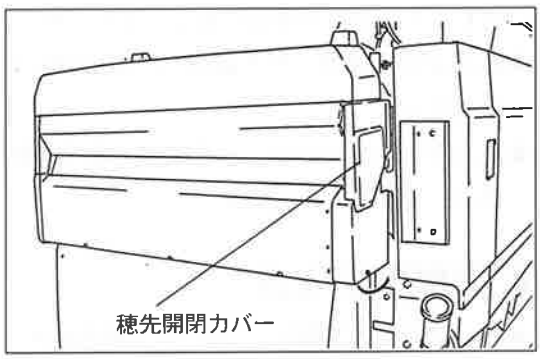
排ワラ作業には，①脱こくされた稈をそのまま排出する作業，②ドロッパ作業，③ノッタ作業があります。

❶ カッタ・排ワラ切替レバーを《排ワラ・標準長稈》位置で使用します。

・通常はこの位置で使用します。

・ワラが短いとき，ノッタで穂先側を結束したいとき，ドロッパ作業で排ワラがドロッパ装置の穂先側に片よりバランスがとれないときには，《排ワラ・短稈》位置で使用します。

❷ 穂先開閉カバーを開きます。



取扱いのポイント

- ノッタ・ドロッパは別売りです。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。

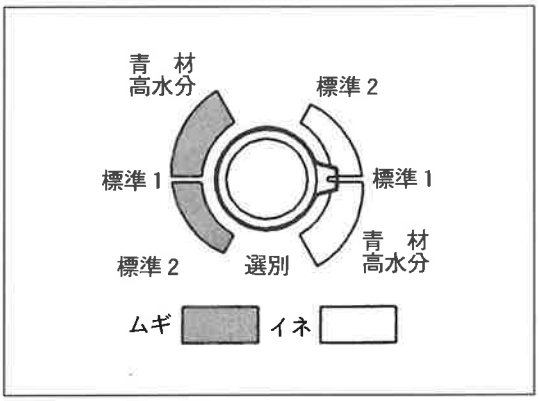
5 麦刈り作業のしかた

工場から出荷のときは，「稲作業セット」にしてあります。

麦刈り作業をするときは，つぎの個所を「麦作業セット」に切替え調整します。

1 選別ダイヤルの調節

麦刈り作業をするときは，ダイヤルを《麦標準１》位置にセットします。なお作業条件により，つぎのように使いわけてください。



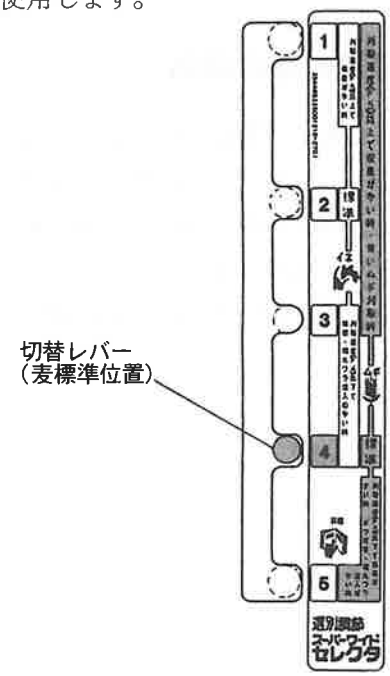
・標準１…通常の麦刈り作業
・標準２…標準１で選別が悪いとき
・青　材
　高水分…青い材料又は水分が多い材料を刈取る場合

取扱いのポイント

- 選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，ワラクズ等が排出された後に行なってください。
- 脱こく内部にワラクズ等がたまっていると，選別自動が作動しない場合があります。
- 選別自動スイッチ「ON」（ランプ点灯）状態で作業すると刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。
- 選別自動スイッチ「OFF」（ランプ消灯）状態でも作業に支障はありませんが良好な選別状態を得られない場合があります。

2 スーパーワイドセレクタの調節

切替レバーを《ムギ・標準》にします。作物条件と刈取り速度により次のように使いわけて使用します。



4位置……麦刈り作業の標準位置。
5位置……刈取り速度F5以下で収量が少ない材料，または芒(ぼう)付着・切ワラ混入が多いとき。
3位置……刈取り速度F5以上で収量が多い材料か，青いムギの刈取り時。
2 1位置…より収量が多く選別が良い材料。2から1へと位置を変えます。

取扱いのポイント

- スーパーワイドセレクタ切替レバーの操作は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，揺動流板上のワラクズなどが排出された後に行なってください。
- シーズン途中や格納前に切替レバーがスムーズに動くように時々レバーを操作してください。

3　こぎ胴回転数のセット

こぎ胴回転数のセットは10～11ページを参照します。

4　刈刃の高さ調節

・出荷のときは「下セット」になっています。

うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，刈刃のカラーを入れ替えて「上セット」にします。

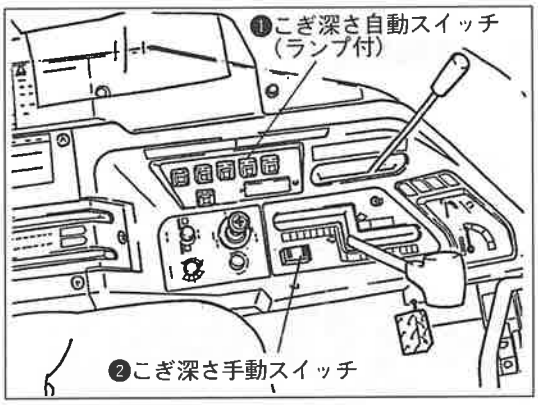
・セット方法は115～116ページを参照します。

自動装置について

1 こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長短を搬送の途中に設けたセンサで検出して適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に手動スイッチで手動操作すると手動が優先となります。

1 運転装置



こぎ深さ調整は，「**自動制御**」と「**手動**」の，二通りの操作が可能です。

- **自動制御中はこぎ深さ調整の必要はありません。**

ただし，倒伏角45°以上の倒伏材および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除してこぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

❶ こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《 ⟳ 入》位置にするとこぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態になります。

- こぎ深さ自動スイッチ内ランプ点灯時にこぎ深さ自動スイッチを押すとランプが消灯し，こぎ深さ自動は作動しません。
- 再度，こぎ深さ自動スイッチを押すとスイッチ内のランプが点灯しこぎ深さ自動が作動状態となります。



取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯してもこぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**
- **自動制御が故障のときはこぎ深さ手動スイッチによって，手動で操作してください。**

❷ こぎ深さ手動スイッチ

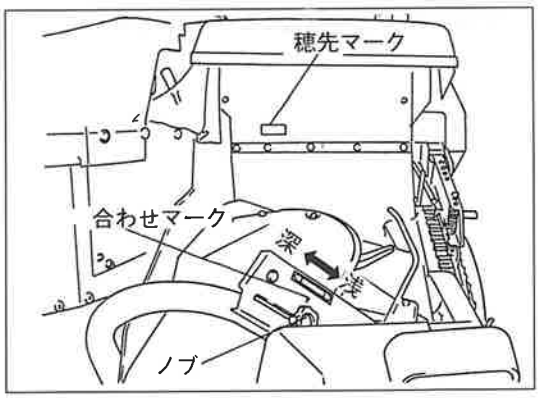
取扱い方は12ページを参照します。

❸ ヒューズ

取扱い方は23～25ページを参照します。

2 こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは工場からの出荷のときは「**標準**」（合わせマークの中央）の位置に調整してあります。



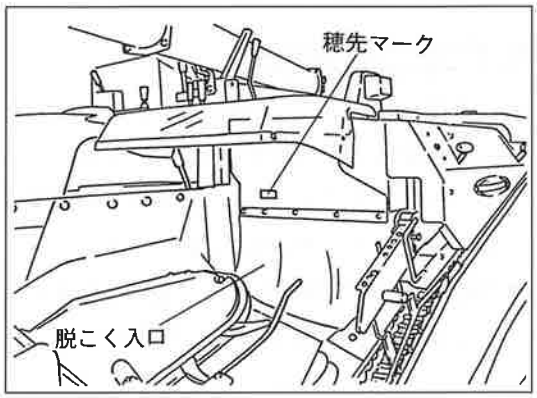
- つぎのようなときには，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを「**深く**」したいときは，センサケースを矢印の《深》方向へ移動します。こぎ深さを「**浅く**」したいときは《浅》方向へ移動します。

・調整後はノブを確実に締めてください。

取扱いのポイント

●穂先が脱こく入口の「穂先マーク」の位置にくるように，こぎ深さセンサを調整して適正なこぎ深さで作業をしてください。



3 こぎ深さ自動制御が使えない条件

・つぎの状態ではこぎ深さ自動スイッチ「ＯＦＦ」（ランプ消灯）にし，手動スイッチで調整操作します。

○倒伏角45°以上の倒伏作物
○くされ状態の作物
○雑草が多いとき
○作物の長さが極端に変動するとき

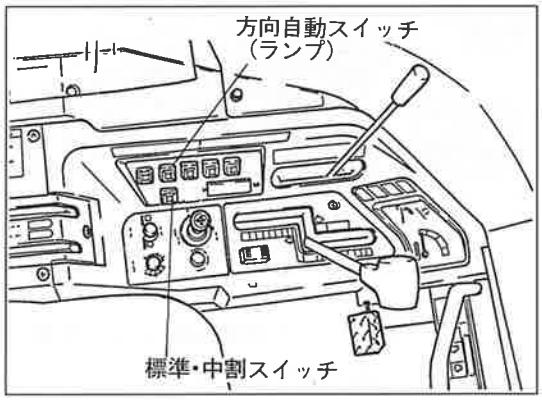
2 方向自動制御［A仕様］

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動操行作業することができます。またマルチステアリングレバーを操作すると自動制御は「解除」され，手動操作優先となります。

安全のポイント

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしする時は，方向自動スイッチを「ＯＦＦ」にしてください。

1 運転装置



❶ 方向自動スイッチ

・「ＯＮ」……押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが「ＯＮ」の状態であることを表示します。



・「ＯＦＦ」…「ＯＮ」の状態から再び押すとランプが消え，方向自動制御は作動しません。



❷ 標準・中割スイッチ

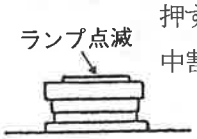
条刈り作業（横刈り含む）と中割作業を切替えるスイッチです。

・切替えは，方向自動「ＯＮ」状態で行います。

「標準」……条刈り，横刈り作業のときはランプ点灯で使用します。



「中割」……ランプ「点灯」の状態から再び押すとランプが「点滅」します。中割り作業に使用します。



取扱いのポイント

●方向自動スイッチ内ランプが点灯しても方向自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

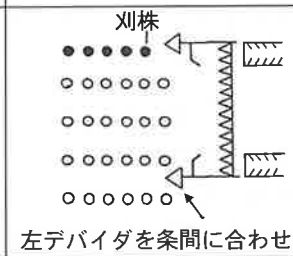
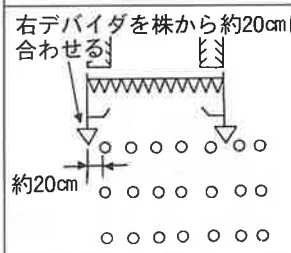
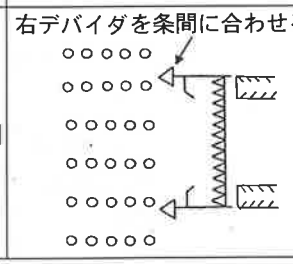
2 作業のしかた

❶ スイッチの操作・条合わせのしかた

(1) 方向自動スイッチを「ＯＮ」(ランプ点灯)にします。

(2) 標準・中割スイッチを作業状態に合わせます。

(3) 機械が条列にまっすぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

	標準・中割スイッチ	条合わせのしかた
条刈り	スイッチのランプを「点灯」にする	
横刈り		
中割り	スイッチのランプを「点滅」にする	

❷ 刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタ（オプション）を手動操作すると，「手動優先」で進路をかえることができます。

❸ 旋回時の操作

旋回する時は，マルチステアリングレバーで手動操作します。

この時に方向自動スイッチを「ＯＦＦ」にする必要はありません。

取扱いのポイント

●条合わせは機械が条列にまっすぐになるようにしてください。斜めになった時は条外れすることがあります。

●横刈りは，２～３行程繰返すと，右デバイダが未刈株に接近しすぎたり，離れすぎたり，機械が大きく蛇行することがあります。この時はマルチステアリングレバーで修正してください。

●中割り作業時左１条目の刈跡が大きく乱れるような時は，方向自動スイッチを「ＯＦＦ」（ランプ消灯のまま）にし，マルチステアリングレバーで手動操作してください。

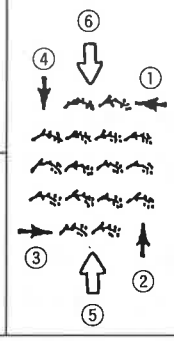
3 方向自動制御の使えない条件

つぎの条件では方向自動スイッチを「ＯＦＦ」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

・斜め刈り
・あぜぎわ刈り
・雑草が多いとき
・バラまきほ場
・湿　田
・条間および株間が極度に乱れているとき
・稈量が少ないとき
・欠株が多いとき
・植付条間が28㎝未満の正条植えほ場
・植付条間が33㎝を超える条植えほ場

・つぎのような倒伏材

刈取り方向 ＼ 倒伏程度		倒伏程度		
		倒伏	中倒伏	立毛状態
標準刈取り	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○
中割刈取り	⑤右倒伏中割	×	×	○
	⑥左倒伏中割	×	×	○

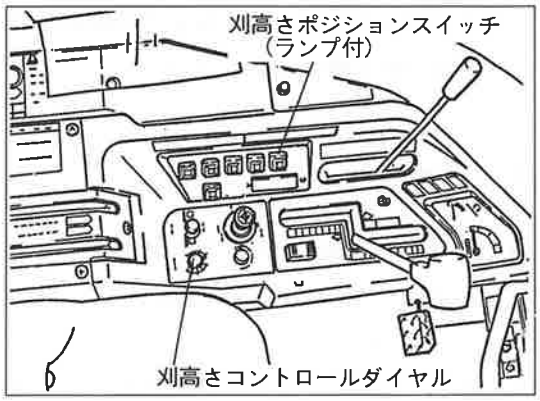


○機械刈取り可能　　×機械刈取り不可能

3 刈高さポジションコントロール

刈高さコントロールダイヤルにより，シートに坐ったまま手元操作で刈取部の高さを任意に調節することができます。

1 運転装置



❶ 刈高さポジションスイッチ

スタータスイッチを《 ∞ 入 》位置にすると刈高さポジションスイッチ内ランプが点灯し，刈高さポジションコントロールが作動状態になります。

・刈高さポジションスイッチ内ランプ点灯時に，刈高さポジションスイッチを押すと，ランプが消灯し，刈高さポジションコントロールは作動しません。

・再度，刈高さポジションスイッチを押すと，ランプが点灯し，刈高さポジションコントロールが作動状態となります。





❷ 刈高さコントロールダイヤル

・刈高さの調節は刈高さコントロールダイヤルの操作によって，希望する「刈高さポジション」を設定することができます。



・刈高さコントロールダイヤルは《標準》位置が適正な刈高さの使用位置です。
・「乾田」……《標準》の位置
・「湿田」……《標準》と《高》の間の位置

❸ ヒューズ

取扱いは23～25ページを参照します。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションコントロールを使用しないときは刈高さポジションスイッチを押してランプを消灯してください。
- ほ場の軟弱さによって刈高さ位置が変化します。デバイダが土中に突っ込まないように刈高さコントロールダイヤルで合わせてください。
- ほ場の凹凸が極端に多く，刈高さを頻繁に調節する必要があるときは，刈高さポジションスイッチを押してランプを消灯し，マルチステアリングレバーで手動操作してください。
- 刈高さコントロールダイヤルをどの位置にセットしても刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。

2 自動での作業のしかた

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件にあわせて，低く刈取るときは《低》の方向に，高く刈取るときは《高》の方向にダイヤルをセットします。

(1) 刈高さポジションスイッチ「ON」（ランプ点灯）を確認します。
(2) 刈高さコントロールダイヤルを《標準》位置にセットします。
(3) マルチステアリングレバーを《下げ》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

(1) 刈高さコントロールダイヤルを少し《低》側へ回します。
(2) 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

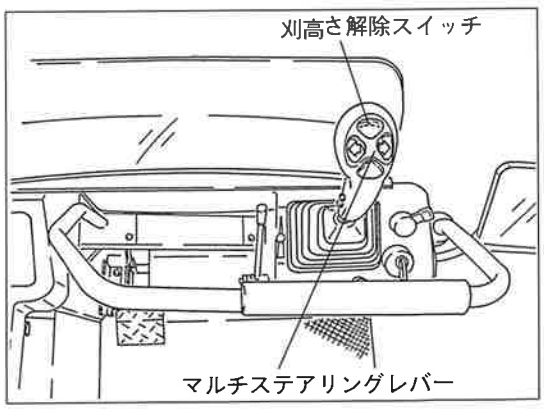
❸ 刈高さが低すぎる場合

(1) 刈高さコントロールダイヤルを少し《高》側へ回します。
(2) 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションスイッチ内ランプが点灯しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》に操作しても刈高さセット位置以下には下がりません。
- 刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。
- 再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。

❹ 刈高さ解除スイッチの使用



(1) 刈高さ解除スイッチを押しながら，マルチステアリングレバーを《下げ》にすると刈取部は刈高さコントロールダイヤルに関係なく通常のマルチステアリングレバー操作の《下げ》となります。

(2) 刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときは，マルチステアリングレバーの刈高さ解除スイッチを押して使用します。但し刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下りません。

(3) 刈高さ解除スイッチの操作をやめると約１秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。

取扱いのポイント

●刈高さポジションスイッチのランプが消灯している時は，上記(1)～(3)の機能は働きません。

3 手動での作業のしかた

刈高さポジションスイッチを押してランプを「消灯」状態にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

4 水平自動制御［水平制御仕様］（ジャストマチック）

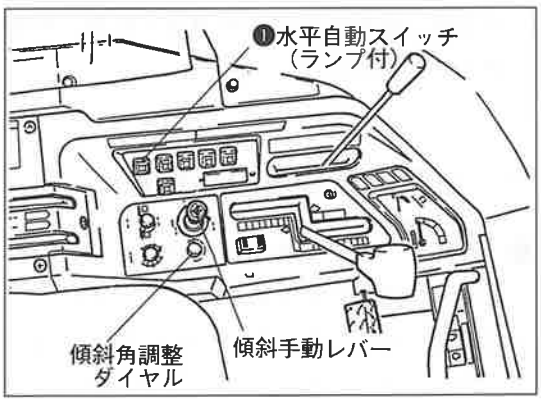
・水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「傾斜手動レバー」で機体全体を持上げることもできます。

・あぜぎわや溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ傾斜角調整ダイヤルで一定の角度に傾斜させて作業ができます。

安全のポイント

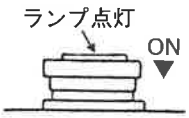
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時や水平自動制御を使用しない時には，水平自動スイッチを「ＯＦＦ」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げて行なってください。機体が上がった状態では，機体の重心バランスがくずれ転倒しやすくなります。

1 運転装置



❶ 水平自動スイッチ

・「ＯＮ」……押すとランプが点灯し，水平自動スイッチが「ＯＮ」の状態であることを表示します。



・「ＯＦＦ」…「ＯＮ」の状態から再び押すとランプが消え，水平自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

●水平自動スイッチ内ランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

❷ ヒューズ

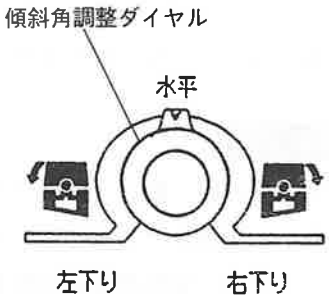
取扱い方は23～25ページを参照します。

❸ 傾斜角調整ダイヤル

傾斜角調整ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた制御をすることができます。

・ダイヤルを《右下り》の方向に回すと，機体は右下がりになります。

・ダイヤルを《左下り》の方向に回すと，機体は左下がりになります。



❹ 傾斜手動レバー

取扱い方は21～22ページを参照します。

2 作業のしかた

❶ 作業前

傾斜角調整ダイヤルで，機体を希望の角度に調整します。

❷ 刈取り作業

作業機クラッチレバー《入》で水平自動制御が作動します。

作業機クラッチレバー《切》のときには水平自動制御は作動しません。

❸ 作業終了時

作業が終了したら，水平自動スイッチを「ＯＦＦ」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

取扱いのポイント

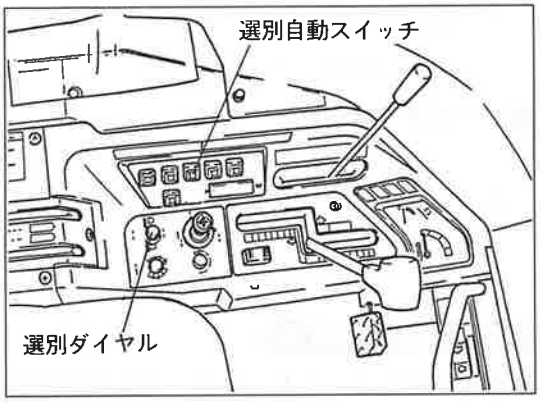
●水平自動スイッチが「ＯＮ」でも傾斜手動レバーを操作すると「手動優先」で機体の高さ，傾斜角を変えることができます。
但し，傾斜手動レバーをはなすと傾斜角は傾斜角調整ダイヤル設定位置に戻ります。

●自動制御中，機体の高さを変えたいときは傾斜手動レバーを操作してください。

5 選別自動制御

選別自動は，脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板のスイングシーブの角度を調整し，刈取条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。

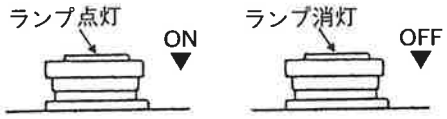
1 運転装置



❶ 選別自動スイッチ

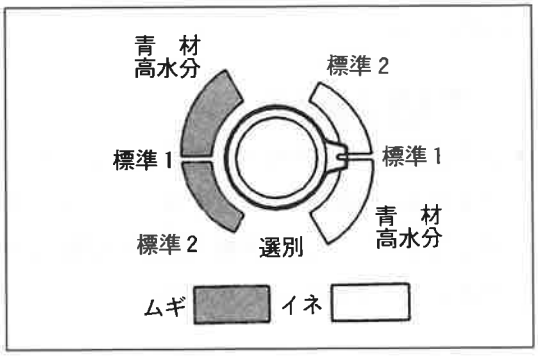
スタータスイッチを《 入 》位置にするとランプが点灯し，選別自動が作動状態になります。

- 選別自動スイッチ内ランプが点灯時に選別自動スイッチを押すとランプが消灯し選別自動は作動しません。
- 再度，選別自動スイッチ押すとスイッチ内ランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



❷ 選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



《イネ》

- 標準１…通常の刈取り作業
- 標準２…標準１で選別が悪いとき
- 青　材…青い材料又は
  高水分　水分が多い材料を刈取る場合

《ムギ》

- 標準１…通常の麦刈り作業
- 標準２…標準１で選別が悪いとき
- 青　材…青い材料又は
  高水分　水分が多い材料を刈取る場合

❸ ヒューズ

取扱い方は23～25ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，ワラクズ等が排出された後に行なってください。**
- **脱こく内部にワラクズ等がたまっていると，選別自動がセットできない場合があります。**
- **選別自動スイッチ「ON」（ランプ点灯）状態で作業すると刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「OFF」（ランプ消灯）状態で作業するときも選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**

●選別自動スイッチ「OFF」（ランプ消灯）状態でも作業に支障はありませんが良好な選別状態を得られない場合があります。

●スタータスイッチを《ON 入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。

6 排出オーガ自動制御

［グレンタンク仕様］

・排出オーガ自動は，自動収納スイッチの操作により，排出オーガが自動的に排出位置から格納位置まで動きます。

・［320型A，D仕様］は自動旋回スイッチの操作により，排出オーガが自動的に格納位置から排出位置まで動きます。

安全のポイント

◆排出オーガの自動は排出オーガがいっぱい上昇してから旋回します。旋回周囲に電線や立木等の障害物がない所でのみ使用してください。

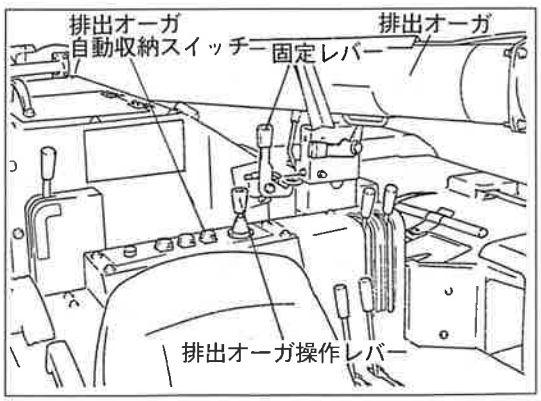
◆自動車の荷台等排出オーガの旋回範囲に人がいる場合は，自動収納や自動旋回は使用しないでください。

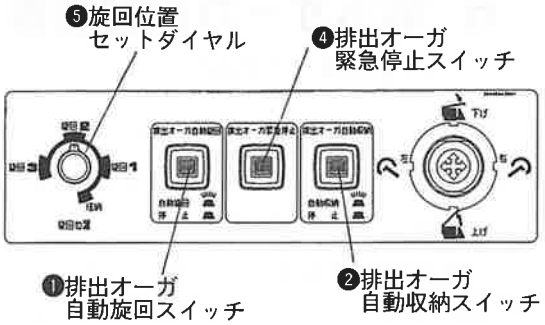
◆排出オーガの操作は機械の走行を停止して行なってください。

◆排出オーガ自動収納（又は自動旋回）時に緊急で停止したい場合は，排出オーガ緊急停止スイッチを押して止めてください。
旋回範囲近くに障害物がある場合は排出オーガ操作レバーで排出オーガを収納操作してください。

◆［キャビン仕様］はキャビンから顔や手を出して自動旋回や自動収納はしないでください。

1 運転装置

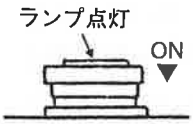




❶ 排出オーガ自動旋回スイッチ

［320型A，D仕様］

・「ＯＮ」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に上昇後旋回位置セットダイヤルのセット位置まで旋回します。



・「ＯＦＦ」…ＯＮの状態から再び押すとランプが消え，排出オーガは停止します。



❷ 排出オーガ自動収納スイッチ

・「ＯＮ」……押すとランプが点灯し，排出オーガは排出位置から自動的に旋回収納します。



・「ＯＦＦ」…ＯＮの状態から再び押すとランプが消え，排出オーガは停止します。



取扱いのポイント

- **自動旋回は排出オーガが格納位置にあるときにだけ作動します。自動旋回スイッチの操作は排出オーガの固定レバーを解除してから行なってください。**
- **スイッチを「ＯＮ」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**
- **自動旋回及び収納が故障のときは排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。**

❸ ヒューズ

取扱い方は23～25ページを参照します。

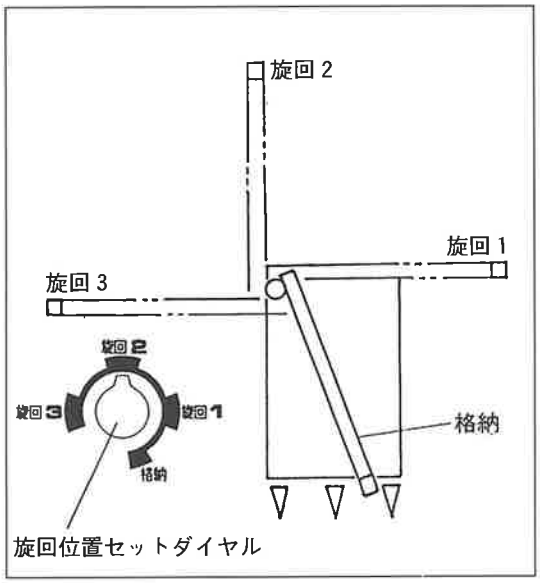
❹ 排出オーガ緊急停止スイッチ

・排出オーガが自動旋回及び自動収納途中での排出オーガ停止に使用します。

❺ 旋回位置セットダイヤル

［320型A，D仕様］

旋回位置セットダイヤルの操作によって，3個所の《排出位置》を設定することができます。



・ダイヤルを《旋回１》の位置に合わすと，排出オーガは機械に対して左横まで旋回します。

・ダイヤルを《旋回２》の位置に合わすと，排出オーガは，機械に対して後方まで旋回します。

・ダイヤルを《旋回３》の位置に合わすと，排出オーガは，機械に対して右横まで旋回します。

取扱いのポイント

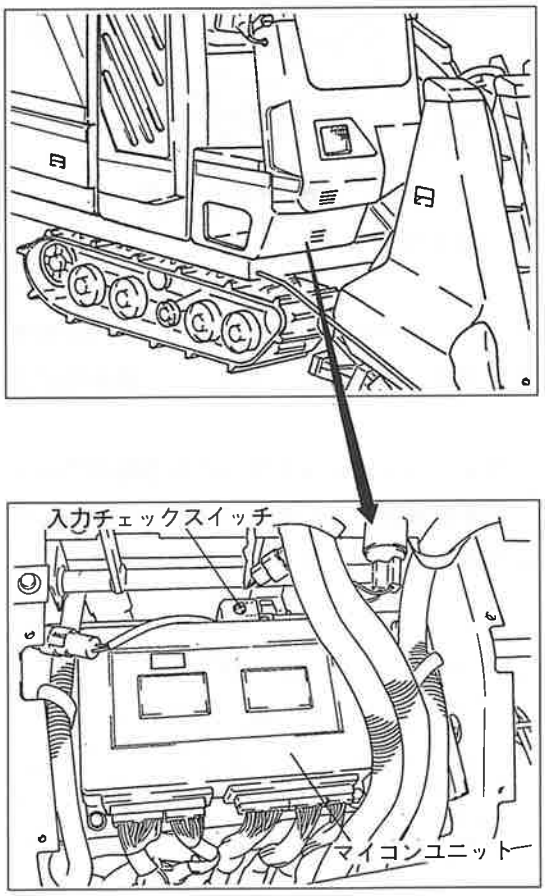
- **旋回位置セットダイヤルを3個所の表示セット位置以外にセットすると自動旋回スイッチを押しても排出オーガは作動しません。**

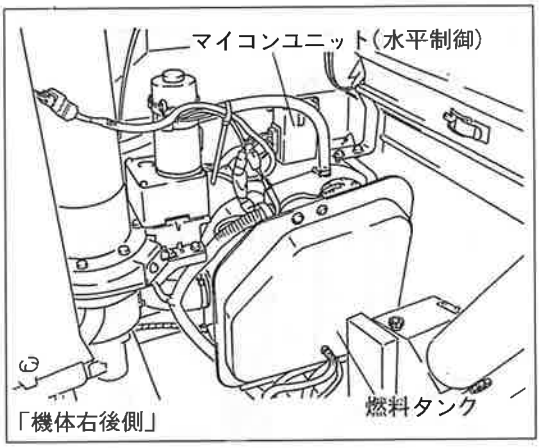
7 マイコン（マイクロコンピュータ）

高性能マイクロコンピュータが搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

❶ マイコンによる制御機能

- こぎ深さ自動
- 方向自動［A仕様］
- 刈高さポジションコントロール
- 水平自動［水平制御仕様］
- 選別自動
- ホーン・モミ警報・その他各種警報
- マルチステアリングレバー
- 排出オーガ
- エンジン停止制御
- 減速ターン［4モードターン仕様］



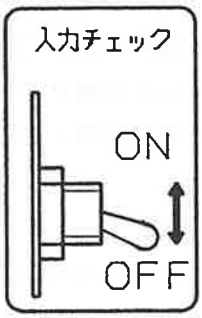


❷ ヒューズ

「マイコン」の10Aヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。（23～25ページ参照）

❸ 入力チェックスイッチ

入力チェックスイッチは，「お買いあげ先」にてスイッチ，センサの故障診断をするためのスイッチです。

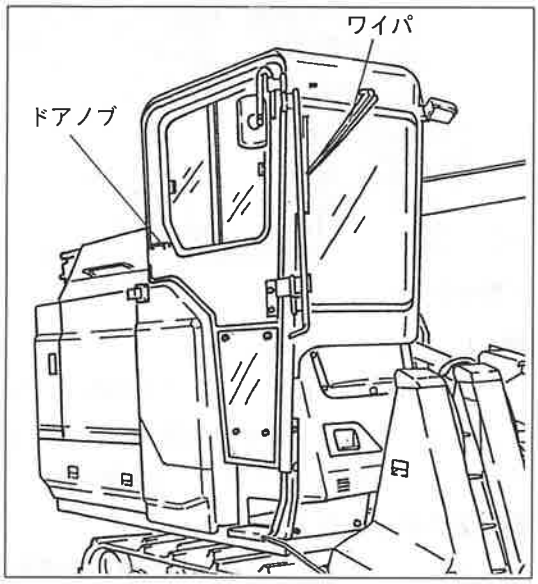


取扱いのポイント

- 入力チェックスイッチは操作しないでください。
- 入力チェックスイッチは「ＯＦＦ」側が正しい位置です。
- マイコンユニットは，洗車時，水やスチームがかからないようにしてください。
- ヒューズを交換しても再発するときや制御不能のときは，お買いあげ先に相談してください。

8 キャビンについて [キャビン仕様]

1 ドア・リヤウインドウの開閉のしかた



❶ ドア

安全のポイント

◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

・ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み，右方向に回すと施錠・左方向に回すと解錠となります。

❷ リヤウインドウ

リヤウインドウは，跳ね上げ式です。

・開けかた

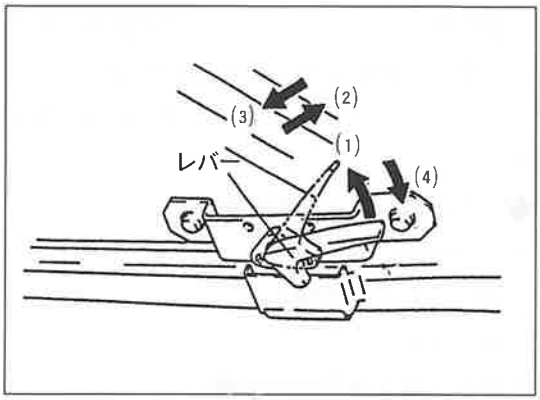
(1) レバーを左に回します。

(2) レバーを外側に押出して開けます。

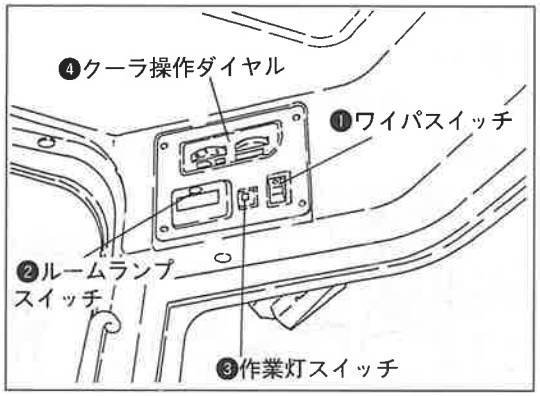
・閉じかた

(3) レバーを手前に引き，リヤウインドウを閉じます。

(4) レバーを手前に引きながら右に回し，確実に固定します。



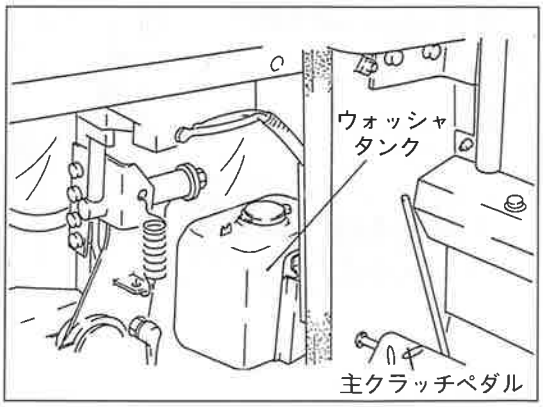
2 スイッチ類の取扱い



❶ ワイパスイッチ

スタータスイッチを《ON 入》にして，ワイパスイッチを「入」にするとワイパが作動し，「入」側を押すとウォッシャ液が噴出します。

ウォッシャ液がなくなったら市販のウォッシャ液を補充してください。タンクはキャビンの左下側の樹脂カバー内にあります。



❷ ルームランプスイッチ

ルームランプスイッチを《ON》にするとルームランプが点灯します。

❸ 作業灯スイッチ

排出オーガ先端の作業灯のスイッチ及び刈取部上部の作業灯のスイッチを《ON》(入り)にしておけば作業灯スイッチを《ON》(押す)にすることにより全ての作業灯（キャビン上部，排出オーガ先端，刈取部上部）が点灯します。(57ページ参照)

❹ クーラ

安全のポイント

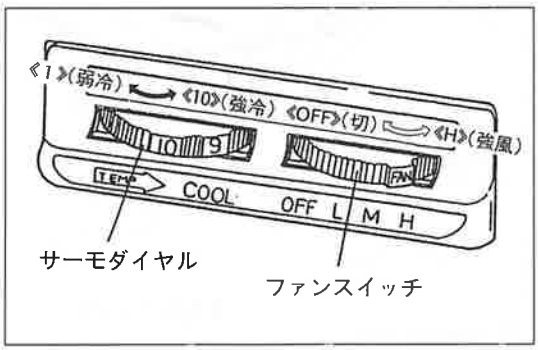
◆冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。

「操作方法」

(1) エンジンを始動します。

(2) ファンスイッチを右へ回し，クーラのスイッチを入れます。

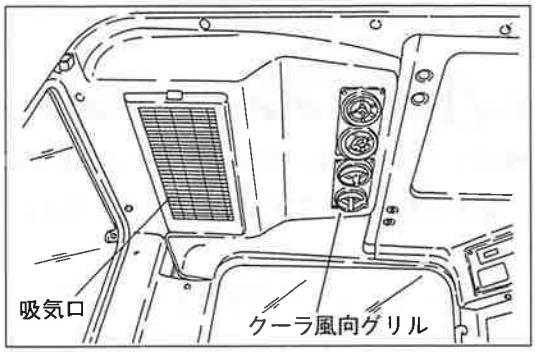
(3) ファンスイッチを右へいっぱいまで回し，《H》にセットします。

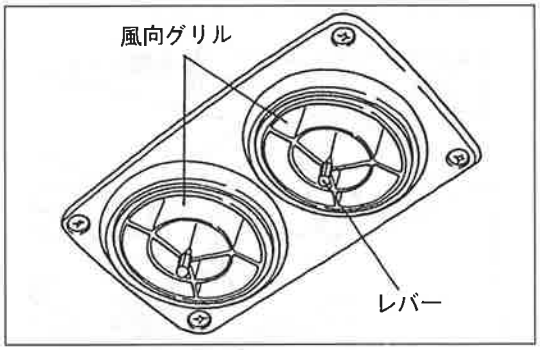


(4) サーモダイヤルを右へいっぱいまで回し《10》(強冷）にセットします。

(5) 涼しくなってきたら，ファンスイッチとサーモダイヤルで快適な温度に調節します。

(6) 風向グリルで風向きを調整します。





取扱いのポイント

- 炎天下で駐車中の室内は，60℃～70℃にも達しますので，クーラを作動する前には左右の窓ガラスを開けて外気並に冷やしてから使用してください。
- 直ちに走行する場合は，左右の窓ガラスを開けたまま走り始め，室内の暑い空気と外気を入換えてから，窓を閉めて使用してください。
- 暑いときや乗車してすぐに涼しくなりたいときは，風向グリルで直接身体に当たるようにし，涼しくなったら身体に当てず室内に冷風が循環するように方向を変えてください。
- サーモダイヤルを《10》（強冷）で長く使用すると，風向グリルに水滴が発生しますので，サーモダイヤル《10》（強冷）で長時間使用しないでください。

「吸気口の掃除」

キャビン内部のクーラ吸気口にはほこりやごみがたまりますので定期的に掃除します。

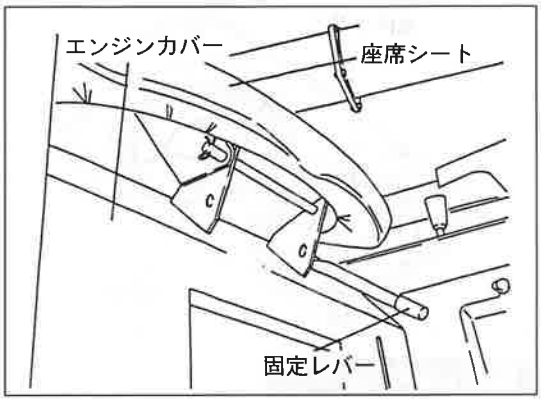
中のフィルタを引出し掃除機でほこりやごみを取除きます。

「コンデンサフィンの掃除」

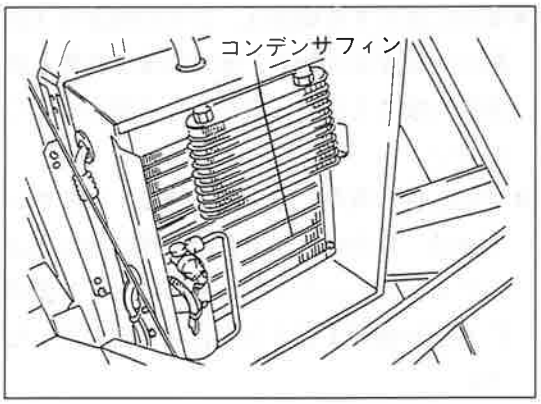
安全のポイント

◆スチーム洗浄は，冷媒の圧力が上昇して破裂の恐れがありますのでしないでください。

(1) エンジンカバーを開きます。(座席シートの左前に固定レバーがあります。)



(2) コンデンサフィンの表面にほこりやごみ，異物が付着して汚れているとクーラの冷えが悪くなります。定期的に軟らかい毛のブラシ等で水洗い掃除します。

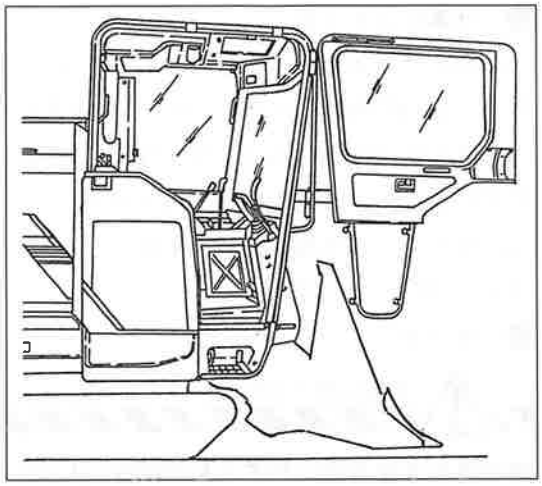


3 格納のしかた

・クーラ・ワイパ・室内灯・作業灯などの電装品のスイッチは，「ＯＦＦ」「切」位置にしてから格納します。

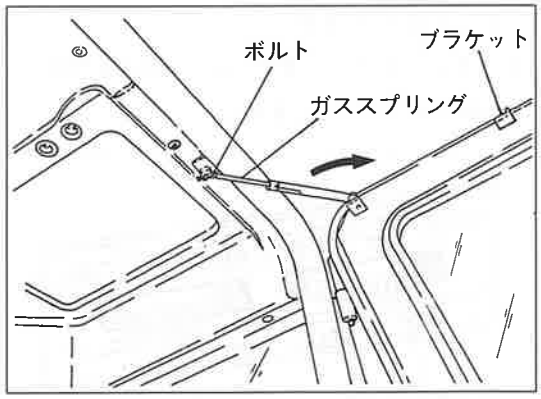
・コンプレッサ各部のオイルが切れないようにするため，１カ月に１度ぐらい低速回転で15～20分間運転します。

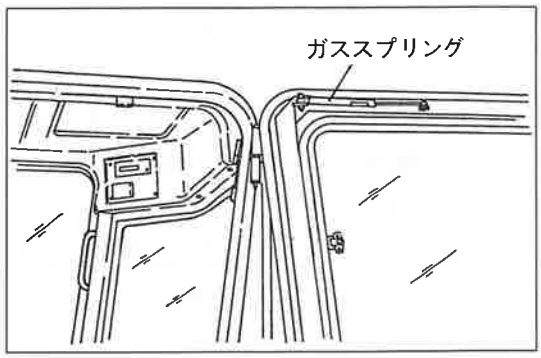
・コンバインの格納庫が狭く，ドアの開閉が困難な場合には，ドアをフルオープン状態にして格納することができます。



「ドアフルオープンのしかた」

・ドアのガススプリングを取付けているボルトを外し，ドア側のブラケットにガススプリングを付替えてボルトで取付け，ドアをフルオープンします。





・移動中及び作業中にはドアフルオープン状態で使用しないでください。

手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い，
　損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。
・オイル等を交換する時は，あらかじめオイル，フィルタ等を用意して行います。

安全のポイント

◆掃除・点検・整備は，平坦な場所に機械を置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸をあけて換気を行なってください。
◆取外したカバー類はすべて取付けてからエンジンを始動してください。
◆空運転するときもカバーを装着し，オープンしたカッタは閉じてください。
◆エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。
◆部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」にご相談ください。

1 定期点検整備表

・正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」を参考に点検・整備をします。
・「**定期点検整備表**」は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度，調整をします。
・表示記号の説明　　○……点検・整備　　●……交換

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間） シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350	450	500	600	700	800	格納時	備考	参照ページ
エンジン部	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●	●	●	●	●(550)	●(650)	●(750)	●(850)		ディーゼルエンジンオイルAPI－CD級以上，SAE10W30 3.7ℓ	29,85～86
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●		●(550)		●(750)				85～86
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給		○												●	（補助タンク含む）	29,86～87
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○						●			●		●(750)				88
	燃料フィルタ	点検・掃除	○															88～89
	ラジエータ防じんフィルタ，金網	点検・掃除	○	○												○		90
	エンジンファンベルト	点検・調整	○			○			●				●				たわみ量　10～13㎜	124
	燃料ホース	点検・交換	○	●（２年ごと）													燃料もれ点検	92
	コンプレッサベルト[キャビン仕様]	点検・調整	○														たわみ量７～10㎜	124
	ウインドウォッシャ液[キャビン仕様]	点検・補給	○														1.0ℓ，シーズン終了時液ぬき取り	31
電装部	バッテリ液	点検・補給	○															93～96
	電気配線(配線・接続部のゆるみ，損傷)	点検・修正	○	○													損傷の場合交換	92
	計器，スイッチ類	点検	○	○														8～14, 62, 67～80
走行部	油圧作動油(オイルタンク)	点検・補給・交換	○				●				●						油圧作動油　18.8ℓ	30, 90～91
	油圧ホース	点検・交換	○														油もれ点検	92
	油圧オイルフィルタ	交換					●				●							90～91
	ＨＳＴフィルタ	交換					●				●							90～91
	駐車ブレーキ	点検・調整	○															119
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○				●				●						ギヤオイルAPI・GL－5　SAE・90	30
	走行ベルト	点検・調整	○			○						●					スプリング長　217～219㎜	125
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○	○	○	○	○(550)	○(650)	○(750)	○(850)		遊び　40～55㎜	119
	マルチステアリングレバー	点検・調整	○	○	○													118

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）													備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350	450	500	600	700	800	格納時	
走行部	作業機クラッチレバー	点検・調整	○		○												120
	刈取クラッチレバー	点検・調整	○		○												120
	クローラ	点検・調整	○	○													転輪とのスキマ　15～20㎜ 135
	機体水平リフトアーム軸受部	グリスアップ	○														（L仕様） 33
刈取部	こぎ深さギヤケースオイル	点検・補給	○														ギヤオイル API・GL－4級，SAE140 1.1ℓ 31
	トルクリミッタケース(右)オイル	点検・補給	○														ギヤオイル API・GL－4級，SAE140 1.6ℓ 31
	トルクリミッタケース(左)オイル	点検・補給	○														ギヤオイル API・GL－4級，SAE140 1.7ℓ 31
	かき込みベルト	点検・調整	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○		タワミ量　5～10㎜ 130
	株元搬送チェン(右)	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　180～186㎜ 131
	株元搬送チェン(左)	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　130㎜以上 130
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　327～333㎜ 131
	かき込み搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		115，132
	穂先搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		115，133
	刈　刃	点検・調整・交換	○	○	○				●			●			●	○	スキマ　0.7㎜以下 115～116
	集中注油タンク	点検・補給	○	○													エンジンオイル　1.5ℓ 33
	刈取ベルト	点検・調整	○	○	○						●				●		120
	リフトシャットレバー	点検・調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		122
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○														ギヤオイル API・GL－5級，SAE90 0.55ℓ 32
	こぎ胴ギヤケースオイル[320型]	点検・補給	○														ギヤオイル API・GL－5級，SAE90 0.65ℓ 32
	フィードチェンギヤケースオイル	点検・補給	○														ギヤオイル API・GL－5級，SAE90 0.8ℓ 32
	脱こく入力ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			120
	こぎ胴伝動ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　169～173㎜ 125
	こぎ胴ベルト[210～270型]	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　197～201㎜ 126
	こぎ胴ベルト[320型]	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　88～92㎜ 126
	フィードチェン駆動ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　88～92㎜ 128
	1番ラセン駆動ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　122～126㎜ 128
	選別ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　154～158㎜ 127
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			スプリング長　113～117㎜ 129
	排ワラチェン	点検・調整	○	○	○						●				●		タワミ量　10～15㎜ 134
	穂先排ワラチェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		スプリング長　118～122㎜ 115，133
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○													○	100～101
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○		○												117
	ワラ切カマ	点検・研磨・交換	○						●			●			●		116～117
	脱こく受網	点検・掃除	○									●				○	99～100
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○													○	98～105
	2番ラセンタッチ部	点検・掃除	○													○	100
グレンタンク部	こく粒排出レバー	点検・調整	○														121
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○														ギヤオイル API・GL－4級，SAE140 0.5ℓ 32
	グレンタンク	点検・掃除	○													○	106
	グレンタンク駆動ベルト	点検・調整	○	○	○							●					121
	グレン入力ベルト	点検・調整	○	○	○							●					スプリング長　158～160㎜ 129
	縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○													○	106
カッタ部	カッタ排ワラ切替レバー	点検・調整	○		○												123
	カッタ刃	点検・研磨・交換	○	● (100時間ごと)													106～114
	カッタ軸	点検・掃除	○														106～114
	カッタベルト	点検・調整	○		○							●					128

2 点検と処置

安全のポイント

◆エンジンカバーを開いて点検等を行なった後は，エンジンカバーを閉じて固定レバーで固定してください。固定を忘れると乗車時に開いて転倒事故になる恐れがあります。

1 エンジンオイル・オイルフィルタの点検と交換

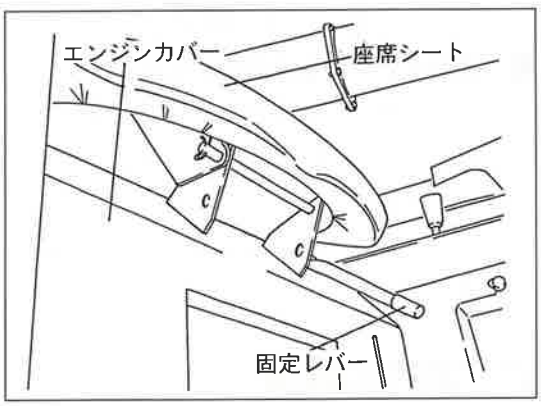
安全のポイント

◆エンジンオイルの点検および交換するときはエンジンを停止し回転が止まってから行なってください。

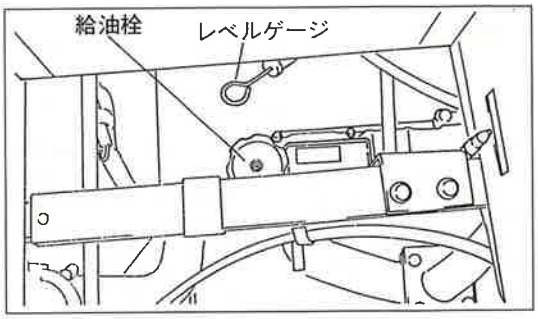
◆エンジン停止直後のエンジンオイル交換はエンジンやオイルが熱くヤケドをする恐れがありますのでエンジンが冷えてから行なってください。

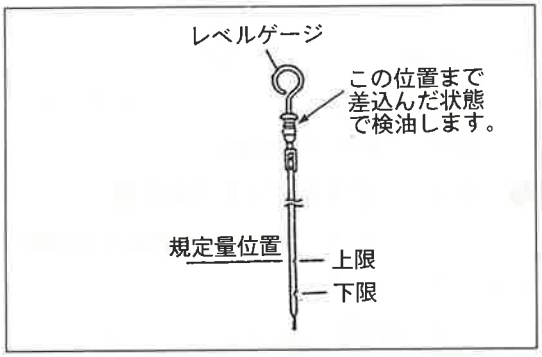
❶ エンジンオイルの点検

(1) エンジンカバーを開きます。(座席シートの左前に固定レバーがあります)



(2) レベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度一杯差し込んでから抜き出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，給油口より規定レベル位置まで入れます。さらに，油もれのないことも調べます。





取扱いのポイント

- ●オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。
- ●給油口からワラクズ等が入らないよう事前に周囲を掃除してください。
- ●排油栓，給油栓，レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。

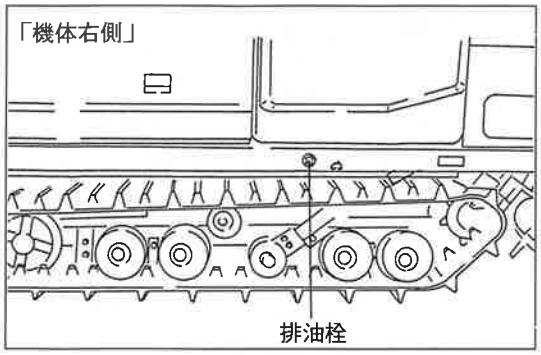
❷ エンジンオイルの交換

エンジンオイルの交換は，「定期点検整備表」に従って行います。

(1) エンジンの給油栓を外し，排油栓を取外し，オイルを抜きます。

(2) オイルを抜き終わったら排油栓を締め，新しい「純正エンジンオイル」をレベルゲージの刻み線（上限）まで給油します。

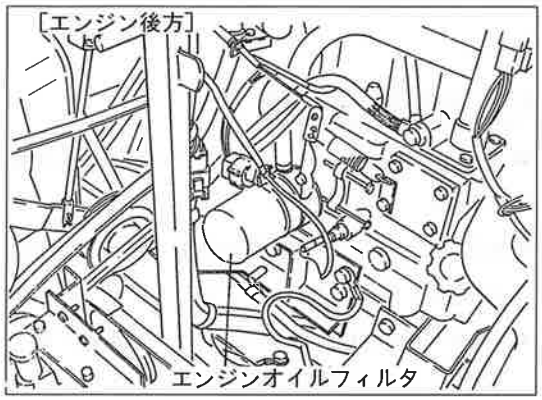
- ・ディーゼルエンジン用オイル
  API・CD級以上，SAE・10W－30
- ・オイル量……3.7ℓ



(3) 交換後，エンジンを始動してオイルインジケータランプが消えるまで低回転で運転します。（9ページ参照）

❸ エンジンオイルフィルタの交換

オイルフィルタの交換は「**定期点検整備表**」に従って行います。



(1) オイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

(2) オイルフィルタの交換は取外すための専用工具が必要です。「**お買いあげ先**」へお申しつけください。

(3) オイルフィルタを交換したときは，オイル量が多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは規定レベル上限まで補給します。

2 ラジエータ冷却水の点検と交換

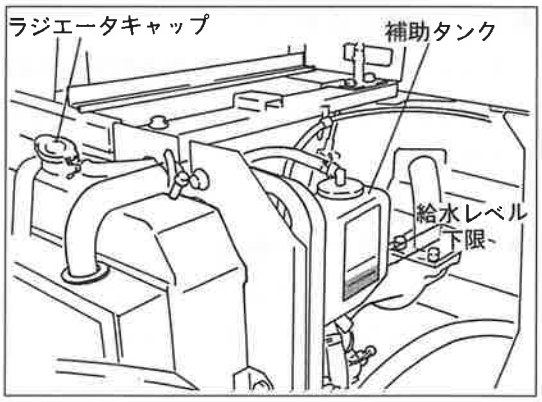
安全のポイント

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。

❶ 始業前の点検

・エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が「**給水レベルの上限と下限の間**」にあるよう補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

・エンジンカバーを開き，ラジエータキャップを外して冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

・補助タンクの「**給水レベル**」位置まで給水します。

取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **ラジエータ内の冷却水は，補助タンクの冷却水で給水しています。**
  補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，

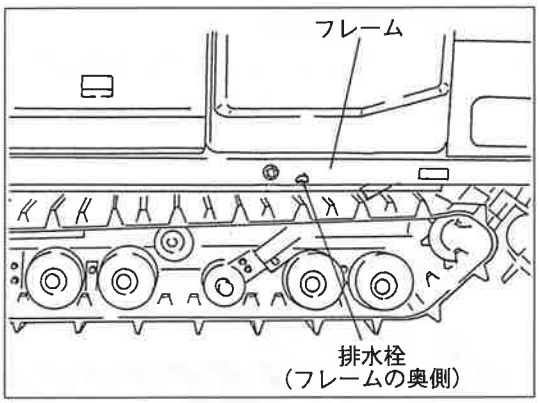
不足しているときは補給してください。

- **補助タンクには「給水レベル」以上入れないでください。運転中冷却水があふれ出ます。**
- **冷却水には，清水を使用します。泥水や塩水を使用しないでください。**

❸ ラジエータ冷却水の交換

ラジエータ冷却水の交換は「**定期点検整備表**」に従って行います。

(1) ラジエータキャップを外し，ラジエータ下部の排水栓から排水します。



(2) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(3) 排水が終わったら排水栓を閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を給水したのちラジエータキャップを閉めます。

(4) 補助タンクの《**給水レベル**》位置まで給水します。

・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

冷却水量……6.3ℓ［210・240型］
7.1ℓ［270型］
7.4ℓ［320型］
（補助タンク0.5ℓ含む）

取扱いのポイント

- **冷却水を交換した時は，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**

❹ 不凍液の注入のしかた

(1) 工場出荷のときは不凍液が注入され「**外気温度－25℃**」を保っていますが，納入後１年以上経過すると効力が低下するので，冷却水を抜き「**不凍液濃度基準**」を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

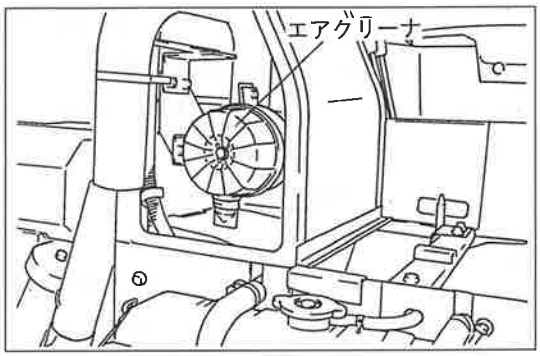
・**不凍液は「ロングライフクーラント」（PT）を使用します。**

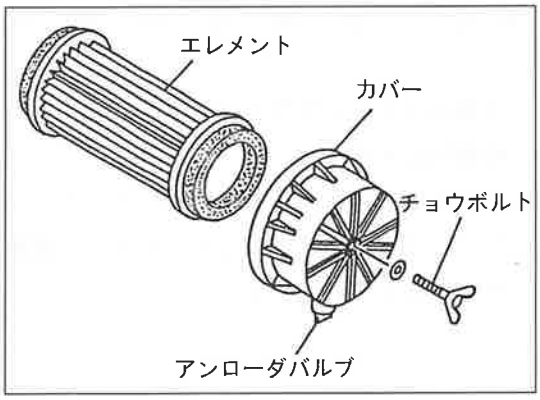
・不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまで「**低速で空運転**」を行います。

3 エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。
・点検・掃除は「**定期点検整備表**」に従って行います。

［210・240・270型］





❶ クリーナ本体のチョウボルトを外し，エレメントを抜出します。

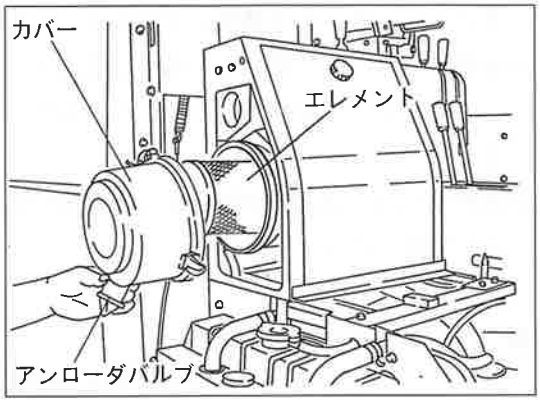
❷ エレメントは軽くたたくか，コンプレッサでエレメントの内側より山形にそって上から下へと順次エアを吹きつけて掃除をします。

❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにカバーをチョウボルトで固定します。

［320型］

❶エアクリーナのカバーのフックを外し，エレメントを取出します。

❷ エレメントは軽くたたくか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。



❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

取扱いのポイント

● **コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「7 kgf／㎠以下」で行なってください。**

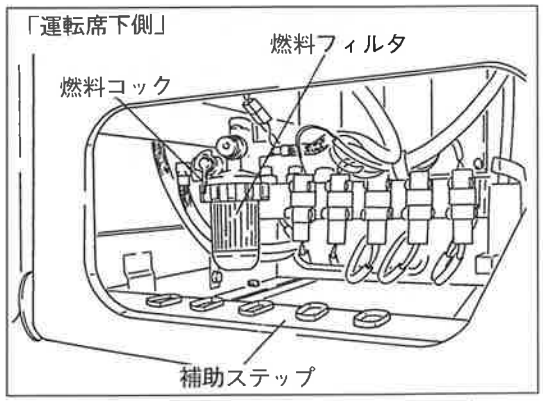
4 燃料フィルタの掃除

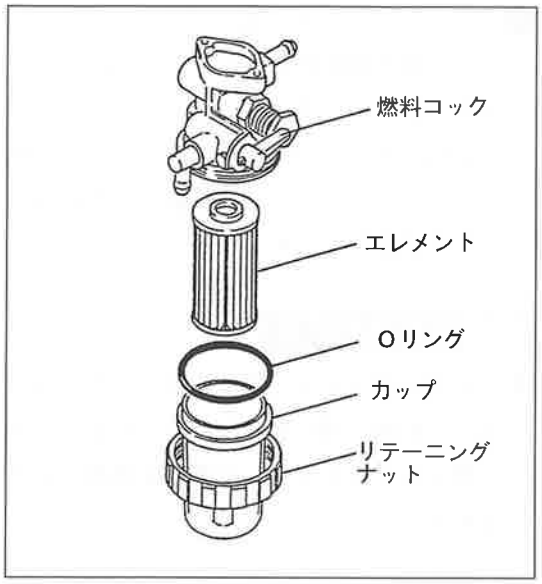
安全のポイント

◆**燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。**

燃料フィルタは燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

・点検・交換は「**定期点検整備表**」に従って行います。





❶ 燃料コックを「閉」の位置にしてリテーニングナットを外します。

❷ フィルタカップを外し，きれいな軽油で洗浄します。

❸ エレメントを取外し，洗浄または交換します。

❹ Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け，リテーニングナットを締付けます。

❺ 燃料コックを「開」の位置にして，エアー抜き要領に従ってエアー抜きを行います。

取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミ等が混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，燃料タンク給油口のフィルタをとおして給油してください。**
- **燃料は雨水等がかからない場所に保管してください。**

5 燃料のエア抜きのしかた

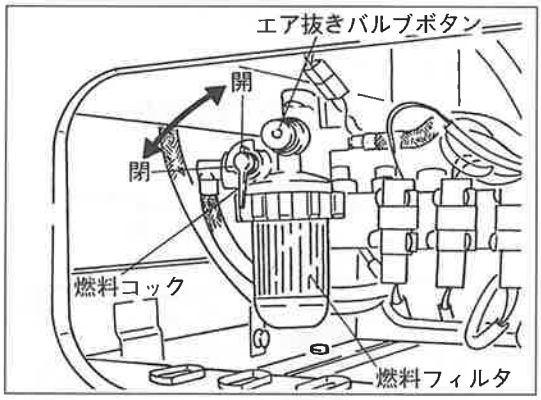
運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時は次の手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタを通して燃料を給油します。

・燃料はディーゼル軽油

JIS 2 号（−7.5℃まで）

JIS 3 号（−20℃まで）



❷ 燃料フィルタの燃料コックを「開」位置にします。

❸ スタータスイッチを《 入 》位置にします。

❹ 燃料フィルタのエア抜きバルブボタンを「約30～40秒間」押し続けます。

❺ エンジンコントロールレバーを《 》（高速）位置にして，スタータスイッチを回してエンジンを始動します。

・始動しない場合は，もう一度❹項からの操作を行います。

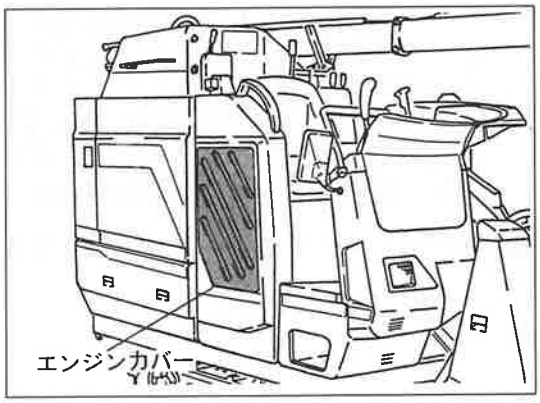
6 ラジエータ吸気部の掃除

安全のポイント

◆エンジンカバー，およびラジエータ部の掃除をするときは，エンジンを停止して回転が止まってから行なってください。

エンジンカバーおよび金網，ラジエータフィン，オイルクーラフィンにゴミ等が目詰まりすると冷却風の通りが悪くなり，エンジンが「オーバーヒート」する原因となります。

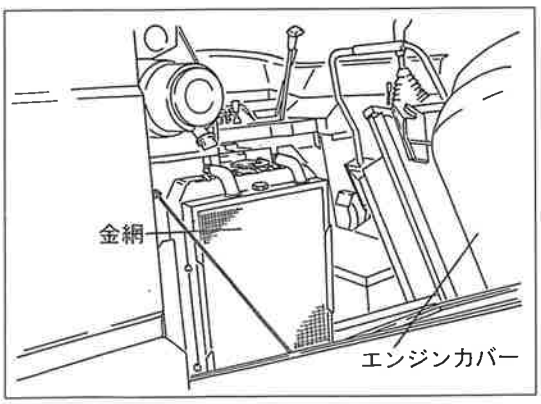
・点検・掃除は「定期点検整備表」に従って行います。



❶ エンジンカバーの表面のゴミを取除きます。

❷ エンジンカバーを開き，金網を外し，ゴミを取除きます。

❸ 金網は表面をやわらかいブラシなどで掃き落とすか，コンプレッサでエアを吹きつけてゴミを取除きます。



❹ ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部に「ゴミ詰まり」を生じたときは，つぎの方法で取除きます。

電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。

取扱いのポイント

●ラジエータフィン，オイルクーラフィンにノズルを強く押し当てないでください。強く押し当てるとフィンが変形する恐れがあります。

7 油圧作動油の交換

安全のポイント

◆油圧作動油を抜くときは，刈取部・機体［水平制御仕様機］を下げ，排出オーガ［グレンタンク仕様］を収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと機体が傾いたり，刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

油圧作動油の交換は「定期点検整備表」に従って行います。

・油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの交換を行います。

・油圧作動油… 純正油 または，使用オイル表（168～169ページ）の指定オイル

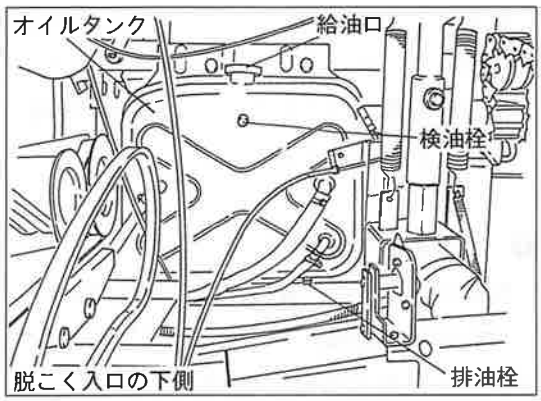
・オイル量……18ℓ
（10分運転後，補充分含む）

❶ 油圧作動油の抜取り

(1) エンジンを始動し，刈取部・機体［**水平制御仕様**］を下げ，排出オーガ［**グレンタンク仕様**］を収納状態にしてエンジンを停止します。

(2) 給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して油圧作動油を抜きます。

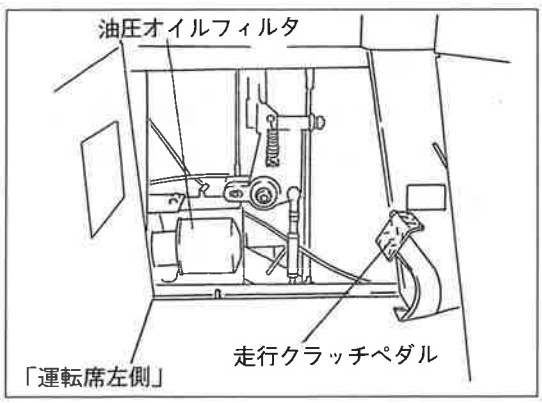
(3) オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



❷ 油圧オイルフィルタの取外し

(1) 油圧作動油のオイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

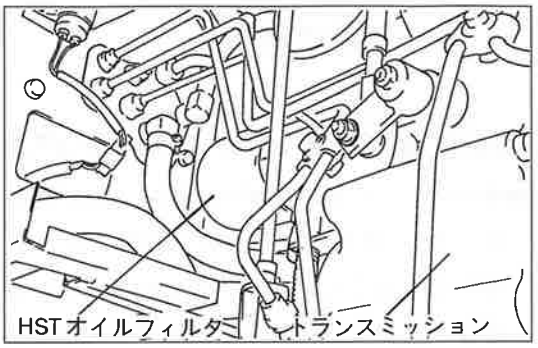
(2) 油圧オイルフィルタは運転席の左側にあります。



❸ HSTオイルフィルタの取外し

(1) HSTオイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用しているので，購入のうえ交換します。

(2) HSTオイルフィルタはトランスミッションの右側にあります。



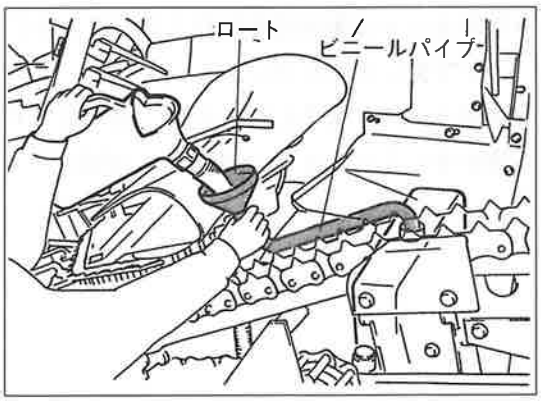
❹ 油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの取付け

(1) フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

(2) 締付けは手で行い取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転します。

❺ 油圧作動油の給油

(1) 付属品のロート，ビニールパイプを使用してオイルタンクの給油口より，タンク前側の検油栓からオイルが出るまで給油します。



(2) エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程運転します。

エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。

さらに，油もれのないことも調べます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルのもれ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口の周辺からゴミ等が入らないよう，あらかじめ掃除してください。**

8 ホース類の点検

安全のポイント

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し，もれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出しヤケドをする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホース等の燃料もれ，水もれがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部がゆるんでいないか点検をします。

取扱いのポイント

- 燃料ホースは定期交換部品ですので２年ごとに交換してください。
- 燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。（89ページ参照）

9 電気配線の点検と掃除

安全のポイント

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《STOP 切》位置にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。

◆ワイヤハーネスおよびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

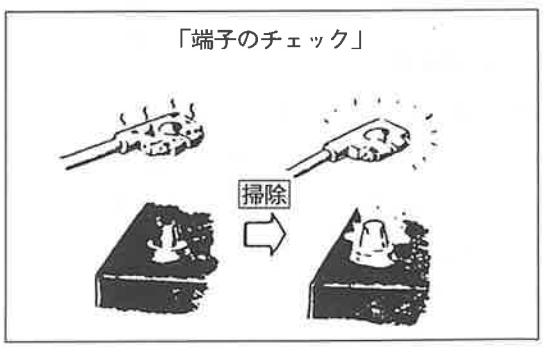
配線の端子部の「緩み」や「接続不良」または配線が「損傷」していると電気部品の性能を損うだけでなく，「ショート（短絡）」等することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている「ワラやゴミ」などは「火災」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「腐食」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「接触抵抗」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「定期的」に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。



10 バッテリの点検と充電

バッテリの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリ……55D23R

安全のポイント

◆ブースタケーブル接続前にエンジンを停止してください。

◆ブースタケーブルは100Ａ以上の仕様のもの使用してください。
容量の小さいケーブルを使用するとケーブルが焼損し火災の原因となることがあります。

◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。

◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク」による電気火花で負傷をすることがあります。

◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆⊖端子を取付けたままで充電すると発電器やハーネスを焼損することがあります。

◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。ヤケドをすることがあります。

◆充電のとき「バッテリ液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで硫酸分を洗い流してください。

❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

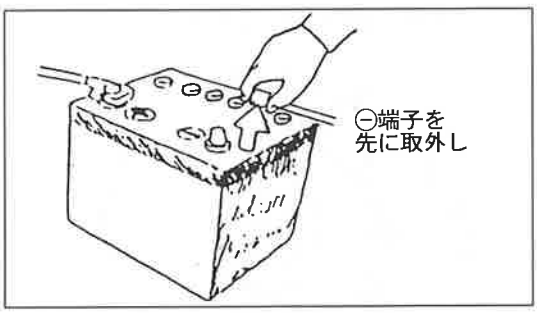
取付金具でしっかり固定します。

取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

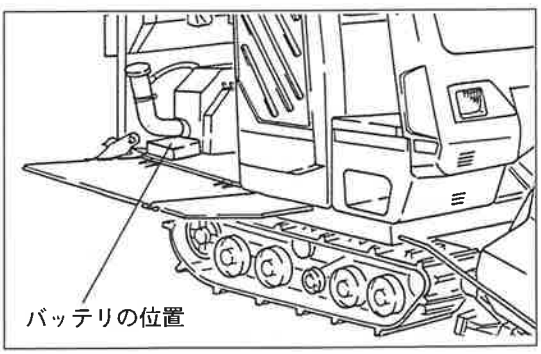
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，「始動キー」を抜取り，すべての制御スイッチを《切》にします。

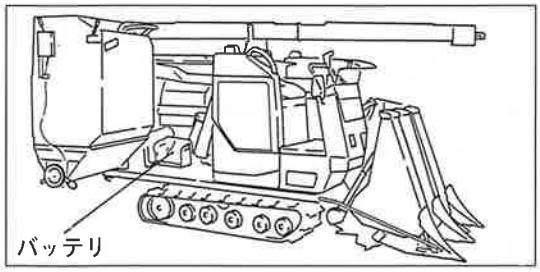
(2) バッテリ端子を取外すときは「アース側⊖端子」を先に外します。



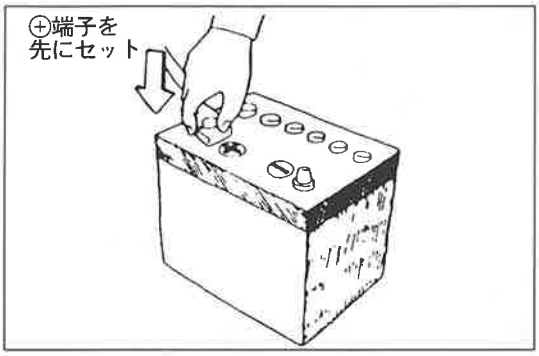
「バッテリの位置」
［ホッパ仕様］



［グレンタンク仕様］



(3) バッテリ端子を**セットするときは「プラス側⊕端子」**を先に取付けます。

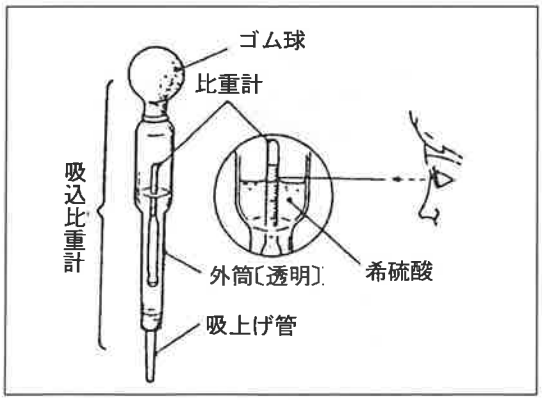


❸ 残存容量の確認

バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。

残存容量が低下していれば，補充電をします。

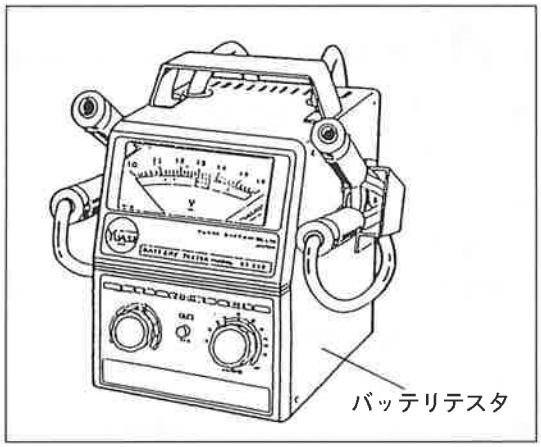
(1) バッテリ液の比重が「**1.220(20℃)**」以下であれば補充電をします。



比重 (20℃)	放電電気量 (%)	残存容量 (%)
1.280	0	100
1.235	25	75
1.190	50	50
1.145	75	25
1.100	100	0

(2) バッテリテスタで測定し，メータの指示範囲が黄ゾーン以下であれば補充電をします。

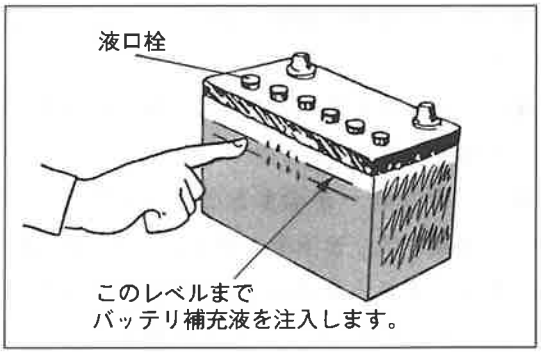
「**緑ゾーン**」……正常
「**黄ゾーン**」……やや放電
「**赤ゾーン**」……かなり放電



❹ バッテリ液量の確認

バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

減っていれば，バッテリ補充液を「**UPPER LEVEL**」（上限）まで注水補給します。



❺ ブースタケーブルの使いかた

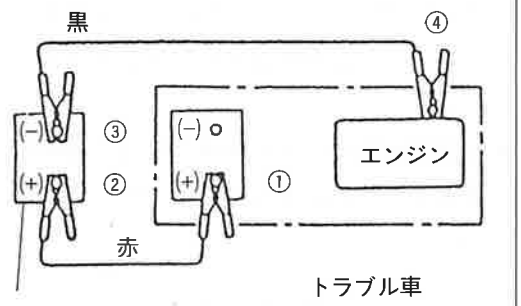
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。このときは次の手順を守って行います。

「ブースタケーブルの接続のしかた」

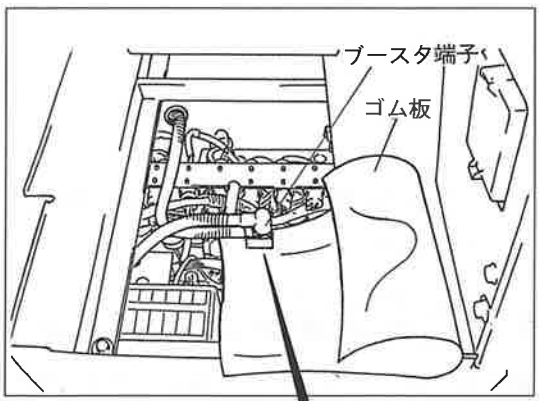
(1) 正常車のエンジンを停止して，図の①～④の順序でブースタケーブルを接続します。

(2) 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

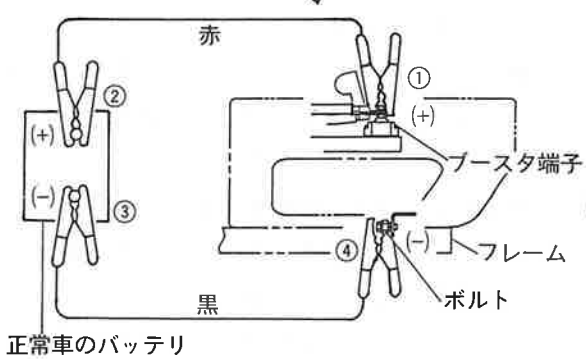
「正しい接続のしかた」



(3) ［グレンタンク仕様］機の場合，運転席の下側にブースタケーブル用⊕端子を装備しています。狭い車庫等でバッテリの取外しができない場合は，この端子を利用して，エンジンを始動することができます。



「接続の順序」

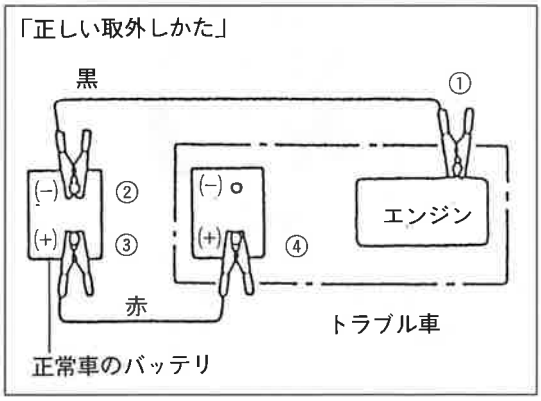


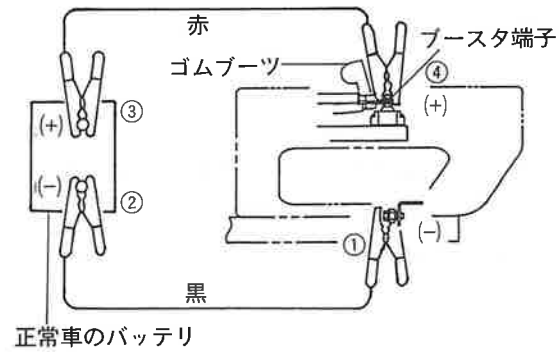
・ブースタケーブルをブースタ端子（＋）に接続したら，ゴム板をかぶせておきます。

「ブースタケーブルの取外し」

(1) エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。

「正しい取外しかた」





(2) 作業終了後は，ゴムブーツをブースタ端子にかぶせ，ゴム板を４つ折りにしてかぶせておきます。

取扱いのポイント

- **［グレンタンク仕様］機のブースタ端子はエンジン始動用ですので，この端子を使用してバッテリへの充電はしないでください。**
- **ブースタケーブルの⊕側のクリップは機械に接触しないようにしてください。**

❻ バッテリの充電

(1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，「始動キー」を抜取ります。

(2) 機械からバッテリを取外します。

(3) 「液口栓」をすべて取外します。

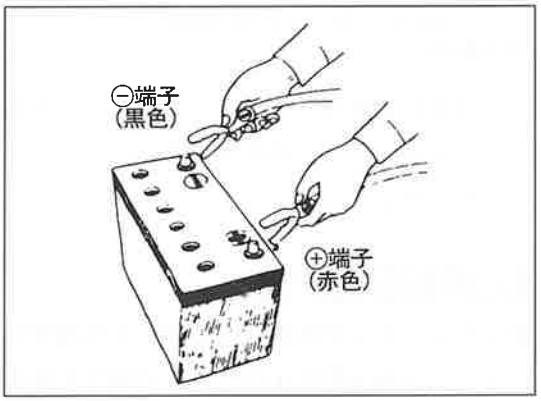


(4) 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「45℃」を超えないようにします。

(5) 「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。

(6) 「火気」を近づけたり「スパーク」による電気火花が発生しないようにします。

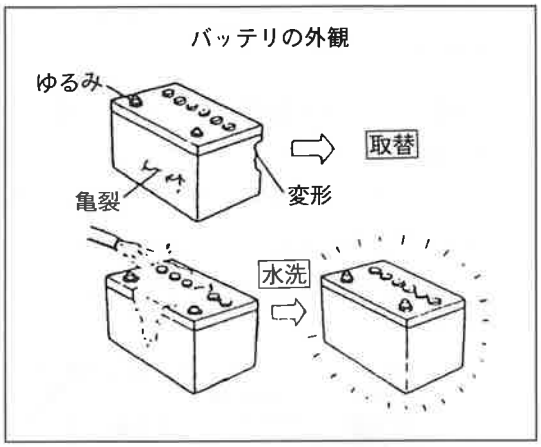
(7) 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを「切」にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



(8) 充電のとき「バッテリ液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにします。

取扱いのポイント

- 各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。
- 取付けのとき，バッテリ端子部は布などで油等をふき取ってください。取付け後バッテリ端子部には，腐食防止のためグリスを塗布してください。
- バッテリ⊕端子のゴムブーツは，取付けてください。
- 厳寒時は，機械を格納するときにバッテリを取外して暖かい所に保管してください。
- 亀裂や変形のあるバッテリは新品と取替えてください。汚れていれば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。
- 化学繊維製布による拭きとりは，静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。



11 グレンタンクの回動のしかた

［グレンタンク仕様］

安全のポイント

◆グレンタンクを回動する時は，平坦な場所で行い，タンクが自然に動かないことを確認してください。

◆グレンタンクを回動する時は，各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンクを回動する時は，グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行なってください。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させないでください。故障の原因となります。

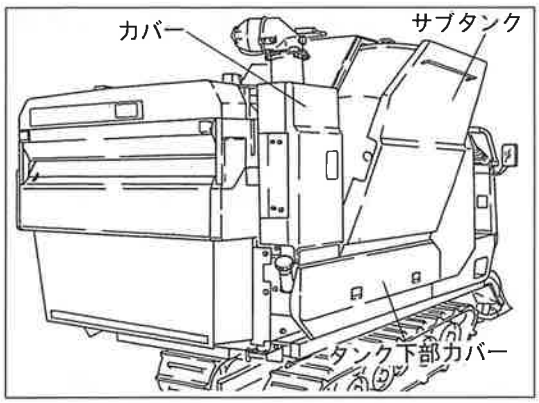
◆グレンタンクを収納したら，固定レバーでタンクを固定してください。

エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときはグレンタンクを回動して行います。

❶ ［サブタンク付機］はサブタンクを収納します。

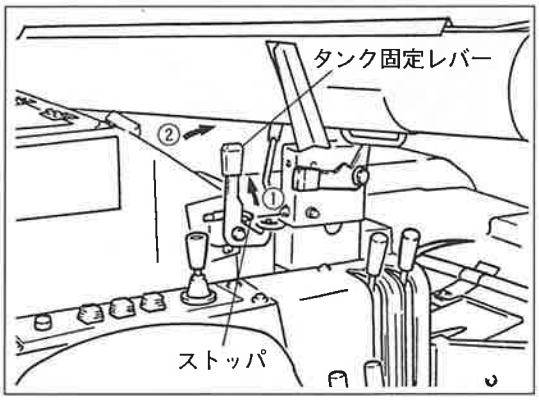
❷ タンク下部カバーを取外します。

❸ タンク後部のカバーを開きます。

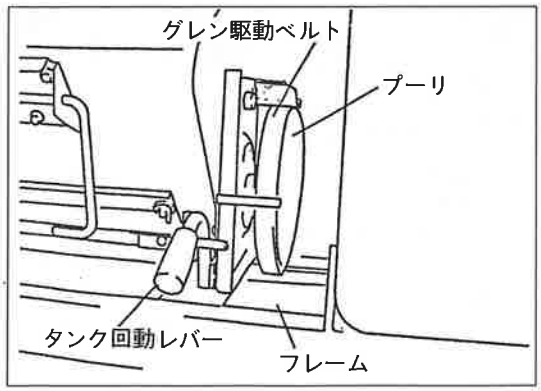


❹ グレン駆動ベルトをプーリより外します。

❺ タンク固定レバーのストッパを解除してタンクの固定を外します。



❻ タンク回動レバーを持ち上げながら，手前に引きタンクを回動します。



❼ 収納は逆の手順で行います。

❽ タンク収納は，タンクを戻すと途中でタンク回動レバーのピンがフレームに当り回動しなくなりますので，タンク回動レバーを持ち上げながらタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまでタンクを押し込みます。

取扱いのポイント

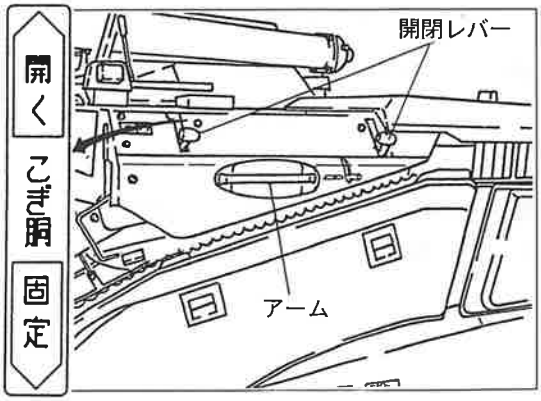
- **サブタンクを収納する時は，グレンタンク内のこく粒を排出してから行なってください。**
- **収納後はベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。**

12 こぎ胴部の開きかた

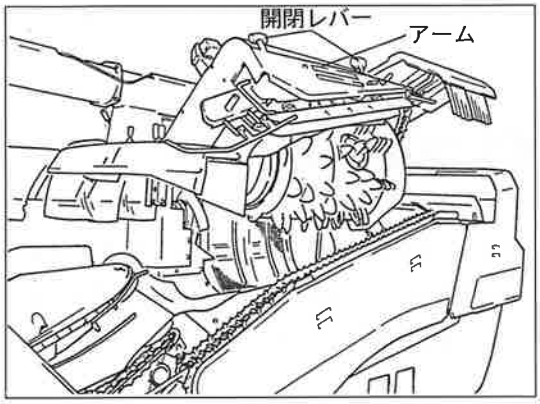
安全のポイント

- **◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。**
- **◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくり手を離します。**
- **◆こぎ胴部が開いている時は，ノッチを《自動ロック解除レバー・固定》の方向に動かし，レバーを固定しておきます。**
- **◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。この時，回動範囲内には手や体を入れないでください。**

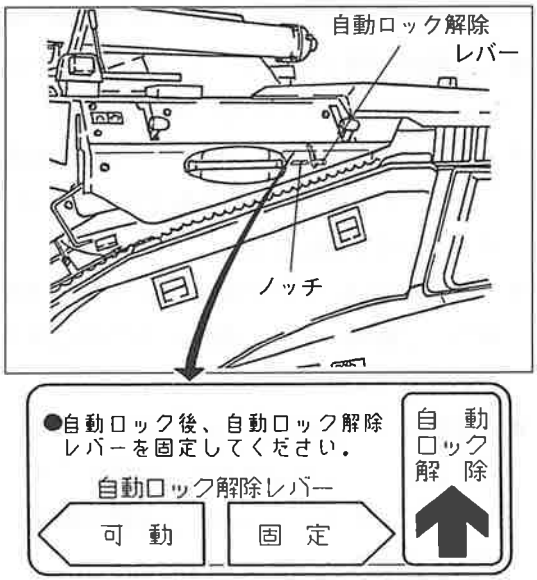
❶ ２本の開閉レバーを《開く》の方向に持ち上げ「固定」を解除します。



❷ アームまたはシリンダカバーの端部を持ってこぎ胴部を持ち上げ，「カチッ」という音を確認してゆっくり手を離します。（こぎ胴部は自動的にロックされます）



❸ ノッチを《**自動ロック解除レバー・固定**》の方向へ動かし，レバーを固定にします。



❹ こぎ胴部を閉める時は，ノッチを《**自動ロック解除レバー・可動**》の方向へ動かします。

❺ アームまたはシリンダカバー端部を持って，こぎ胴部を一杯に持ち上げ，自動ロック解除レバーを押し上げたまま，こぎ胴部をゆっくり下げます。（自動ロック解除はカバー内側のレバーを押し上げて行うこともできます。）

❻ こぎ胴部を降ろしたら，２本の開閉レバーを下げ《**固定**》位置にします。

13 脱こくファンケースの開きかた

安全のポイント

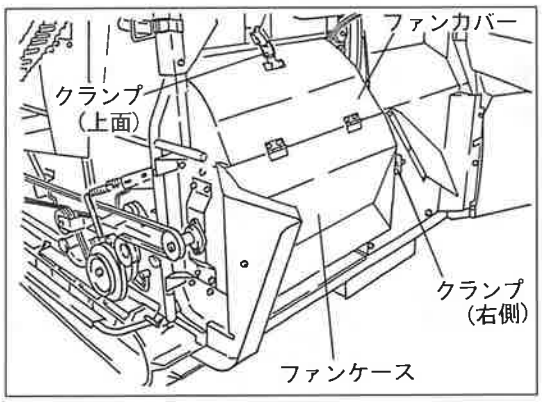
◆ファンケースを開く時は，平坦な場所でエンジンを停止して行なってください。

◆カッタはストッパがかかる位置までいっぱい開いてください。（106～107ページ参照）

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）およびカッタサイドカバーを外します。

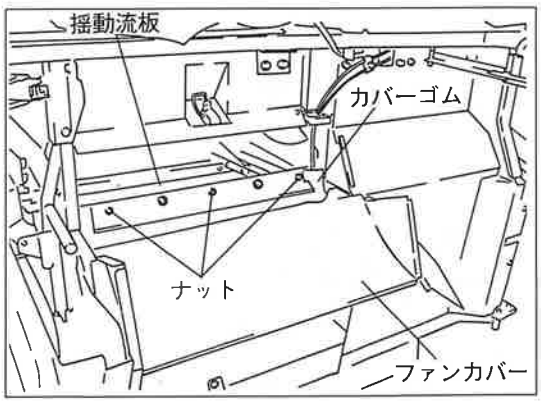
(2) カッタをいっぱい開きます。（105～106ページ参照）

(3) ファンカバーのクランプ（上面１個）を外し，ファンカバーを開きます。

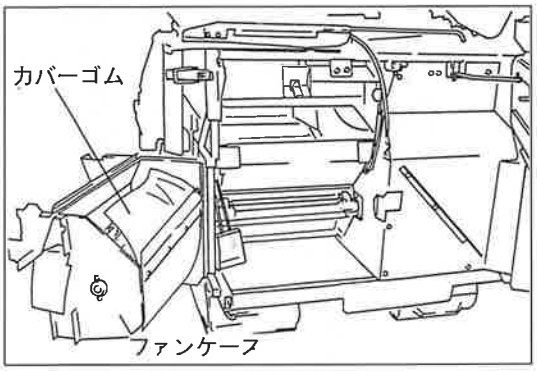


(4) 揺動流板先端のナット（３個）を外して，カバーゴムをはずします。

(5) ファンケース右側のクランプを外し，ファンカバーを開いたまま，ファンケースを回動させます。



(6) ファンケースを閉じる時は，開く時の逆の手順で行います。



取扱いのポイント

- ファンケースを収納した時，揺動流板先端カバーゴムの取付ナットの締め忘れがないか確認してください。
- カバーゴムがセットされていないとファンが詰まり，刈取り作業ができません。またファン破損の原因となります。
- 脱こく内部などの掃除にはブロアを使用すると容易にできます。

14 脱こく内部の掃除

安全のポイント

◆脱こく部の各部を掃除するときはエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆2人以上で作業する場合，とくに回転部を動かすときは互いに声をかけあい，確認してから行なってください。

◆こぎ胴部は自動ロック位置まで確実に持ち上げ，ノッチを自動ロック解除レバーの《固定》方向に動かし，レバーを「固定」してください。

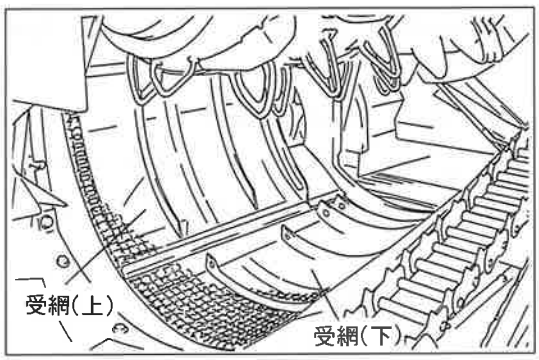
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

(1) こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。(97～98ページ参照)

(2) 受網（下）を外します。

(3) 受網（上）を外します。

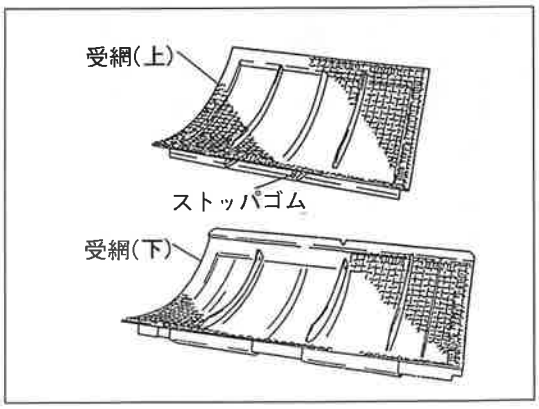


(4) 受網（上）・（下）を取付ける前にⒶ部受網ストッパおよびⒷ部受網ガイドレール（4個所）のクズを取除きます。



(5) 脱こく受網の取付けは逆の順序で取付けます。

(6) 受網（上）はストッパゴムがフレームに当たるまで押し込みます。



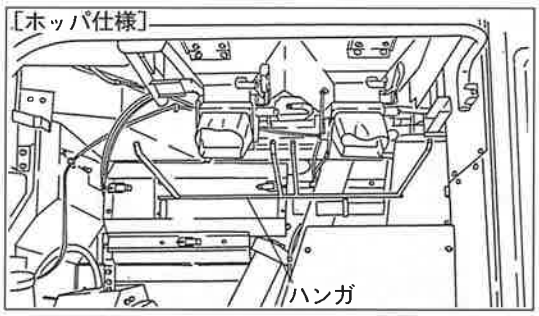
(7) こぎ胴をしめると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていない時は，ロックできませんので，受網が完全に入っていることを確認します。

取扱いのポイント

- **長期格納前には，受網（上），（下）は取外して掃除をしてください。**
- **受網ストッパおよび受網ガイドレール（４個所）にこく粒やクズがたまったまま受網をセットするとこぎ歯に接当する場合があります。**

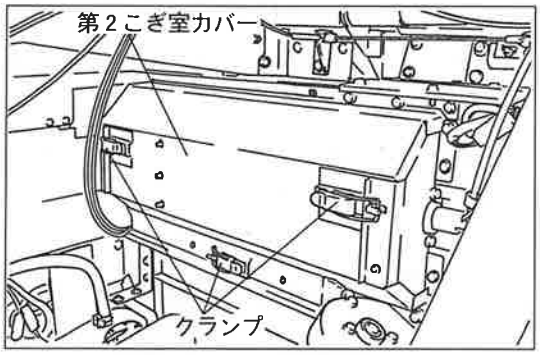
❶ 第２こぎ室の掃除

(1) ハンガを外します。[ホッパ仕様]



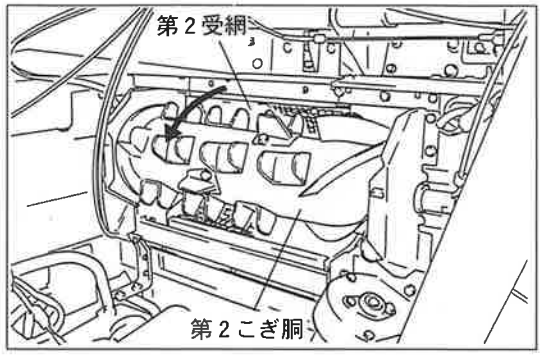
(2) [グレンタンク仕様] 機はグレンタンクを回動します。

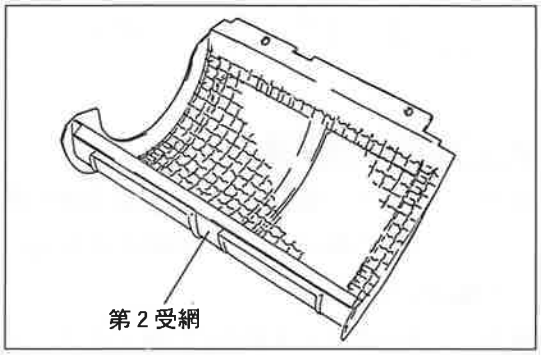
(3) ３個のクランプを外し，第２こぎ室カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。



(4) 第２受網は，受網の上側から第２こぎ胴を回すようにして，取外します。

(5) 第２受網の取付けは，逆の順序で取付けます。





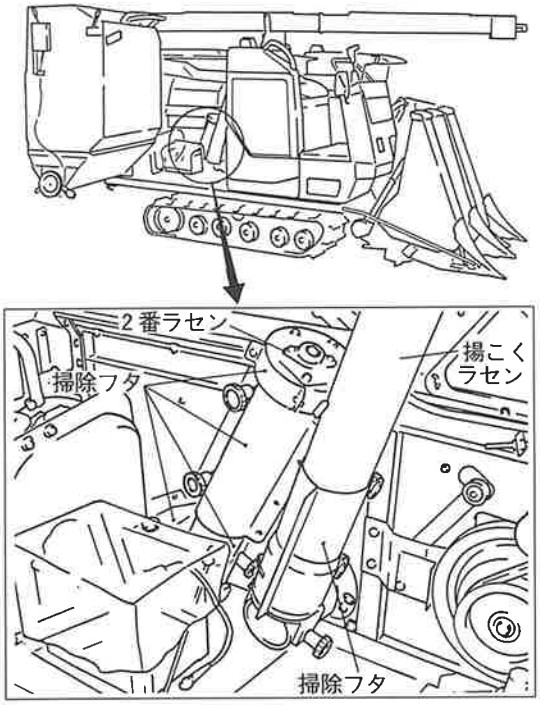
取扱いのポイント

- **長期格納前には，第２受網を取外して掃除をしてください。**

❷ 揚こくラセン部の掃除

(1) [グレンタンク仕様] は，グレンタンクを回動して行います。

(2) ノブを外し，掃除フタを取外し，内部にたまっているこく粒を掃除します。



❸ 2番ラセン部の掃除

掃除は4個所からできます。

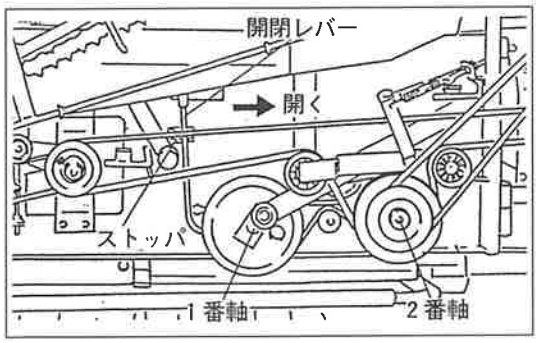
掃除フタを取外し，内部にたまっているこく粒を掃除します。

❹ 1番ラセン底板，2番ラセン底板の掃除

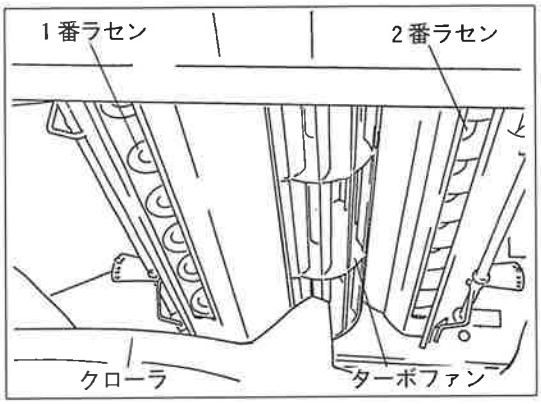
(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を取外します。

(2) 開閉レバーのストッパを外し，レバーを《開く》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。

・ストッパは開閉レバーを右手で支えてから外します。



(3) 掃除後はレバーを《閉じる》位置に戻し，ストッパをかけます。



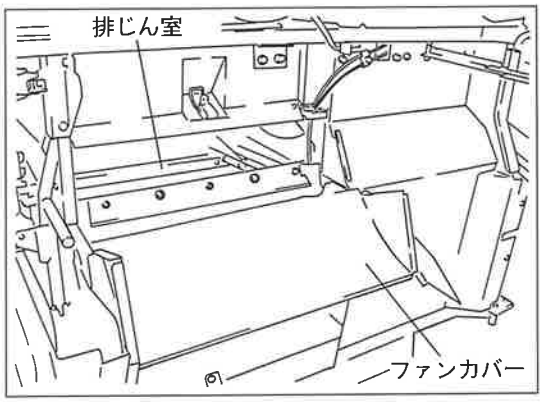
取扱いのポイント

●掃除後は底板が確実に閉じていることを確認してください。開いているとこく粒がもれます。

❺ 排じん室の掃除

(1) カッタをストッパがかかるまでいっぱい開きます。

(2) ファンカバーを開き，排じん室のワラクズ等を掃除します。（98～99ページ参照）



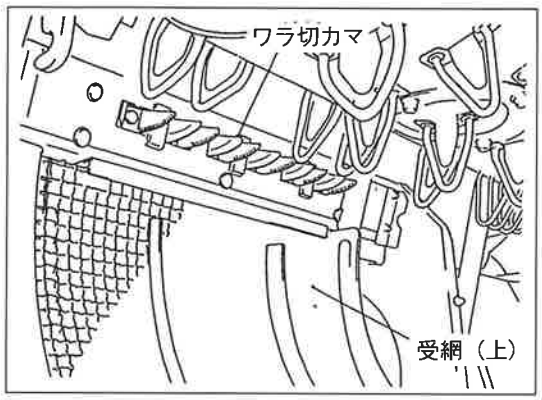
❻ ワラ切カマの掃除

安全のポイント

◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。

◆刃部に手をかけないでください。

ワラ切カマサポート組品を取外し，ワラ切カマに付着しているワラクズ等を掃除します。
（ワラ切カマの取外しは116～117ページを参照）

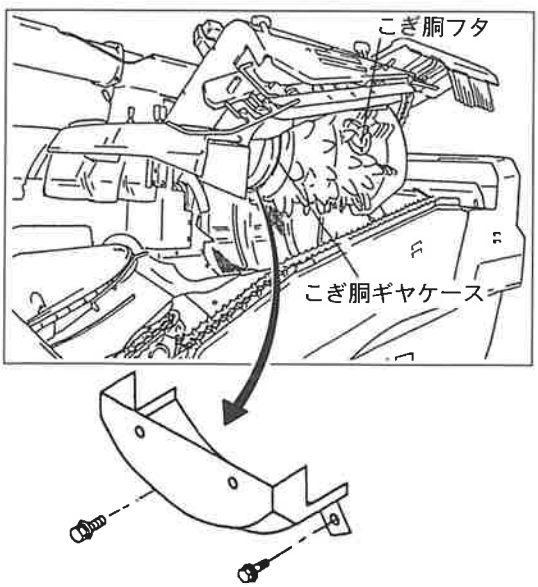


❼ こぎ胴ギヤケース下カバー及びこぎ胴内の掃除

(1) こぎ胴部を開き，ロックをかけます。
（こぎ胴部の開きかたは97～98ページ参照）

(2) カバーのボルト（２本）を外し，カバーの内側にたまっているこく粒を掃除します。

(3) こぎ胴フタを外し，こぎ胴内のこく粒を掃除します。



15 揺動流板の掃除

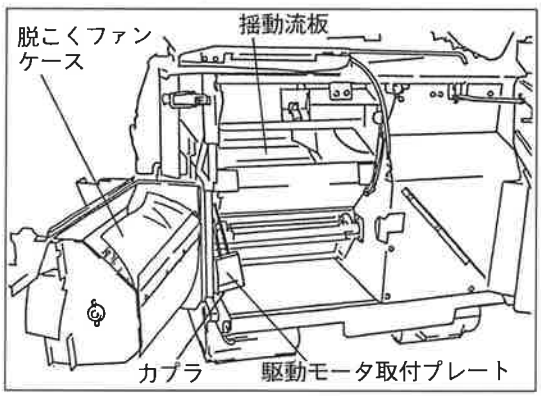
❶ 揺動流板の取外しかた

(1) 脱こく部と脱こくファンケースを開き，脱こく受網を取外した状態にします。
（97～100ページ参照）

(2) 選別自動フィン駆動モータ取付プレートを取外します。

① リードワイヤのカプラを外します。

② モータ取付ブラケットのボルト２本を外し，モータと取付プレートをセットで取外します。

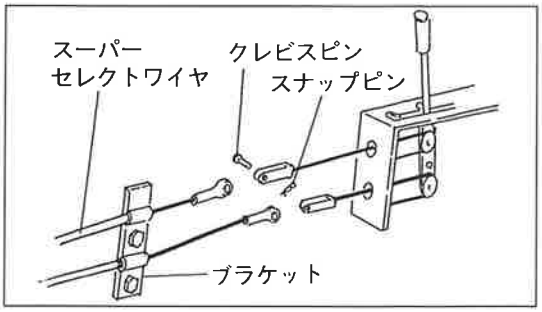


(3) スーパーワイドセレクタワイヤの取付プレートを外します。

（［グレンタンク仕様］はグレンタンクを回動します。(96～97ページ参照)）

① ２本のワイヤ先端のスナップピンとクレビスピンを外します。

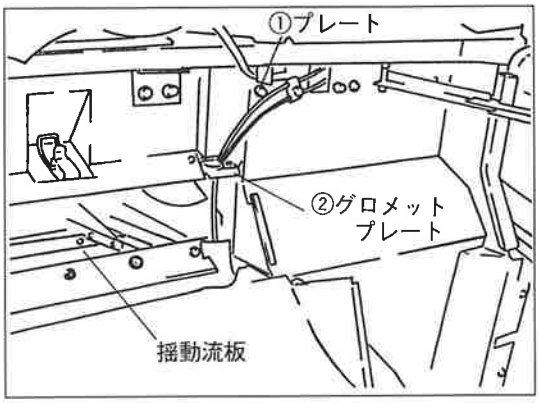
② ボルト２本を外し，ブラケットとワイヤを外します。



(4) 排じん室後部のワイヤを外します。

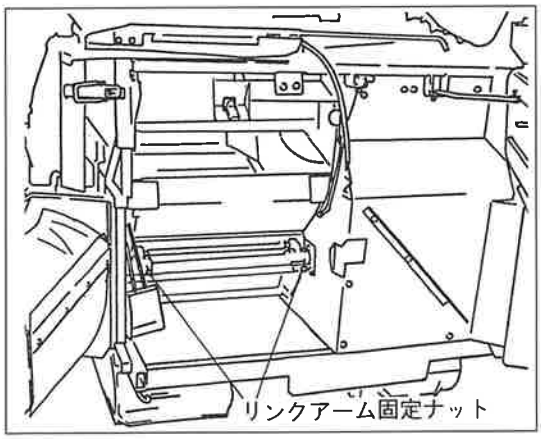
① ボルト２本を外し，ワイヤを取付けているプレートを外します。

② ナット２ケを外し，ワイヤを通しているグロメットのプレートを外します。

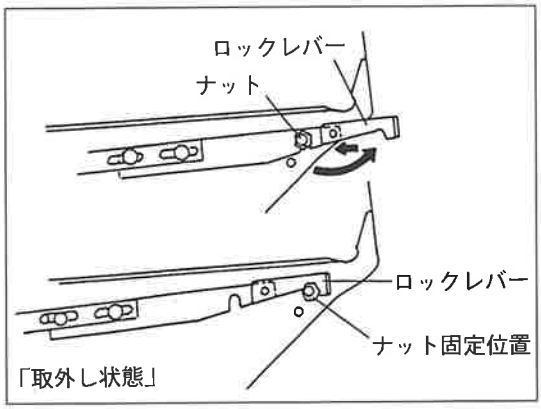


(5) 揺動流板を取外します。

① 揺動流板後部のリンクアームの固定ナット左右各２本を外します。



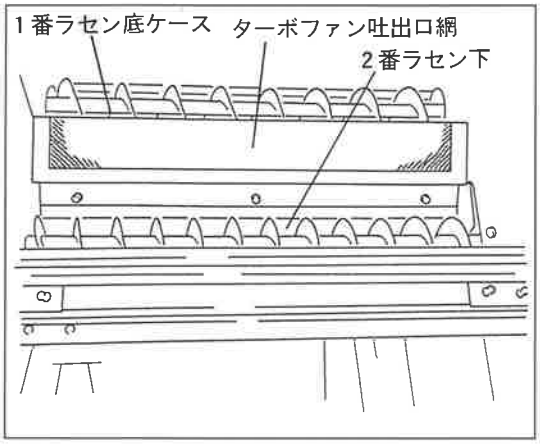
② 揺動流板後方左側のナットをゆるめ，ロックレバーを回動させて押込み，ナットで固定します。

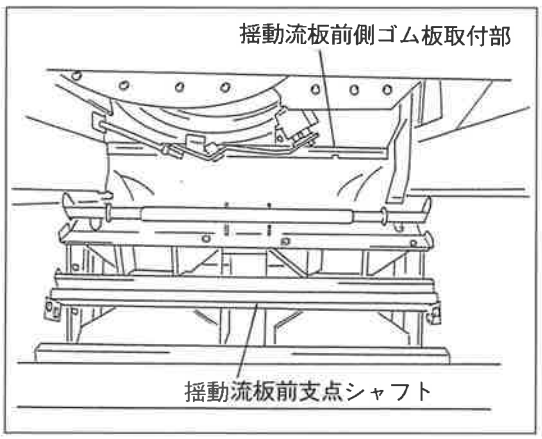


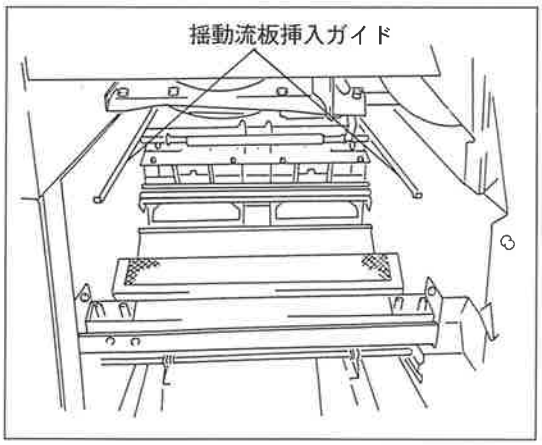
③ 揺動流板の左右を支えながら少し浮かせた状態で後方へゆっくりと抜出します。（２人作業）

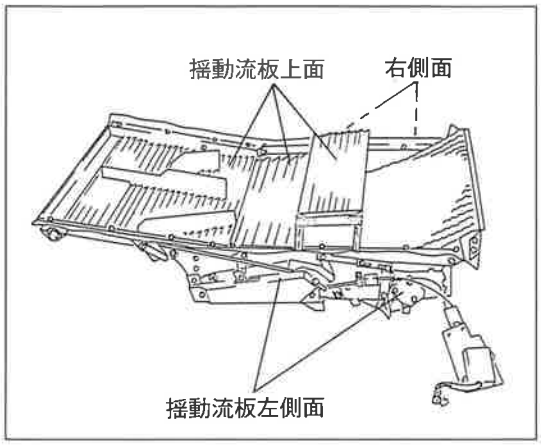
❷ 揺動流板の掃除のしかた

・揺動流板を外した後の脱こく内部５ケ所と揺動流板上面及び左右側面及びチェンを掃除します。







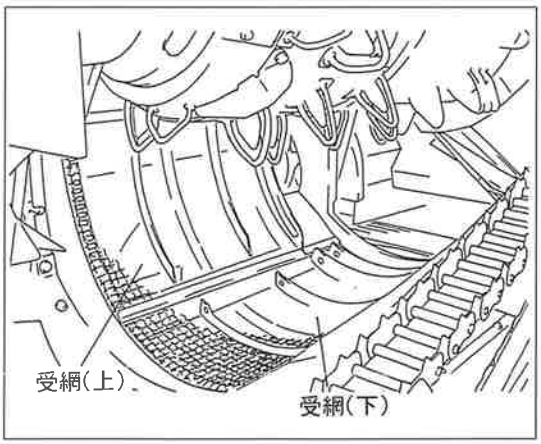


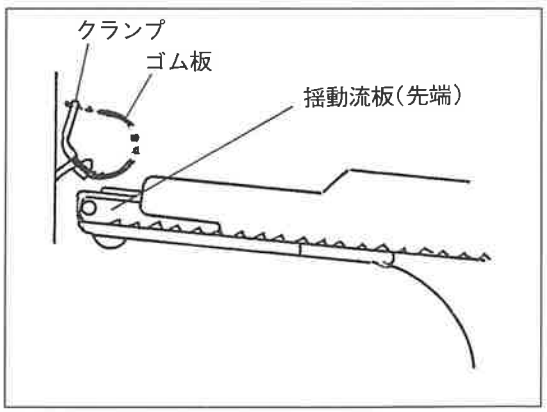
❸ 揺動流板の取付けかた

（取外しの逆順に組付けます）

(1) 揺動流板先端のゴム板を持ち上げておきます。

・脱こく部を開いた状態にし，受網(下)を外し揺動流板先端のゴム板を持ち上げクランプに掛けておきます。(揺動流板の噛込みを防ぐ)



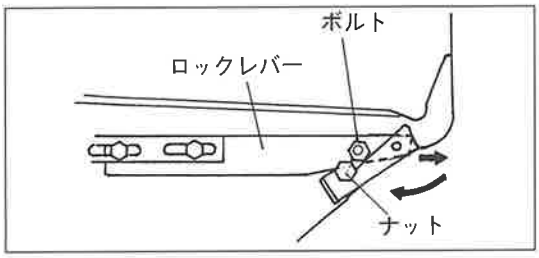


(2) 揺動流板の組付け

① 揺動流板の後方左側のロックレバーが押込んだ状態になっていることを確認します。

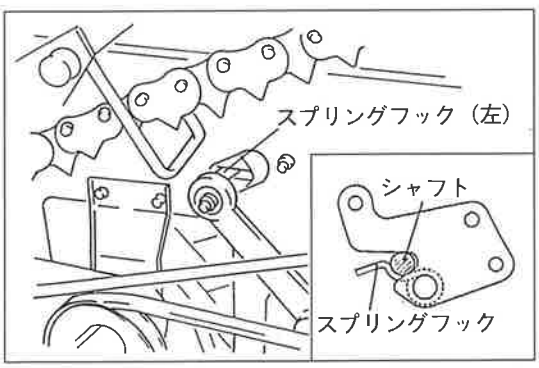
② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のローラをのせ，少しずつ押込んでいきます。(２人作業)

③ 揺動流板を確実に奥まで押込んだことを確認し，ロックレバーを引っ張り出しナット及びボルトで締付けます。

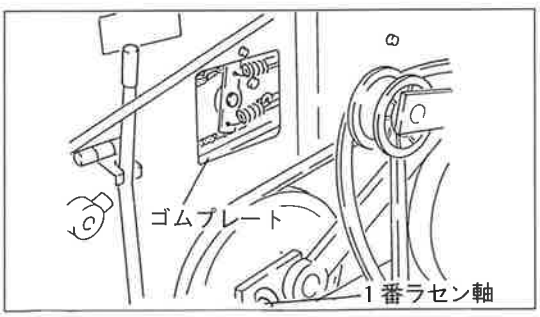


④ ロックレバーのナットをゆるめ，レバーを引っ張り出した時，次の３点を確認します。

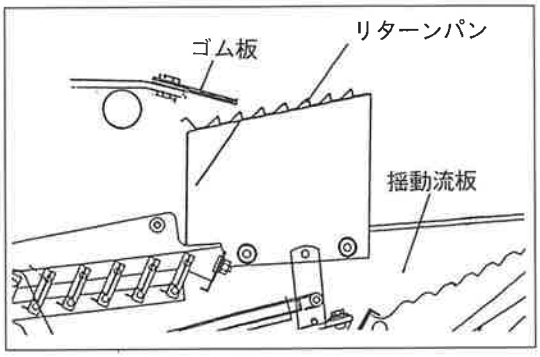
１）レバー先端のロック装置の左右のスプリングフックが揺動リンクシャフトを一杯に入れてからロックレバーで固定すること。



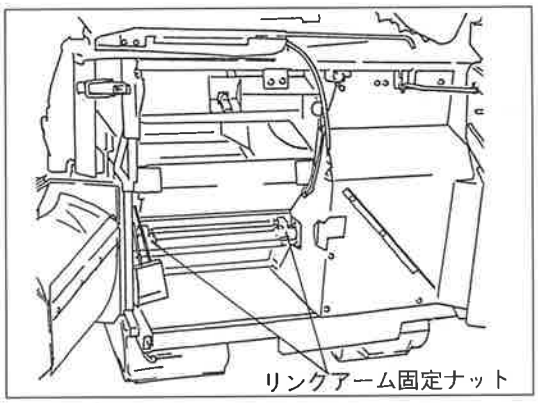
２）１番・２番ラセン部のゴムプレートがラセン通路に確実に入っていること。



３）こぎ室後側板のゴム板を揺動流板のリターンパンに挟み込まないこと。



⑤ 揺動後部リンク部の固定ナット左右各２ケを締付けます。



(3) 選別自動駆動モータの組付け

・モータを取付け，カプラを差込みます。

(4) 排じん室後部のワイヤの取付け

・操作側のワイヤ・ブラケットを通した後，プレートを取付けます。(ボルト２本)

・組付け後グロメットとワイヤが強く接触しないことを確認します。

(5) スーパーワイドセレクタワイヤの取付け

・２本のワイヤ先端をクレビスピンとスナップピンで取付けます。

・ブラケットを取付け（ボルト２本），クランプを取付けます。

・組付け後，レバーが作動することを確認します。

16 グレンタンク部の掃除

［グレンタンク仕様］

安全のポイント

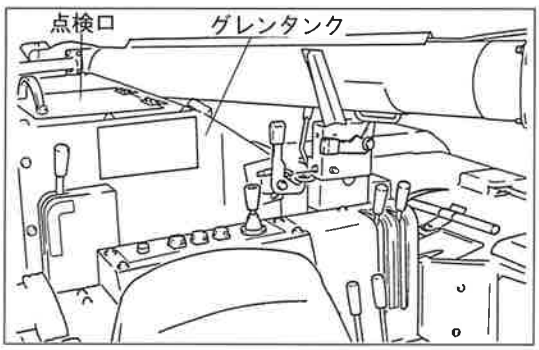
◆グレンタンクの掃除をする時は平坦な場所でエンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。

取扱いのポイント

●各掃除フタ（カバー）はモミかみ等によるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。

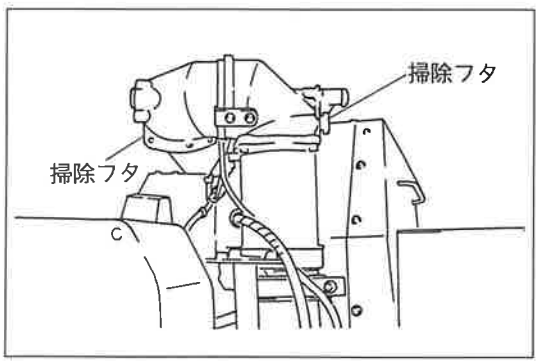
❶ グレンタンク内の掃除

グレンタンク上部の点検口より，確認し必要により，ホウキ等でホコリを払い，取出しは横ラセンカバーを開いて行います。



❷ 縦ラセン筒上部の掃除

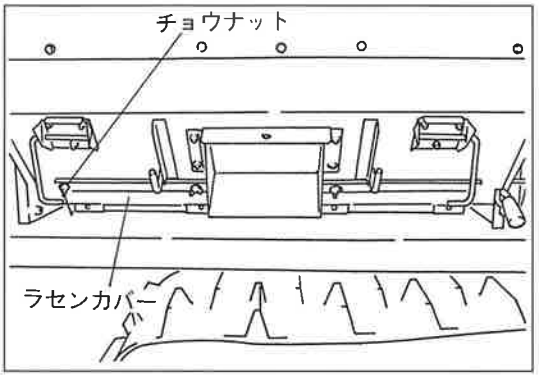
排出オーガを上げ，上部ラセン掃除フタを開いて掃除をします。



❸ 横ラセン部の掃除

(1) グレンタンクの下部カバーを取外します。

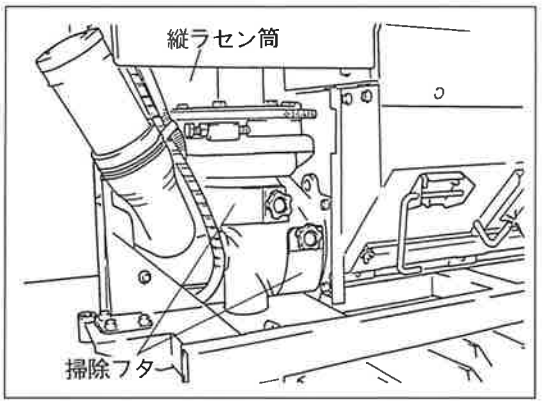
(2) ラセンカバーを開いて，掃除します。



❹ 縦ラセン筒下部の掃除

(1) グレンタンクの下部カバーを取外します。

(2) 縦ラセン下部の掃除フタを開いて，掃除します。



17 カッタのオープンのしかた

安全のポイント

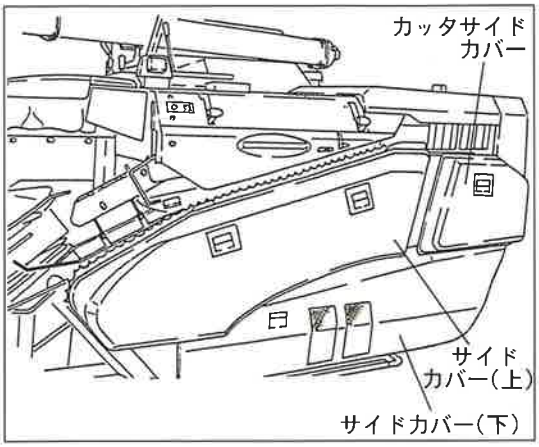
◆カッタをオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。

◆カッタをオープンして点検作業等をするときは，ストッパをきかせた状態にしてください。カッタをいっぱい開いてから閉じる方向に戻すとストッパがききます。

ストッパをロック状態にしないとカッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。

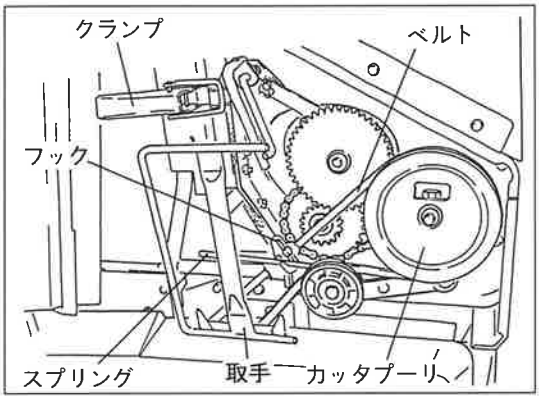
◆カッタをオープンしたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

❶ 脱こくサイドカバー（上）・（下）およびカッタサイドカバーを取外します。



❷ スプリングをフックより外し，ベルトの張りを解除します。

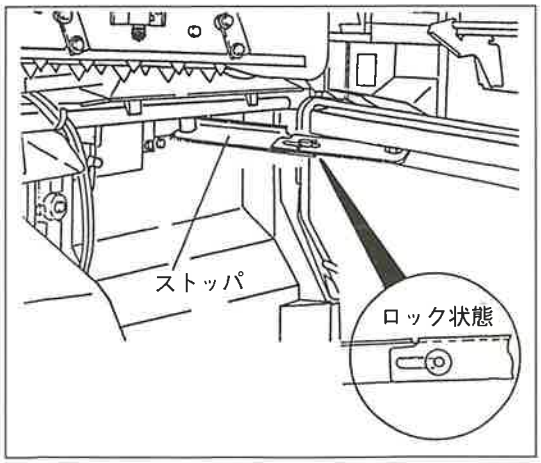
❸ ベルトをカッタプーリより外します。



❹ クランプを手前に引き，ロックを解除します。

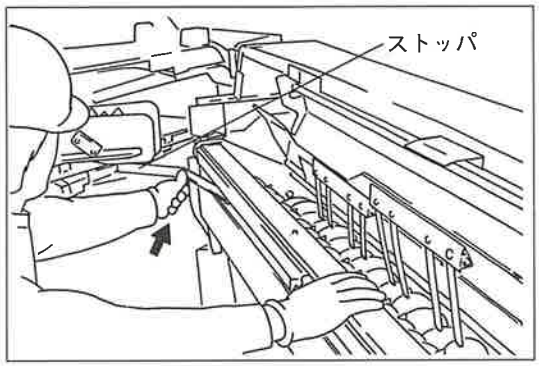
❺ 取手を持ってカッタを少し上方へ持ち上げながら，後方へオープンします。

カッタはいっぱいオープンしロック状態にします。



取扱いのポイント

- カッタを閉じるときはカッタのオープンの逆の手順で行います。
  脱こくサイドカバー（上）・（下）を外さないでオープンできますが，閉じてた時サイドカバー（下）内の駆動プーリよりベルトが外れていないか確認してください。
- カッタを収納するときは，カッタをいっぱい開いてストッパを矢印方向に押してから，カッタを回動します。



18 カッタ刃組品の取外しと分解

安全のポイント

◆カッタをオープンしてカッタ刃組品の取外し，分解をする時はストッパをきかせチョウボルトで締付けて行なってください。

◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し２人作業で合図をし合って行なってください。

❶ カッタ刃組品の取外し

カッタ刃組品の取外しを行う場合には２とおりの方法があります。

「カッタをオープンにしてカッタ前面より行う方法」

（・ノッタ等カッタ後方に作業機が着いている場合
・スターホイル刃・ノコ刃を取外したい場合）

「カッタをオープンせずにカッタ後方より行う方法」

（・カッタ後部に作業機がなく，ノコ刃だけ取外す場合）

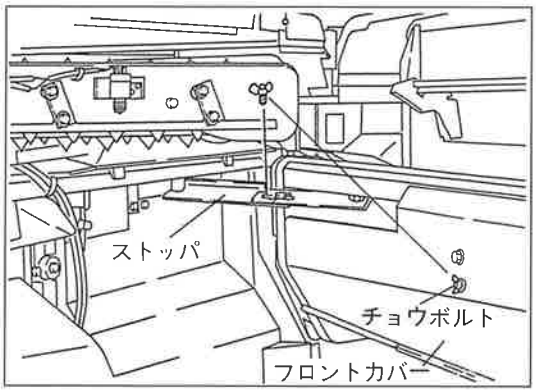
「カッタをオープンにしてカッタ前面よりカッタ刃組品の取外しを行う方法」

・スターホイル軸・ノコ刃軸の交換のしかた

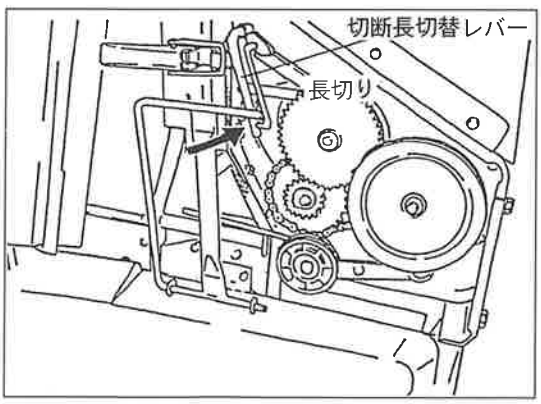
(1) カッタをオープンし，ストッパをきかせます。

(2) カッタをいっぱい開いてから，閉じる方向に戻すとストッパがききます。その状態でフロントカバーのチョウボルトを外し，ストッパ部に締付けます。

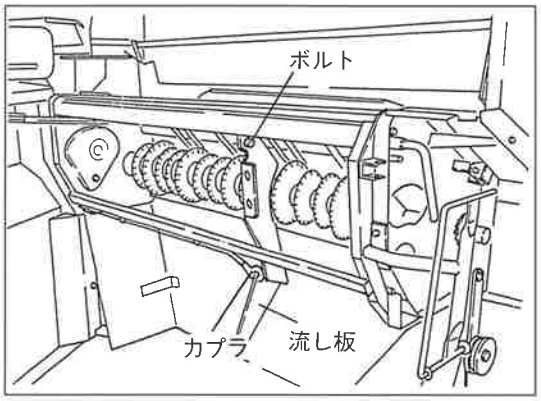
(3) フロントカバーを取外します。



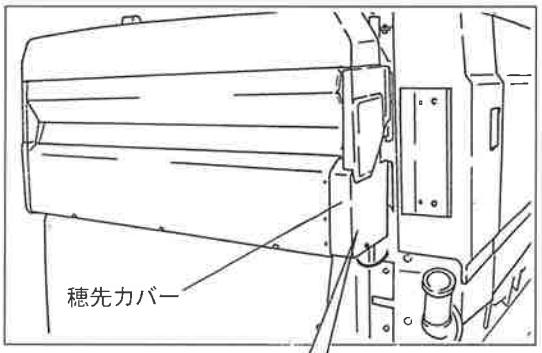
(4) 切断長切替レバーを《長切り》位置にします。



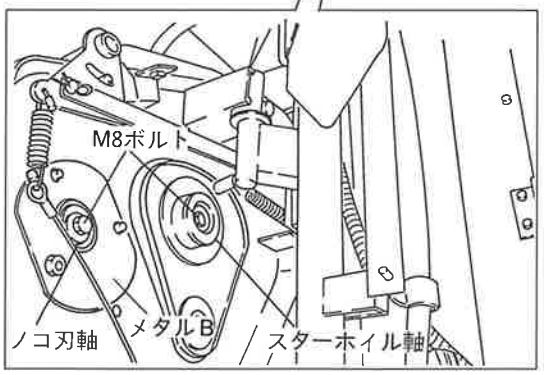
(5) カッタ詰まり警報のカプラを外し，流し板を取外します。



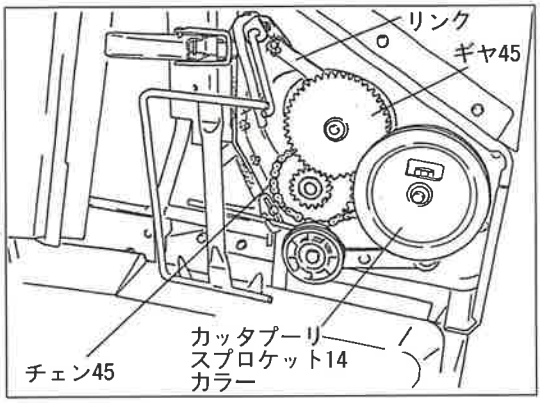
(6) 穂先カバーを取外し，スターホイル軸，ノコ刃軸のM8ボルトをゆるめます。（ボルトは外しません）

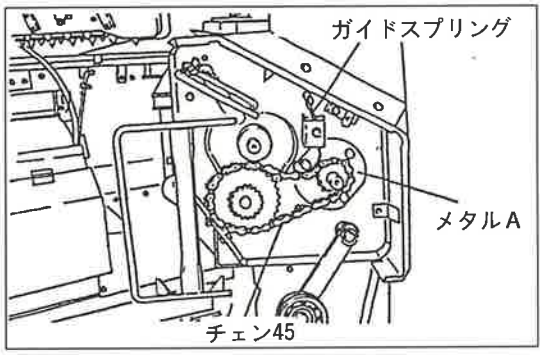


※「図(6)」

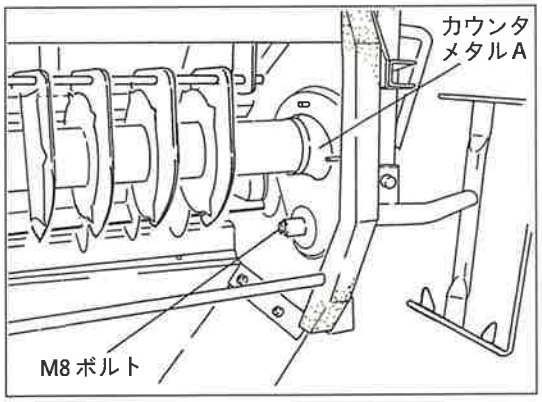


(7)・カッタプーリ，スプロケット14，カラーを取外します。
・ギヤ45を取外します。
・ガイドスプリングを外し，チェン45を継ぎ部で取外します。
・リンクを取外します。

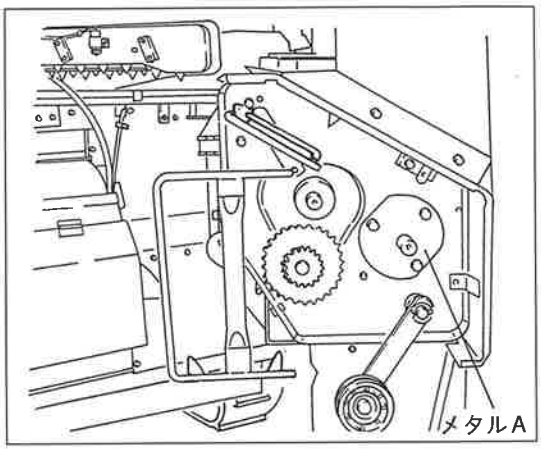




(8) カウンタメタルAを取付けているM8ボルトを外します。



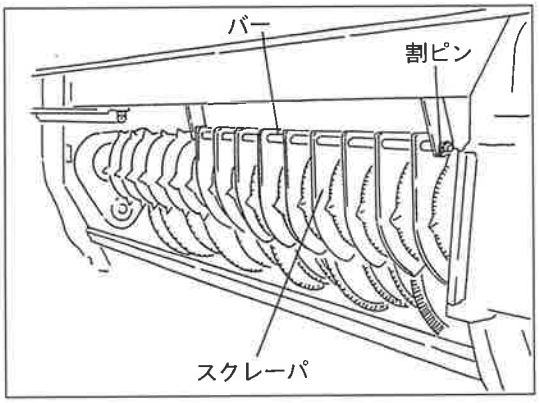
(9) スターホイル軸組品を外すときにスターホイル軸の押え板とノコ刃が接触するため，メタルAを取外します。



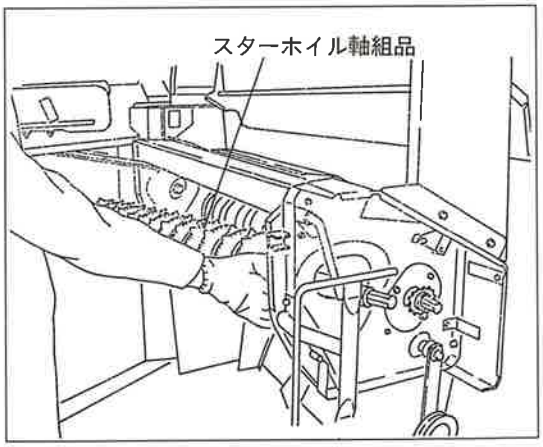
(10) ノコ刃軸右側のM８ボルトを外し，メタルBを外します。(108ページ図(6)参照)

(11) スターホイル軸の右側のM8ボルトを外します。(108ページ図(6)参照)

(12) スクレーパを通しているバーの両側の割ピンを外し，バーを抜き取ります。

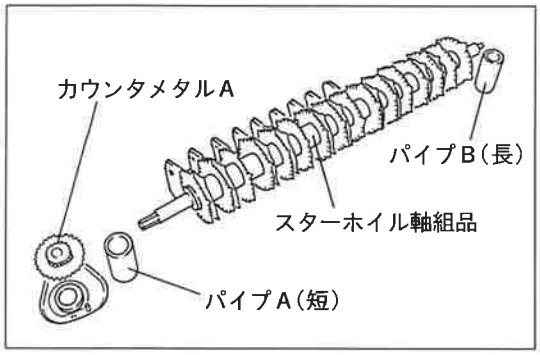


(13) ２人で両側を持って左側方向（株元側）にずらし，カウンタメタルAを外すと共に，スターホイル軸組品を取外します。

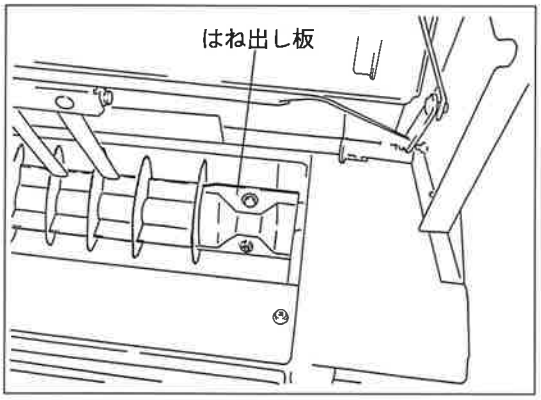


取扱いのポイント

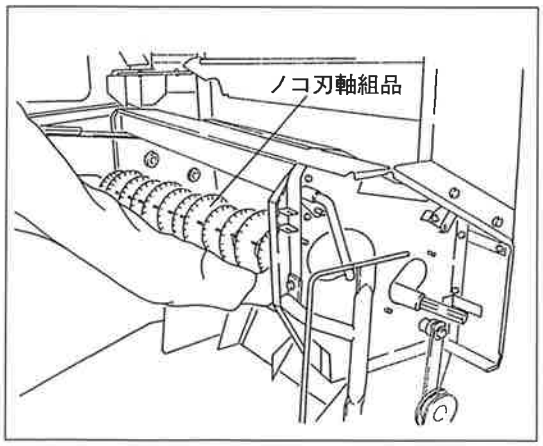
●パイプA（短）とパイプB（長）は長さが違います。（113～114ページ参照）



(13) ノコ刃軸の左側（株元側）のはね出し板を外します。

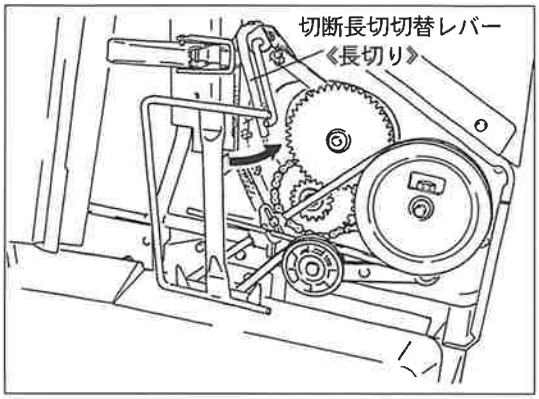


(14) ノコ刃軸の右側のM8ボルトを外します。メタルBを外し，２人でノコ刃軸組品の両側を持って外します。（108ページ図(6)参照）

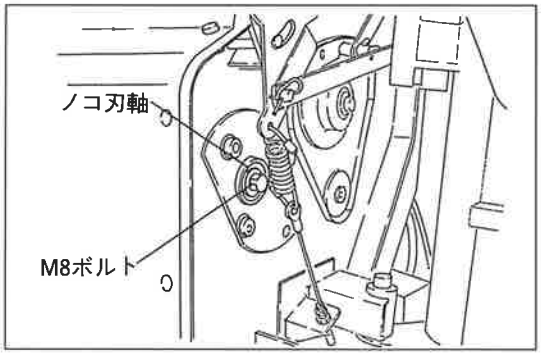


「カッタ後方よりノコ刃軸組品を外す場合」

(1) 切断長切替レバーを《長切り》位置にします。

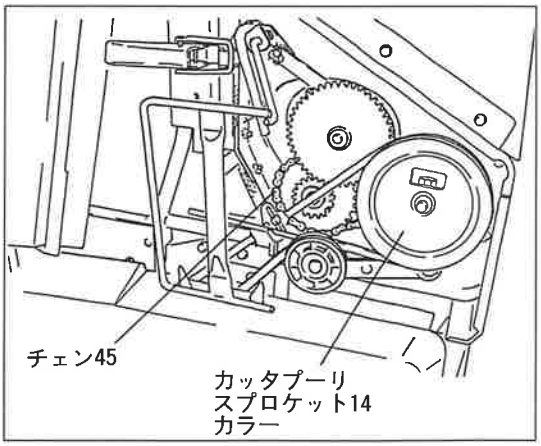


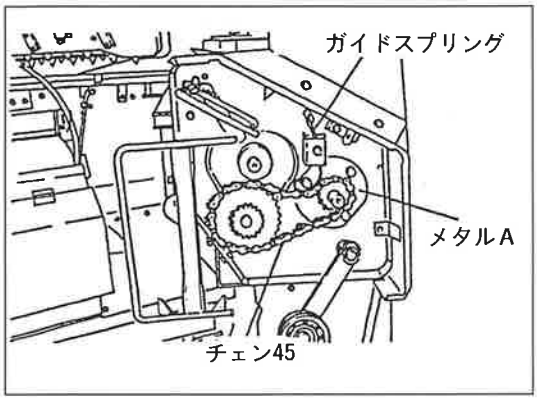
(2) 穂先カバーを外しノコ刃軸の右側のM8ボルトをゆるめます。（ボルトは外しません）



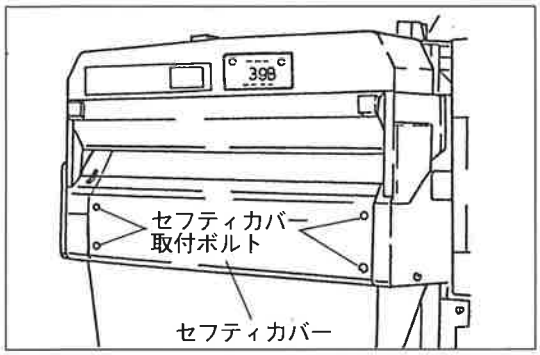
(3) ベルトを外し，カッタプーリ，スプロケット14，カラーを外します。

ガイドスプリングを外し，チェン45を継ぎ部より外します。

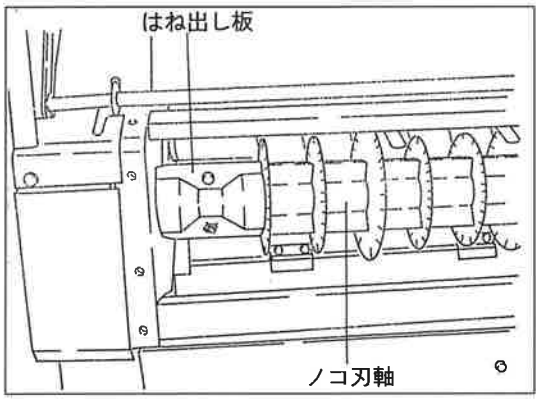




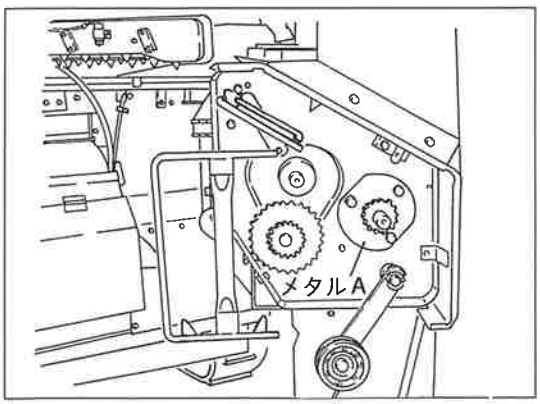
(4) セフティカバーを外します。



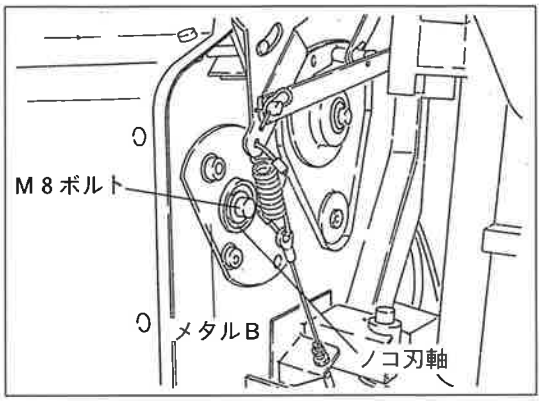
(5) ノコ刃軸左側のはね出し板を外します。



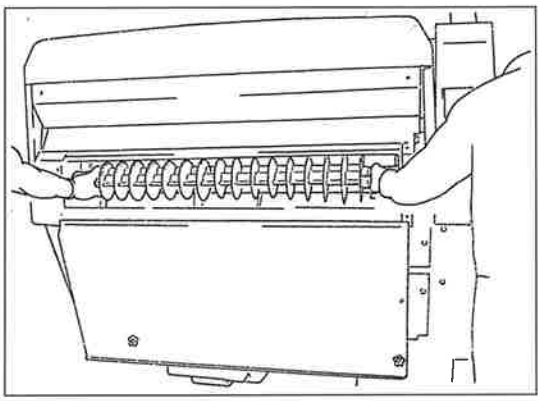
(6) メタルAを外した後，メタルBを外します。



(7) ノコ刃軸右側のM8ボルトを外し，メタルBを外します。



(8) 2人作業でノコ刃軸組品の両側を持って取外します。



取扱いのポイント

- ノコ刃軸組品及びスターホイル軸組品を組付ける時は取外しの逆の手順で行なってください。

❷ 刃の交換のしかた

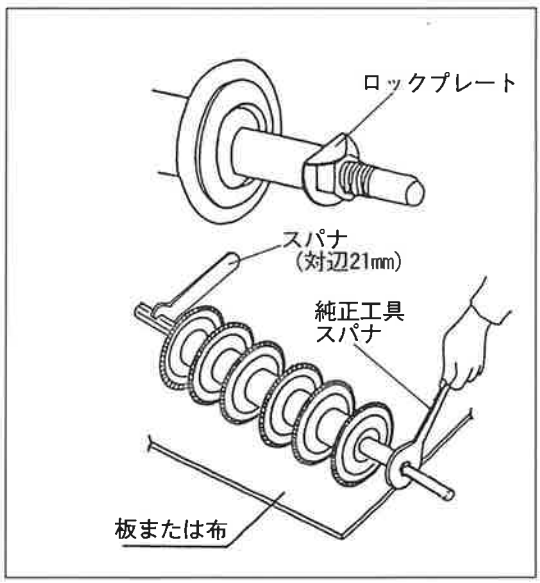
安全のポイント

◆刃の交換作業は２人作業で行なってください。

◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

(1) 刃先を傷付けないよう板又は布を下に敷いてください。

(2) シャフトの分解はロックプレートを伸ばし，専用工具のスパナをナットにかけ，21㎜スパナをシャフトの六角部の対辺に固定し，専用スパナでナットをゆるめます。

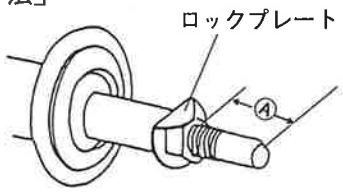


(3) 軸にそって部品を抜き取ります。

(4) ノコ刃を新品に交換し，取付けてあった順に組付けます。(ノコ刃の組立て図参照)

(5) M20のナットで「標準締付寸法」に締付け，ロックプレートを折り曲げます。

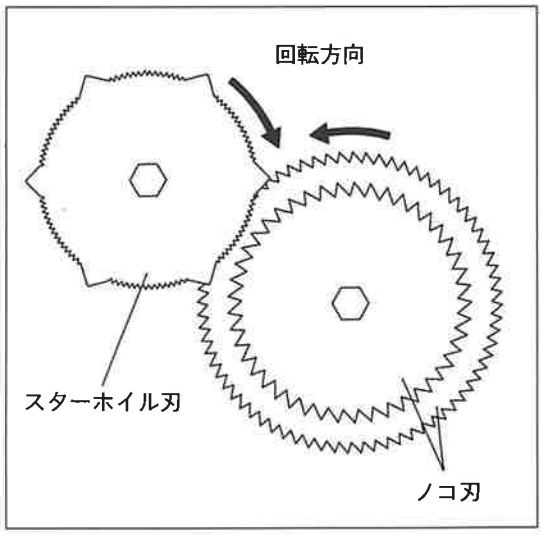
「標準締付寸法」

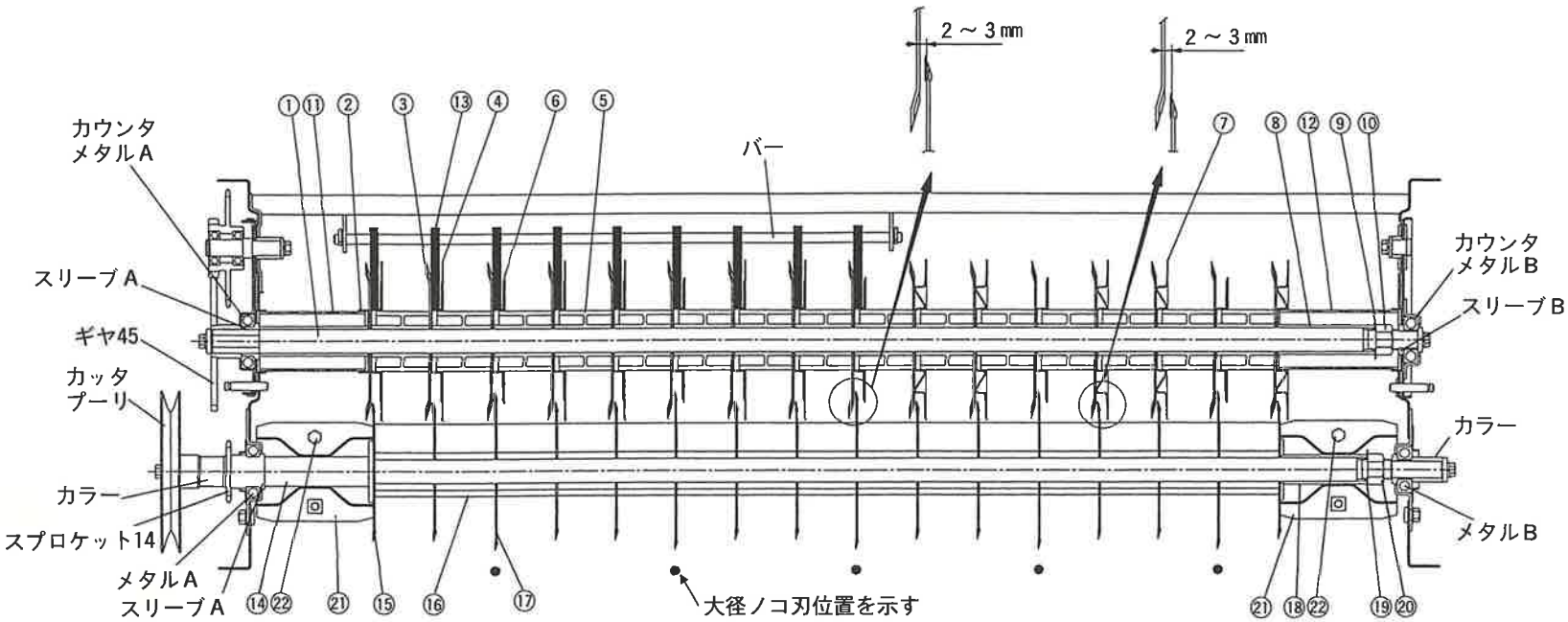


軸	寸法
スターホイル軸	24.5㎜
ノコ刃軸	57.5㎜

取扱いのポイント

- カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，スターホイル軸とノコ刃の接触がないことを，確かめてください。刃のスキマは２～３㎜が最適です。
- 刃の交換はスターホイル軸，ノコ刃軸片側ずつ行なってください。
- ノコ刃の取付けのときは刃の向きを間違えないように，元通りに組付けます。





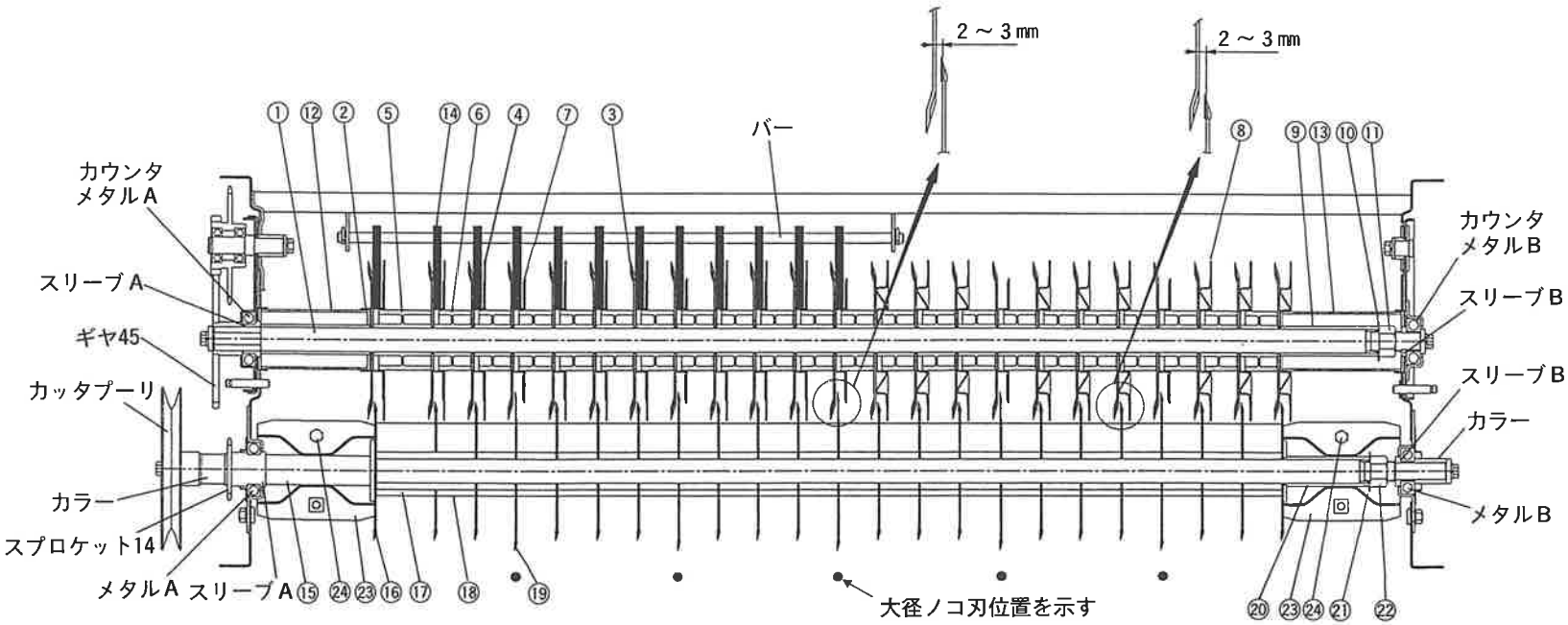
No.	スターホイル軸構成部品	個数
①	シャフトB	1
②	オサエバン（φ64mm）	1
③	スターホイル刃	16
④	オサエバン（φ162mm,段付）	6
⑤	パイプB（L＝57.4mm）	15
⑥	オサエバン（φ126mm）	5
⑦	オサエバン（φ162mm,段なし）	5
⑧	パイプ（L＝97mm）	1
⑨	ロックプレート	1
⑩	ナット（M20×1.5）	1
⑪	パイプA（エンビL＝105mm）	1

No.	ノコ刃軸構成部品	個数
⑫	パイプB（エンビL＝118mm）	1
⑬	スクレーパ	9
⑭	シャフトA	1
⑮	ノコ刃（φ140mm）	11
⑯	パイプA（L＝58.4mm）	15
⑰	ノコ刃（φ160mm）	5
⑱	ロックパイプ（L＝86mm）	1
⑲	ロックプレート	1
⑳	ナット（M20×1.5）	1
㉑	ハネダシバン	4
㉒	ボルト	4

取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。
  順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

●［DM32S型（スーパーマルチカッタ）］スターホイル軸，ノコ刃軸組立て図



No.	スターホイル軸構成部品	個数
①	シャフトB	1
②	オサエバン（φ64mm）	1
③	スターホイル刃	23
④	オサエバン（φ162mm,段付）	9
⑤	パイプB（L＝57.4mm）	1
⑥	パイプD（L＝37.4mm）	21
⑦	オサエバン（φ126mm）	5
⑧	オサエバン（φ162mm,段なし）	9
⑨	パイプ（L＝97mm）	1
⑩	ロックプレート	1
⑪	ナット（M20×1.5）	1
⑫	パイプA（エンビL＝105mm）	1

No.	ノコ刃軸構成部品	個数
⑬	パイプB（エンビL＝118mm）	1
⑭	スクレーパ	12
⑮	シャフトA	1
⑯	ノコ刃（φ140mm）	18
⑰	パイプA（L＝58.4mm）	1
⑱	パイプC（L＝38.4mm）	21
⑲	ノコ刃（φ160mm）	5
⑳	ロックパイプ（L＝86mm）	1
㉑	ロックプレート	1
㉒	ナット（M20×1.5）	1
㉓	ハネダシバン	4
㉔	ボルト	4

取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。
  順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

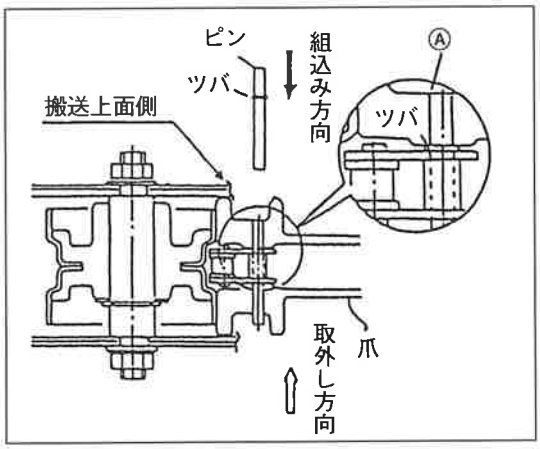
19 爪の交換のしかた（引起し爪，穂先搬送爪，かき込み爪，穂先排ワラ爪）

❶ 爪の取外し

爪を取付けているピンを突き出ている側から，たたいて抜取り，爪を取外します。（ピンは強くたたかなくても抜けます。）

❷ 爪の組込み

ピンはツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。（図示Ⓐ部参照）



20 刈刃の上下調節，手入れ

安全のポイント

◆刈刃を取外す前に刈刃受プレートにピンが入っていることを確認してください。

◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行なってください。刈刃は内側のボルトを外してから外側のボルトを外してください。

◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いてけがをすることがあります。

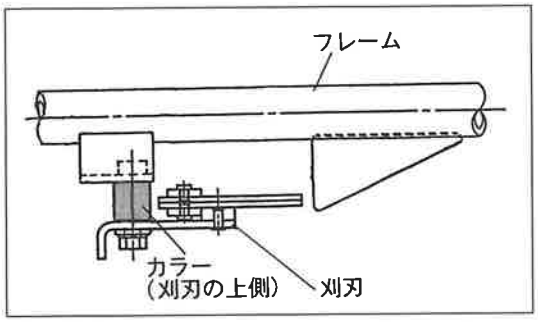
◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚等を入れて作業してください。

❶ 刈刃の上下調節

・出荷のときは「下セット」になっています。

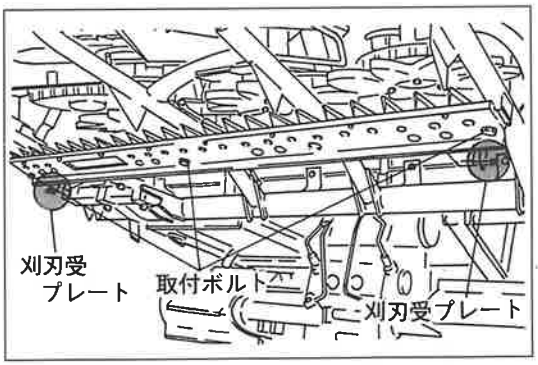
うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，カラーを入替えて刈刃を「上セット」にします。

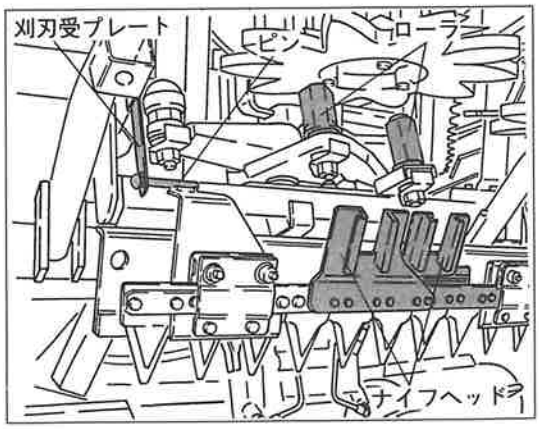
「下セット」（出荷のとき）



(1) 刈刃の両側の刈刃受プレートにピンが入っていることを確認します。

(2) 刈刃取付ボルト３個所のうち，内側のボルト及びカラー１個所を外します。外側２個所のボルトを緩めて，刈刃を手でささえながら外側のボルトを外すと，両側の刈刃受プレートで刈刃が支持されます。



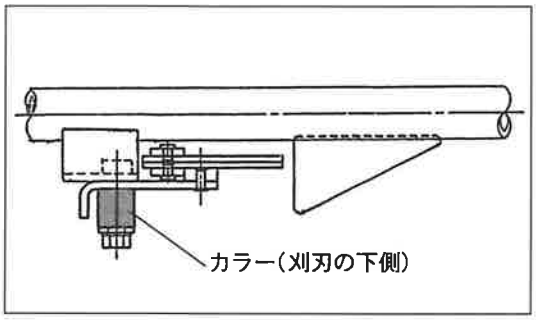


(3) 左側のカラーを入替え，ボルトを取付けます。

(4) ナイフヘッドとローラを合わせながら右側のカラーを入替えボルトを取付けます。

(5) 内側のボルトのカラーを入替え，３個の取付ボルトを締付けます。

「上セット」



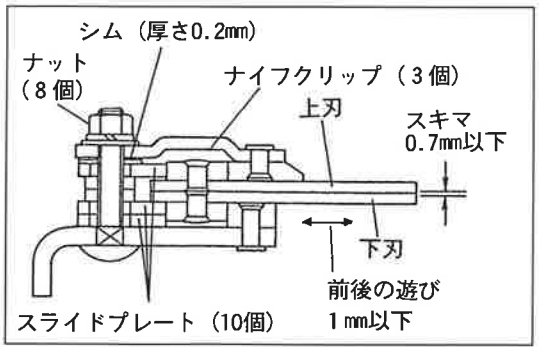
❷ 刈刃の調整

(1) 刈刃に付着している泥やワラクズを取除きます。

(2) ナット（８個）を緩め，ナイフクリップ（３個）の下側のシム（厚さ0.2㎜）で上刃と下刃のスキマが0.7㎜以下になるように調整します。

(3) 上刃，下刃の前後の遊びが１㎜以下になるようにナイフクリップとスライドプレートの位置を調整しナットを締付けます。

(4) 上刃，下刃共スムーズに作動することを確認します。



取扱いのポイント

- １日の作業終了後には刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。
- 刈跡が揃わなくなったりした場合は刈刃に注油をし，上刃と下刃のスキマを調整してください。

21 ワラ切カマの手入れ

安全のポイント

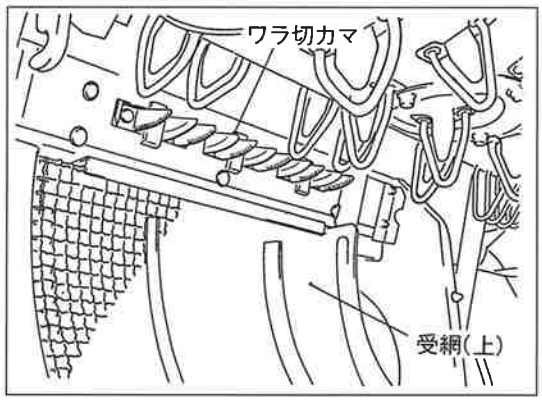
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。

◆刃部に手をかけないでください。

◆ワラ切カマをグラインダで研磨する時は保護メガネを着用し，カマを万力に確実に固定して行なってください。

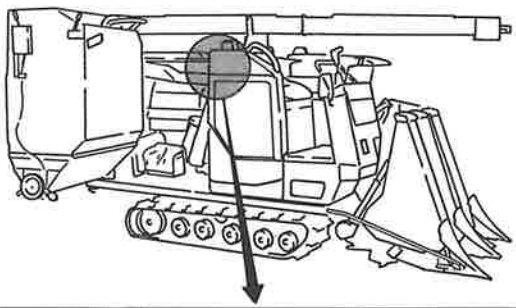
❶ ワラ切カマの取外し

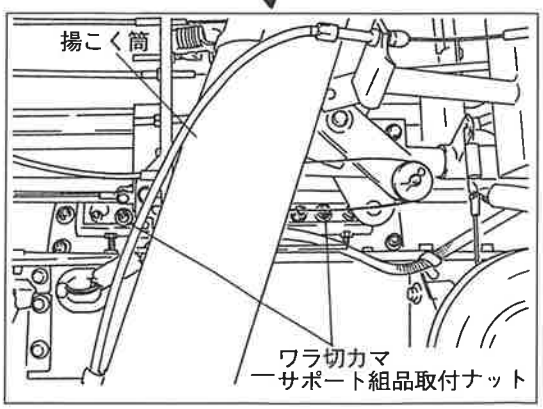
(1) こぎ胴部を開きます。



(2) グレンタンクを開きます。

［グレンタンク仕様］

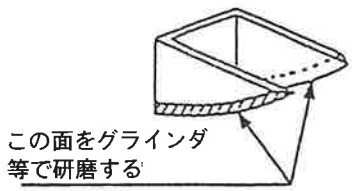




(3) ワラ切カマサポート組品で取外します。
ワラ切カマをサポートから取外します。

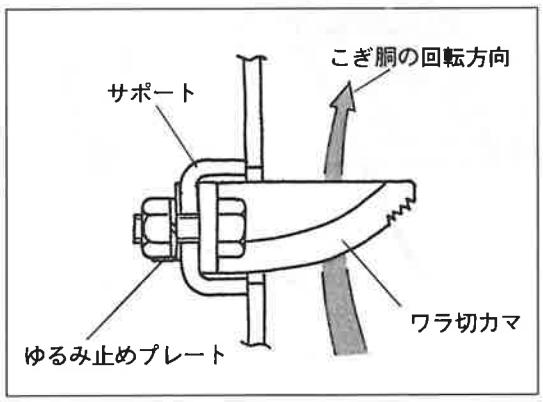
❷ ワラ切カマの研磨

外したワラ切カマをグラインダで，焼きが戻らないように研磨します。



❸ ワラ切カマの取付け

ワラ切カマの組付け方向を確認してまっすぐに締付けます。



取扱いのポイント

- ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下します。ワラ切カマを取外し研磨してください。
- ワラ切カマの中央にこぎ歯がくるように取付けてください。

22 こぎ歯の点検・調整

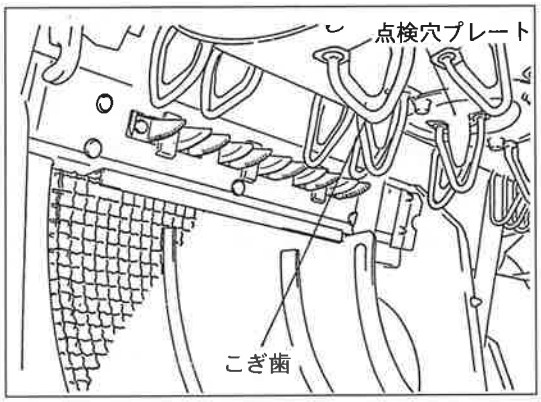
安全のポイント

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆こぎ胴部を開く時は，自動ロック位置まで確実に持ち上げノッチを《自動ロック解除レバー固定》方向に動かし，自動ロック解除レバーを固定してください。

◆自動ロック解除レバーを操作するときはシリンダカバーのアーム又はカバーの先端を確実に支えて行なってください。

❶ こぎ胴部を開きます。



❷ こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

取扱いのポイント

- こぎ胴の点検穴プレートのボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますのでボルトが摩耗し始めた時も交換が必要です。

3 調整のしかた

・各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生ずるので再調整を行い，損耗の限度を越えた部品は交換し正しく使用できる状態にします。

安全のポイント

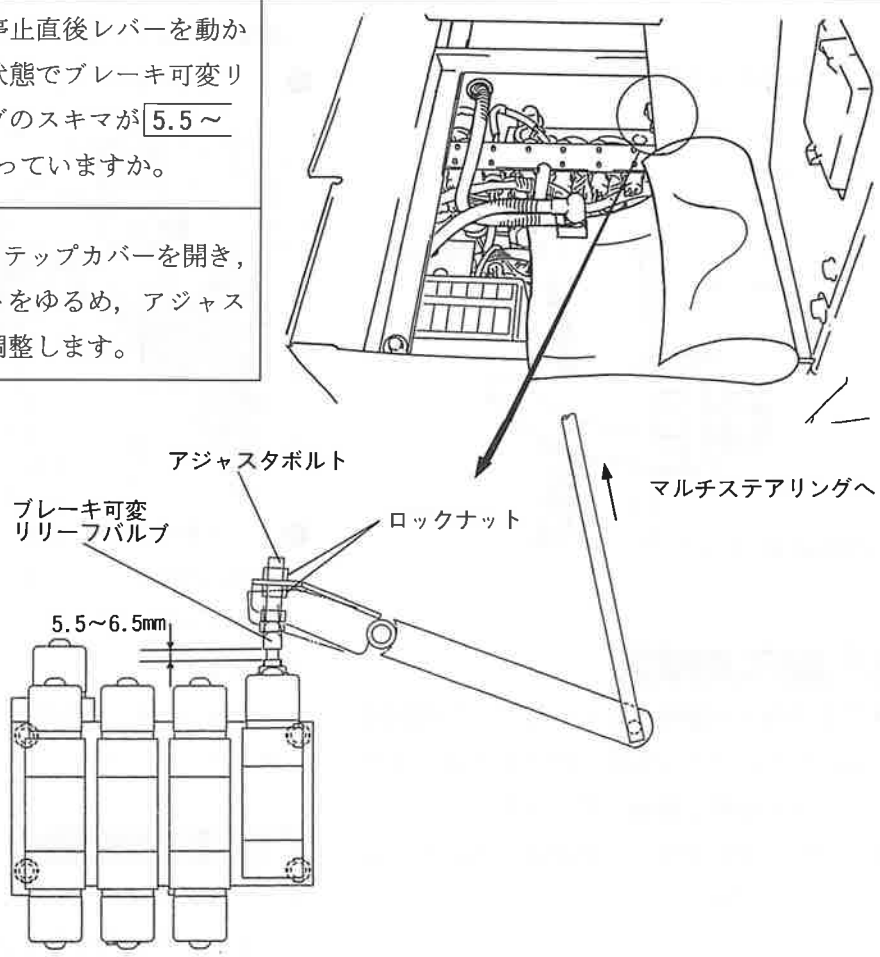
◆掃除・点検・調整・整備は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

1 レバー・ペダルの点検・調整

マルチステアリングレバー

点検	エンジン停止直後レバーを動かさずに中立状態でブレーキ可変リリーフバルブのスキマが 5.5～6.5㎜ になっていますか。
調整	運転席のステップカバーを開き，ロックナットをゆるめ，アジャスタボルトで調整します。



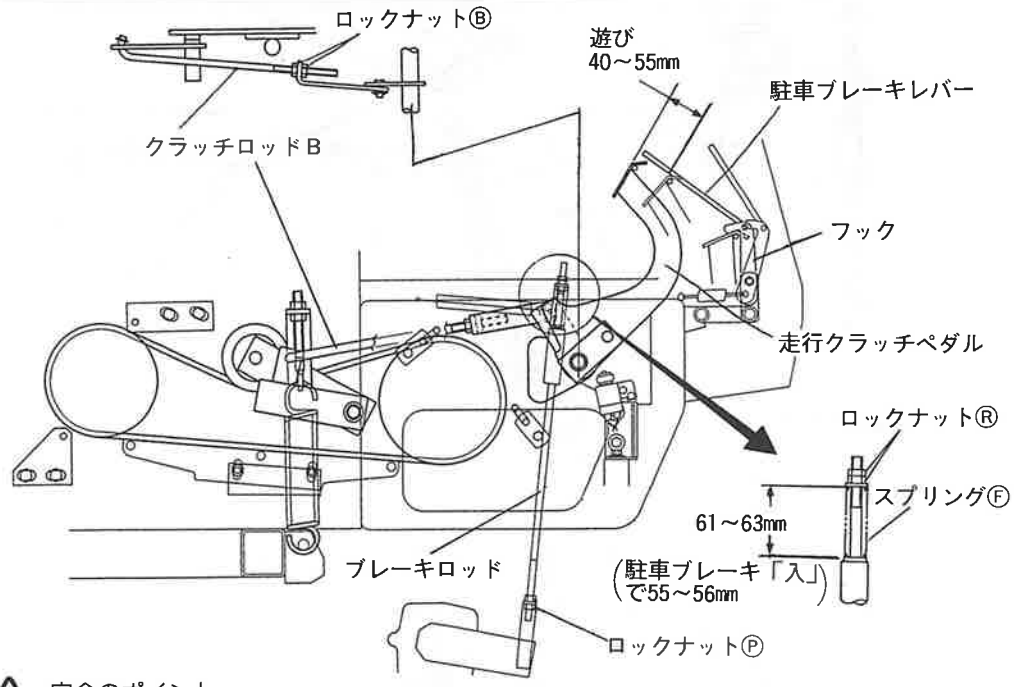
安全のポイント

◆マルチステアリングレバーアジャスタボルトの調整を行なってください。

マルチステアリングレバーのアジャスタボルトの調整が悪いと，ブレーキのききが悪かったり片ぎきとなり正常な旋回ができなくて，事故を引き起こす原因となることがあります。

走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

点検	調整
❶ 走行クラッチペダル先端の遊びが 40～55mm になっていますか。	❶ クラッチロッドBのロックナットⒷをゆるめて，ペダル先端の遊びを 40～55mm に調整します。調整後，ロックナットⒷを締付けます。
❷ 坂道（12°以内）で，駐車ブレーキをかけたときに機械が停止していますか。	❷(1) 駐車ブレーキの調整は，走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングⒻ長さを 61～63mm にロックナットⓇで調整します。 (2) つぎに，走行クラッチペダルを踏んで駐車ブレーキレバーでフックをかけた状態でスプリング長さを 55～56mm にブレーキロッドのロックナットⓅをゆるめて調整します。 (3) 調整後，ロックナットⓇ，Ⓟを締付けます。



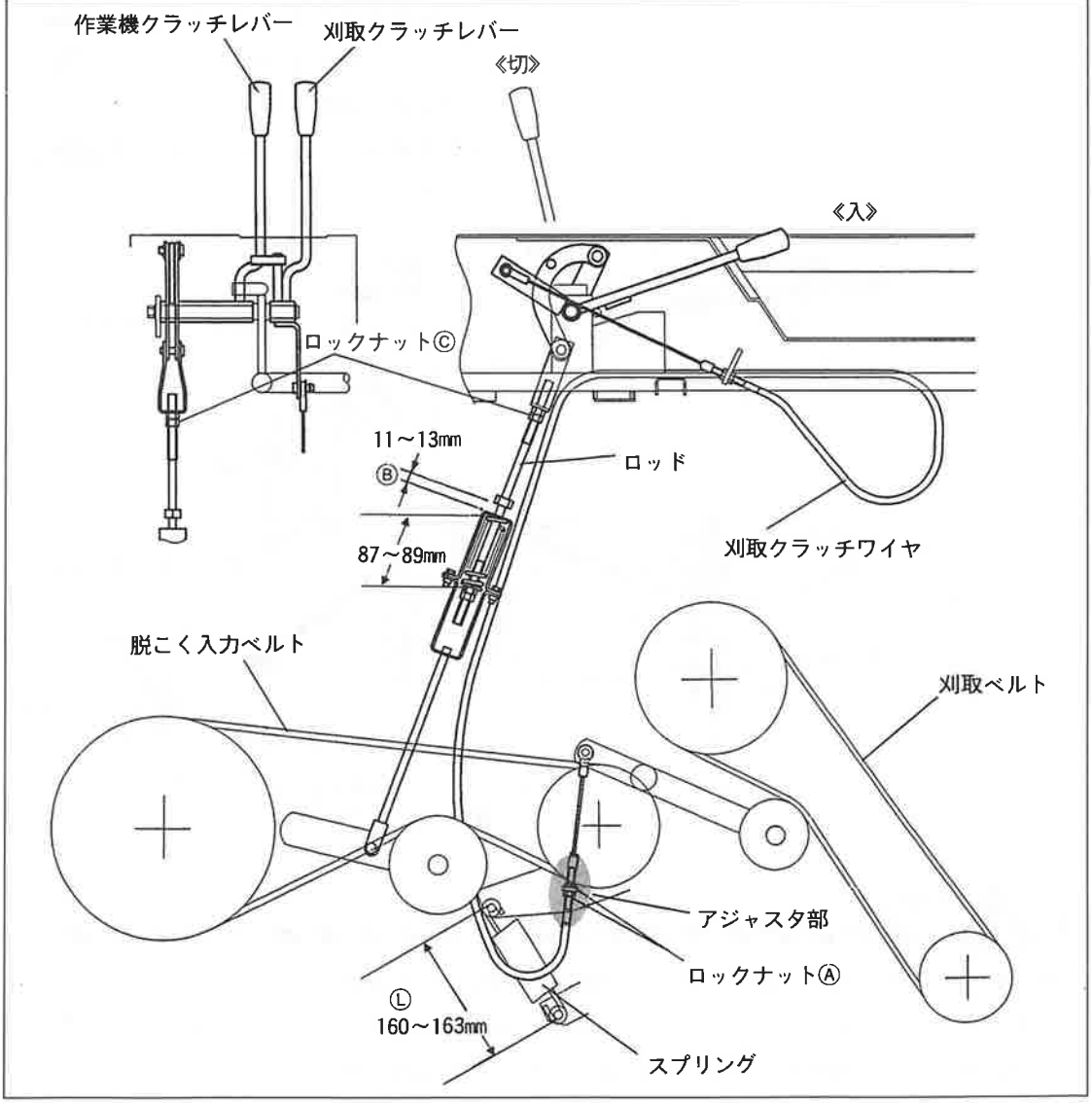
安全のポイント

◆走行クラッチペダル・駐車ブレーキの調整を行なってください。

走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいとクラッチの切れやブレーキのききが悪くなり，事故を引き起こす原因となることがあります。

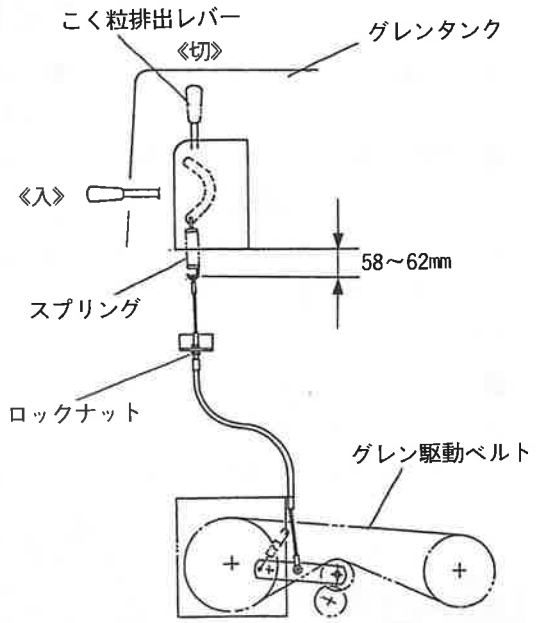
刈取・作業機クラッチレバー

点　検	調　整
「刈取クラッチ」 刈取部をいっぱい下げた状態で，刈取クラッチレバーが《入》のとき，スプリングのⓁ寸法が 160～163mm になっていますか。	タイトアーム側のロックナットⒶをゆるめて刈取クラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。
「作業機クラッチ」 作業機クラッチレバー《入》のとき，Ⓑ部スキマが 11～13mm になっていますか。 又はスプリング長さ 87～89mm になっていますか。	ロックナットⒸをゆるめて，ロッド長さを調整します。



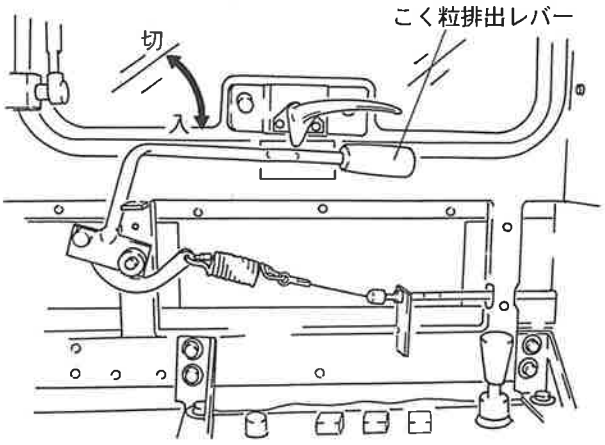
こく粒排出レバー　［グレンタンク仕様］

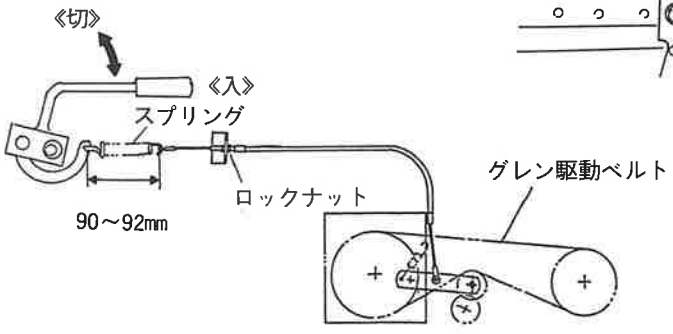
点検	こく粒排出レバー「入」のとき，カバー下端面よりスプリングフックまでの長さが 58～62mm になっていますか。
調整	ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。



こく粒排出レバー　［キャビン仕様］

点検	こく粒排出レバー「入」のとき，スプリングフックの長さが 90～92mm になっていますか。
調整	ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。



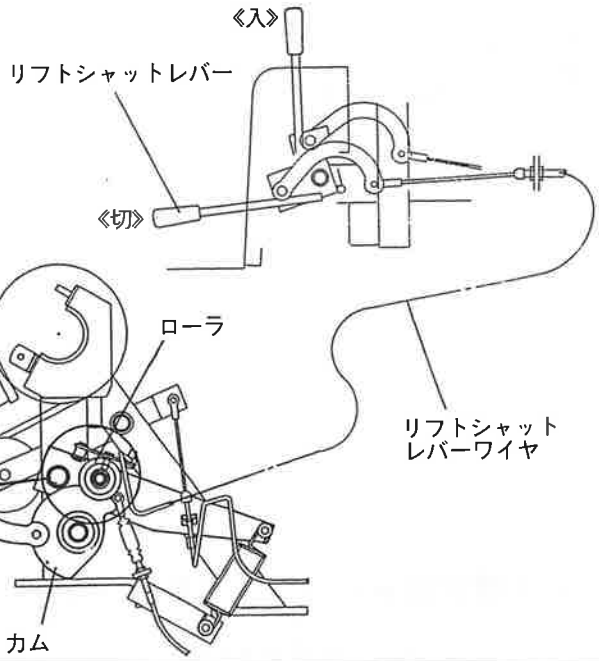


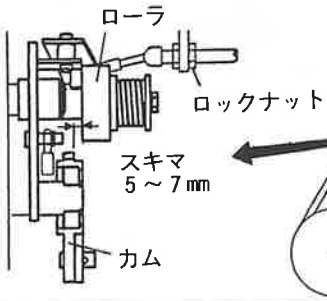
リフトシャットレバー

点検	リフトシャットレバーが《切》のときカムとローラのスキマが 5～7㎜ になっていますか。
調整	❶ 刈取部をいっぱい上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にし，フックをかけ，刈取部の下に固定脚を入れます。(19ページ参照) ❷ リフトシャットレバーワイヤのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。

安全のポイント

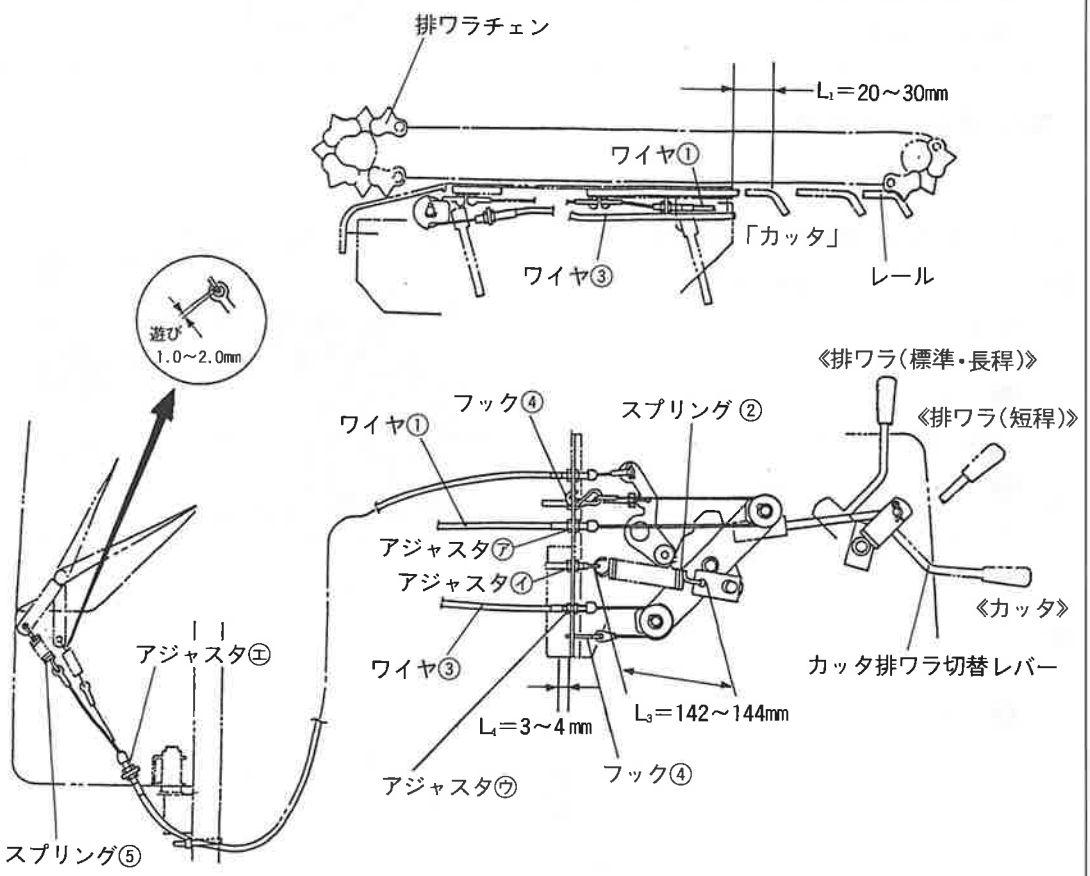
◆リフトシャットの点検・調整時はリフトシャットレバーを《切》にして油圧を固定して行なってください。





カッタ・排ワラ切替レバー

点　検	調　整
❶ 切替レバーを《カッタ》にしたとき，レールの寸法L_1が 20～30mm になっていますか。	❶ 切替レバーを《カッタ》にしワイヤ①のアジャスタ㋐で調整します。
❷ 切替レバーを《カッタ》または《排ワラ(標準・長稈)》にしたとき，スプリング②の寸法L_3が 143mm になっていますか。	❷ 切替レバーを《カッタ》または《排ワラ(標準・長稈)》にしアジャスタ㋑で調整します。
❸ 切替レバーを《排ワラ(短稈)》にしたとき，ワイヤ①③のフック④が 3～4mm 遊んでいますか。	❸ 切替レバーを《排ワラ(短稈)》にしワイヤ①又は③のアジャスタ㋐又は㋒で調整します。
❹ 切替レバーを《排ワラ(短稈)》または《排ワラ(標準・長稈)》にしたとき，スプリング⑤が 1.0～2.0mm 遊んでいますか。	❹ 切替レバーを《排ワラ(短稈)》または《排ワラ(標準・長稈)》にしアジャスタ㋓で調整します。



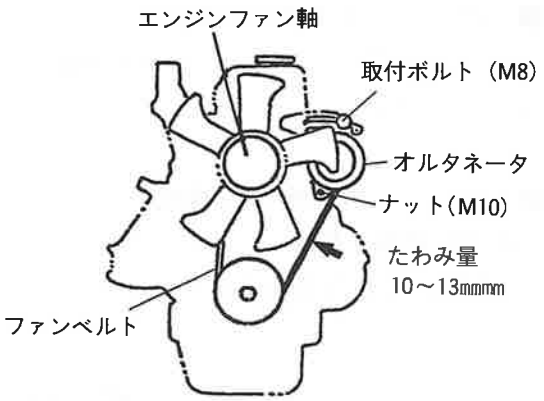
2 ベルトの点検・調整

取扱いのポイント

●調整が出来なくなったら新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換した時は，各スプリング寸法ベルトガイド等を正規の寸法に調整してください。

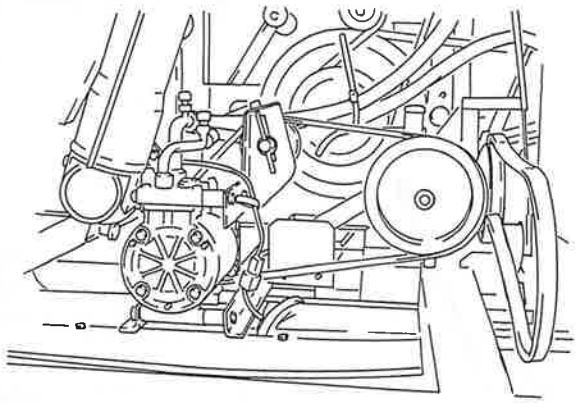
エンジンファンベルト

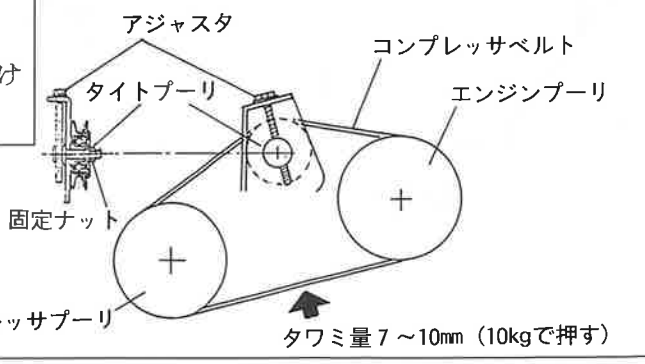
点検	ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が10～13mmとなっていますか。
調整	❶ エンジンカバーを開きます。 ❷ オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめます。 ・オルタネータを外側に倒すとベルトが張れます。 ❸ 調整後，取付ボルトナットを締めつけます。



コンプレッサベルト

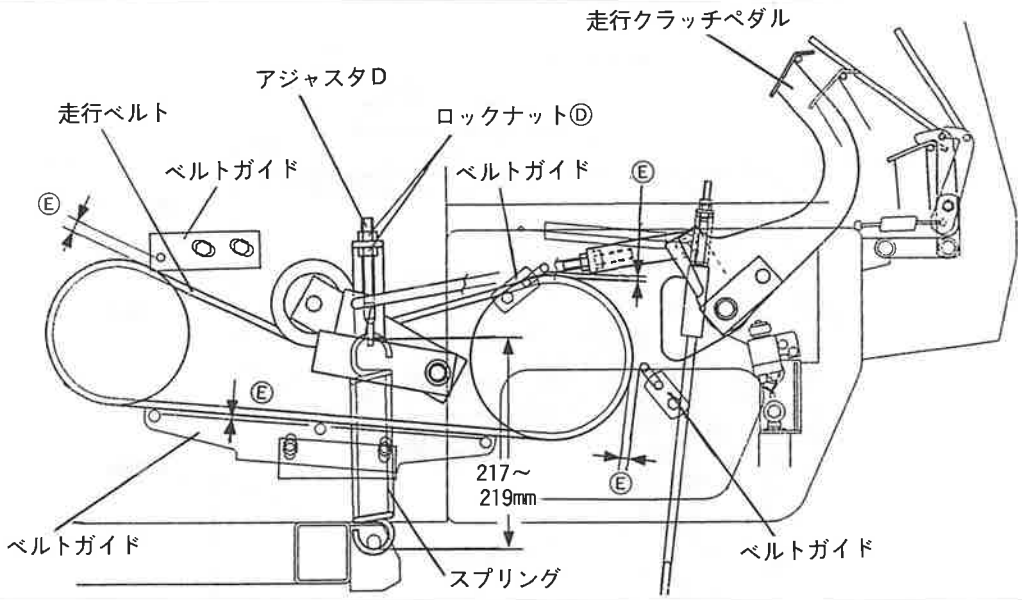
点検	コンプレッサベルトの長い部分の中央部に「10kg」の押力を加え，タワミ量が7～10mmとなっていますか。
調整	❶ グレンタンクを開きます。（96～97ページ参照） ❷ タイトプーリの固定ナットをゆるめます。 ❸ アジャスタボルトを締込みコンプレッサベルトの張り調整をします。 ❹ 調整後，固定ナットを締付けます。





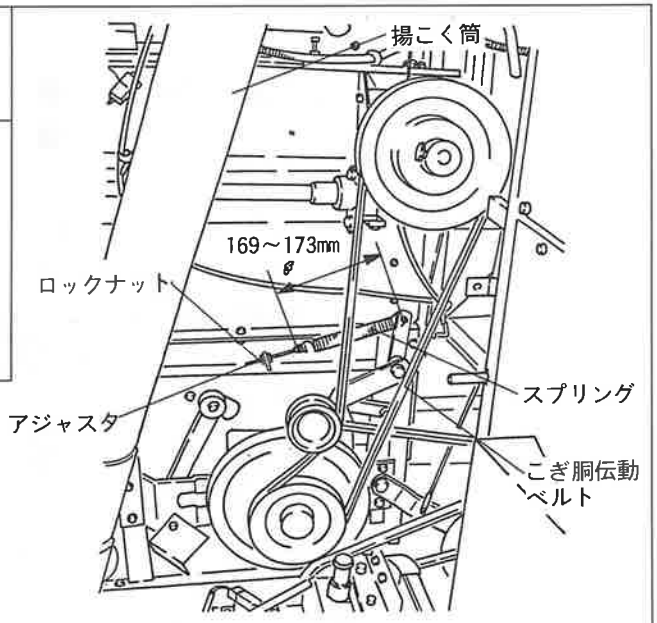
走行ベルト

点検	調整
走行クラッチペダルを踏まない状態でスプリング長さが 217～219mm になっていますか。	❶ アジャスタDのロックナットⒹをゆるめてスプリング長さを調整します。 ❷ 4個所のベルトガイドのスキマⒺを 3～5mm に調整します。



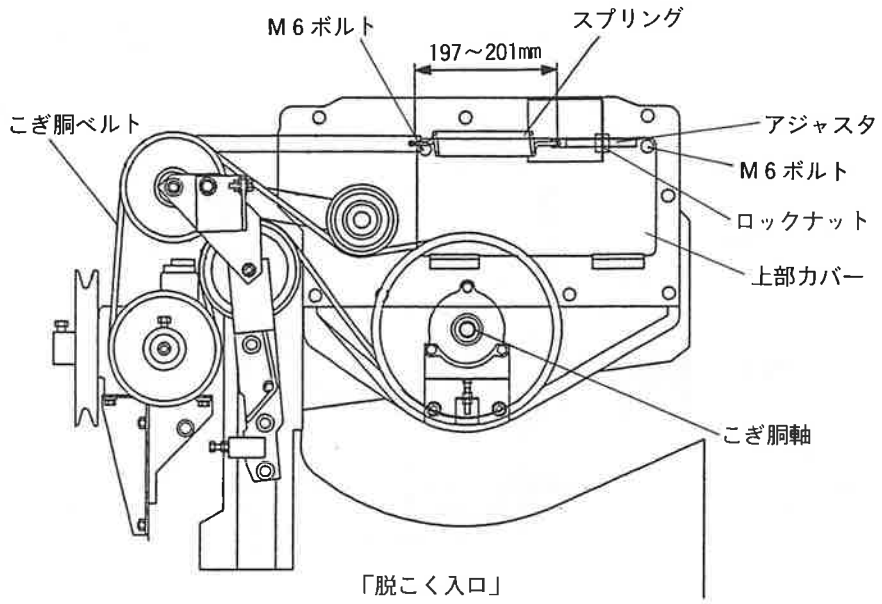
こぎ胴伝動ベルト

点検	スプリング長さが 169～173mm になっていますか。
調整	❶ グレンタンクを開きます。 ［グレンタンク仕様］ ❷ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。



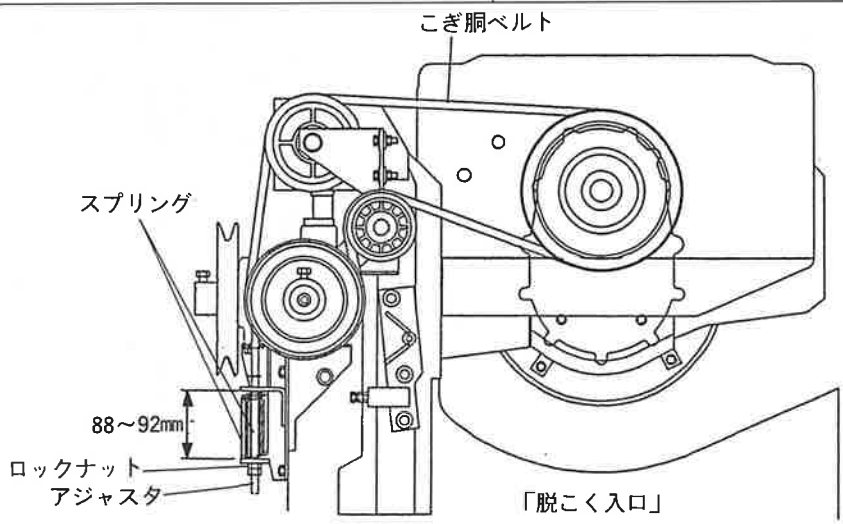
こぎ胴ベルト　[210・240・270型]

点検	調整
走行クラッチペダルを踏まない状態でスプリング長さが 197～201mm になっていますか。	❶ 脱こく入口部の上部カバーをM6ボルト2本を外して開きます。 ❷ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



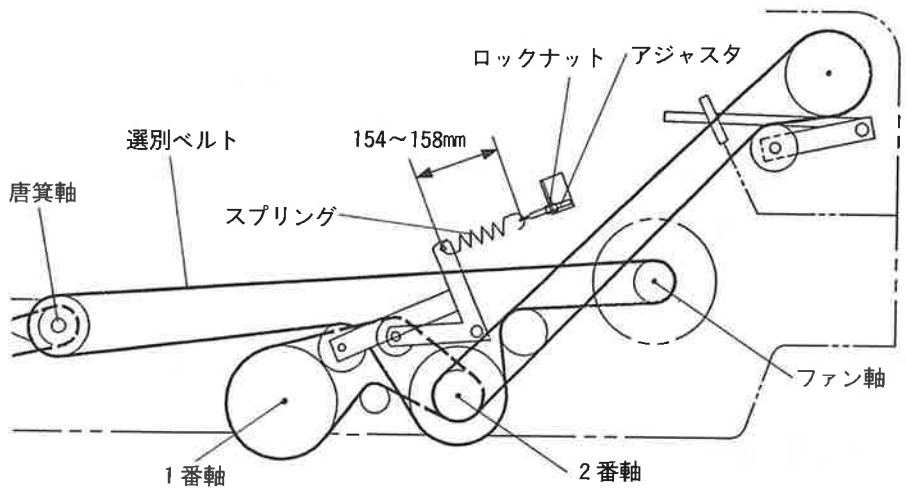
こぎ胴ベルト　[320型]

点検	調整
スプリングのセット寸法が 88～92mm になっていますか。	❶ グレンタンクを開きます。 ❷ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。



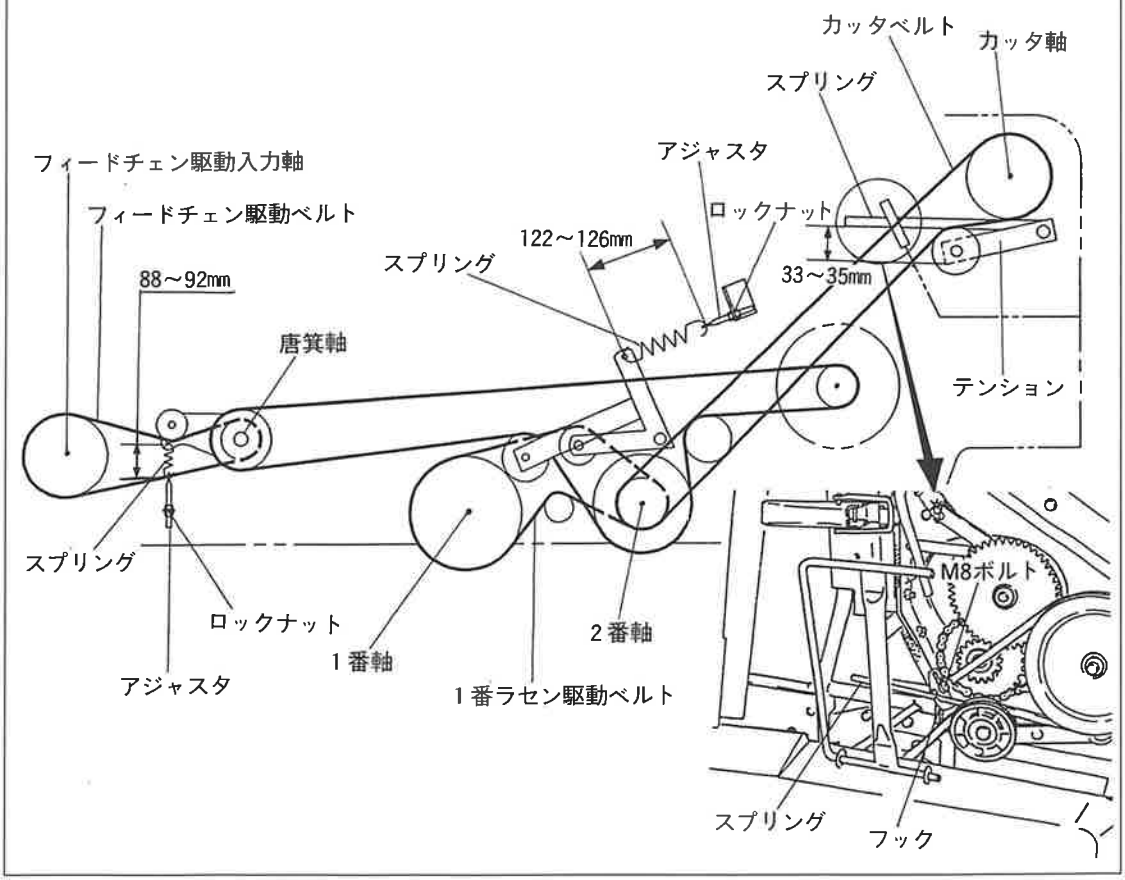
選別ベルト

点　　検	調　　整
スプリング長さが 154～158mm になっていますか。	脱こくサイドカバー（上),(下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。



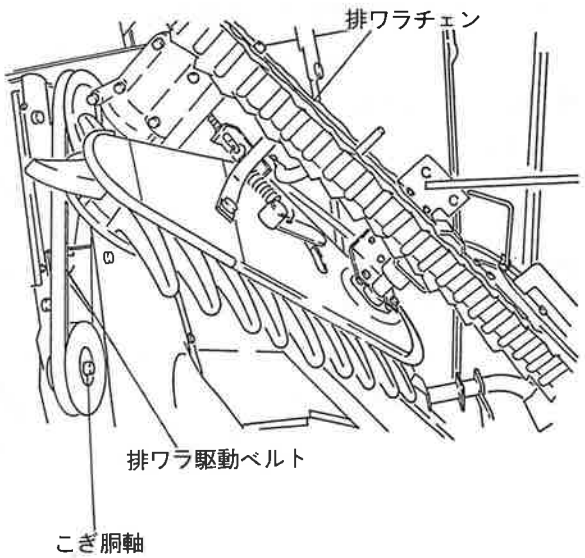
1番ラセン駆動ベルト
フィードチェン駆動ベルト
カッタベルト

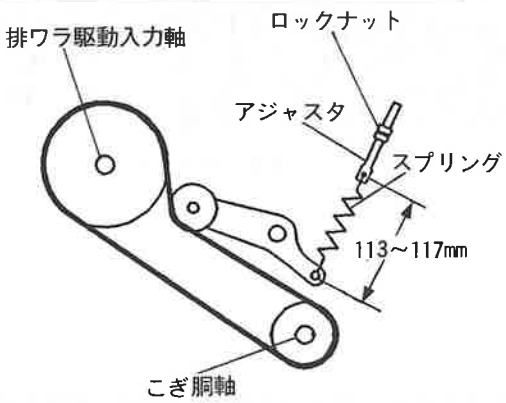
点　　検	調　　整
「1番ラセン駆動ベルト」 スプリング長さが 122～126mm になっていますか。	脱こくサイドカバー（上),(下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。
「フィードチェン駆動ベルト」 スプリング長さが 88～92mm になっていますか。	アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。
「カッタベルト」 図示位置のスプリングとテンションプレートの寸法が 33～35mm になっていますか。	フック部の金具のM8ボルトをゆるめて調整します。



排ワラ駆動ベルト

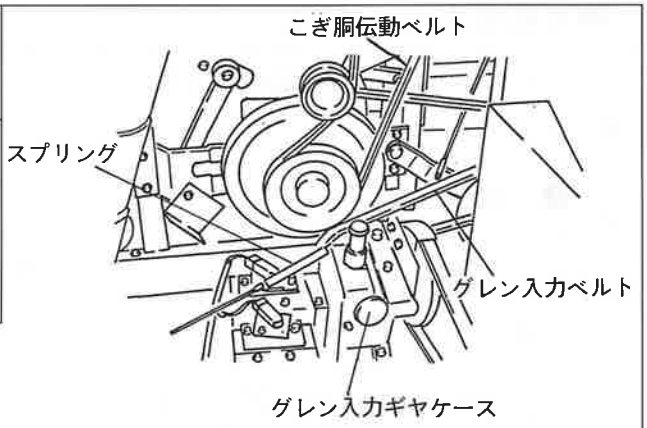
点検	スプリング長さが 113～117mm になっていますか。
調整	❶ こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。 ❷ アジャスタのロックナット をゆるめてスプリング長さを調整します。

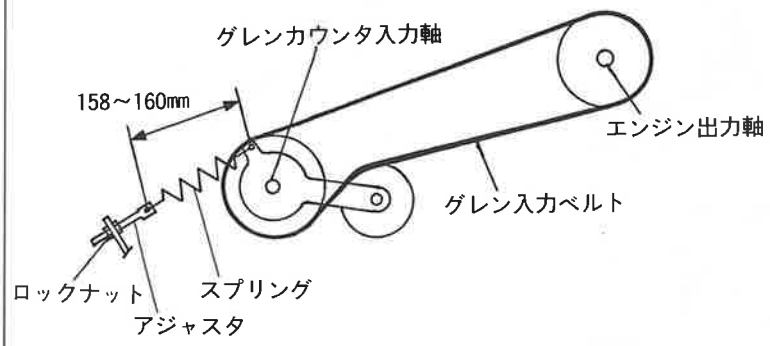




グレン入力ベルト　［グレンタンク仕様］

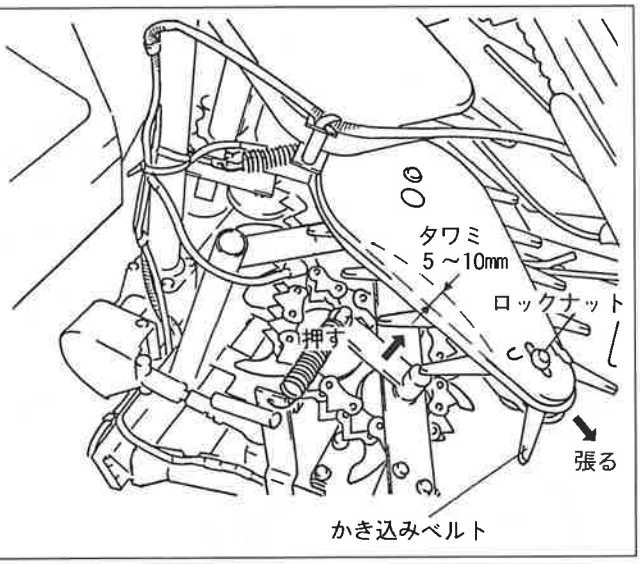
点検	スプリング長さが 158～160mm になっていますか。
調整	❶ グレンタンクを開きます。 ❷ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。





かき込みベルト（刈取部）

点検	ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10㎜ になっていますか。3個所（右，左，中央）
調整	❶ 刈取部サイドカバー（右），（左）を外します。 ❷ アイドラプーリのロックナット（表・裏）をゆるめてアイドラプーリで調整します。



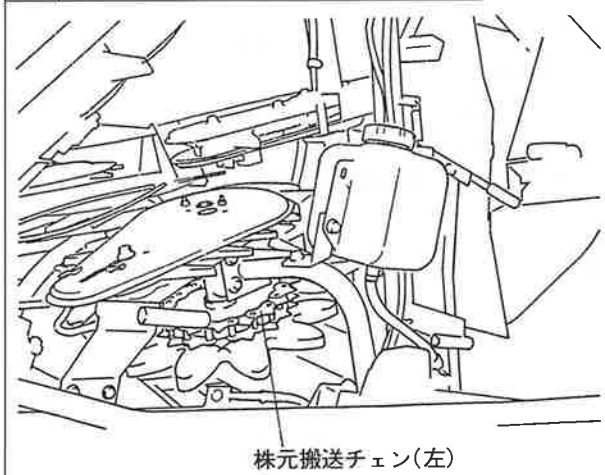
3 チェンの点検・調整

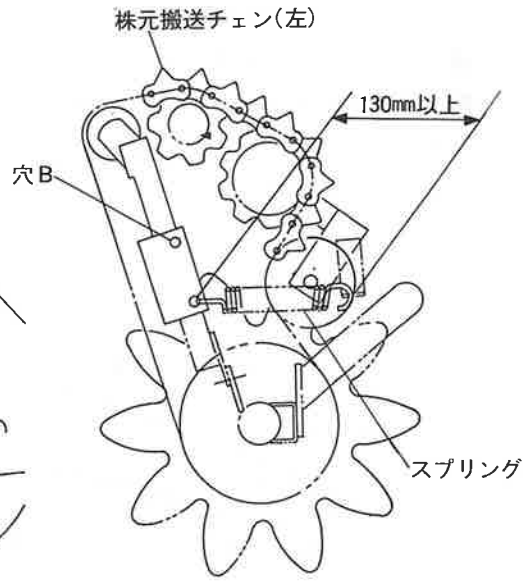
取扱いのポイント

●調整ができなくなったら新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合はスプリングの寸法を正規な寸法に調整してください。

株元搬送チェン（左）

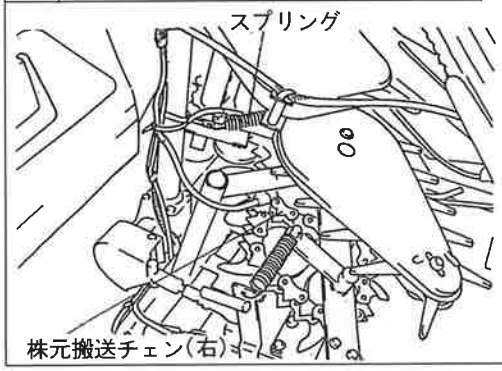
点検	スプリング長さが 130㎜以上 になっていますか。
調整	❶ 刈取部サイドカバー(左)を外します。 ❷ 130㎜以下のときは穴Bにかけ替えます。

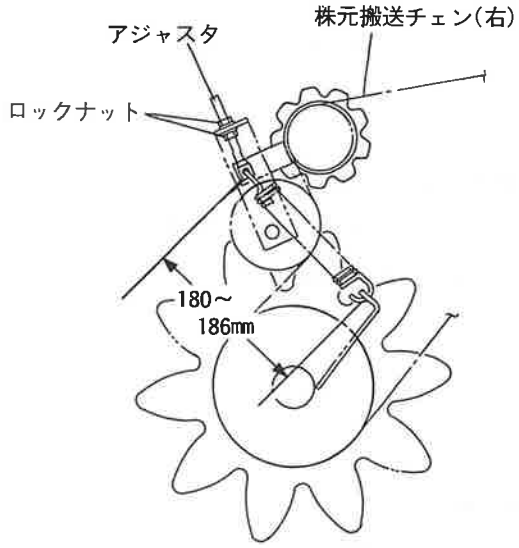




株元搬送チェン（右）

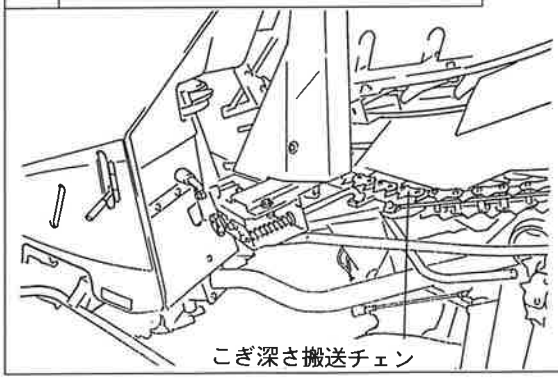
点検	スプリング長さが **180～186mm** になっていますか。
調整	❶ 刈取部サイドカバー(右)を外します。 ❷ アジャスタのロックナットをゆるめ，スプリングの長さを調整します。

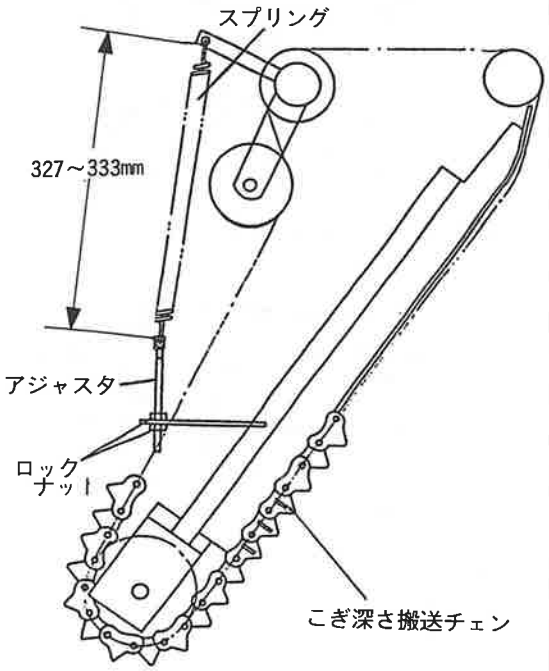




こぎ深さ搬送チェン

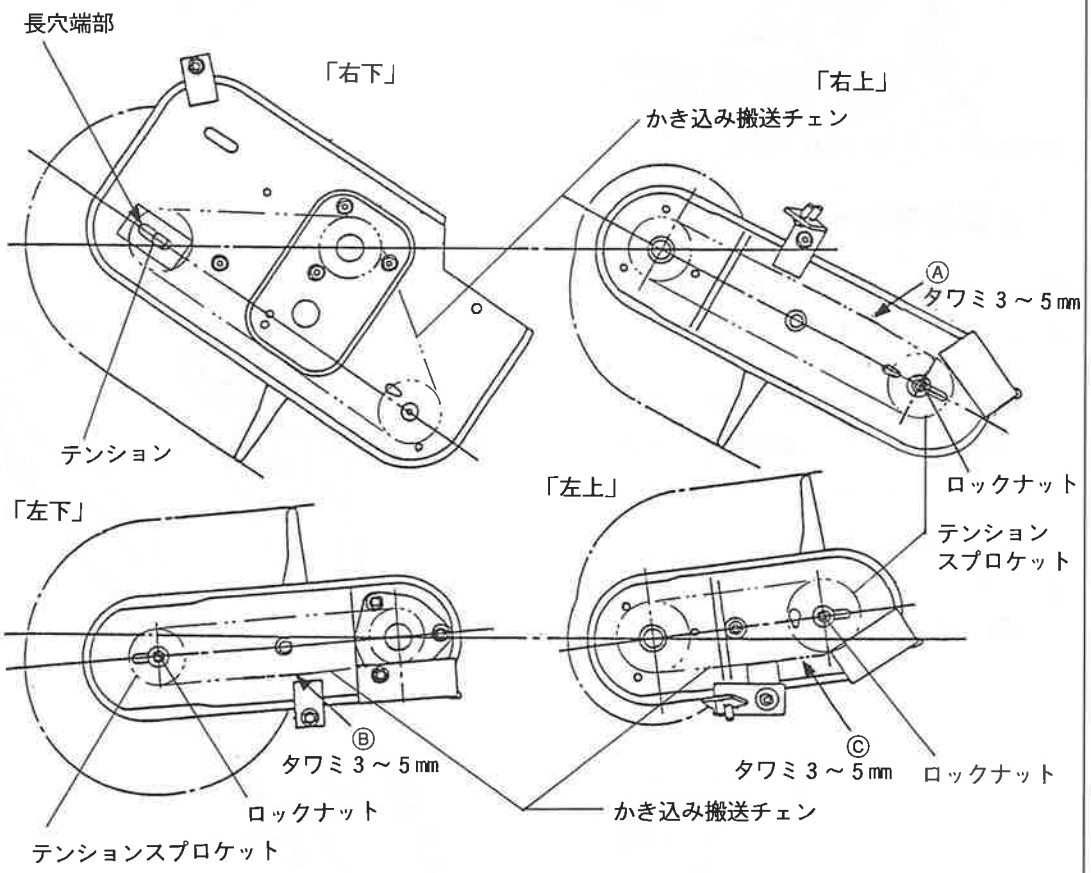
点検	スプリング長さが **327～333mm** になっていますか。
調整	❶ 刈取部をいっぱいあげ，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にし，フックをかけ，刈取部の下に固定脚を入れます。（19ページ参照） ❷ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。





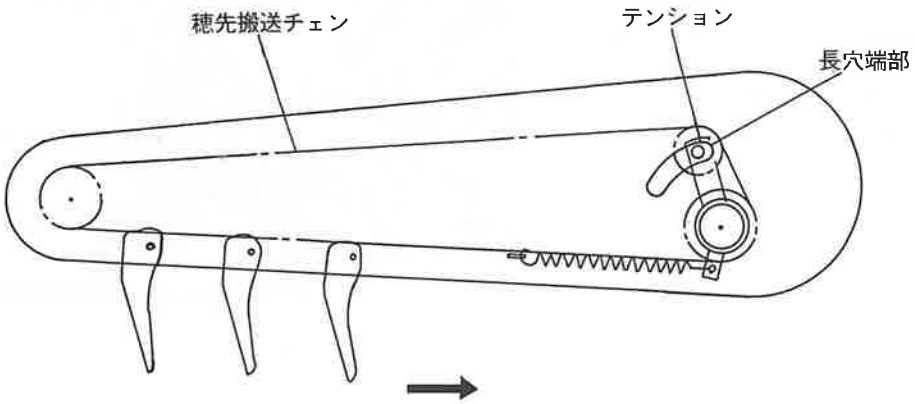
かき込み搬送チェン

点　　検	調　　整
「右下」 テンションが長穴端部に当たっていませんか。	❶ 刈取部サイドカバー（右）を外します。 ❷ テンションが長穴端部に当たっていればチェンを交換します。
「右上，左下，左上」 チェンのⒶ，Ⓑ，Ⓒ部を手で軽く引き，タワミ量が 3～5㎜ になっていますか。	❶ 刈取部サイドカバー（右）（左）を外します。 ❷ テンションスプロケットのロックナット（表・裏）をゆるめてテンションスプロケットで調整します。



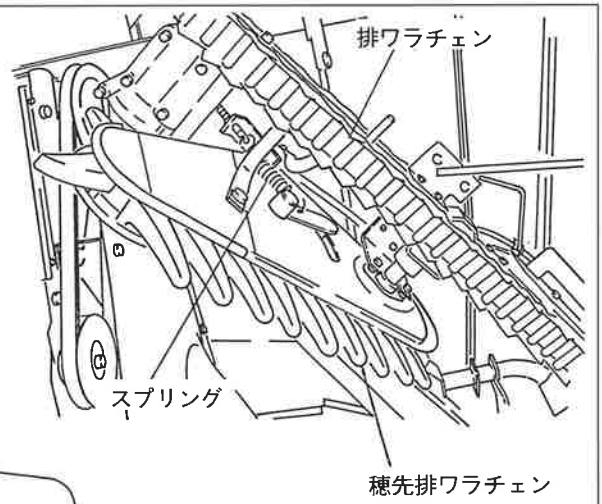
穂先搬送チェン

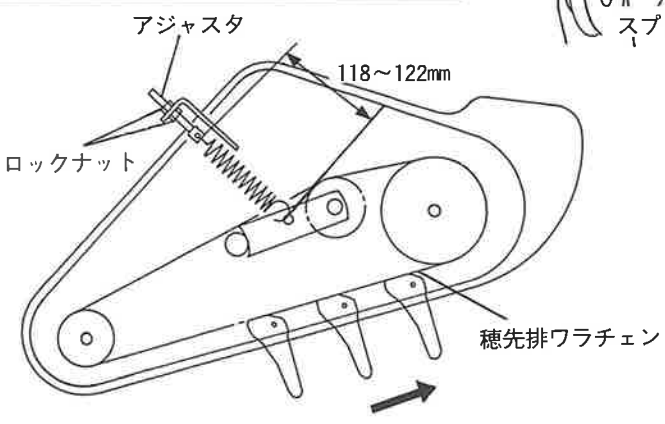
点　検	調　整
テンションが長穴端部に当たっていませんか。	❶ 刈取部をいっぱいあげ，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にし，フックをかけ，刈取部の下に固定脚を入れます。 （19ページ参照） ❷ 下側から点検し，テンションが長穴端部に当たっていればチェンを交換します。



穂先排ワラチェン

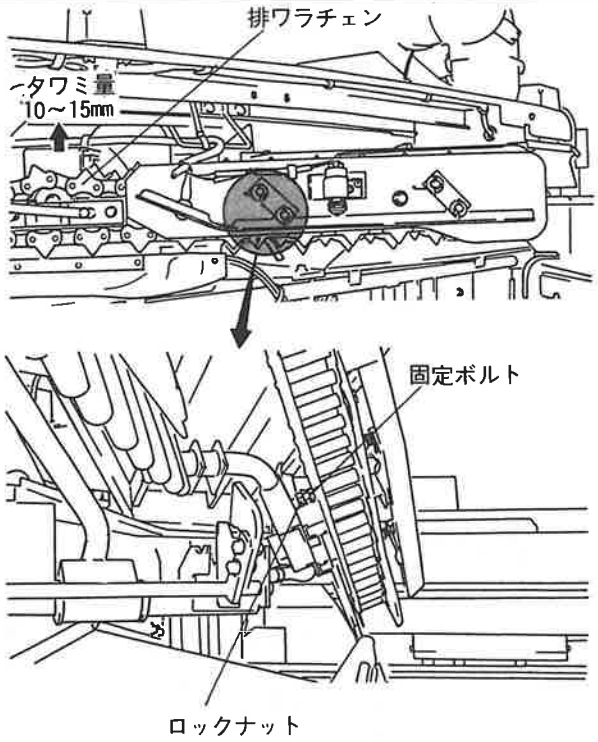
点検	スプリング長さが 118～122mm になっていますか。
調整	❶ こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。 ❷ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。





排ワラチェン

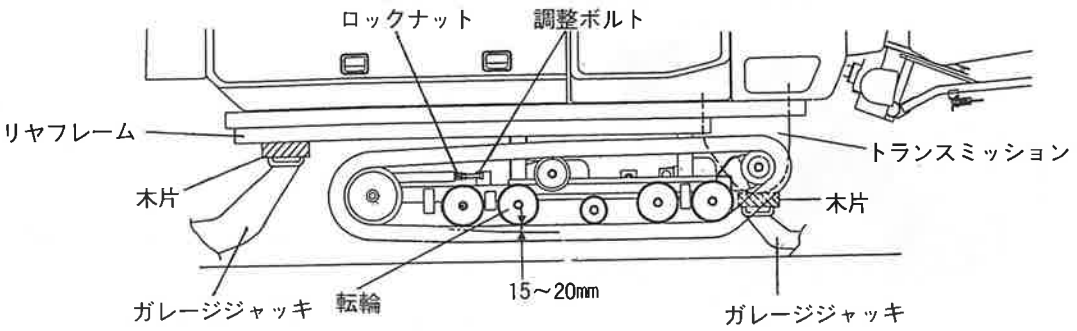
点検	排ワラチェンの中央部を軽く引きタワミ量が 10～15mm になっていますか。
調整	ロックナットをゆるめた後固定ボルトをゆるめると自動的にチェンの張り調整ができます。調整後固定ボルトがゆるまないよう締付けロックナットで固定します。なお調整ができなくなったときはチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。



4 クローラの点検・調整

クローラ

点　検	調　整
フレームをジャッキアップした状態で転輪とクローラのスキマが 15～20㎜ になっていますか。	❶ 図示のようにトランスミッションとリヤフレームの中側（右または左）にガレージジャッキで間に木片をかませてジャッキアップします。 ❷ 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締め込んで張ります。



安全のポイント

◆ガレージジャッキがめり込んだり移動したりしない平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚をかませて落下，転倒防止をしてください。

取扱いのポイント

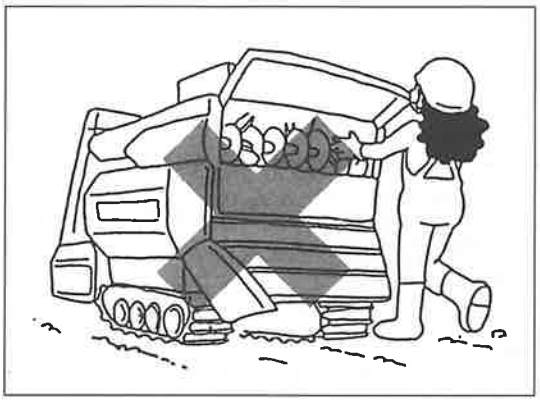
● トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けるとケースが破損する恐れがありますので，木片をかませて行なってください。

4 長期格納のしかた

・シーズンが終わったらつぎの作業をして格納します。

安全のポイント

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

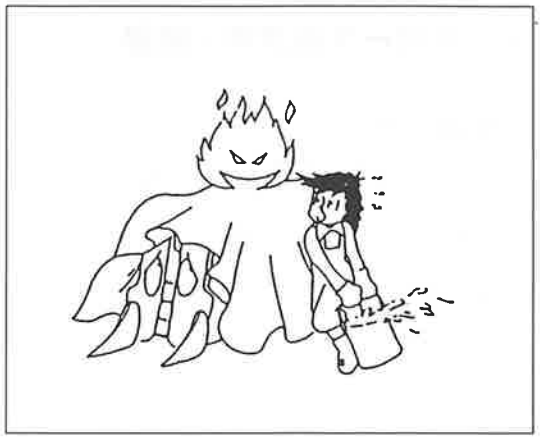


◆ワイヤハーネスおよびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電または焼損などでヤケドや損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，もれや傷みがあれば交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆機械にシートカバーをかける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。



1 機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残溜こく粒などを掃除口よりきれいに取除きます。

（99～106ページ脱こく内部及びグレンタンクの掃除の項を参照）

2 錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリスを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸ 塗装がはげた個所は補修塗料を塗ります。

3 エンジンの手入れ

❶ エンジンコントロールレバーはいっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

❸ 冬期気温が０℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（86～87ページ参照）

4 点検・整備

「定期点検整備表」の項を参考に該当する項目について点検・整備します。
（81～84ページ参照）

取扱いのポイント

- エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。
- ［キャビン仕様］は「水・スチーム厳禁」ラベル貼付（4個所）付近には水をかけないでください。キャビン内部に水が入るおそれがあります。



5 格　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

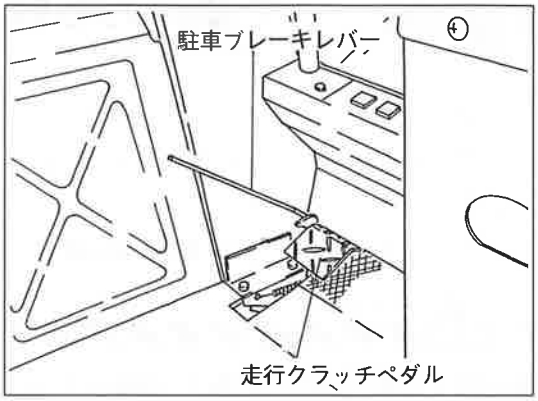
❶ 「クローラ」の下には板等を敷いておきます。

❷ 各レバーは《切》・《N》（中立）の位置にします。

❸ 「ナローガイド（左）」「補助モミ受台」を収納し，デバイダ先端に「バンパ」を取付けておきます。

❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの「始動キー」を抜取ります。

❺ 駐車ブレーキをかけます。



❻ クローラに「歯止め」をします。

❼ 「バッテリ」を取外し，日陰の乾燥した場所に保管します。バッテリの点検と充電の項を参考に，1ケ月に1回，補充電をします。

本機に取付けたまま保管するときはアース側（㊀側）を外しておきます。

取扱いのポイント

- 錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。

6 再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行った後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナル等保管する時に処置した項目を正しく復元します。

❷ シーズン前点検を確実に行います。

不調の発見と処置

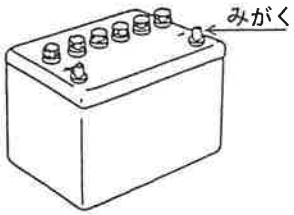
・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは「**型式**」,「**機械番号(製造番号)**」,「**エンジン番号**」をあわせてお知らせください。

安全のポイント

◆**掃除・点検・調整・整備は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。**
◆**ソレノイドバルブの操作をする時は，機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。**
◆**調整を必要とするバルブ以外は操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。**

1 エンジン部

セルモータが回らない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 主変速（無段変速）レバーを《**N始動**》(**前進側N位置**)にして，クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●主変速（無段変速）レバーを《**N始動**》(**前進側N位置**)にして走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。	15
2 バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締めつけます。	93～96
3 ヒュージブルリンクが切れている。	●組配線の短絡個所を点検し，修正後，ヒュージブルリンクを交換します。	23～25
4 バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	93～96
5 《**スタータ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25

セルモータは回るが始動しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給します。 ディーゼル軽油……30ℓ	29
2 燃料系統に空気が入っている。	●給油した後，エア抜きをします。	89
3 《ランプ・計器》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25
4 《キー切り》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25

エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる

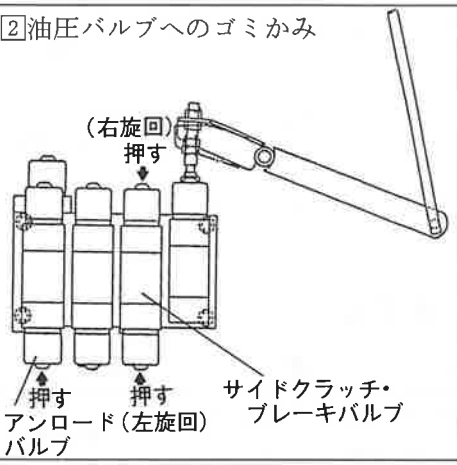
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	88～89
2 エアクリーナの目詰り。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	88
3 ラジエータ防じんフィルタの目詰り。	●防じんフィルタを掃除します。	90
4 エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルに交換します。	29, 85～86
5 冷却水の不足	●冷却水を補充します。	29, 86～87
6 エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	124
7 《ランプ・計器》ヒューズが切れているため燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25
8 《キー切り》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25

2 走行・運転操作部

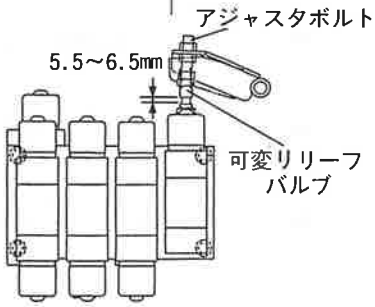
主変速（無段変速）レバーを操作しても走行しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 副変速レバーが《N》（中立）位置になっている。	●条件に合わせ《倒伏》，または《標準》，《走行》《走行》位置にセットします。	17, 50
2 油圧オイルタンクのオイル不足	●規定量まで油圧作動油を補充します。	30, 90～91

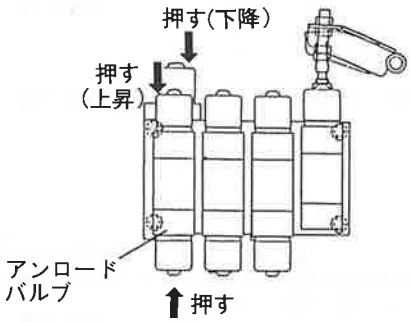
マルチステアリングレバーを操作してもまったく旋回しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25
2油圧バルブへのゴミかみ  	●各操作レバーを《N》（中立）にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	—
3スピンドライブターンの「入，切」が確実になっていない。 ［4モードターン仕様］	●低速度で前進走行しながら切替えます。 ●副変速を《倒伏》位置に切替えます。	17

マルチステアリングレバーを操作しても急旋回ができない

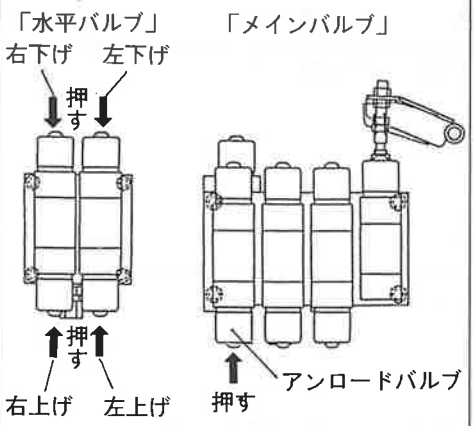
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1ブレーキの効きが悪い。	●可変リリーフバルブ部のアジャスタボルトを調整します。  	118
2スピンドライブターンの「入，切」が確実になっていない。 ［4モードターン仕様］	●低速度で前進走行しながら切替えます。 ●副変速を《倒伏》位置に切替えます。 ●減速ターンにセットしている時は，マルチステアリングレバーを操作しても急旋回できません。減速ターンスイッチを《切》にします。	17

マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25
2油圧バルブへのゴミかみ。  	●各操作レバーを《N》（中立）にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，前処理リフトバルブの《上昇》および《下降》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	—
3油圧固定スイッチが《油圧固定》位置か《下る》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《作業時》位置にします。	19

●傾斜手動レバーを操作しても作動しない
●水平自動制御が作動しない

[水平制御仕様]

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《水平制御》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズまたは《リフト・操向》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25
2油圧バルブへのゴミかみ。  	●各操作レバーを《N》（中立）にしてエンジンを始動します。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押します。ゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。）	—

3 電気・自動制御部

モニタランプ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《ランプ・計器》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ランプ・計器ヒューズ……15A マイコンヒューズ……10A	23～25
2バッテリの放電	●バッテリを充電します。	93～96

方向指示灯が点灯しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
《フラッシャ》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。	23～25

こぎ深さ自動制御が作動しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《こぎ深制御》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深制御ヒューズ……20A マイコンヒューズ……10A	23～25
2刈取部のセンサにワラクズがたまっている。	●ワラクズを取り除きます。	67～68

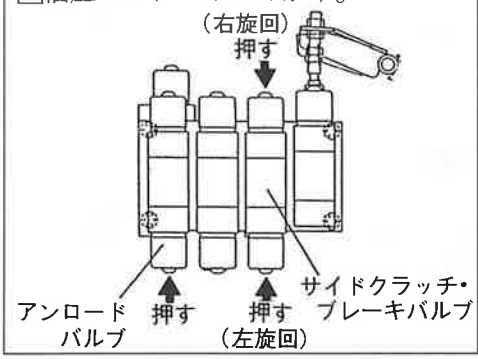
刈高さポジションコントロールが作動しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25

選別自動制御が作動しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《選別制御》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 選別制御ヒューズ……20A マイコンヒューズ……10A	23～25
2スイングシーブ部にワラクズがたまっている。	●ワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部の空運転をします。	74～75

方向自動制御が作動しない　［A仕様］

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	23～25
2刈取部のセンサに草・泥・ワラクズ等がたまっている。	●草・泥・ワラクズ等を取り除きます。	—
3油圧バルブへのゴミかみ。	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	—

4 刈取部

刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない

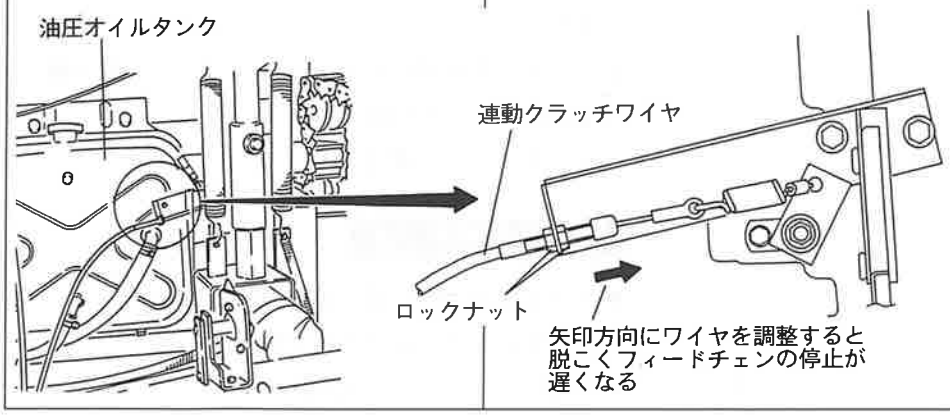
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①作業機クラッチレバーを《切》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり個所を取り除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤作業機クラッチ刈取クラッチレバーを《入》にして確認します。 **取扱いのポイント** ●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。	57～58
2刈取クラッチワイヤの調整不良。（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	120

刈株の長さにムラがある

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	35
2刈刃の調整不良。 （刈刃のスキマが広い）	●調整ライナでスキマを調整します。	115～116
3刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	115～116, 165
4マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは，急激な操作はさける。	18, 48

刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1搬送通路に雑草・ワラクズ・泥等が溜まっている。	●搬送通路の雑草・ワラクズ・泥等を取り除きます。	—
2「深こぎ」または「浅こぎ」となっている。	●適正こぎ深さで作業をします。	48, 67～68
3刈取りスピードと脱こくフィードチェン速度が合っていない。	●フィードチェン速度を切替えます。［320型］	22, 47
4刈取り搬送の停止より脱こくフィードチェンの停止が早い。	●リフトシャットは刈取り搬送の停止と同時か，それ以後に脱こくフィードチェンが停止するようにタイミングを調整します。 ●刈取部を下げ，脱こく入口下側の連動クラッチワイヤアジャスタ部で調整します。	—



5 脱こく部

脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
・排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動） ・脱こくフィードチェン終端部に詰まりがある。 （脱こくフィードチェンエンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ①作業機クラッチレバーを《切》にする。 ②脱こく・排ワラ関係の詰まり個所を取除く。 ③排ワラフィードチェンの張りを点検・調整する。 ④エンジンを始動する。 ⑤作業機クラッチレバーを《入》にして確認する。 **取扱いのポイント** **●処置後脱こく部の空運転をし，脱こく内部にたまったワラクズをきれいに排出してから刈取りを開始してください。**	57～58

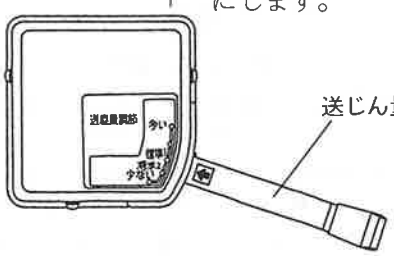
ホッパおよびグレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）

1 詰まりの個所を点検し掃除をします。
●揚こく筒での詰まり……100ページ参照
●揺動流板に停滞……101～104ページ参照
2 詰まりの原因はつぎのとおりです。正しい処置をし，作業を再開します。

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物にあったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《イネ・ムギ，種子》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	10～11，46
2 ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●１番ラセンベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。	120 128 127
3 こぎ深さが「深こぎ」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「穂先マーク」に合わせます。	48，67～68
4 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除。	41 99

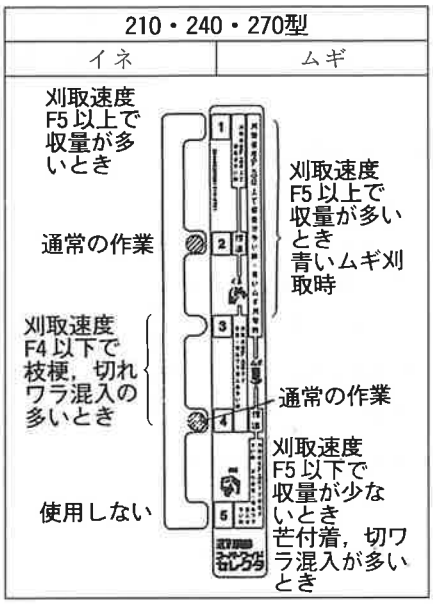
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
5刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	41 50
6選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	13, 46, 65, 74～75
7１番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●開閉レバーを《閉じる》位置にし，ストッパをかけます。	101

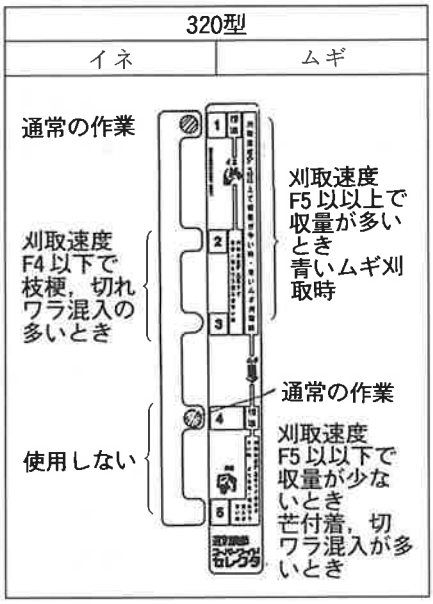
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰り）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	41 99
2こぎ深さが「深こぎ」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置に合わせます。	48, 67～68
3こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物にあったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《イネ・ムギ，種子》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	10～11, 46
4刈取り速度が速すぎる。	●主変速（無段変速）レバーで速度を下げます。	50
5送じんがスムースでない。	●送じん量調節レバーを《多い》位置にします。  	23
6ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマの研磨または交換をします。	116～117
取扱いのポイント ●こぎ歯を中心にワラ切カマを振分けに取付けてください。 ●ワラ切カマの取付け方向を確認して取付けてください。		
7選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	13, 46, 65, 74

モミの中に切れワラ，枝梗（しこう）付着粒等が混入する

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 スーパーワイドセレクタの調節が悪い。	●作物条件と刈取速度により適正な位置にセットします。	48～49, 65





三番ロスが多い

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 こぎ深さが「深こぎ」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置に合わせます。	48, 67～68
2 能率のあげすぎにより，揺動流板にワラクズ等が停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，主変速（無段変速）を１～２段下げて作業します。	50
3 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	41 99
4 刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	41 50
5 スーパーワイドセレクタ切替レバーのセット位置を誤って使用している。	●稲・麦の作業に合わせて，スーパーワイドセレクタ切替レバーを適切な位置にセットします。	48～49, 65
6 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	13, 46, 65, 74

こぎ残しが多い

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置にあわせます。	48, 67～68
2 こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転にあわせてマークの範囲内になるようにして作業をします。	10～11, 46～47
3 デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーをこきざみに操作する。（強く操作すると，「ブレーキ」がきき，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	51

6 ワラ処理部

カッタの切れ味が悪く巻きつきが発生し馬力をとる

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 刃の摩耗	●刃を交換します。	107～114,166
2 排ワラの搬送姿勢が悪い。	●こぎ深さ位置を適正にします。 ●作業条件に合ったフィードチェン速度に切替えます。[320型]	48, 67～68 22
3 排ワラ量の増加。	●作業速度を適正にします。	50

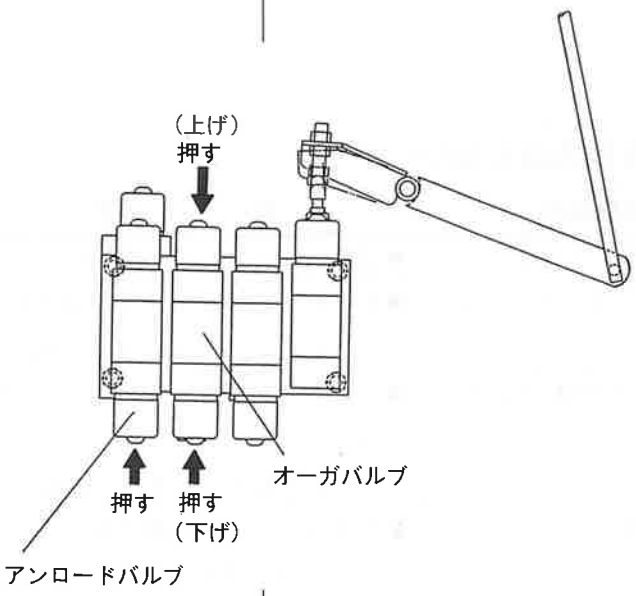
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 排ワラフィードチェンの張り不良。	●チェンを張ります。	134
2 こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	48, 67～68

7 グレンタンク部

［グレンタンク仕様］

オーガ操作レバーを操作しても，動かない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《排出オーガ》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 排出オーガヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A	23～25
2油圧バルブへのゴミかみ。	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，オーガバルブの《上げ》および《下げ》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。 （下図のバルブユニットは運転席ステップの下にあります。）  	—

こく粒排出レバーを操作してもこく粒が出ない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	121，129
2タンク内のこく粒が流れない。（シャッタ部で滞流している）	●こく粒排出レバーを繰返し操作します。	20，55

8 キャビン部 [キャビン仕様]

ワイパが作動しない　ウォッシャ液が出ない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 ヒューズが切れている。	●キャビン内のヒューズを交換する。 ワイパウォッシャヒューズ ……10A	23～25
2 ウォッシャ液が不足している。	●ウォッシャ液を補給する。	78

クーラが作動しない　風量が少ない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 ヒューズが切れている。	●キャビン内のヒューズを交換する。 クーラーヒューズ……20A	23～25
2 吸気口のフィルタが目詰まりしている。	●フィルタを掃除する。	79

室内灯，作業灯が点灯しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換する。	79
2 ルームランプヒューズが切れている。	●キャビン内のヒューズを交換する。 ルームランプヒューズ……20A	23～25
3 ランプ計器ヒューズが切れている。	●コンバイン本機のヒューズを交換する。 ランプ計器ヒューズ……20A	
4 作業灯リレーが破損している。	●作業灯リレーを交換する。 （お買いあげ先で点検を受けてください）	—

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

付　表

1 主要諸元

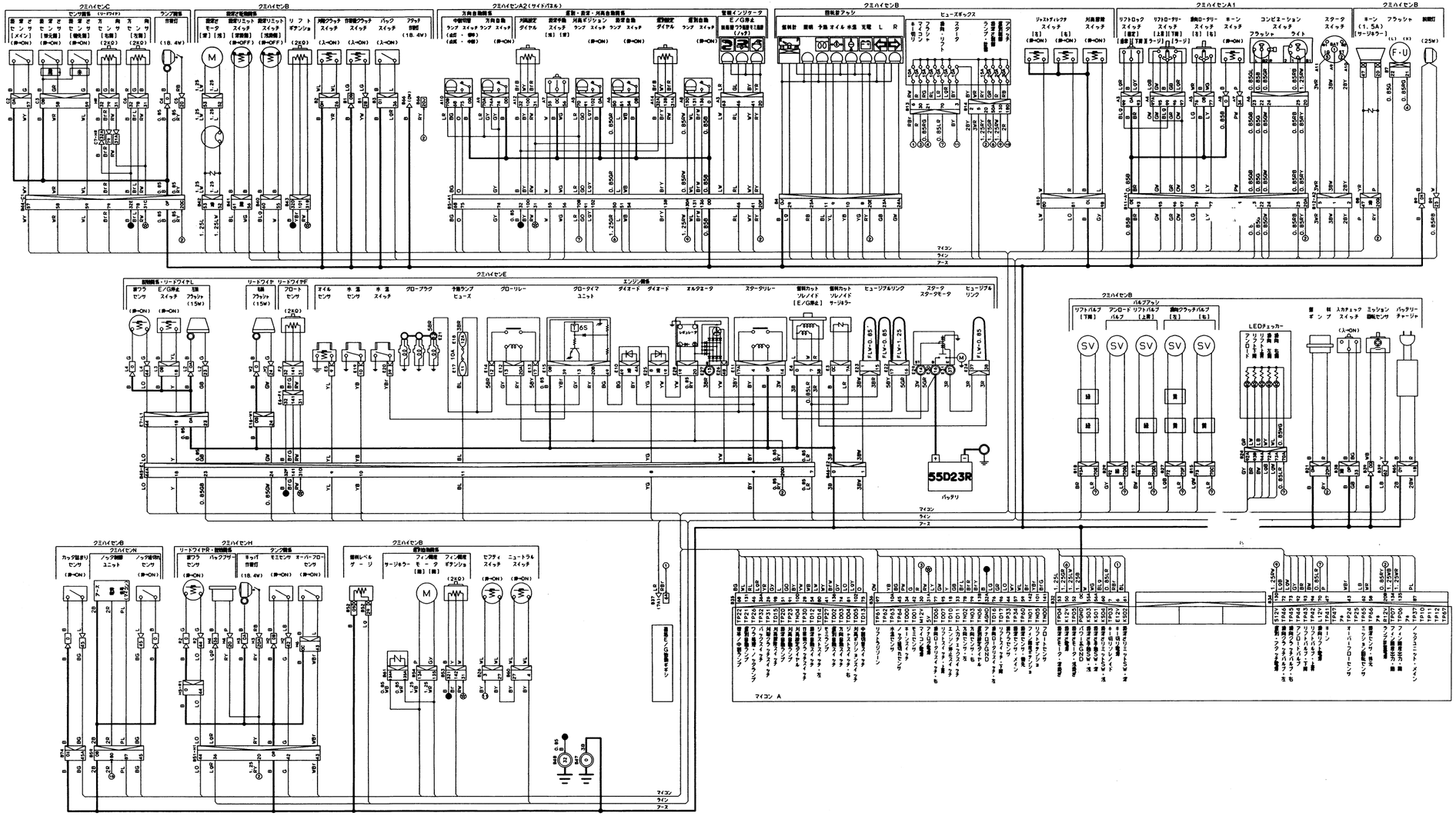
型式			210型		240型		270G型	
区分			210AM	210GAM	240AM	240GAM	270GAM	270GCLAM
機体寸法（格納時）	全長	(mm)	3,710					
	全幅	(mm)	1,680					2,000
	全高	(mm)	1920	1,980	1,920	1,980	1,980	2,500（キャビン）
機体質量（重量）		(kg)	1,710	1,830	1,710	1,830	1,850	2,145
エンジン	型式		三菱S3L−11C		三菱S3L−12C		三菱S3L2−12C	
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル					
	総排気量	(cc{ℓ})	1,125 {1.125}				1,318{1.318}	
	出力/回転速度	({PS{kW}}/rpm)	21{15.4}/2,800		24{17.7}/2,800		27{19.9}/2,800	
	使用燃料		ディーゼル軽油					
	燃料タンク容量	(ℓ)	30					
	始動方式		セルモータ式					
	バッテリ	(V•Ah)	12・48					
走行部 クローラ	幅×接地長	(mm)	350×1,310	~~920~~ 420×1,310	350×1,310	420×1,310	420×1,310	
	中心距離	(mm)	900（G：940）				940	
	平均接圧	({kgf/cm²}{N/cm²})	0.19	0.17	0.19	0.17	0.17	0.19
走行部	変速方式		油圧モータ（HST）					
	変速段数	(段)	前進無段・後進無段（副変速3段）					
	走行速度 (m/s)	前進	0～1.94		0～2.27			
		後進	0～1.94		0～2.27			
刈取部	刈取り条数	(条)	3					
	デバイダ先端間隔	(mm)	1,150～1,200					
	刈取装置形式		往復動刃式					
	刃幅	(mm)	1,150					
	変速段数	(段)	車速連動式（引起し搬送全体変速）					
	刈高さ範囲	(mm)	40～130					
	こぎ深さ調節方式		電動式（自動・手動併用）					
脱こく部	脱こく方式		複胴下こぎ軸流式					
	こぎ胴 径×幅	(mm)	410×620					
	こぎ胴 回転速度	(rpm)	500					
	処理胴 径×幅	(mm)	140×610					
	処理胴 回転速度	(rpm)	1,520					
こく粒処理部	こく粒処理方式		ホッパ	グレンタンク	ホッパ	グレンタンク		
	タンク(ホッパ)容量	(ℓ)	288（袋詰2袋含む）	650	288（袋詰2袋含む）	650	730	
	吐出し口数	(口)	2	—	2	—	—	
排ワラ処理装置			ディスク型マルチカッタ					
適応作動全長		(mm)	550～1,300					
倒伏適応性		(度)	追刈：85°以下，向刈：70°以下					
作業能率		(分/10a)	25～40		22～35		20～32	

●この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

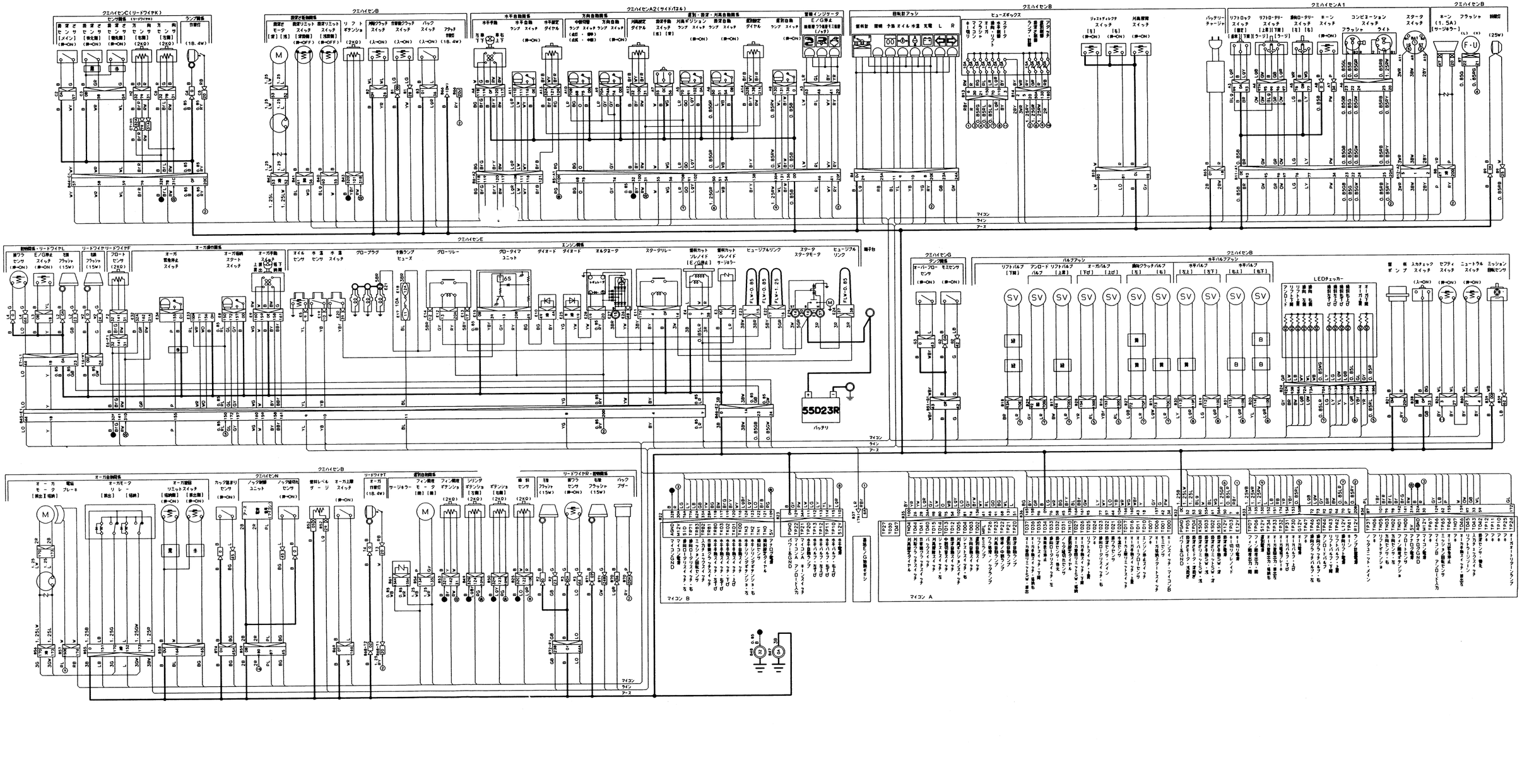
型式			320G型		
区分			320GAM	320DGLM	320GCLAM
機体寸法（格納時）	全長 (mm)		3,710		
	全幅 (mm)		1,680		2,000
	全高 (mm)		1,980		2,500(キャビン)
機体質量（重量） (kg)			1,910	2,050	2,205
エンジン	型式		三菱S3L2−T		
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総排気量(cc{ℓ})		1,318{1.318}		
	出力/回転速度 (PS{kW}/rpm)		33{24.3}/2,800		
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)		30		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ (V•Ah)		12・48		
走行部	クローラ	幅×接地長 (mm)	420×1,310		
		中心距離 (mm)	940		
		平均接圧地 (kgf/cm²{N/cm²})	0.17{1.70}	0.19{1.83}	0.20{2.0}
	変速方式		油圧モータ（HST）		
	変速段数 (段)		前進無段・後進無段（副変速3段）		
	走行速度 (m/s)	前進	0〜2.27	0〜2.38	0〜2.27
		後進	0〜2.27	0〜2.38	0〜2.27
刈取部	刈取り条数 (条)		3		
	デバイダ先端間隔 (mm)		1,150〜1,200		
	刈取装置形式		往復動刃式		
	刃幅 (mm)		1,150		
	変速段数 (段)		車速連動式（引起し搬送全体変速）		
	刈高さ範囲 (mm)		40〜130		
	こぎ深さ調節方式		電動式（自動・手動併用）		
脱こく部	脱こく方式		増速ツインこぎ胴(複胴下こぎ軸流式)		
	こぎ胴	径×幅 (mm)	410×620		
		回転速度 (rpm)	460・570		
	処理胴	径×幅 (mm)	140×610		
		回転速度 (rpm)	1,560		
こく粒処理部	こく粒処理方式		グレンタンク		
	タンク(ホッパ)容量 (ℓ)		800		
	吐出し口数 (口)		—		
排ワラ処理装置			ディスク型マルチカッタ		
適応作動全長 (mm)			550〜1,300		
倒伏適応性 (度)			追刈：85°以下，向刈：70°以下		
作業能率 (分/10a)			16〜30		

2 電気配線図

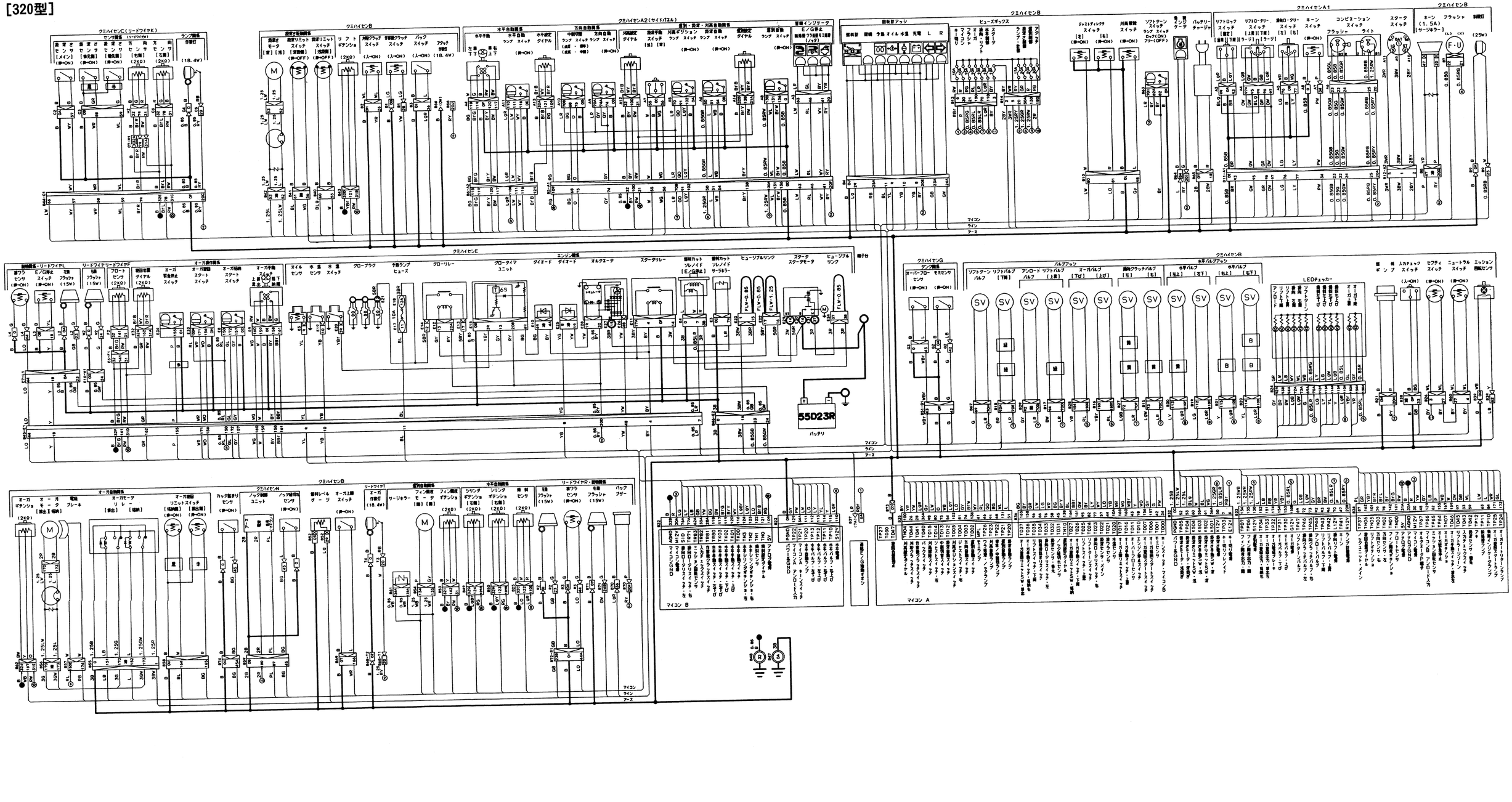
[210・240型ホッパ仕様]



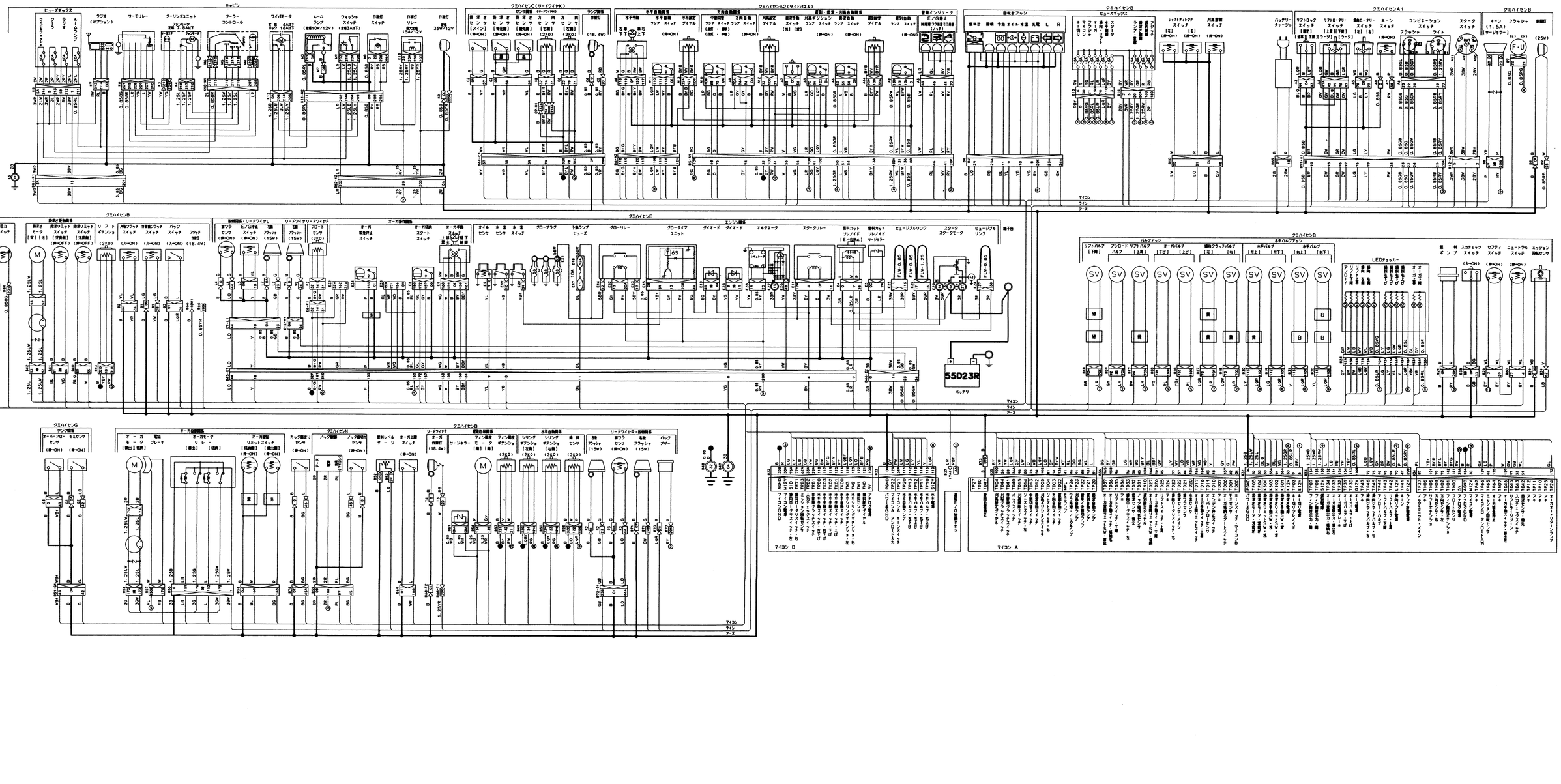
[210・240・270型グレンタンク仕様]



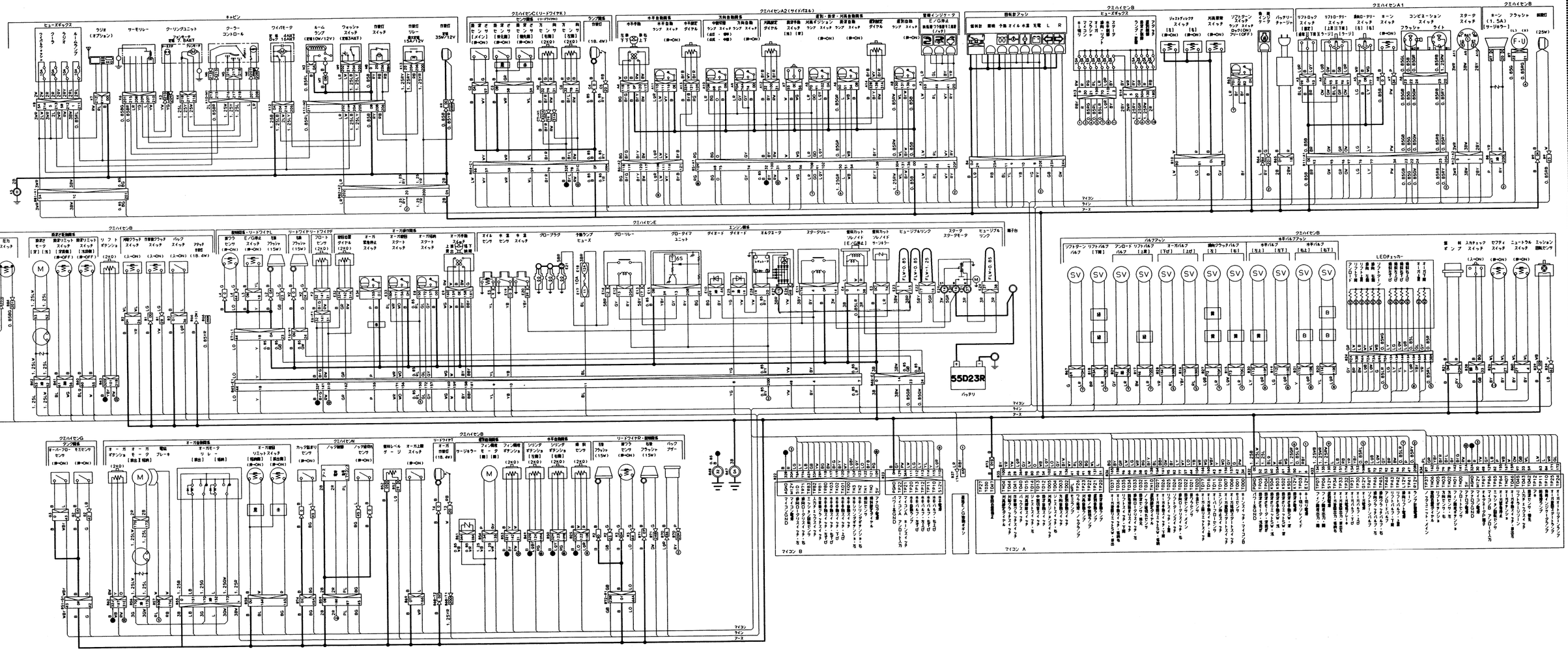
[320型]


クミハイセンC（リードワイヤK）
クミハイセンB
クミハイセンA2（サイドパネル）
クミハイセンA1
クミハイセンB
クミハイセンE
クミハイセンG
クミハイセンB
クミハイセンB
クミハイセンN
リードワイヤT
リードワイヤR・既製機器
55D23R
バッテリ
マイコン
ライン
アース
マイコン B
マイコン A

[MC270キャビン仕様]

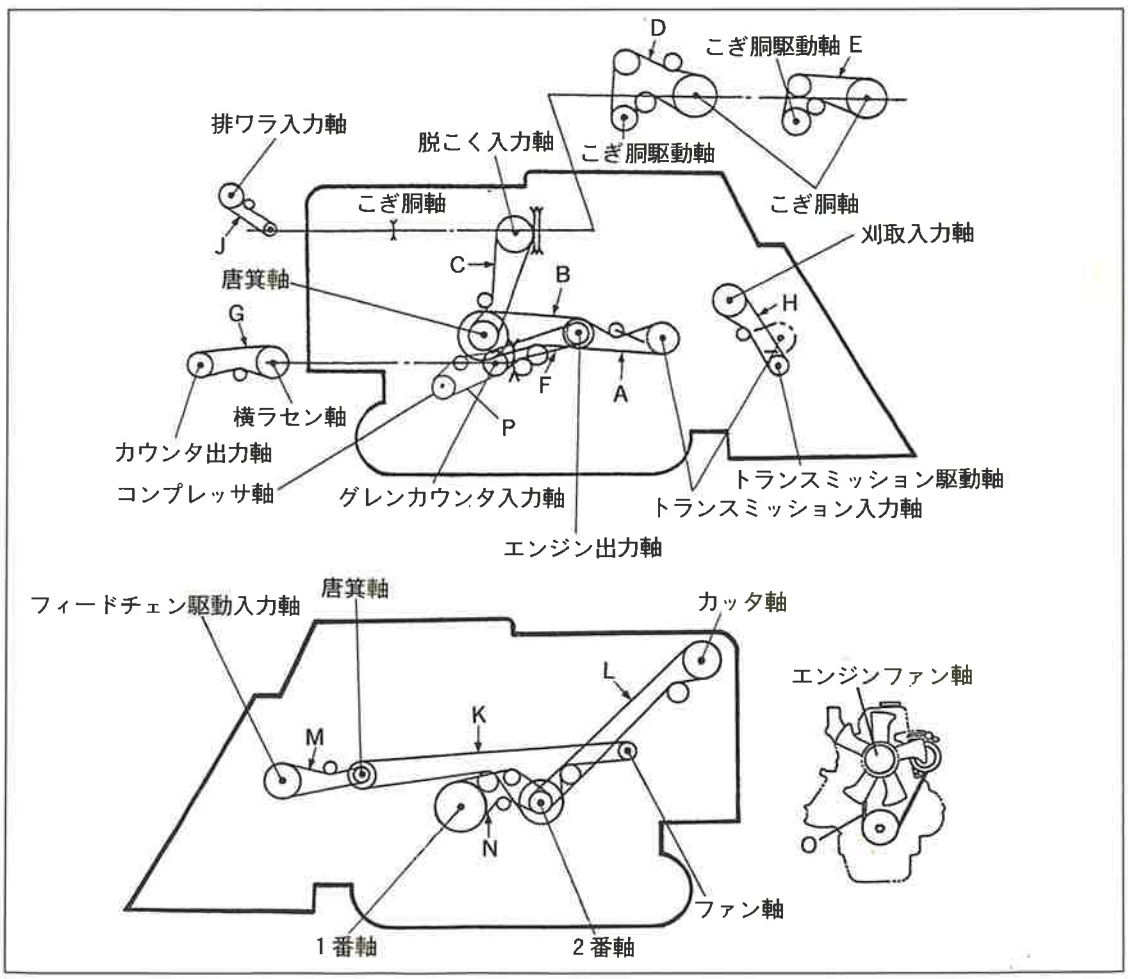


[MC320キャビン仕様]



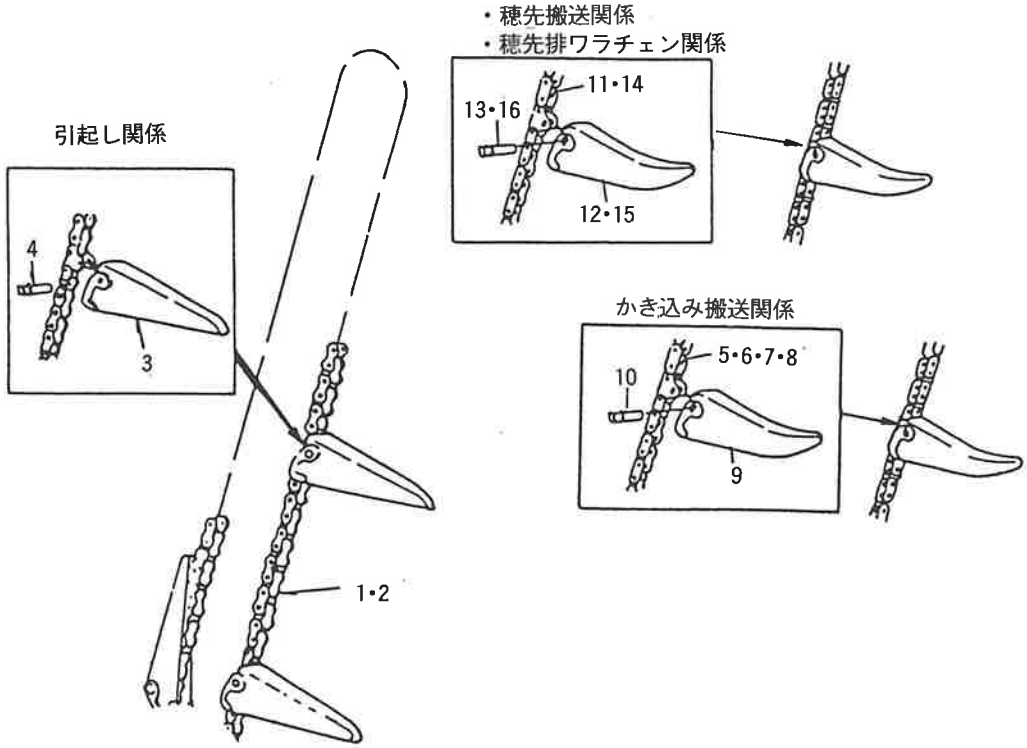
3 ベルト一覧表

記号	伝導系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	2	3544 0054 000	LB58	走行ベルト（210型）
	〃 ～ 〃	2	3544 0055 000	LB56	〃 （240～320型）
B	エンジン出力軸～唐箕軸	1	0853 1500 067	SC67	脱こく入力ベルト
C	唐箕軸～脱こく入力軸	1	3544 6107 000	SC68	こぎ胴伝動ベルト
D	脱こく入力軸～こぎ胴軸	2	0852 1500 073	SB73	こぎ胴ベルト（210～270型）
E	〃 ～ 〃	2	0852 1500 066	SB66	こぎ胴ベルト（320型）
F	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1200 053	SB53	グレン入力ベルト
G	横ラセン軸～カウンタ出力軸	1	0852 1200 052	SB52	グレン駆動ベルト
H	トランスミッション駆動軸～刈取入力軸	1	3544 1212 000	LB54	刈取ベルト
J	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0852 1500 036	SB36	排ワラ駆動ベルト
K	唐箕軸～ファン軸	1	0852 1300 106	SB106	選別ベルト
L	2番軸～カッタ軸	1	0852 1500 082	SB82	カッタベルト
M	フィードチェン駆動入力軸～唐箕軸	1	0852 1500 039	SB39	フィードチェン駆動ベルト（210～270型）
	〃 ～ 〃	1	0852 1500 041	SB41	〃 （320型）
N	1番軸～2番軸	1	0851 1500 046	SA46	1番ラセン駆動ベルト
O	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	MD088955	980㎜	ファンベルト
	〃 ～ 〃	1	MD041704	970㎜	〃 ［キャビン仕様］
P	グレンカウンタ入力軸～コンプレッサ軸	1	3544 3872 500	1080㎜	コンプレッサベルト



4 主な消耗部品

1 爪 関 係

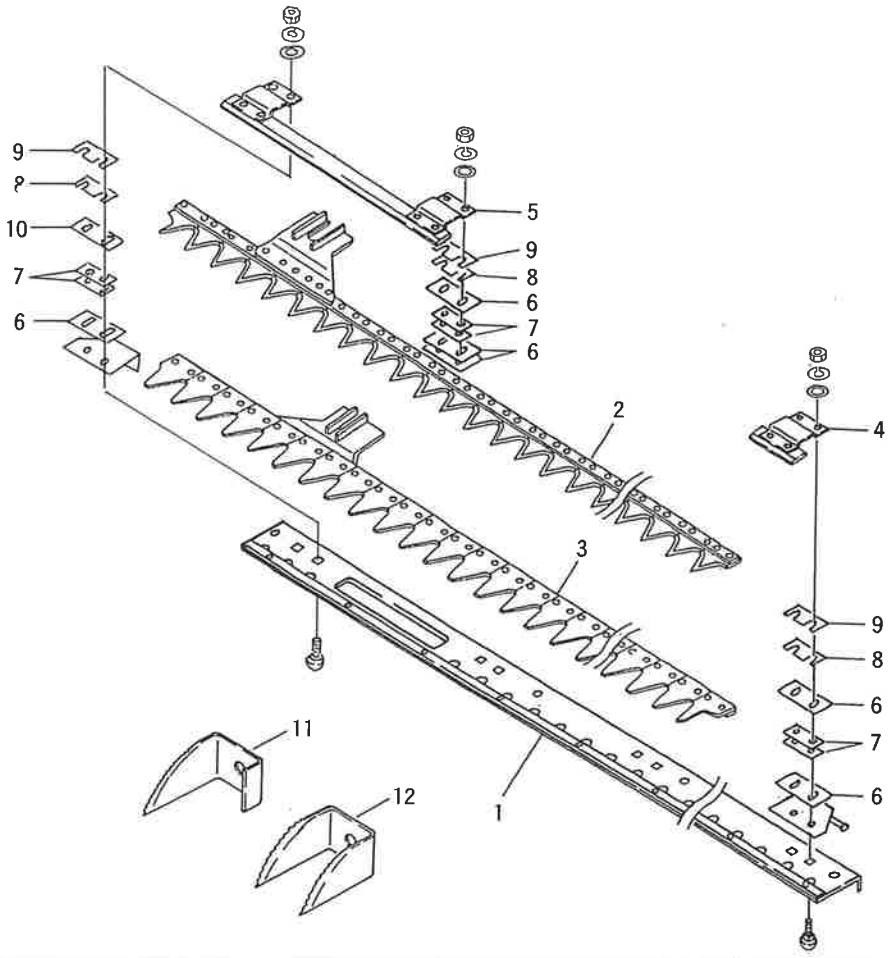


No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェン（1本）	3544 4426 000	右
2	チェン（2本）	3523 4426 000	中，左
3	ツメ（31本）	3602 4327 003	
4	ピン（31本）	3523 4428 000	
5	チェン（1本）	3523 4778 000	右下
6	チェン（1本）	3523 4789 000	右上
7	チェン（1本）	3523 4716 001	左下
8	チェン（1本）	3523 4744 001	左上
9	ツメ（25本）	3523 4742 000	
10	ピン（25本）	3523 4428 000	
11	チェン（1本）	3523 5252 000	穂先搬送
12	ツメ（15本）	3704 5239 000	
13	ピン（15本）	3523 4428 000	
14	チェン（1本）	3544 7881 001	穂先排ワラ
15	ツメ（21本）	3543 7765 001	
16	ピン（21本）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

・爪を交換する場合は，115ページを参照にして行なってください。

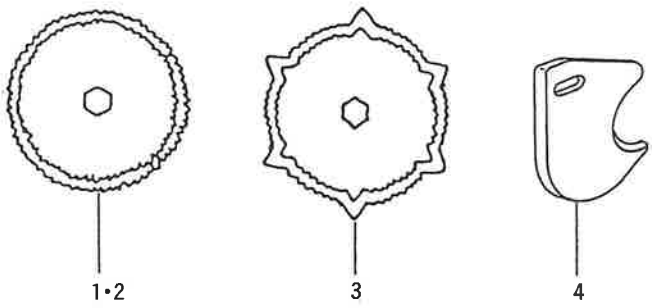
2 刈刃・カマ関係



No	部品名称	部品番号	備考
1～10	カリハアッセンブリ	3544 4352 002	
1	ウケハダイ	3544 4353 000	
2	ウエバアッシ	3544 4361 000	
3	シタバアッシ	3544 4367 000	
4	ナイフクリップ（1個）	3540 4361 500	
5	ナイフクリップ（2個）	3532 4364 001	
6	スライドプレート（9個）	3544 4367 500	
7	ライナ（8個）	3532 4365 300	
8	シム（4個）	3532 4365 400	t＝0.8㎜
9	シム	3532 4365 500	t＝0.2㎜
10	スライドプレート（1個）	3532 4365 200	
11	ワラキリカマ（1個）	3544 7223 000	
12	ワラキリカマ（5個）	3735 7321 001	

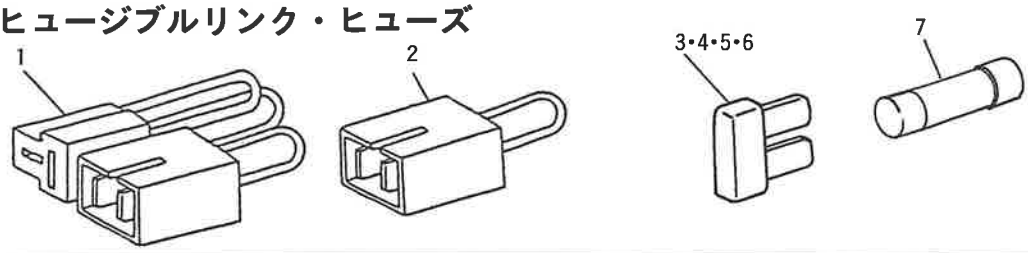
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3 カッタ関係



No.	部品名称	部品番号	個数（1セット分）	
			DM32	DM32S
1	ノコ刃（φ140）	3819 0402 100	11	18
2	ノコ刃（φ160）	3819 0405 100	5	5
3	スターホイル刃	3819 0503 000	16	23
4	スクレーパ	3817 0551 001	9	12

4 ヒュージブルリンク・ヒューズ



No.	部品名称	部品番号	備考
1	ヒュージブルリンク	3518 0861 200	
2	ヒュージブルリンク	3732 0838 000	
3	ヒューズ	0980 1001 005	10A
4	ヒューズ	0980 1001 505	15A
5	ヒューズ	0980 1002 005	20A
6	ヒューズ	0980 1003 005	30A
7	ヒューズ	0980 1001 001	10A

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後9年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

5 アタッチメント（別売り）

	型式(部品番号)	品　　名	備　　考
基本作業機・部品	KN－320	自動スライドノッタ	株元・穂先結束両用
	DM32	マルチカッタ	切断長60／180㎜
	DM32S	スーパーマルチカッタ	切断長40／160㎜
	S－320D	ディスクカッタ用ドロッパ	
	D－KN320	ノッタドロッパ	
	SP－22W	スーパーデバイダ	2連
	SP－32TQ	スーパーデバイダ	3連用キット
	R－KN320	スタンドノッタ	
	EXG－32A	延長オーガ	オーガ延長キット80㎝
	CH210G－320G	コンバインフード	グレンタンクのみ
	DM32－KIT (3819 2000 001)	マルチ交換キット	切断長60/180㎜から40/160㎜への変更キット
	DM32S－KIT (3819 2100 001)	スーパーマルチ交換キット	切断長40/160㎜から60/180㎜への変更キット

6 潤滑油

使用オイル表

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1 エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチＳＴＯＵオイル
全農	クミアイエンジンオイル（ディーゼル用）
三菱石油	ダイヤモンドHDS－3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

・その他一流メーカのオイルでAPIサービス分類CD級以上，SAE10W30のオイルをお使いください。

2 油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル
三菱石油	ダイヤモンドハイドロフルードEP46
日本石油	スーパーハイランド46

3 ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル マルチGBオイル（SAE80W）
全農	クミアイギヤオイル（SAE80W）
三菱石油	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE80W）
三菱石油	ダイヤモンドスーパーHPギヤオイル（SAE90，GL－5級）
三菱石油	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE140）

取扱いのポイント

● トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL－5，SAE・90を使用してください。

三菱農機 (純正油) マルチオイル

・マルチSTOU(ストー)オイルは，１種類でエンジンオイル，ギヤオイルとして，一年中ご使用いただける，オールシーズンタイプです。

・マルチGBオイルは，ギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（G）と湿式ブレーキ（B）専用オイルです。



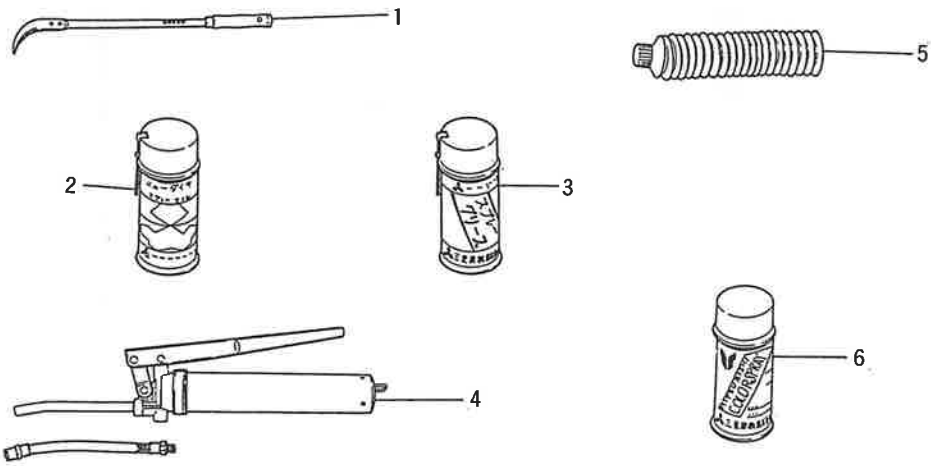
性状 ＼ 品名		マルチSTOUオイル	マルチGBオイル	マルチSHPギヤオイル
密度	15℃ g／cm³	0.881	0.893	0.900
引火点	℃	210	230	230
流動点	℃	－37.5	－35.0	－22.5
動粘度cSt	@ 40℃	62.0	78.4	188.5
	@ 100℃	10.8	9.8	17.5
粘度指数		168	104	100
ＡＰＩサービス分類		SD／CD／GL－4	GL－4	GL－5
ＳＡＥ粘度番号		10W－30	80W	90
荷姿		ドラム・20ℓ缶	20ℓ缶	ドラム・20ℓ缶

・お買い求めは，弊社「特約販売店」で取扱っていますのでご相談ください。

7 コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商品番号	備　考
1	万能カマ（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆・潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰替え用
6	カラースプレー（赤） 〃　（白） 〃　（黒）	0975 0000 270 0975 0000 160 0975 0000 470	補修用塗料



・ご用命のときは，「商品名」・「商品番号」をお知らせください。